九州横断自動車道関係
埋蔵文化財調査報告
－33－

朝倉郡朝倉町所在上の原遺跡の調査　Ⅲ

上巻

１９９５

福岡県教育委員会

九州横断自動車道関係
埋蔵文化財調査報告
—33—

朝倉郡朝倉町所在上の原遺跡の調査　Ⅲ

上巻

上の原遺跡全景

（1）　上の原遺跡出土石器（弥生時代中期）

（2）　上の原遺跡出土鉄器（弥生時代中期）

序

福岡県教育委員会は，日本道路公団の委託を受けて，九州横断自動車道建設敷地内に所在する埋蔵文化財の発掘調査を昭和54年度以降実施してまいりました。発掘調査は既に完了しており，今後は調査報告書を順次刊行して行く予定であります。

本報告書は，昭和60年度に発掘調査を実施した朝倉郡朝倉町所在の上の原遺跡についての調査成果を「九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告」第33集としてとりまとめたもので，上の原遺跡の最終報告にあたります。

上の原遺跡は，弥生時代から奈良時代にかけての大集落跡で，竪穴住居跡・掘立柱建物跡・貯蔵穴・竪穴・土壙・溝・甕棺墓・木棺墓・土壙墓などが調査されました。

本書が，甘木・朝倉地域における文化財及び歴史に対する認識と理解を深めるとともに学術研究の一助になれば幸いに存じます。なお，発掘調査・整理報告にあたり多大なるご協力を頂いた地元の方々をはじめとして，関係各位に深く感謝いたします。

平成７年３月31日

福岡県教育委員会

教育長　光安　常喜

例　言

1. 本書は，昭和60年度に福岡県教育委員会が，日本道路公団から委託を受けて，九州横断自動車道建設に伴い発掘調査を実施した上の原遺跡の最終報告書であり，九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告の第33集にあたる。
2. 本書は上・下巻の二分冊とし，上巻に弥生時代の遺構・遺物及び縄文時代の遺物を掲載し，下巻に古墳・奈良時代の遺構・遺物を掲載した。
3. 遺構の実測は，調査担当者の他に高田一弘・佐土原逸男・田中康信・柏原孝俊・加田隆志・永見英徳・目憲一・中村光恵・後藤カミヨ・矢野静子・牟田冴子・渡辺輝子・萩原瑞恵諸氏の協力を得た。
4. 出土遺物の整理・復原作業は，岩瀬正信整理指導員のもとに九州歴史資料館復原室及び福岡県教育庁指導第二部文化課甘木発掘調査事務所において行った。
   鉄器の保存処理には，九州歴史資料館学芸二課参事補佐横田義章氏の協力を得た。
5. 出土遺物の実測は，渡辺輝子・大野愛里・高瀬照美・西田美代子・宮田ゆみ・岡泰子・秋吉邦子・高橋・小田による。
6. 図面作成・製図作業は，塩足里美・渡辺輝子・高瀬照美・近藤美恵子・秋吉邦子・豊福弥生・関久江・高橋・小田による。
7. 本書掲載の写真は，遺構を井上・高橋・木村・小田が撮影し，遺物は北岡伸一の撮影により，巻頭図版の遺物撮影は九州歴史資料館学芸一課参事補佐石丸洋氏による。
8. 遺構番号は整理段階で変更したが，遺物の注記は調査時点のままであり，新旧番号は各遺構の一覧表を参照されたい。
9. 挿図で使用する方位は，平面直角座標の第二系に基づく座標北である。
10. 遺跡分布図は，平成４年国土地理院発行の「甘木」1/50,000を使用した。
11. 図版１の航空写真は，国土地理院撮影による。
12. 遺物の縮尺は，弥生土器が1/4・1/6・1/8で，須恵器・土師器は1/3とし，須恵器の断面を塗りつぶし土師器と区別した。
13. 本書の執筆は，上巻を小田が担当し，下巻は高橋・小田による。
14. 本書の編集は，上巻を小田が担当し，下巻は高橋により，小田がとりまとめた。

本　文　目　次

[上　巻]
Ⅰ 調査組織と調査経過…… 1

Ⅱ 遺跡の位置と環境…… 4

Ⅲ 縄文時代の遺物…… 9

Ⅳ 弥生時代の遺構と遺物…… 13
1. 遺構の概要…… 13
2. 竪穴住居跡…… 13
3. 掘立柱建物跡…… 20
4. 竪　穴…… 23
5. 土　壙…… 77
6. 甕棺墓……136
7. 木棺墓……162
8. 土壙墓……164
9. その他の遺物……170

[下　巻]
Ⅴ 古墳時代の遺構と遺物……179
1. 遺構の概要……179
2. 竪穴住居跡……179
3. 掘立柱建物跡……227
4. 土　壙……233
5. 溝……236
6. その他の出土遺物……237

Ⅵ 奈良時代の遺構と遺物……239
1. 遺構の概要……239

2. 竪穴住居跡……239
3. 掘立柱建物跡……311
4. 土　壙……322
5. その他の出土遺物……333

Ⅶ まとめ……341
－上の原遺跡の集落変遷について－

図　版　目　次

巻頭図版 1　上の原遺跡全景
巻頭図版 2 (1) 上の原遺跡出土石器（弥生時代中期）
(2) 上の原遺跡出土鉄器（弥生時代中期）

本文対象頁

図　版　1　上の原遺跡周辺航空写真（国土地理院撮影，KU-76-2X C11/33）
図　版　2 (1) 上の原遺跡周辺航空写真（南西から）…… 5
(2) 上の原遺跡周辺航空写真（南から）…… 5
図　版　3 (1) 東端部貯蔵穴群（東から）…… 8
(2) 上の原遺跡全景（南から）…… 8
図　版　4 (1) Ⅰ区遺構検出状況（北西から）…… 8
(2) 1・2号竪穴（北西から）…… 23
図　版　5 (1) 1 号竪穴（南西から）…… 23
(2) 2 号竪穴（南西から）…… 23
図　版　6 (1) 4 号竪穴（東から）…… 23
(2) 6 号竪穴（東から）…… 28
図　版　7 (1) 7 号竪穴（東から）…… 28
(2) 8 号竪穴（東から）…… 32
図　版　8 (1) 11・13号竪穴（北西から）…… 34
(2) 11・13・22号竪穴（南西から）…… 34

図　版　9（1）　12号竪穴（南から）…… 34
（2）　15号竪穴注口土器出土状況（北西から）…… 42
図　版　10（1）　16号竪穴（北西から）…… 42
（2）　18・19号竪穴（南西から）…… 42
図　版　11（1）　23号竪穴（北から）…… 49
（2）　遺物出土状況（北から）…… 49
図　版　12（1）　25号竪穴（北東から）…… 49
（2）　遺物出土状況（北東から）…… 49
図　版　13（1）　33～39号竪穴（北から）…… 58
（2）　105号住居跡，40号竪穴（南から）…… 61
図　版　14（1）　143号住居跡，41号竪穴（南から）…… 63
（2）　39号住居跡，43・44号竪穴（東から）…… 63
図　版　15（1）　49号竪穴（西から）…… 66
（2）　116号住居跡，50号竪穴（南から）…… 66
図　版　16（1）　52号竪穴（西から）…… 69
（2）　55号竪穴（南から）…… 69
図　版　17（1）　56号竪穴（東から）…… 69
（2）　57号竪穴（南西から）…… 73
図　版　18（1）　59号竪穴（東から）…… 74
（2）　205・206号住居跡，61号竪穴（南西から）…… 74
図　版　19（1）　1号土壙（西から）…… 77
（2）　17号土壙（東から）…… 86
図　版　20（1）　18・19号土壙（北から）…… 86
（2）　20号土壙（北から）…… 86
図　版　21（1）　34号土壙（南東から）…… 94
（2）　47号土壙（南東から）……103
（3）　57号土壙（北から）……108
図　版　22（1）　59号土壙遺物出土状況（南から）……108
（2）　60号土壙（東から）……108
図　版　23（1）　63号土壙（西から）……111
（2）　65号土壙（北東から）……111
図　版　24（1）　67号土壙（南から）……116
（2）　71号土壙（西から）……116

図　版　25（1）　72号土壙（西から）……120
（2）　74号土壙（西から）……120
図　版　26（1）　75号土壙（東から）……120
（2）　76号土壙（北西から）……120
図　版　27（1）　77号土壙（南東から）……126
（2）　78号土壙（北東から）……126
図　版　28　甕棺墓群（北東から）……136
図　版　29（1）　1号甕棺墓（北西から）……136
（2）　2号甕棺墓（南東から）……136
（3）　3号甕棺墓（北西から）……138
図　版　30（1）　5・6号甕棺墓（南東から）……138
（2）　7号甕棺墓（北西から）……141
図　版　31（1）　8号甕棺墓（南東から）……141
（2）　9号甕棺墓（南東から）……144
（3）　10号甕棺墓（南東から）……144
図　版　32（1）　11号甕棺墓（南東から）……144
（2）　12号甕棺墓（南東から）……144
（3）　13号甕棺墓（南東から）……146
図　版　33（1）　14号甕棺墓（南東から）……146
（2）　15号甕棺墓（北西から）……150
図　版　34（1）　16号甕棺墓（北西から）……152
（2）　17号甕棺墓（北西から）……152
（3）　18号甕棺墓（北西から）……154
図　版　35（1）　19号甕棺墓（南東から）……155
（2）　20号甕棺墓（北西から）……155
（3）　21号甕棺墓（北西から）……157
図　版　36（1）　22号甕棺墓（北から）……157
（2）　23号甕棺墓（北西から）……157
（3）　24号甕棺墓（北西から）……157
図　版　37（1）　25号甕棺墓（北西から）……160
（2）　26号甕棺墓（北西から）……162
図　版　38（1）　27号甕棺墓（北から）……162
（2）　1号木棺墓（南東から）……162

図　版　39（1）　5号土壙墓（南西から）……167
（2）　10号土壙墓（北から）……167
図　版　40（1）　2号竪穴出土土器……23
（2）　6号竪穴出土土器……28
（3）　7号竪穴出土土器……28
（4）　8号竪穴出土土器……32
（5）　9号竪穴出土土器……32
（6）　10号竪穴出土土器……34
図　版　41（1）　11号竪穴出土土器……34
（2）　12号竪穴出土土器①……34
図　版　42（1）　12号竪穴出土土器②……34
（2）　13号竪穴出土土器……39
図　版　43（1）　15号竪穴出土土器……42
（2）　23号竪穴出土土器……49
（3）　25号竪穴出土土器①……49
図　版　44（1）　25号竪穴出土土器②……49
（2）　27号竪穴出土土器……53
（3）　28号竪穴出土土器……54
（4）　29号竪穴出土土器……54
（5）　31号竪穴出土土器……58
（6）　32号竪穴出土土器……58
図　版　45（1）　34号竪穴出土土器……58
（2）　36号竪穴出土土器……61
（3）　38号竪穴出土土器……61
（4）　40号竪穴出土土器……63
（5）　43号竪穴出土土器……63
（6）　57号竪穴出土土器……74
（7）　59号竪穴出土土器……74
図　版　46（1）　1号土壙出土土器……77
（2）　8号土壙出土土器……80
（3）　17号土壙出土土器……86
（4）　20号土壙出土土器……86
（5）　28号土壙出土土器……91

(6) 33号土壙出土土器…… 94
図 版 47 (1) 34号土壙出土土器…… 94
(2) 36号土壙出土土器…… 98
(3) 38号土壙出土土器…… 98
(4) 44号土壙出土土器……100
(5) 52号土壙出土土器……105
(6) 56号土壙出土土器……108
(7) 57号土壙出土土器①……108
図 版 48 (1) 57号土壙出土土器②……108
(2) 59号土壙出土土器……108
(3) 60号土壙出土土器……110
(4) 61号土壙出土土器……111
(5) 62号土壙出土土器……111
(6) 63号土壙出土土器……111
(7) 67号土壙出土土器……116
図 版 49 (1) 71号土壙出土土器……116
(2) 73号土壙出土土器……120
(3) 74号土壙出土土器……120
(4) 75号土壙出土土器……120
(5) 76号土壙出土土器……126
図 版 50 (1) 77号土壙出土土器……126
(2) 79号土壙出土土器……126
図 版 51 (1) 1号甕棺……136
(2) 2号甕棺……138
(3) 3号甕棺……138
(4) 5号甕棺……138
図 版 52 (1) 6号甕棺……141
(2) 7号甕棺……141
(3) 8号甕棺……141
図 版 53 (1) 9号甕棺……144
(2) 10号甕棺……144
(3) 11号甕棺……144
(4) 12号甕棺……146

図　版　54 (1)　13号甕棺……146
(2)　14号甕棺……146
(3)　17号甕棺……152
図　版　55 (1)　15号甕棺……152
(2)　16号甕棺……152
(3)　22号甕棺……157
図　版　56 (1)　18号甕棺……155
(2)　19号甕棺……155
(3)　20号甕棺……155
図　版　57 (1)　21号甕棺……157
(2)　24号甕棺……160
(3)　27号甕棺……162
図　版　58　ピット・その他出土土器……170
図　版　59　上の原遺跡出土縄文土器……9
図　版　60 (1)　縄文時代石器……12
(2)　竪穴・土壙他出土石器……173
図　版　61 (1)　竪穴・土壙他出土鉄器……173
(2)　竪穴・土壙他出土土製品……173

挿　図　目　次

第　1　図　九州横断自動車道路線図
第　2　図　上の原遺跡周辺遺跡分布図（1/50,000）……5
第　3　図　上の原遺跡周辺地形図（1/10,000）……6
第　4　図　上の原遺跡地形図（1/3,000）……8
第　5　図　縄文土器実測図①（1/3）……10
第　6　図　縄文土器実測図②（1/3）……11
第　7　図　石器実測図（1/2）……12
第　8　図　66・67号住居跡実測図（1/80）……14
第　9　図　66・67・70・71号住居跡出土土器実測図（1/4）……15

第 10 図 68・69号住居跡実測図（1/80） …… 16
第 11 図 70・71号住居跡実測図（1/80） …… 17
第 12 図 72・73号住居跡実測図（1/80） …… 19
第 13 図 1～4号建物跡実測図（1/80） …… 20
第 14 図 5・6号建物跡実測図（1/80） …… 21
第 15 図 1・5号建物跡出土土器実測図（1/4） …… 22
第 16 図 1～4号竪穴実測図（1/60） …… 24
第 17 図 1～3号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 25
第 18 図 4号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 26
第 19 図 5～9号竪穴実測図（1/60） …… 27
第 20 図 5・6号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 29
第 21 図 7号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 30
第 22 図 8・9号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 31
第 23 図 10・11・13・22号竪穴実測図（1/60） …… 33
第 24 図 10・11号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 35
第 25 図 11・12号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 36
第 26 図 12号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 37
第 27 図 13号竪穴出土土器実測図①（1/4） …… 38
第 28 図 13号竪穴出土土器実測図②（1/8） …… 39
第 29 図 12・14・15号竪穴実測図（1/60） …… 40
第 30 図 14～17号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 41
第 31 図 16～19号竪穴実測図（1/60） …… 43
第 32 図 18号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 44
第 33 図 18・19号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 45
第 34 図 20・21・23・24号竪穴実測図（1/60） …… 47
第 35 図 20～24号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 48
第 36 図 25～30号竪穴実測図（1/60） …… 50
第 37 図 25号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 51
第 38 図 26・27号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 52
第 39 図 28号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 53
第 40 図 29・30号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 55
第 41 図 31～39号竪穴実測図（1/60） …… 56
第 42 図 31号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 57

第 43 図 32～35号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 59
第 44 図 36～38号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 60
第 45 図 40～43号竪穴実測図（1/60） …… 62
第 46 図 39～41号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 64
第 47 図 42・43号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 65
第 48 図 44・45・47・48号竪穴実測図（1/60） …… 67
第 49 図 49～52号竪穴実測図（1/60） …… 68
第 50 図 44～46・49～53・55・56号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 70
第 51 図 53～56号竪穴実測図（1/60） …… 71
第 52 図 57～60号竪穴実測図（1/60） …… 72
第 53 図 57号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 73
第 54 図 59・61・62号竪穴出土土器実測図（1/4） …… 75
第 55 図 1～4号土壙実測図（1/40） …… 78
第 56 図 1～4号土壙出土土器実測図（1/4） …… 79
第 57 図 5～10号土壙実測図（1/40） …… 81
第 58 図 5・6・8・12～14・16・17号土壙出土土器実測図（1/4） …… 82
第 59 図 11～16号土壙実測図（1/40） …… 84
第 60 図 17～23号土壙実測図（1/40） …… 85
第 61 図 18・19号土壙出土土器実測図（1/4） …… 87
第 62 図 20～22号土壙出土土器実測図（1/4・1/8） …… 88
第 63 図 24～27号土壙実測図（1/40） …… 90
第 64 図 28～32号土壙実測図（1/40） …… 92
第 65 図 24～26・28・30～33号土壙出土土器実測図（1/4） …… 93
第 66 図 33～37号土壙実測図（1/40） …… 95
第 67 図 34号土壙出土土器実測図（1/4） …… 96
第 68 図 35～39号土壙出土土器実測図（1/4） …… 97
第 69 図 38～43号土壙実測図（1/40） …… 99
第 70 図 44・46～49号土壙実測図（1/40） …… 101
第 71 図 41・42・44～48号土壙出土土器実測図（1/4） …… 102
第 72 図 45・50～54号土壙実測図（1/40） …… 104
第 73 図 49～51・53～56・58号土壙出土土器実測図（1/4） …… 106
第 74 図 52号土壙出土土器実測図（1/4） …… 107
第 75 図 55～60号土壙実測図（1/40） …… 109

第 76 図 57号土壙出土土器実測図（1/4）……110
第 77 図 61～65号土壙実測図（1/40）……112
第 78 図 59・61・62・65号土壙出土土器実測図（1/4）……113
第 79 図 60・66号土壙出土土器実測図（1/4）……114
第 80 図 63号土壙出土土器実測図（1/4）……115
第 81 図 66～70号土壙実測図（1/40）……117
第 82 図 67号土壙出土土器実測図（1/4）……118
第 83 図 67・69～71号土壙出土土器実測図（1/4）……119
第 84 図 71～76号土壙実測図（1/40）……121
第 85 図 72～74号土壙出土土器実測図（1/4）……122
第 86 図 75号土壙出土土器実測図（1/4）……123
第 87 図 76号土壙出土土器実測図（1/4）……124
第 88 図 76・77号土壙出土土器実測図（1/4）……125
第 89 図 77～82号土壙実測図（1/40）……127
第 90 図 77・79・81号土壙出土土器実測図（1/4）……128
第 91 図 83～87号土壙実測図（1/40）……130
第 92 図 82～89・91号土壙出土土器実測図（1/4）……131
第 93 図 88～93号土壙実測図（1/40）……133
第 94 図 90・92・93号土壙出土土器実測図（1/4）……134
第 95 図 甕棺墓群配置図（1/200）……136
第 96 図 1～3・5号甕棺墓実測図（1/20）……137
第 97 図 1・2号甕棺実測図（1/6）……折込
第 98 図 4・23号甕棺墓実測図（1/30）……139
第 99 図 6号甕棺墓実測図（1/20）……140
第 100 図 6・15号甕棺実測図（1/8）……折込
第 101 図 7～10・12号甕棺墓実測図（1/20）……142
第 102 図 3・5・8・12号甕棺実測図（1/6）……143
第 103 図 7・9・10号甕棺実測図（1/6）……145
第 104 図 11・13・14号甕棺墓実測図（1/20）……147
第 105 図 11・13・18号甕棺実測図（1/6）……148
第 106 図 15号甕棺墓実測図（1/20）……149
第 107 図 16号甕棺墓実測図（1/20）……150
第 108 図 14・16号甕棺実測図（1/8）……151

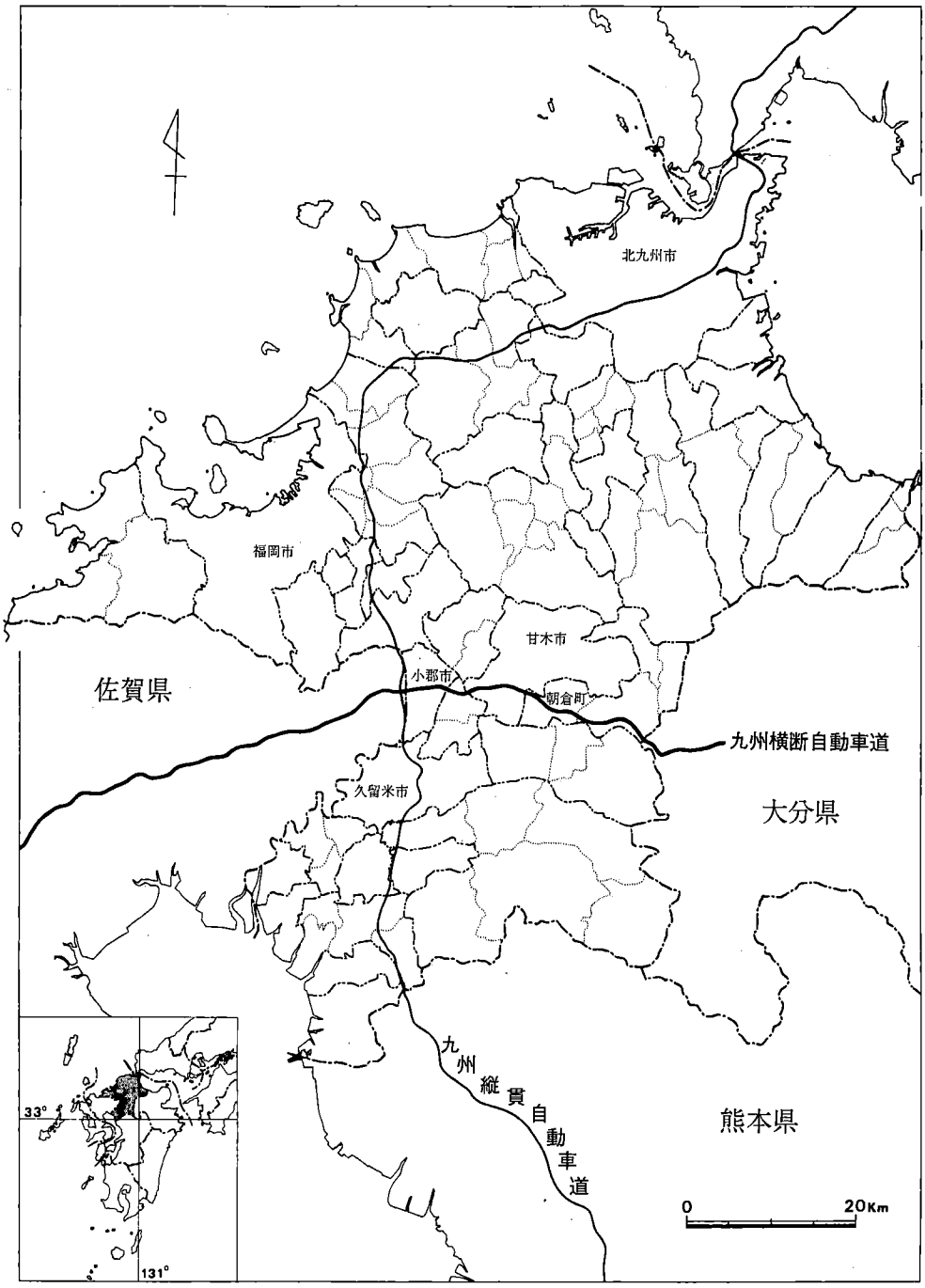
第 109 図　17～19号甕棺墓実測図（1/20）……153
第 110 図　17・19号甕棺実測図（1/6）……154
第 111 図　20号甕棺墓実測図（1/20）……156
第 112 図　20・24号甕棺実測図（1/8）……折込
第 113 図　21・22・27号甕棺墓実測図（1/20）……158
第 114 図　21・22・27号甕棺実測図（1/6）……159
第 115 図　24号甕棺墓実測図（1/20）……160
第 116 図　25・26号甕棺墓実測図（1/30）……161
第 117 図　1号木棺墓，1号土壙墓実測図（1/30）……163
第 118 図　1・5号土壙墓出土土器実測図（1/4）……164
第 119 図　2号木棺墓，2号土壙墓実測図（1/30）……165
第 120 図　3～5号土壙墓実測図（1/30）……166
第 121 図　6～8号土壙墓実測図（1/30）……168
第 122 図　9～11号土壙墓実測図（1/30）……169
第 123 図　ピット・その他出土土器実測図①（1/4）……171
第 124 図　ピット・その他出土土器実測図②（1/4）……172
第 125 図　竪穴・土壙他出土石器実測図①（1/2）……173
第 126 図　竪穴・土壙他出土石器実測図②（1/2）……174
第 127 図　竪穴・土壙他出土石器実測図③（1/2）……175
第 128 図　竪穴・土壙他出土鉄器実測図（1/2）……175
第 129 図　竪穴・土壙他出土土製品実測図①（1/2）……176
第 130 図　竪穴・土壙他出土土製品実測図②（1/2）……177

表　目　次

表　1　竪穴新旧番号対照表……76
表　2　土壙新旧番号対照表……135

付　図　目　次

付　図　上の原遺跡遺構配置図（1/200）



第1図　九州横断自動車道路線図

Ⅰ　調査組織と調査経過

かつて上の原遺跡では，昭和29・36年に福岡県立朝倉高等学校史学部による発掘がなされた。3次に及ぶ発掘で石棺墓・甕棺墓が発見され，鉄鉇・鉄鏃の出土をみた（註1）。このことから，墓地群が広範囲に拡がっていることが十分予測された。

今回の調査は，九州横断自動車道建設に伴い，第21調査地点（STA159＋60～168＋40）として上がったが，調査範囲が広範であるためＡ～Ｄの4地点に細分された。Ａ地点－西法寺遺跡，Ｂ地点－経塚遺跡，Ｃ地点－大庭久保遺跡，Ｄ地点－上の原遺跡と命名した（註2）。

上の原遺跡の調査報告書は既に2冊刊行されており（註3），今回が最終報告である。調査組織及び調査経過は既述してあるので，調査経過に関しては概要に留めたい。

〈所在地〉　福岡県朝倉郡朝倉町大字大庭字上の原572・670，字佐屋2189番地他

〈調査期間〉　昭和60年10月14日～昭和61年3月19日（約5ヶ月）

〈調査面積〉　約12,300㎡

〈調査担当者〉　福岡県教育委員会　井上裕弘・高橋章・小田和利・木村幾多郎

〈調査日誌抄〉

10月	東端部より調査を開始する（14日）。
11月～12月	貯蔵穴・土壙群を検出する。貯蔵穴は100基を優に越す。
12月～２月	住居跡群・甕棺墓群の調査を本格的に行う。住居番号は200軒を越す。
２月下旬	大庭久保遺跡より作業員が合流する。作業員数100名以上を数える。
３月上旬	気球による全景撮影（8日）。
３月中旬	調査を終了する（19日）。

〈遺構の概要〉

弥生時代：竪穴住居跡（73）・建物跡（6）・貯蔵穴（140）・竪穴（63）・土壙（93）・甕棺墓（27）・土壙墓（11）・木棺墓（2）

古墳時代：竪穴住居跡（6）・建物跡（8）・土壙（10）・溝（3）

奈良時代：竪穴住居跡（6）・建物跡（20）・土壙（16）

上の原遺跡における昭和60年度の調査関係者並びに，平成6年度における報告書作成に関わる日本道路公団・福岡県教育委員会の関係者は，下記のとおりである。

	昭和60年度		平成6年度
日本道路公団福岡建設局			
局　長	今村　浩二		倉沢　真也
次　長			三重野堅二
総務部長	菱刈　庄二（前任）	安元　富次	水田　章佳
管理課長	森　　宏之		三根　敬正
管理課長代理	佐伯　豊		岡　　芳則
日本道路公団福岡建設局甘木工事事務所			
所　長	乗松　紀三		
副所長（事務）	西田　功		
副所長（技術）	中村　義治		
庶務課長	徳永　登		
用地課長	岩下　剛		
工務課長	後藤　二郎彦		
小郡工事長	友田　義則		
甘木工事長	猪狩　宗雄		
朝倉工事長	平沢　正　（前任）	小手川良和	
杷木工事長	山中　茂		

福岡県教育委員会

総　括

教育長	友野　隆		光安　常喜
教育次長	安部　徹		松枝　功
管理部長	大鶴　英雄	指導第二部長	丸林　茂夫
文化課長	前田　栄一		松尾　正俊
文化課長補佐	平　　聖峰		清水　圭輔
		文化財保護室長	柳田　康雄
文化課長技術補佐	宮小路賀宏	室長補佐	井上　裕弘
文化課参事補佐	栗原　和彦	調査班総括	橋口　達也

庶　務

文化課庶務係長	平　聖峰（兼任）	管理係長	杉光　誠
文化課事務主査	長谷川伸弘	管理係主任主事	高田　裕康

調　査

文化課調査第二係長　宮小路賀宏（兼任）
同　技術主査　井上裕弘
同　主任技師　高橋　章
同　主任技師　佐々木隆彦
同　技　師　伊崎　俊秋
同　技　師　小田　和利
同　文化財専門員　木村　幾多郎
同　臨時職員　日高　正幸
調査補助員　高田　一弘
武田　光正
佐土原逸男
平嶋　文博
田中　康伸
柏原　孝俊

整理・報告

高橋　章
（現北九州教育事務所参事補佐）
小田　和利
（現九州歴史資料館主任技師）

文化課整理担当

小池　史哲（技術主査）
水ノ江和同（主任技師）
岩瀬　正信（整理指導員）

〈実測補助〉

加田隆志（現佐賀県鹿島市教育委員会）　永見英徳（現筑後市教育委員会）　高瀬セツ子
本石セツ子　中村光恵　牟田冴子　渡辺輝子　後藤カミヨ　矢野静子　萩原瑞恵

出土遺物の整理・復原作業は，昭和63～平成元年度に九州歴史資料館復原室及び福岡県文化課甘木発掘調査事務所において行った。鉄器の保存処理は，九州歴史資料館学芸二課参事補佐横田義章氏の協力による。遺物の写真撮影・焼付けは，九州歴史資料館学芸一課参事補佐石丸洋氏の指導の下に北岡伸一・水ノ江明美氏による。遺物実測・製図作業は，渡辺輝子・大野愛里・高瀬照美・西田美代子・宮田ゆみ・岡泰子・秋吉邦子・塩足里美・近藤美恵子・豊福弥生・関久江氏及び北九州教育事務所生涯学習課諸氏の多大なる協力があった。

註1　福岡県立朝倉高等学校史学部　1969　埋もれていた朝倉文化

註2　福岡県教育委員会が昭和60・61年度に発掘調査を実施した。西法寺遺跡，経塚遺跡は未報告。大庭久保遺跡は本年度の報告予定。

註3　井上裕弘編　九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告－18－　1990　福岡県教育委員会
小田和利編　九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告－27－　1993　福岡県教育委員会

Ⅱ　遺跡の位置と環境

遺跡の位置

上の原遺跡は，福岡県朝倉郡朝倉町大字大庭字上の原572，同字670，同字673～676，字佐屋2189番地他に所在する。

遺跡地は，朝倉低山地に属する鬼ヶ城山に源を発する佐田川と荷原川とに挟まれた幅約3.5kmの扇状台地の東端部に立地する。この「三奈木－十文字－中島田」台地には，弥生～奈良時代の遺跡が密集している。

歴史的環境

横断道の路線は鳥栖インターチェンジから鳥栖段丘群・城山丘陵を横切り，朝倉扇状台地群・朝倉低山地を抜けて大分県日田市に通じる。結果的に横断道関係の調査は，両筑平野北半部に大きなトレンチを開けたことになり，縄文時代～奈良・平安時代に至る膨大な資料を蓄積し，これまで不明瞭であった当地域の古墳・奈良時代の集落跡がヴェールを脱ぎつつある。ここでは，朝倉町内の遺跡を紹介することとし，詳細は横断道第21・24集（註1）を参照されたい。

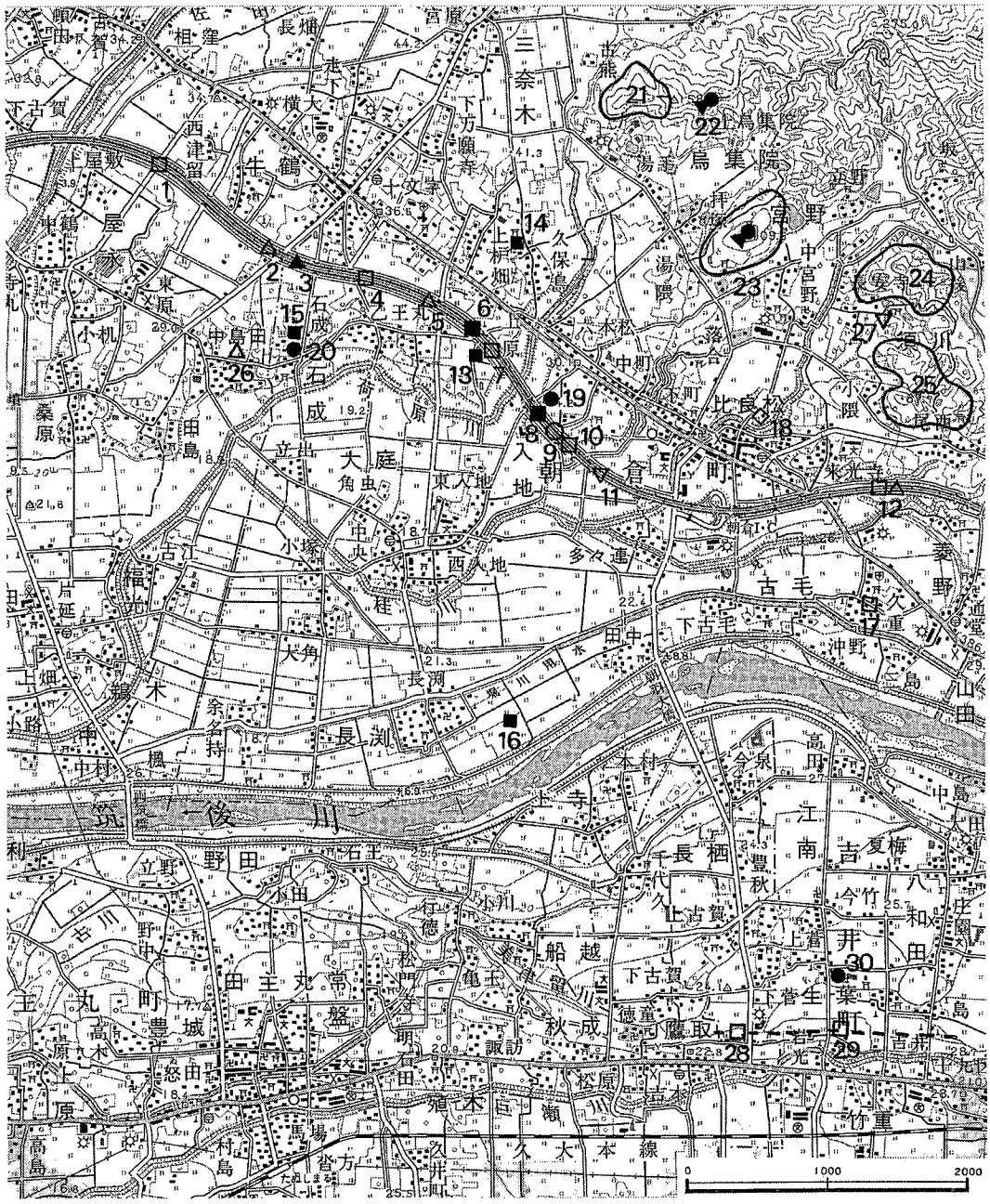
旧石器時代の遺跡には，原の東遺跡があり，4層の旧石器文化層が確認され，ナイフ形石器・台形石器・スクレイパー等の好資料を提供した（註2）。金場遺跡でも細石器の文化層が調査された（註3）。また，上ノ宿遺跡ではナイフ形石器・台形石器等が，山ノ神遺跡ではナイフ形石器・台形石器・三稜尖頭器等の出土をみた（註4）。

縄文時代の資料も横断道の調査によって急増した。前述した原の東遺跡では，早期の石組炉跡・集石遺構，縄文晩期の土壙等を調査しており，旧石器・縄文時代の指標となる遺跡である。また，石組炉跡は上ノ宿遺跡・金場遺跡でも調査されている。

弥生～奈良時代にかけての遺跡は，扇状台地群に展開をみせる。当町の一部が含まれる「三奈木－十文字－中島田」台地には，中道遺跡・大庭久保遺跡・上の原遺跡等の主要遺跡が立地する。大庭久保遺跡では甕棺墓・木棺墓・土壙墓・石棺墓の列埋葬を呈する大墓地群が調査され，木棺墓からは小型仿製鏡が出土した（註5）。

上の原遺跡は弥生～奈良時代にかけての大集落跡で，弥生時代の遺構には住居跡・竪穴・土壙・貯蔵穴・甕棺墓・木棺墓・土壙墓等があり，大庭久保遺跡の墓地群と対をなす。また，長島遺跡では終末期の甕棺墓・石棺墓からなる墓地群が調査され，石棺墓から小型仿製鏡・管玉・ガラス玉の出土をみた（註6）。

古墳時代初頭の墳墓には外之隈遺跡があり，Ⅰ区の台状墓からは画文帯神獣鏡・勾玉・鉄剣が，Ⅱ区の石棺墓を主体とする台状墓からは重圏連弧文鏡・飛禽文鏡・鉄刀子が出土しており，



第2図　上の原遺跡周辺遺跡分布図（1/50,000）

凡　例

時　代	集落	墓　地
縄　文	◇	■
弥　生	□	●・●
古　墳	○	▲
奈　良	△	
平　安	▽	

1 高原遺跡
2 塔ノ上遺跡
3 大還端遺跡
4 中道遺跡
5 西法寺遺跡
6 大庭久保遺跡
7 上の原遺跡
8 狐塚南遺跡
9 治部ノ上遺跡
10 座禅寺遺跡
11 才田遺跡
12 長島遺跡
13 上原遺跡
14 久保鳥遺跡
15 石成遺跡
16 長淵南方遺跡
17 古毛遺跡
18 下須川遺跡
19 狐塚古墳
20 石成古墳
21 古熊古墳群
22 鳥集院1号墳
23 宮地嶽古墳
24 長安寺古墳群
25 須川古墳群
26 中島田遺跡
27 長安寺廃寺
28 鷹鳥五反田遺跡
29 大碇遺跡
30 生葉1号墳

第3図　上の原遺跡周辺地形図（1/10,000）

古墳時代初頭の特定集団墓と位置付けられる（註7)。前期の墳墓には妙見墳墓群があり，方形周溝墓等が調査された（註8)。また，外之隈遺跡Ⅱ区の上方に位置する本陣古墳は，葺石を有する大円墳で，古式の円筒埴輪片が採集されている（註9)。

町内の前方後円墳には，「三奈木－十文字－中島田」台地の丘陵頂部に烏集院１号墳・宮地獄古墳が占地し，両地区平野東部地域に覇を成した首長層の墳墓と考えられる。後期古墳は両地区平野東縁丘陵に築造され，妙見古墳群・山田古墳群・金場古墳群・宮地獄古墳群等の群集墳を形成する。狐塚古墳は線刻壁画で知られ（註10)，上の原遺跡の対岸に立地する。

奈良・平安時代の集落跡は段丘群及び低山地平坦部で調査され，西法寺遺跡・大庭久保遺跡・上の原遺跡・長島遺跡・鎌塚遺跡等があり，同時期の墓地群には大還端遺跡の土壙墓群（註11)，大迫遺跡の大火葬墓群（註12）がある。

また，大迫遺跡の火葬墓群下層からは7世紀中～後半代の大規模な建物跡群を検出しており，谷部を隔てた杷木町志波地区の杷木宮原遺跡・志波桑ノ本遺跡・志波岡本遺跡でも計画的に配された大規模な建物跡群を検出しており，朝倉宮関連の遺跡と推定されている（註13)。さらに杷木神籠石の存在と相まって，古代においては要衝の地であったといえよう。

註１　小田和利・高橋章・日高正幸編　九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告－21－　1991　福岡県教育委員会

小田和利編　九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告－24－　1992　福岡県教育委員会

註２　福岡県教育委員会が昭和62・63年度に発掘調査を実施した。

註３　福岡県教育委員会が昭和62・63年度に発掘調査を実施した。

註４　井上裕弘・木下修編　九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告－20－　1991　福岡県教育委員会

井上裕弘編　九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告－22－　1992　福岡県教育委員会

註５　佐々木隆彦編　九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告－35－　1995　福岡県教育委員会

註６　福岡県教育委員会が昭和62年度に発掘調査を実施した。

註７　伊崎俊秋編　九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告－37－　1995　福岡県教育委員会

註８　佐々木隆彦編　九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告－29－　1994　福岡県教育委員会

註９　小田和利「ＶＡ　本陣古墳採集の埴輪」　註7文献所収

註10　甘木市史編さん委員会　1982　甘木市史上巻

註11　福岡県教育委員会が昭和60年度に発掘調査を実施した。

註12　註１文献に同じ

註13　小田和利「福岡県朝倉町大迫遺跡と朝倉広庭宮について」『北部九州の古代史』1992　名著出版

第4図　上の原遺跡地形図（1/3,000）

Ⅲ　縄文時代の遺物

縄文時代の遺物には，押型文土器・条痕文土器・晩期粗製土器等の土器類及び石鏃・石匙等の石器類が弥生・古墳時代の住居跡，貯蔵穴，土壙，ピット，包含層等から出土している。

しかし，当該期の遺構は検出されておらず，縄文時代の遺構そのものは後出の遺構に削平されたものか，或いは付近に存在するものと思われる。

縄文土器出土地一覧

番号	出　土　地
1	住56
2	F区
3	住12北
4	住48
5	住17
6	住12北
7	P354
8	旧住209
9	住24付近
10	P460
11	住17
12	住56
13	P339
14	住5
15	住107
16	住39
17	住24付近
18	住2
19	住38
20	D26
21	杭3付近
22	杭44付近
23	P35
24	P346
25	T28
26	杭56付近
27	D142
28	住18
29	D63
30	住136
31	住40
32	住180
33	T2
34	旧M8
35	D17
36	杭194付近
37	T39
38	住17
39	住24付近
40	D85

T竪穴，D土壙，M溝，Pピット

押型文土器（図版59，第5図）

1～21は押型文土器で，1～15は楕円文，16～21は山形文を施文している。1～3は口縁部小片，5・7・16・19は口縁部付近の破片，他は体部の破片である。

楕円文には2×4㎜程の小粒のもの（1・2・4・10）と5×9㎜程の大粒のもの（6・9）と両者の中間の大きさのもの（5・7・8・11～13）の三者がある。また，内外面とも施文したもの（1～4・5・7）と外面のみ施文したものとがある。胎土に石英・角閃石を多く含む。色調は暗茶褐色を呈する。

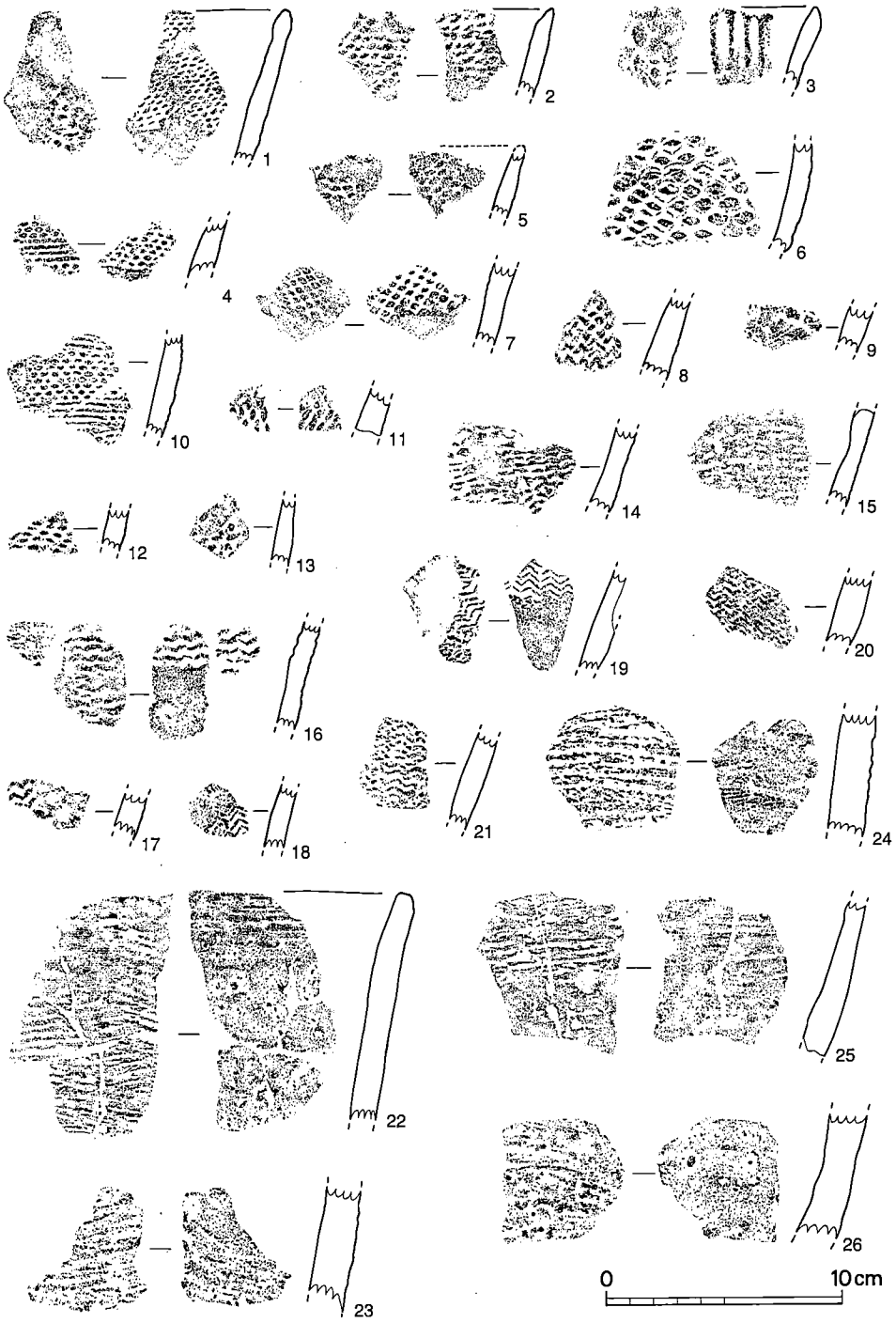
山形文には一山間の幅が狭いもの（20）と広いもの（16・17）及び両者の中間のもの（18・19・21）とがあり，内外面とも施文したものと（16・19）外面のみ施文したものとに分けられる。何れも胎土に石英・角閃石を多く含み，器面がざらつく。

条痕文土器（第5図）

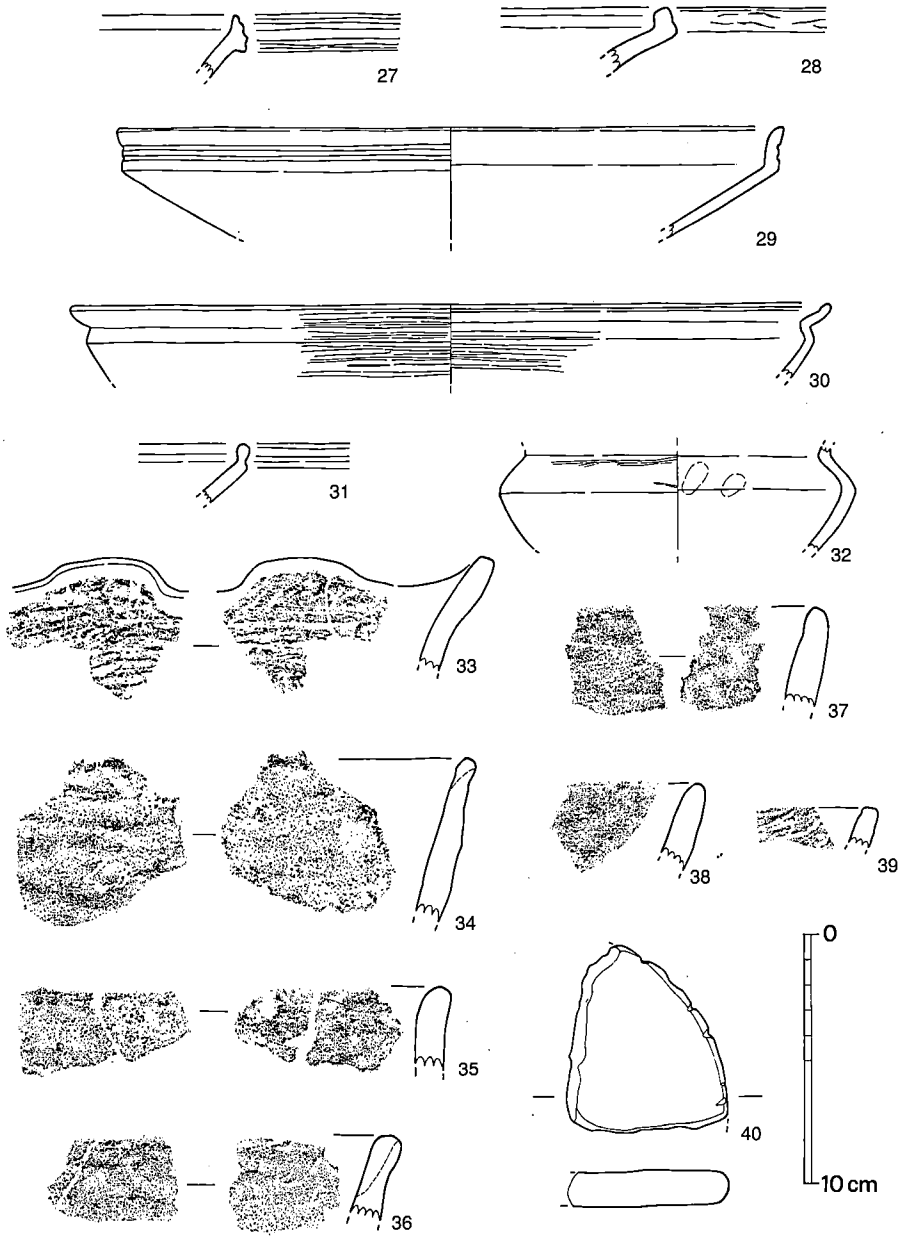
22～26は条痕文土器である。22は口縁部破片で，23～26は体部破片である。器面調整は外面条痕で，内面は条痕をナデ消している。22・25の器壁は厚い。胎土に石英・角閃石を含む。また，22と25及び24と26は同一個体の可能性がある。

晩期土器（図版59，第6図）

27～31は鉢の口縁部破片で，27・29は口縁部に沈線を施している。29は口縁部が垂直気味に立ち上がるもので，口径は26.6cmに復原した。30は精製品で，内外面とも研磨されている。口縁部は屈曲し，口径は30.4cmに復原した。31は口縁部小片であり，口縁



第5図　縄文土器実測図①（1/3）



第6図　縄文土器実測図②（1/3）

部は上方に立つ。32は口縁部を欠く。復原胴径は14.2cm。内外面とも研磨している。何れも胎土に石英・雲母を含む。

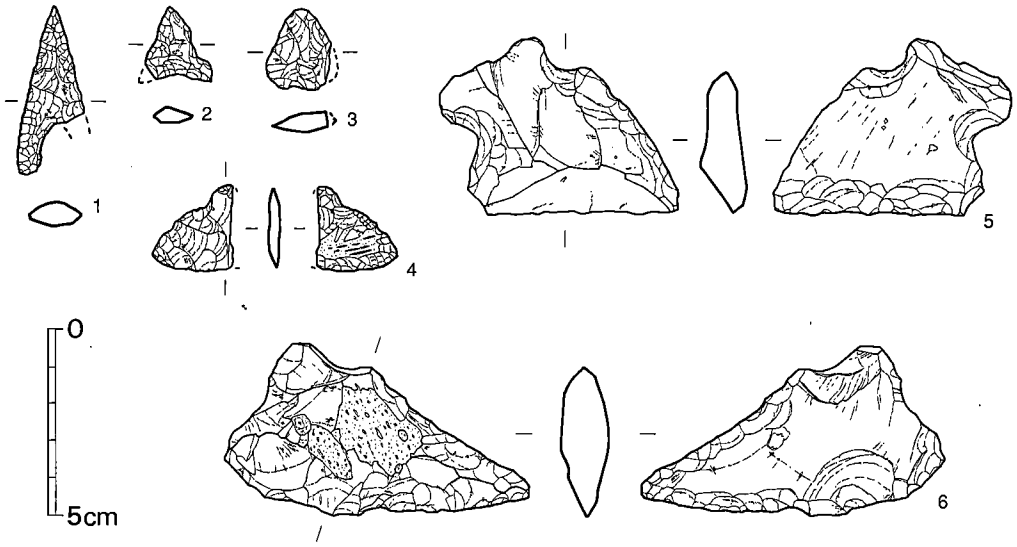
33～39は深鉢の口縁部破片で，33の口縁部は波状に盛り上がる。35～37は器壁が厚く，口唇部は丸く納めている。器面調整は33・39が内外面とも条痕で，34～38は条痕をナデ消している。何れも胎土に石英・角閃石・雲母を多く含む。

40は円盤形の土製品である。胎土に石英・角閃石を多く含み，弥生土器の胎土とは異なることから縄文時代に含めた。

石　器（図版60-1，第7図）

1～3は黒曜石製の石鏃で，1の側縁は鋸歯状を呈する。長さ4.5cm。2・3は扁平気味な三角鏃。長さは2が2.0cmで，3は2.2cm。1は35号竪穴，2は30号竪穴，3は5号住居跡南側の出土。

4は小型の石匙で，黒曜石製。残存長2.2cmを測る。5はサヌカイト製の石匙で，長さ5.6cm。断面は山形をなす。6もサヌカイト製の石器で，両側縁に調整剥離を施している。長さ8.1cm，幅4.3cmで，上部に自然面が一部残る。石匙になろう。



第7図　石器実測図（1/2）

註　縄文時代の遺物に関しては，小池史哲氏の御教示を得た。

Ⅳ　弥生時代の遺構と遺物

1．遺　構　の　概　要

弥生時代の遺構には，竪穴住居跡（73軒）・掘立柱建物跡（6棟）・竪穴（63基）・土壙（93基）・貯蔵穴（140基）・甕棺墓（27基）・木棺墓（2基）・土壙墓（11基）・ピット等が検出され，パンコン300箱にも上る土器の他に石器・鉄器・土製品が出土した。

竪穴住居跡と貯蔵穴については既に報告されており（註1），今回は「上の原遺跡Ⅲ」上巻として未報告分の遺構を掲載した。

2．竪　穴　住　居　跡

上の原遺跡では，約600個のピットから弥生土器が出土している。その中で，中央ピットを中心点として円形に配されるピット群は，壁体を喪失した竪穴住居跡の可能性が高く，住居跡として確実な8軒を図示する。住居番号は前回の続きとした。

66号住居跡（第8図）

5号住居跡のすぐ南に位置する。当初，6・9号とした溝は住居の下層遺構と考えられ，外径8m程になろう。P2・7・8は貯蔵穴と重複しているため検出していないが，8本柱の住居跡を想定した。また，中央ピットと棟持柱の柱穴P11・12を有する。P11－12間は3.1mを測る。

出土遺物（図版61-2，第9・129図）

土　器（1～11）　1は大型甕の口縁部破片。2は内面にミガキを施すことから鉢になるか。4・5・7は逆L字形口縁の甕で，7は内側にも突出する。6・9は甕の底部。3は器台の底部で，10は口縁部の小片。11は蓋の口縁部破片。1～3はP6，4～6が旧溝6，7～11は旧溝9の出土。

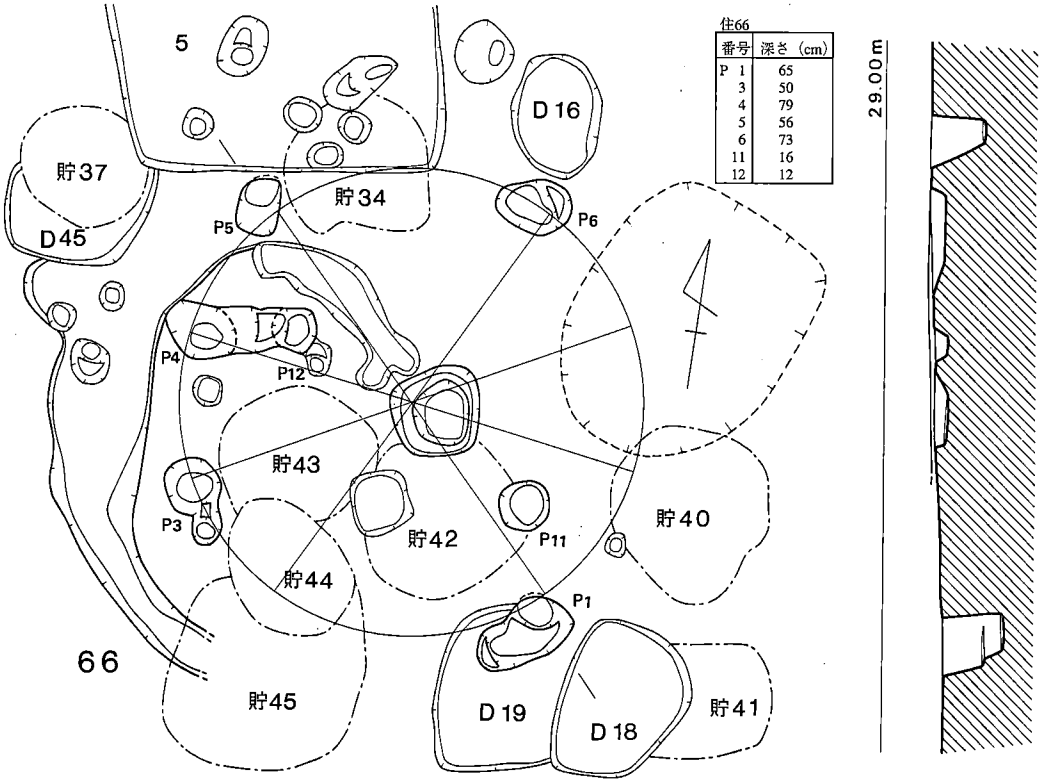
土製品（1）　1は犬を模した土製品で，旧溝6の出土。全長3.3㎝。

67号住居跡（第8図）

6号住居跡の2m東側に位置し，6号竪穴と重複する。P5を検出していないが，6本柱の住居跡になろう。柱穴は均等に6分割に配置されている。P11・12を棟持柱の柱穴と想定した。内径は4.4mを測る。柱穴からではないが，●印を付したピットから土器が出土している。

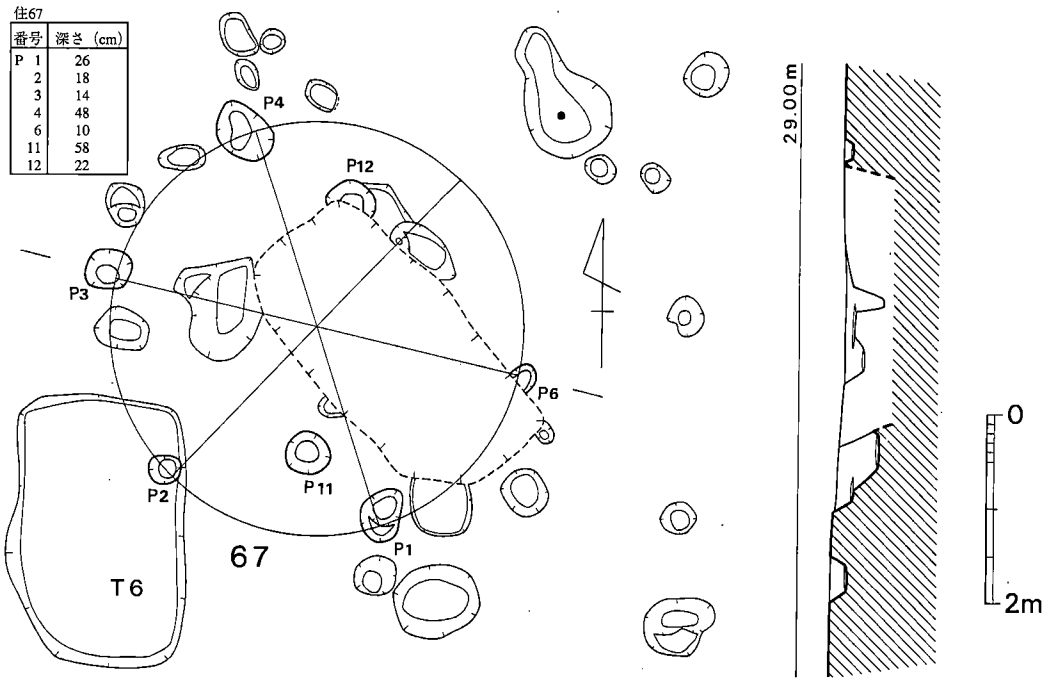
出土遺物（第9図）

土　器（1）　1は広口壺の口縁部片で，内外面ともミガキ調整による。



住66

番号	深さ（cm）
P 1	65
3	50
4	79
5	56
6	73
11	16
12	12



住67

番号	深さ（cm）
P 1	26
2	18
3	14
4	48
6	10
11	58
12	22

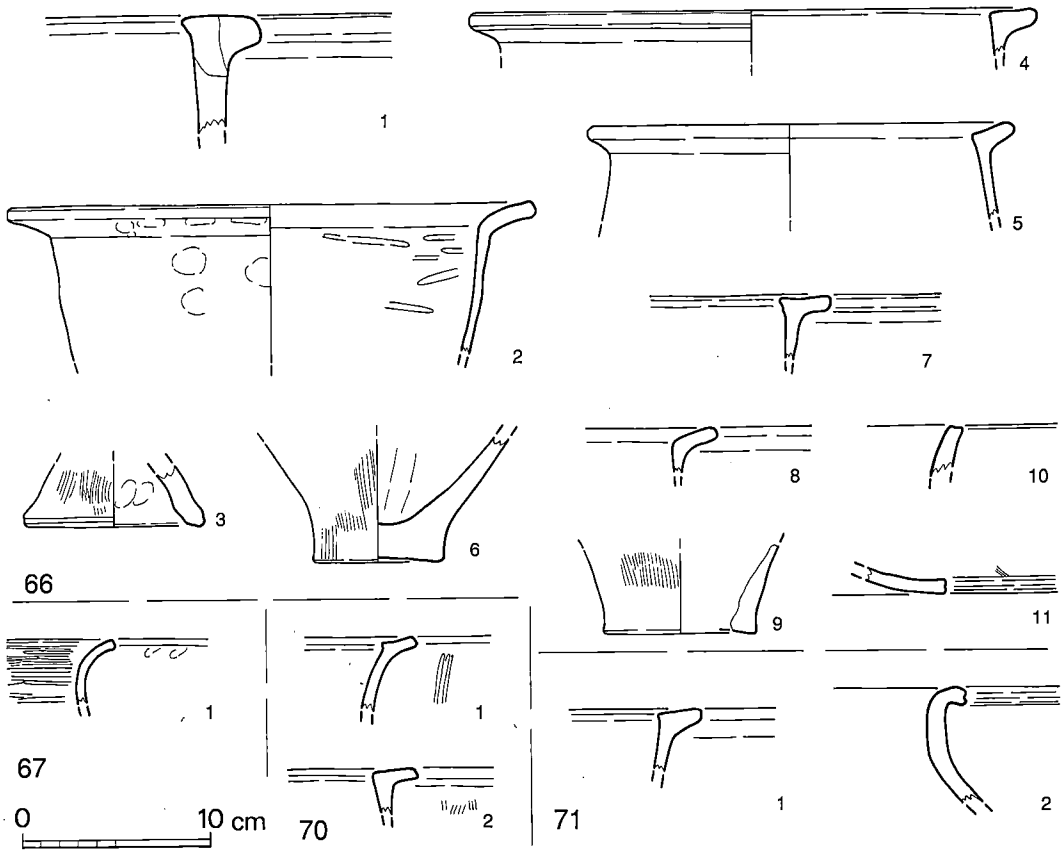
第8図　66・67号住居跡実測図（1/80）

68号住居跡（第10図）

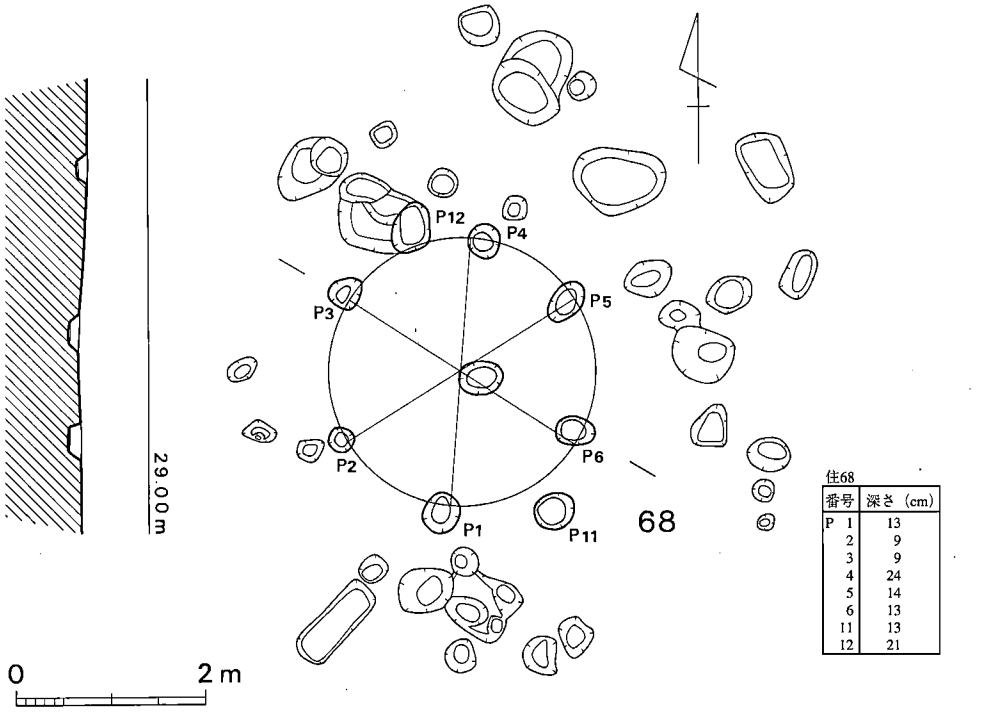
11号住居跡の2m西側に位置し，24号甕棺墓と近接する。中央ピットと棟持柱P11・12を有することから6本柱の住居跡と想定したが，内径2.8mとやや小振りである。P11～12間は3.4mの間隔で，内径よりやや大きい。中央ピットから甕の胴部片が出土しているが，小片のため図示していない。

69号住居跡（第10図）

16号住居跡の北西側に重複して位置する。内径5.5mの8本柱住居跡とした。中央ピットを中心点としてP3・6が対角に配され，P3から左右等間にP1・4が配される。同様に，P6から左右等間にP5・8が配される。P11・12を棟持柱の柱穴とし，P2・7を補柱穴に想定した。P11－12間は2.8mを測る。P5より壺片が出土しているが，小片のため図示に耐えない。

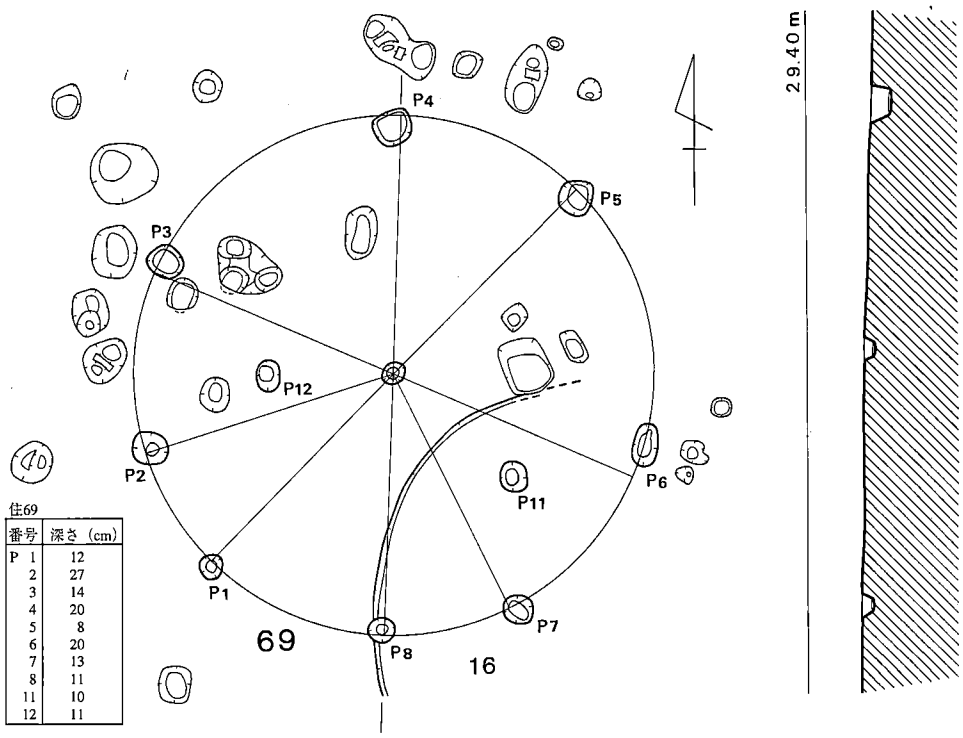


第9図　66・67・70・71号住居跡出土土器実測図（1/4）



住68

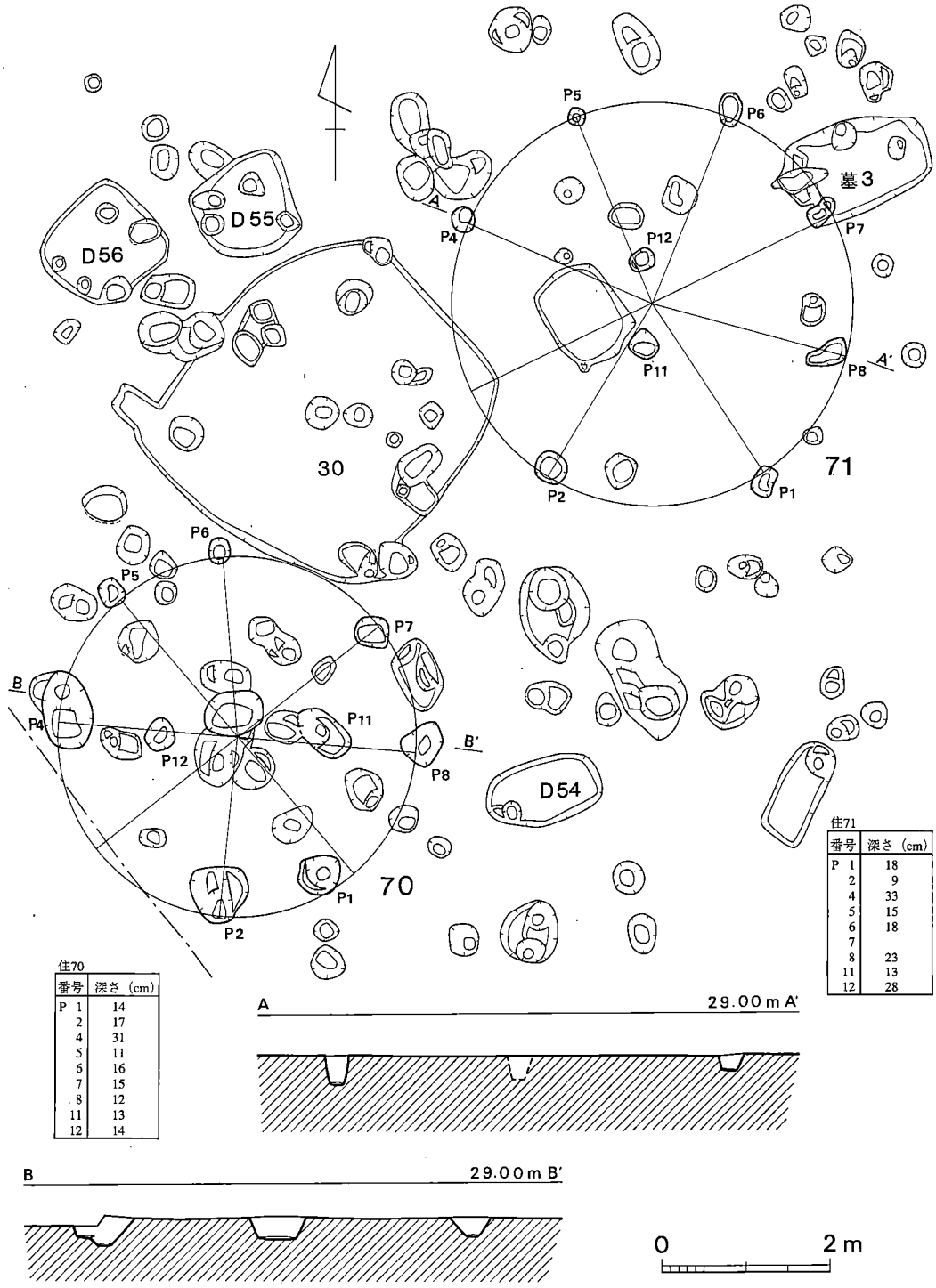
番号	深さ（cm）
P 1	13
2	9
3	9
4	24
5	14
6	13
11	13
12	21



住69

番号	深さ（cm）
P 1	12
2	27
3	14
4	20
5	8
6	20
7	13
8	11
11	10
12	11

第10図　68・69号住居跡実測図（1/80）



住71

番号	深さ（cm）
P 1	18
2	9
4	33
5	15
6	18
7	
8	23
11	13
12	28

住70

番号	深さ（cm）
P 1	14
2	17
4	31
5	11
6	16
7	15
8	12
11	13
12	14

第11図　70・71号住居跡実測図（1/80）

70号住居跡（第11図）

30号住居跡のすぐ南側に重複して位置する。付近にはピットが数多くあり，何れを取捨選択するか判断に苦しむが，中央のやや大きめのピットを中心としてＰ4・11・12・8が一直線に並び，かつ同心円に乗るＰ1・2・5・6・7を柱穴として拾った。Ｐ3は調査区外であり，未検出。内径4.3ｍで，Ｐ11－12間は1.9ｍを測る。Ｐ4から土器が出土した。

出土遺物（第9図）

土　器（1・2）　1は壺の口縁部片で，口縁部平坦面は内傾する。外面に暗文を有し，内面はナデ調整。2は甕で，口縁部は逆Ｌ字形を呈する。

71号住居跡（第11図）

30号住居跡のすぐ東側に重複して位置する。中央ピットとＰ3を有しないが，棟持柱の柱穴Ｐ11・12が存在することから内径4.8ｍの8本柱住居跡とした。Ｐ11－12間は1.2ｍを測る。Ｐ12から土器が出土した。

出土遺物（第9図）

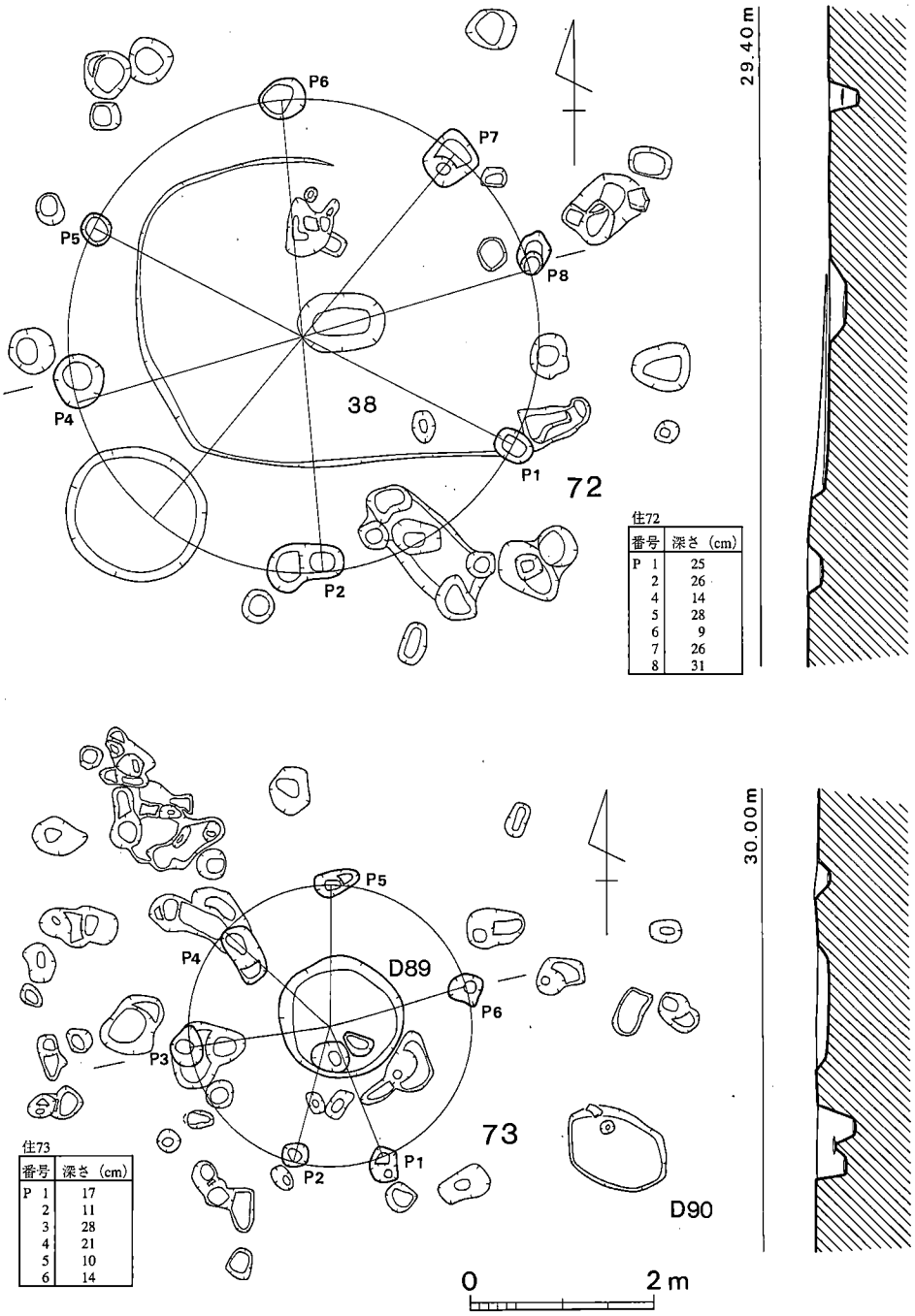
土　器（1・2）　1・2は壺の口縁部小片で，1の口縁部平坦面は若干内径する。ヨコナデ調整による。2は口縁端部が屈曲し，口唇部に沈線を施している。

72号住居跡（第12図）

38号住居跡の竪穴内部には，積極的に柱穴としうるピットは存在していない。この住居跡と完全に重複することから同一の遺構とも考えられるが，Ｐ1が35号の住居壁上に位置しており，一応別遺構として扱った。柱穴はＰ1～8の8本であるが，中央ピット・棟持柱の柱穴は存在しない。また，ピットからの出土遺物はなかった。

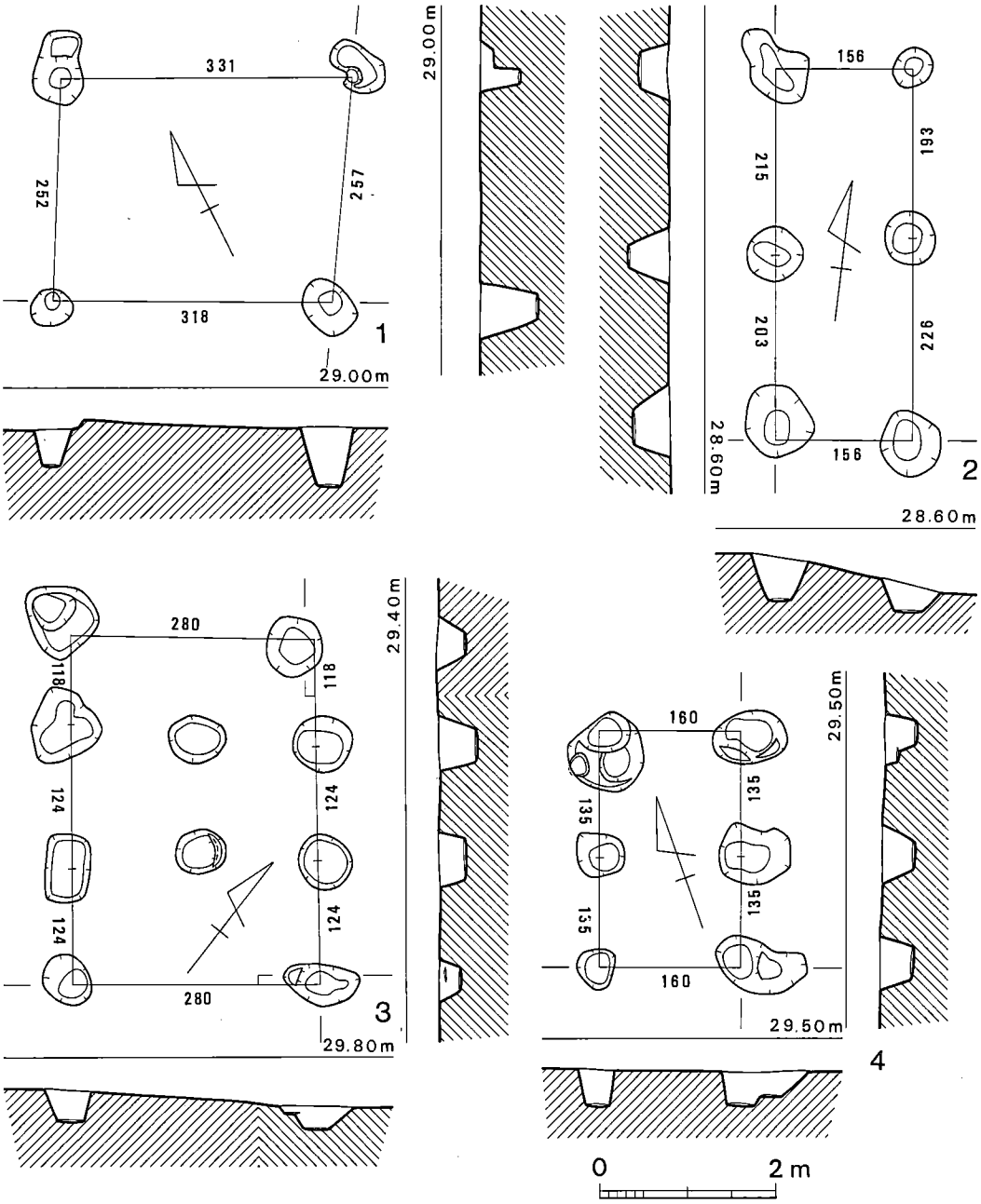
73号住居跡（第12図）

61号住居跡の6ｍ東側に位置する。柱穴はＰ1～6の6本で，一応同心円には乗るものの等間隔に配されておらず，不規則である。内径は3.1ｍを測る。中央には89号とした土壙が存在するが，上の原遺跡の円形住居跡で一般的にみられる床面中央土壙として捉えられるものか。ピットからの出土遺物はない。



第12図　72・73号住居跡実測図（1/80）

3．掘 立 柱 建 物 跡



第13図　1～4号建物跡実測図（1/80）

弥生時代の建物跡は調査区の全域で6棟検出した。

1号建物跡（第13図）

調査区の東側に位置し，4・7号竪穴と重複する。梁行1間（2.5m）×桁行1間（3.2m）の規模で，古墳・奈良時代の竪穴住居跡の柱間にしては大きく，何れのピットからも弥生土器が出土していることから弥生時代の建物跡とした。梁行方位はN30°Eを示す。

出土遺物（第15図）

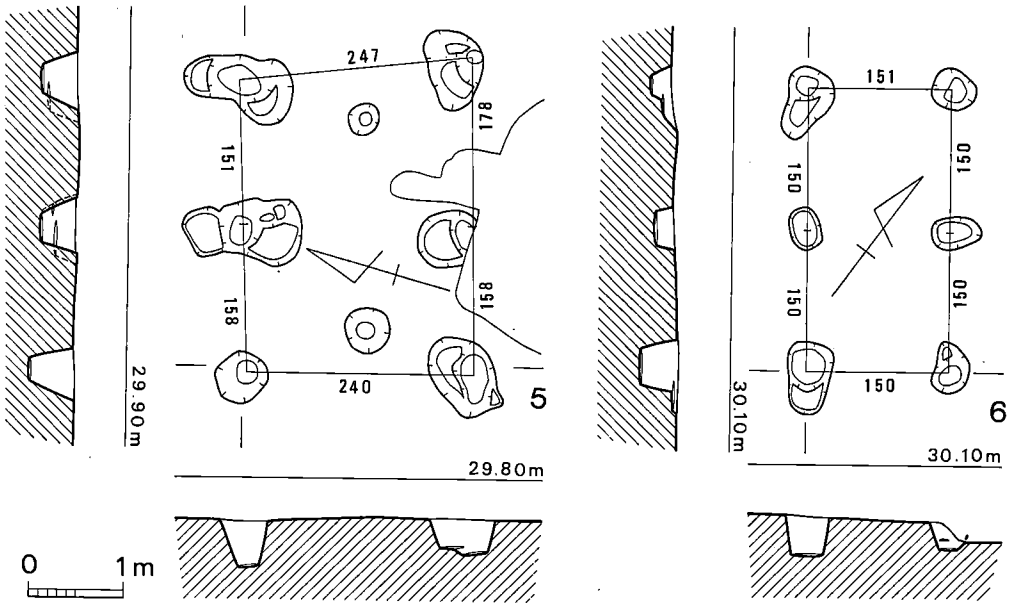
土　器（1～4）　1は口縁部破片であるが，外面にミガキを施していることから壺とした。2は亀の甲タイプの甕で，胴部に沈線を有する。3は底部片で，復原底径は7.2cmを測る。4は蓋の口縁部破片で，外面ミガキ，内面ナデ調整による。

2号建物跡（第13図）

調査区の北東部に位置する。他の遺構との切り合いはなく，ピットから土器も出土していないが，形態的に弥生時代の建物跡とした。梁行1間（1.56m）×桁行2間（4.2m）の規模を有する。柱穴は円形を呈し，径40～70cm，深さ30～50cmを測る。桁行方位はN7°Wを示す。

3号建物跡（第13図）

調査区の中央南西側で，37・65号住居跡との中間に位置する。梁行1間（2.8m）×桁行3間



第14図　5・6号建物跡実測図（1/80）

(3.9m）の規模である。中央には柱穴2個が桁側柱穴と並んで配されており，束柱の柱穴になろう。柱穴は円形を呈し，径70cm前後，深さ30～50cmを測る。桁行方位はN38°Wを示す。柱穴から土器片が出土しているが，小片であるため図示していない。

4号建物跡（第13図）

37号住居跡の4m北側に位置する。梁行1間（1.6m）×桁行2間（2.7m）の規模を有する。柱穴が不整形を呈するのは，柱を抜き去ったためであろう。径60～80cmで，深さ40cm前後を測る。桁行方位はN20°Eを示す。柱穴から土器が出土しているが，図示に耐えない。

5号建物跡（第14図）

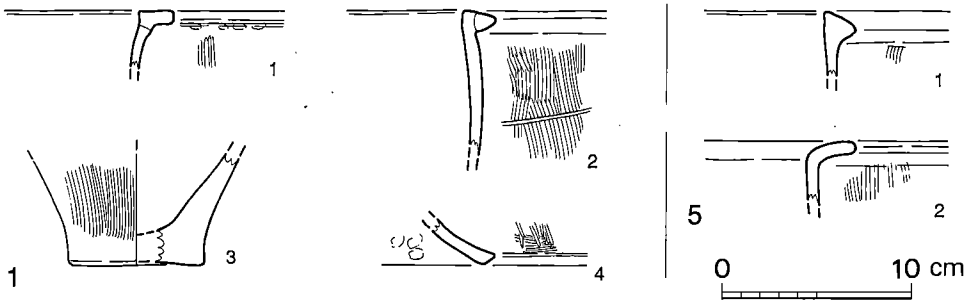
60号住居跡のすぐ南東側に位置し，奈良時代の180号住居跡に切られる。梁行1間（2.4m）×桁行2間（3.1m）の規模を有する。当建物跡の柱穴も不整形を呈し，柱を抜き去ったものと考えられる。また，床面中央にある一対の柱穴は，妻側寄りにあることから棟支えの柱穴になるか。柱穴は径60～120cmの不整形で，深さ50cm前後を測る。桁行方位はN16°Wを示す。柱穴からは土器が出土している。

出土遺物（第15図）

土　器（1・2）　1は亀の甲タイプ甕の口縁部小片。2の口縁部は肥厚することなく逆L字形に屈曲する。

6号建物跡（第14図）

62号住居跡の9m西側に位置し，奈良時代の202号住居跡に切られる。梁行1間（1.5m）×桁行2間（3.0m）で，桁行は梁行の二倍になっている。柱穴は径40～80cmで，深さ20～40cm前後を測る。桁行方位はN37°Wを示す。柱穴から土器が出土しているが，図示に耐えない。



第15図　1・5号建物跡出土土器実測図（1/4）

4．竪　　穴

調査区の全域において63基検出した。遺構検出段階では住居跡としていたが，炉跡・柱穴が検出されないものは竪穴に変更した。平面形は方形・円形・不整形を呈し，深さは貯蔵穴に比してかなり浅めである。また，貯蔵穴より後出する傾向にある。

1号竪　穴（図版5-1，第16図）

調査区の南東端部に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸2.26m，短軸1.62m，深さ0.3mを測る。底面にはピットが4個あるが，関連するか不明。埋土中から土器が出土した。

出土遺物（第17図）

土　器（1～5）　1は壺の口縁部小片。2～5は甕で，2・3の頸部は「く」字形に屈曲し，端部が若干肥厚する。4は口縁部小片で，肥厚する。復原口径27.0cm。5は底部破片。

2号竪　穴（図版5-2，第16図）

1号竪穴の南東側に軸を等しくして位置する。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸2.35m，短軸1.78m，深さ0.26mを測り，底面には深めのピットがある。埋土中から土器が出土した。

出土遺物（図版40-1，第17図）

土　器（1～7）　1は広口壺で，口縁部は大きく開く。内外面ともミガキによる。復原口径は22.0cm。2は壺の底部破片で，3は鉢の底部になるか。4・5は逆L字形口縁の甕。6は甕の底部片で，内面は剥離している。2は器台の底部片で，底径は9.8cmに復原した。

3号竪　穴（第16図）

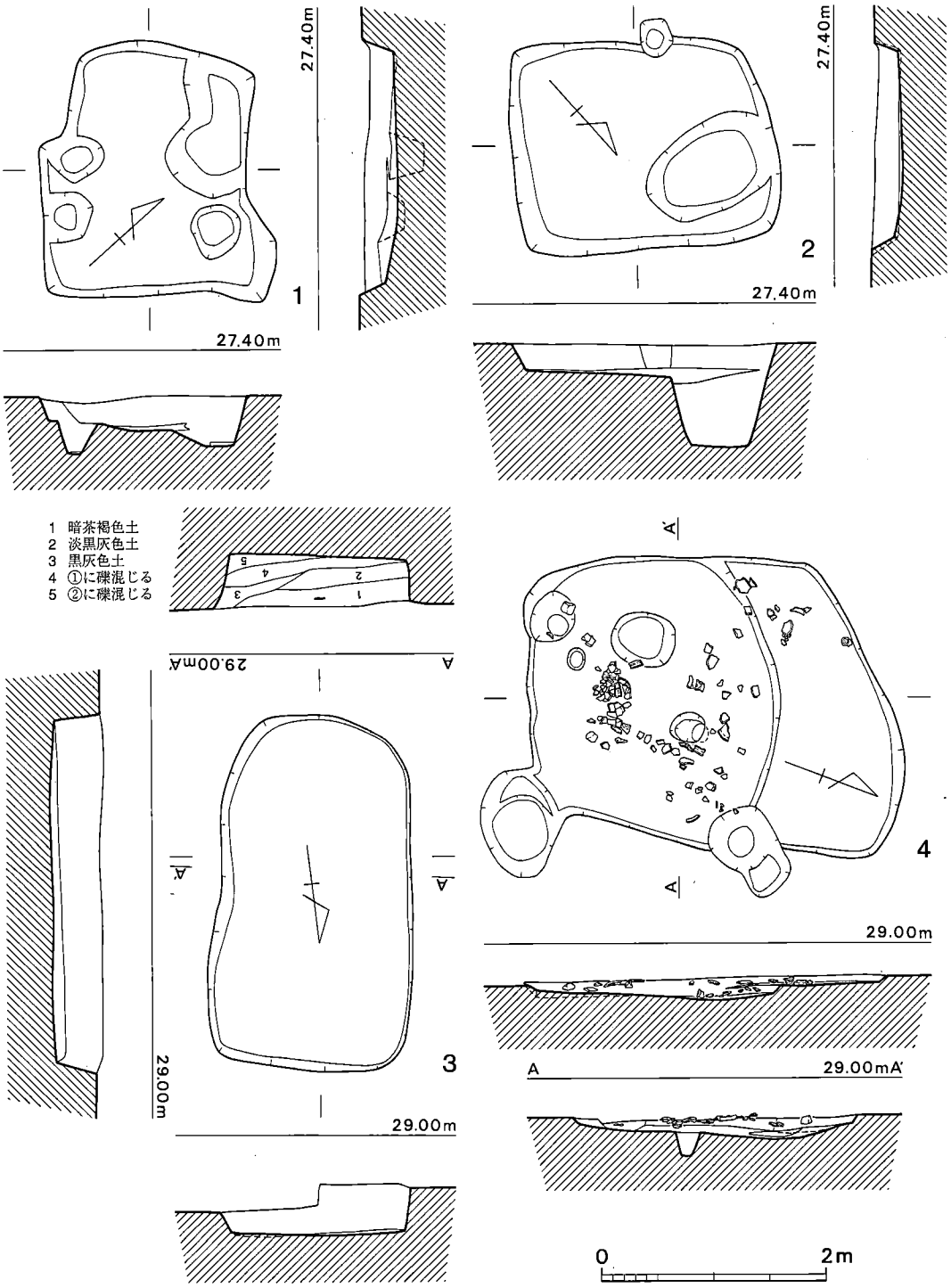
1号建物跡の1m東側に位置し，52・55号貯蔵穴を切っている。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸3.17m，短軸1.78m，深さ0.47mを測る。埋土中から土器が出土した。

出土遺物（第17図）

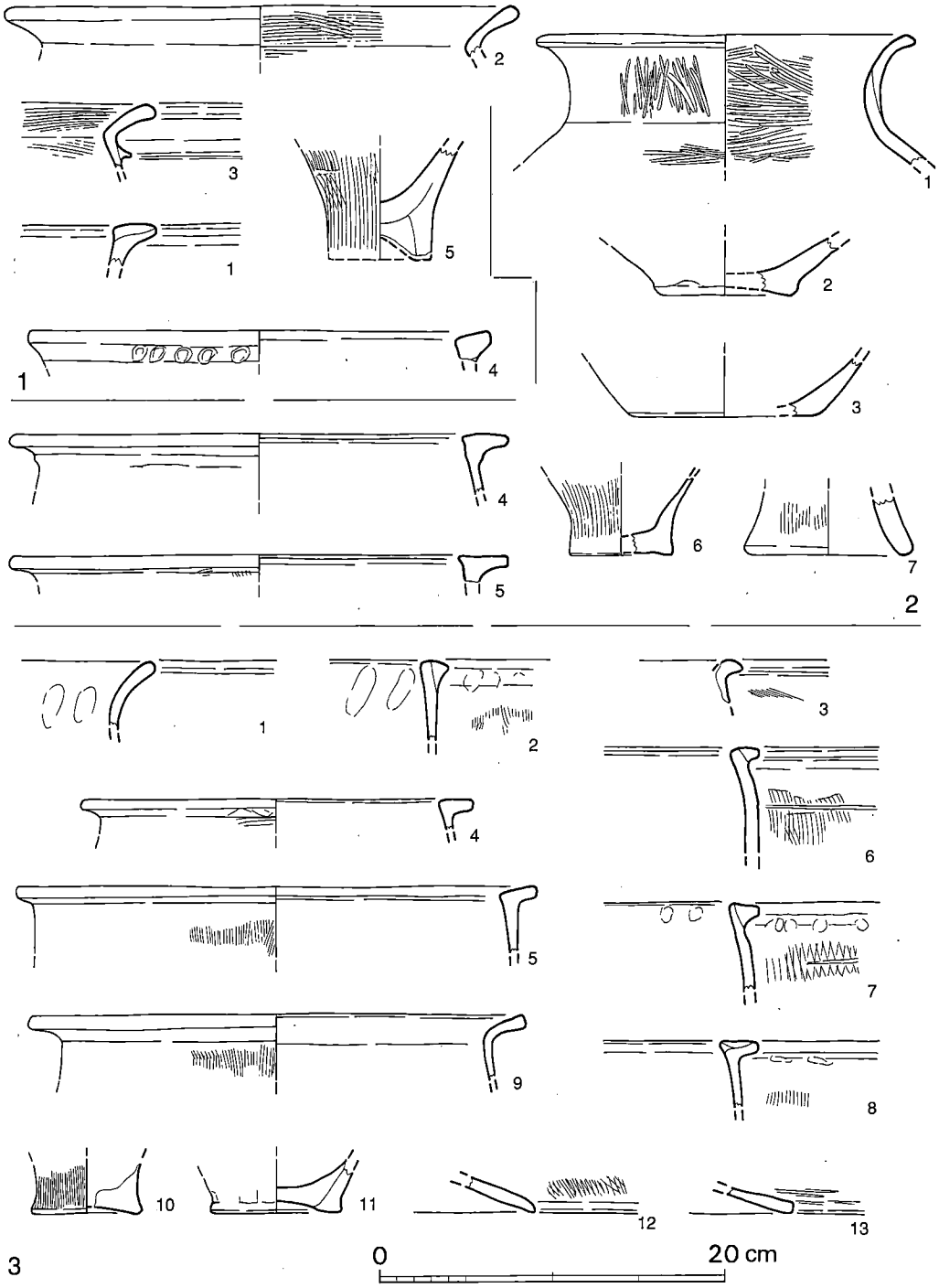
土　器（1～13）　1は広口壺の口縁部片で，端部は僅かに肥厚する。2・3は亀の甲タイプ甕の口縁部片。4～8は逆L字形口縁の甕で，6・7の口縁突出度は弱い。また，6・7は頸部下位にヘラ沈線を施文している。9は「く」字形口縁甕で，端部は跳上げ気味である。10・11は甕の底部片。12・13は蓋の口縁部片で，内面に煤が遺存している。

4号竪　穴（図版6-1，第16図）

1号建物跡と重複し，80号貯蔵穴を切っている。平面形は不整長方形を呈し，長軸3.3m，短軸2.6m，深さ0.2mを測る。底面は二段になっており，浮いた状態で土器が出土した。



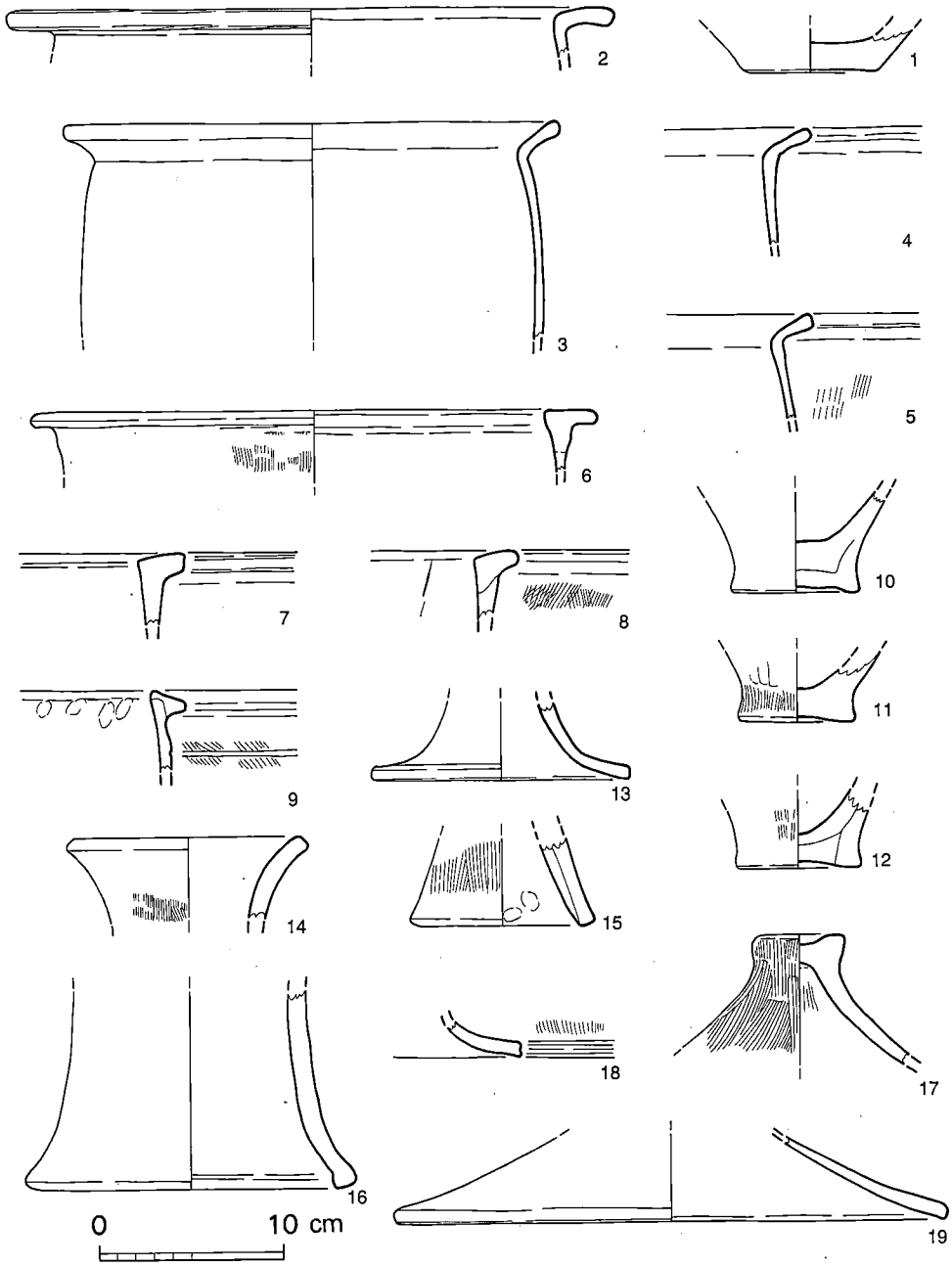
第16図　1～4号竪穴実測図（1/60）



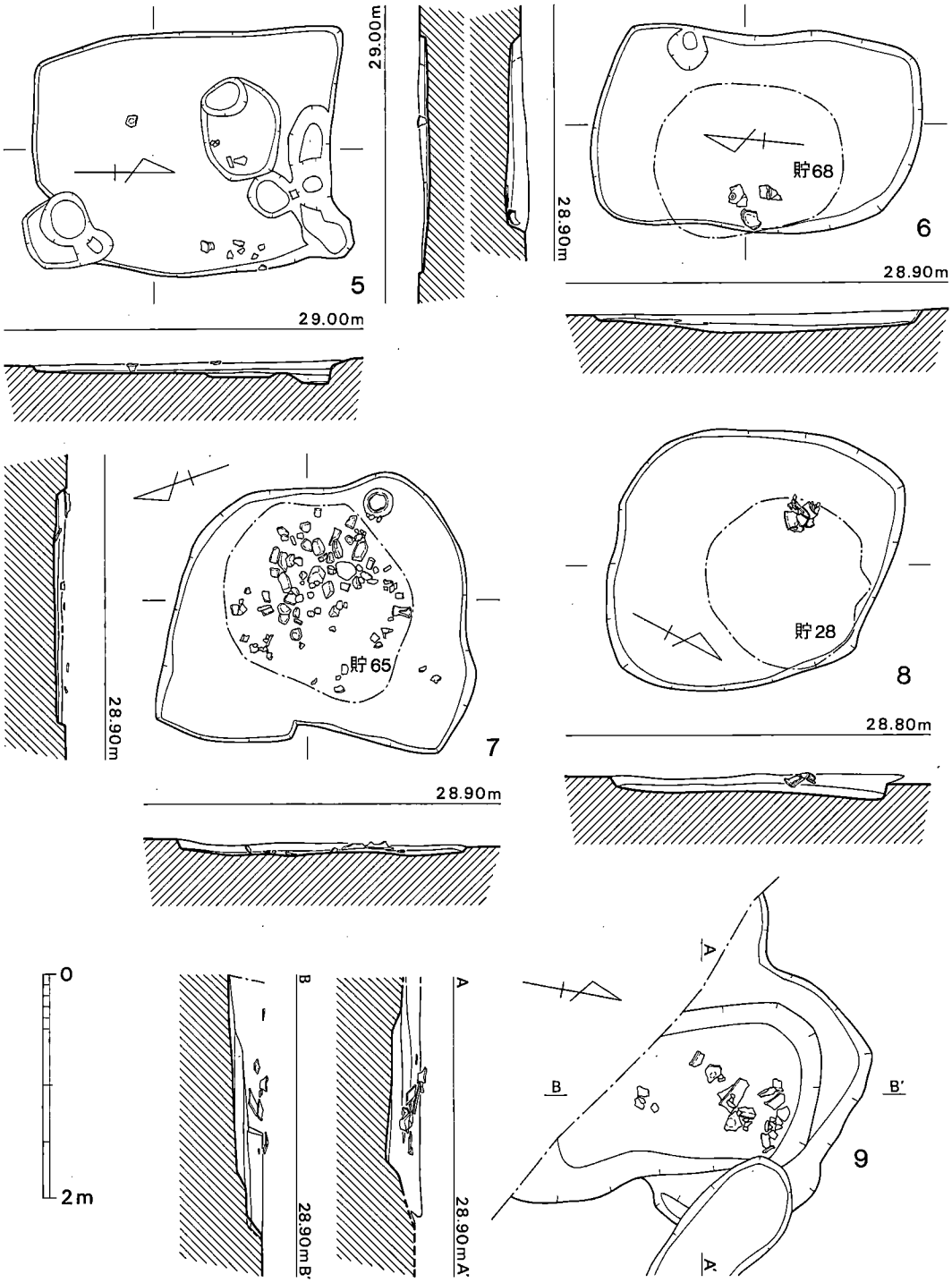
第17図　1～3号竪穴出土土器実測図（1/4）

出土遺物（第18図）

土　器（1～19）　1は平底の壺底部片，復原底径は7.4cm。2は甕の口縁部片で，頸部は逆L



第18図　4号竪穴出土土器実測図（1/4）



第19図　5～9号竪穴実測図（1/60）

字形に折れ曲がる。3～5は「く」字形口縁甕で，端部は若干肥厚する。3の復原口径は27.0cm。6～8は逆L字形口縁甕で，7・8の口縁突出度は弱い。9は亀の甲タイプ甕の口縁片で，頸部下位にヘラ沈線を施す。10～12は甕の底部片で，11の底径は6.4cm。13は高坏の脚部片で，復原脚径は14.0cm。14・15は器台で，14が口縁部，15は底部として実測した。16は脚部片で，大型の器台になるか。復原脚径は18.0cm。17～19は蓋の破片で，何れも富士山形を呈しよう。

5号竪　穴（第19図）

4号竪穴の4m北側に位置し，71～73号貯蔵穴を切っている。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸2.64m，短軸2.15mを測り，深さは7cmと浅い。埋土中から土器・土製品が出土した。

出土遺物（図版61-2，第20・130図）

土　器（1～12）　1は壺の口縁部小破片。2・3は逆L字形口縁甕で，6は亀の甲タイプの甕である。7は口縁部が剝離しているが，頸部下位の凸帯にはキザミ目を付す。4は逆L字形口縁部片で，口縁部平坦面は内傾しており鉢になるか。また，5は底径が12.8cmと大きめであることから鉢の底部とした。外面ミガキ，内面ナデによる。8～10は甕の底部片で，10は肉厚の上底である。11は開き気味であることから蓋の撮みとした。12は蓋の口縁部破片。

土製品（23）　23は上部に6本の突起を有するが，どの様な器形を呈するか不明。

6号竪　穴（図版6-2，第19図）

5号竪穴の2m北側に位置し，16号竪穴，68・69号貯蔵穴を切っている。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸2.92m，短軸1.78mで，深さは14cmと浅い。埋土中から土器が出土した。

出土遺物（図版40-2，第20図）

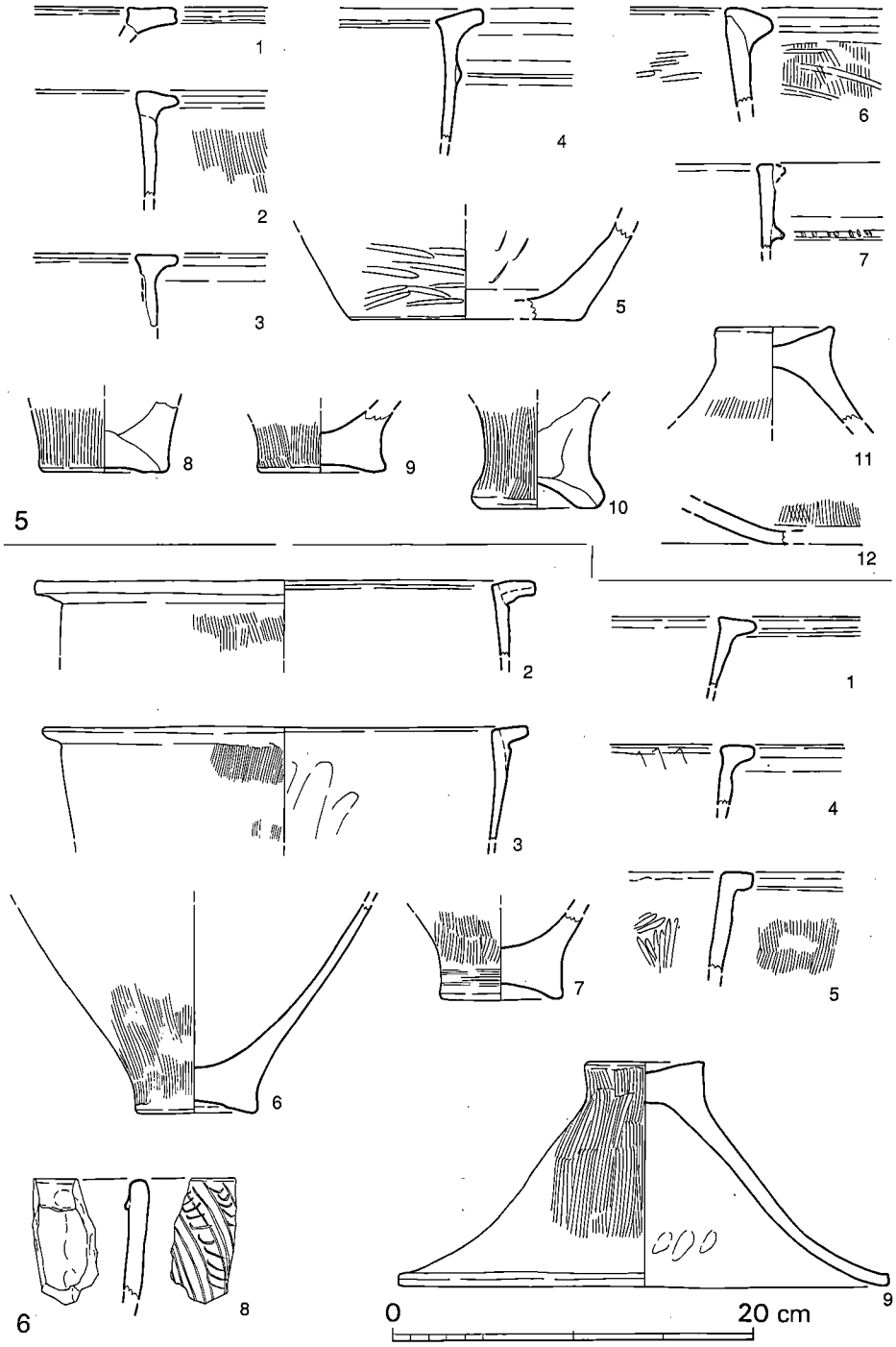
土　器（1～9）　1は壺の口縁部小片。2～5は逆L字形口縁甕であるが，5の口縁突出度は弱い。2の復原口径は27.8cm。6は甕の胴下半部で，底部は上底をなす。7は底部破片。8は外面にヘラ描き文様を施しているが，器形・文様とも不明。9は富士山形の蓋で，裾部は大きく開く。器高12.5cm，復原口径27.3cm，撮み径6.6cmを測る。内面には炭化物が遺存している。

7号竪　穴（図版7-1，第19図）

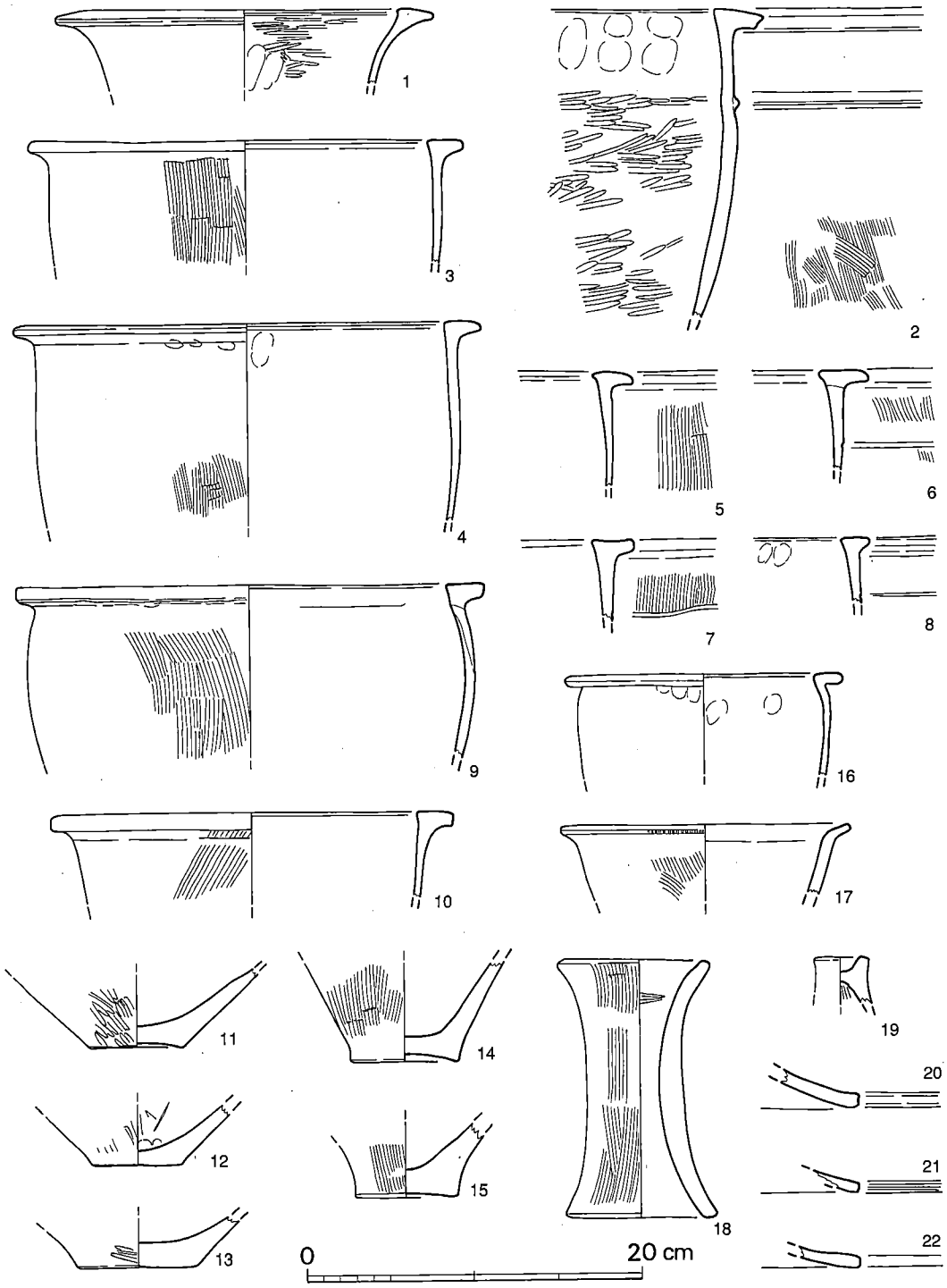
4号竪穴の2m南東側に位置する。15号住居跡，64・65号貯蔵穴を切り，1号建物跡と重複する。平面形は不整方形を呈し，長軸2.6m，短軸2.4mを測る。深さは6cmと浅いが，埋土中から多くの土器が出土した。また，砥石・土器片錘も出土している。

出土遺物（図版40-3・60-2・61-2，第21・127・129図）

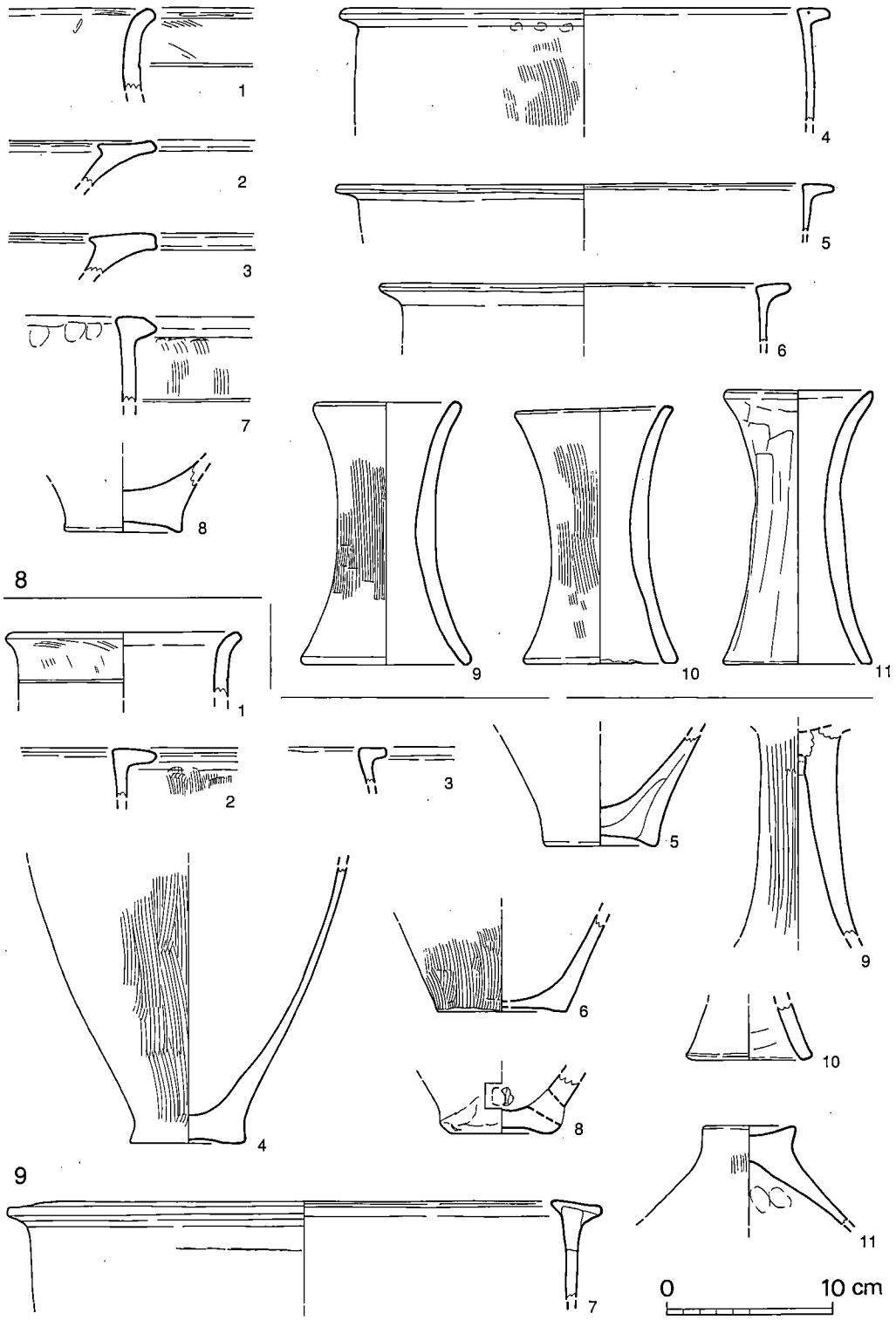
土　器（1～22）　1は鋤先状口縁壺で，内側の突出度は弱い。2は逆L字形口縁の大型甕片で，頸部下位に三角凸帯を貼付する。外面はハケ目→ナデで，内面はミガキ調整による。3～



第20図　5・6号竪穴出土土器実測図（1/4）



第21図　7号竪穴出土土器実測図（1/4）



第22図　8・9号竪穴出土土器実測図（1/4）

10は逆L字形口縁の甕で，5・6は内側にも突出する。口径は3が26.0cm，4は28.0cm。6～8は頸部下位にヘラ沈線を施文する。11～13は壺の底部で，外面はミガキによる。14・15は甕の底部片で，上底をなす。16は鉢もしくは小型の甕。17は如意形口縁の鉢で，口唇部にキザミ目を付す。18は鼓形器台で，器高15.3cm。19～22は蓋で，19が撮み部，20～22は口縁部小片。

石　器（14・15）　14・15は砂岩製の砥石で，3面が砥面として遺存する。15の幅は3.2cm。

土製品（18）　18は土器片転用の土錘で，側縁を磨いている。径3.5cm。

8号竪　穴（図版7-2，第19図）

67号住居跡の5.5m東側に位置し，28号貯蔵穴を切っている。平面形は隅丸方形を呈し，長軸2.45m，短軸2.3m，深さ0.18mを測る。埋土中から土器が出土した。

出土遺物（図版40-4，第22図）

土　器（1～11）　1～3は壺の口縁部片で，1が広口壺，2・3は鋤先状口縁壺。4～6は逆L字形口縁の甕で，4の口径は30.8cmに復原した。7の口縁部は肥厚し，頸部下位にヘラ沈線を施す。8は甕の底部片で，上げ底を呈する。9～11は鼓形器台で，器高は9が15.8cm，10は15.4cm，11は16.5cmを測る。9・10の外面調整はハケ目で，11は工具によるナデ。

9号竪　穴（第19図）

15号住居跡の3m南側に位置し，旧5号溝に切られる。調査工程上，南西の一部が未掘となってしまった。平面形は隅丸長方形を呈し，残存長2.9m，短軸1.45m，深さ0.28mを測る。浮いた状態で土器・石器・鉄器・土製品等が出土した。

出土遺物（図版40-5・60-2・61，第22・125・128・129図）

土　器（1～11）　1は広口壺であるが，口の開きは悪い。口縁部下位に沈線を施す。8号竪穴出土の①に類似する。2・3は逆L字形口縁甕の小片。4～6は甕の底部で,6の底部器肉は薄い。7は甕棺用大甕で，口縁部はT字形を呈する。復原口径は72.4cm。8は甕の底部を穿孔し，甑としている。9は高坏の脚部片。10は器台の底部片。11は体部が開いているので蓋とした。

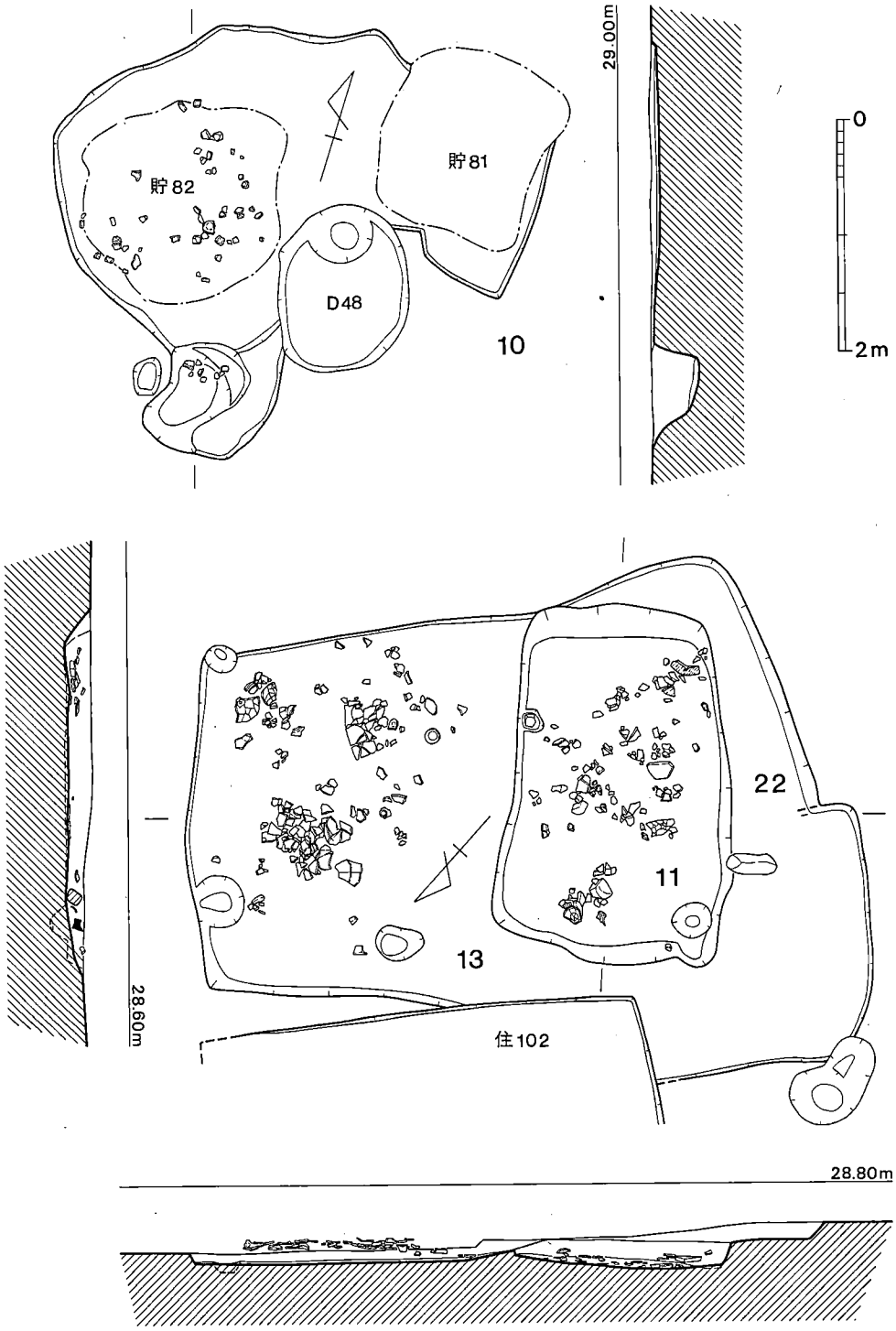
石　器（2）　2は有茎石剣の基部片で，茎の長さ2.0cm，幅1.3cm。石材は凝灰岩。

鉄　器（3）　3は板状の鉄製品で，残存部位に刃部はみられない。鉄素材であろうか。

土製品（14）　14は穿孔を有する底部片であるが，小片であるため器形は不明。

10号竪　穴（第23図）

5号竪穴の2m南西側に位置し，81・82号貯蔵穴を切り，48号土壙に切られる。平面形は不整形を呈し，残存長3.27m，短軸2.6mを測る。深さは僅か7cmであるが，埋土中からほぼ完形の鉢が出土している。



第23図　10・11・13・22号竪穴実測図（1/60）

出土遺物（図版40-6，第24図）

土　器（1～4）　1は壺の底部で，底径6.5cm。3は甕の底部破片。4は鉢で，口縁部は内側にも突出し，T字形を呈する。頸部下位に三角凸帯を巡らす。器高21.6cm，口径36.0cm，底径9.8cmのほぼ完形品。2は丸みを帯びた胴下半部片で，椀形を呈するか。

11号竪　穴（図版8-1，第23図）

67号住居跡の6m北側に位置する。前回の報告では，8号住居跡と13号竪穴を切っているとしたが，整理段階で竪11→竪13→住8・9（古→新）の順と判明したので訂正しておきたい。

平面形は隅丸長方形を呈し，長軸3.1m，短軸1.8m，深さ0.25mを測る。埋土中から多くの土器・石が出土した。

出土遺物（図版41-1，第24・25図）

土　器（1～16）　1・2は壺の底部片で，底径は1が5.4cm，2は6.0cm。3～6は亀の甲タイプ甕の口縁部で，3・5は頸部下位にヘラ沈線を施文する。7・8は甕の底部で，上底を呈する。9は小型であることから鉢とした。10は無頸の鉢で，口縁部は丸く納める。器高8.2cm，口径15.2cm，底径6.6cmを測る。外面ハケ目，内面指オサエによる。11は高坏の口縁部片で，内面は丹塗り。12～16は鼓形器台で，12は器高13.8cm，口径8.0cm，底径9.6cmを測る完形品。13・14は同一個体になろう。15・16は口縁部の小片。

12号竪　穴（図版9-1，第29図）

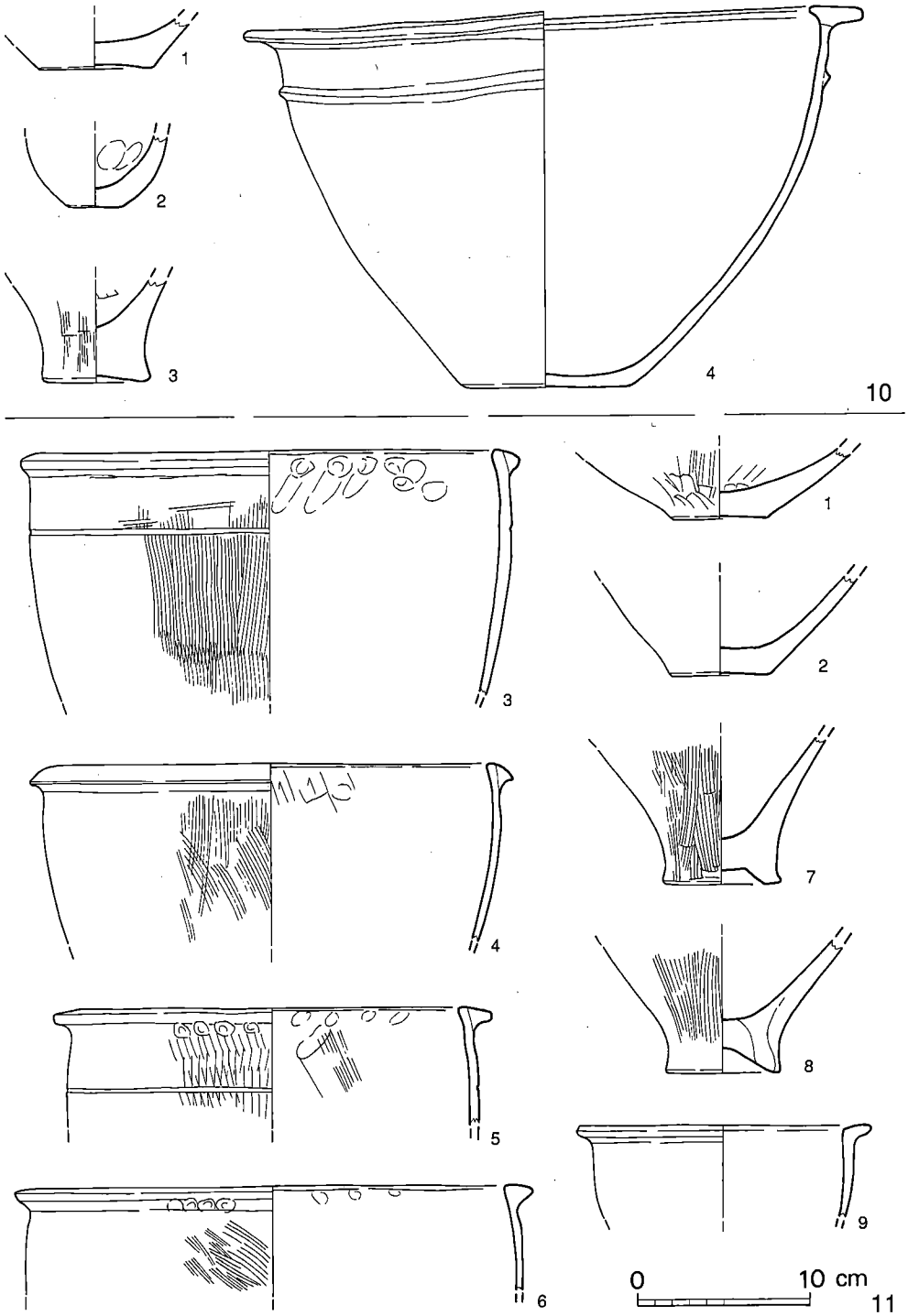
6号竪穴の5.4m西側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸4.0m，短軸2.86m，深さ0.3mを測る。北東壁には幅80cm，奥行き45cmの張出しがあり，入口部であろうか。底面からやや浮いた状態で，割合多くの土器が出土している。

出土遺物（図版41-2・61-2，第25・26・129図）

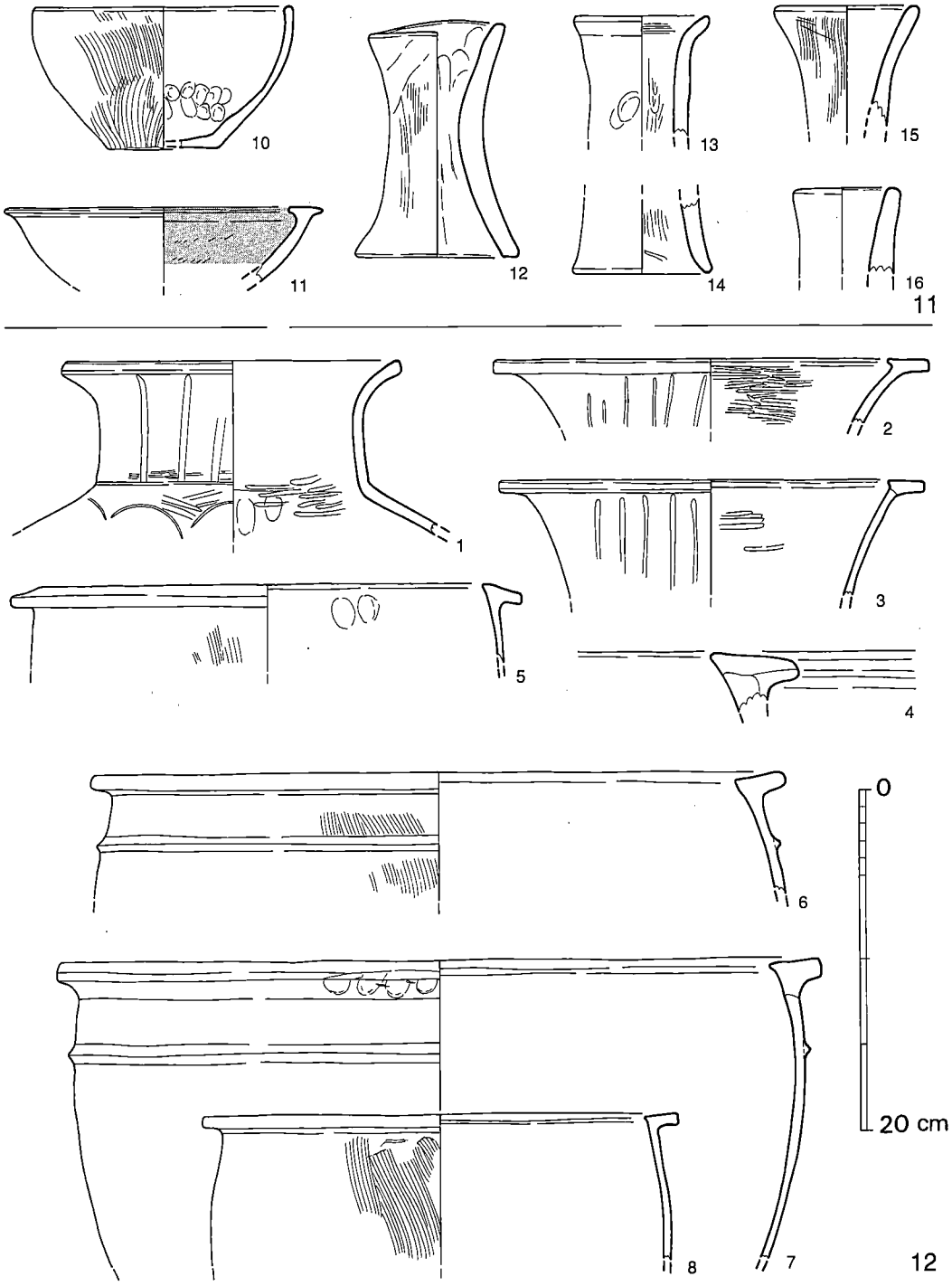
土　器（1～21）　1は広口壺で，口縁部は大きく開く。頸部に沈線，肩部に連弧文を施文する。2・3は鋤先状口縁壺で，外面には暗文がみられる。4は大型甕の口縁部小片。5～11は逆L字形口縁の甕で，5・9の口縁部は外方に垂れている。6・7は頸部下位に三角凸帯を貼付する。12～15は甕の底部で，13が平底，12・14は若干の上底，15が上底を呈する。

16・17は甑で，16は側方に，17は底部中央に穿孔している。18は逆L字形口縁の鉢で，器高17.0cm，口径28.8cm，底径7.0cmを測る。内外ともミガキ調整による。19は大型の器台の脚裾部で，復原脚径は16.0cm。20は富士山形の蓋で，裾部は垂れていない。器高16.6cm，口径36.0cm，撮み径6.2cm。内外面に煤が遺存する。21は外面にミガキを施すが，蓋になろう。

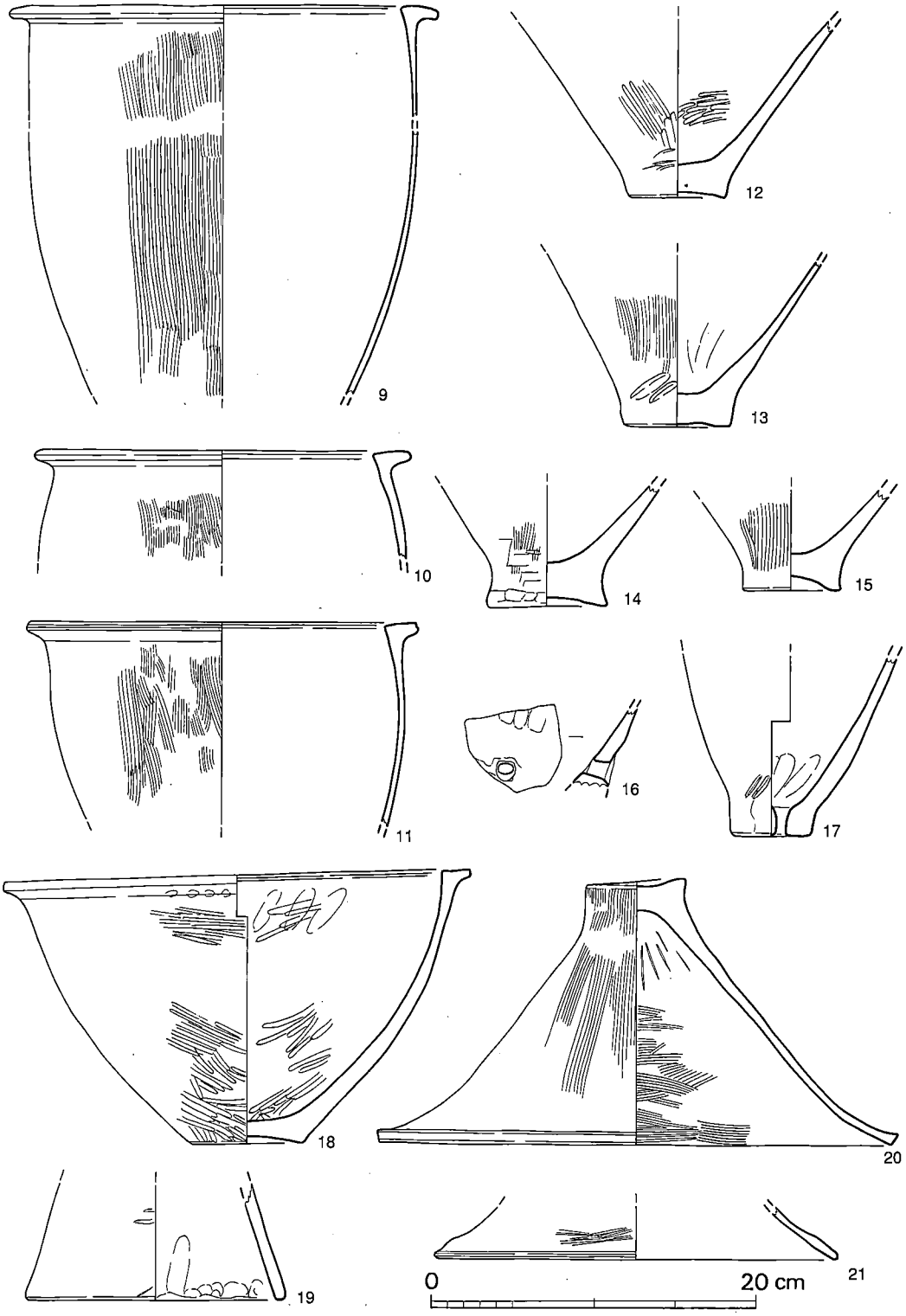
土製品（7・9）　7は杓子形土製品の取手部破片で，断面形は台形を呈する。器面は内外面とも丁寧なミガキ調整による。9はミニチュア土器で，甕を模したものか。



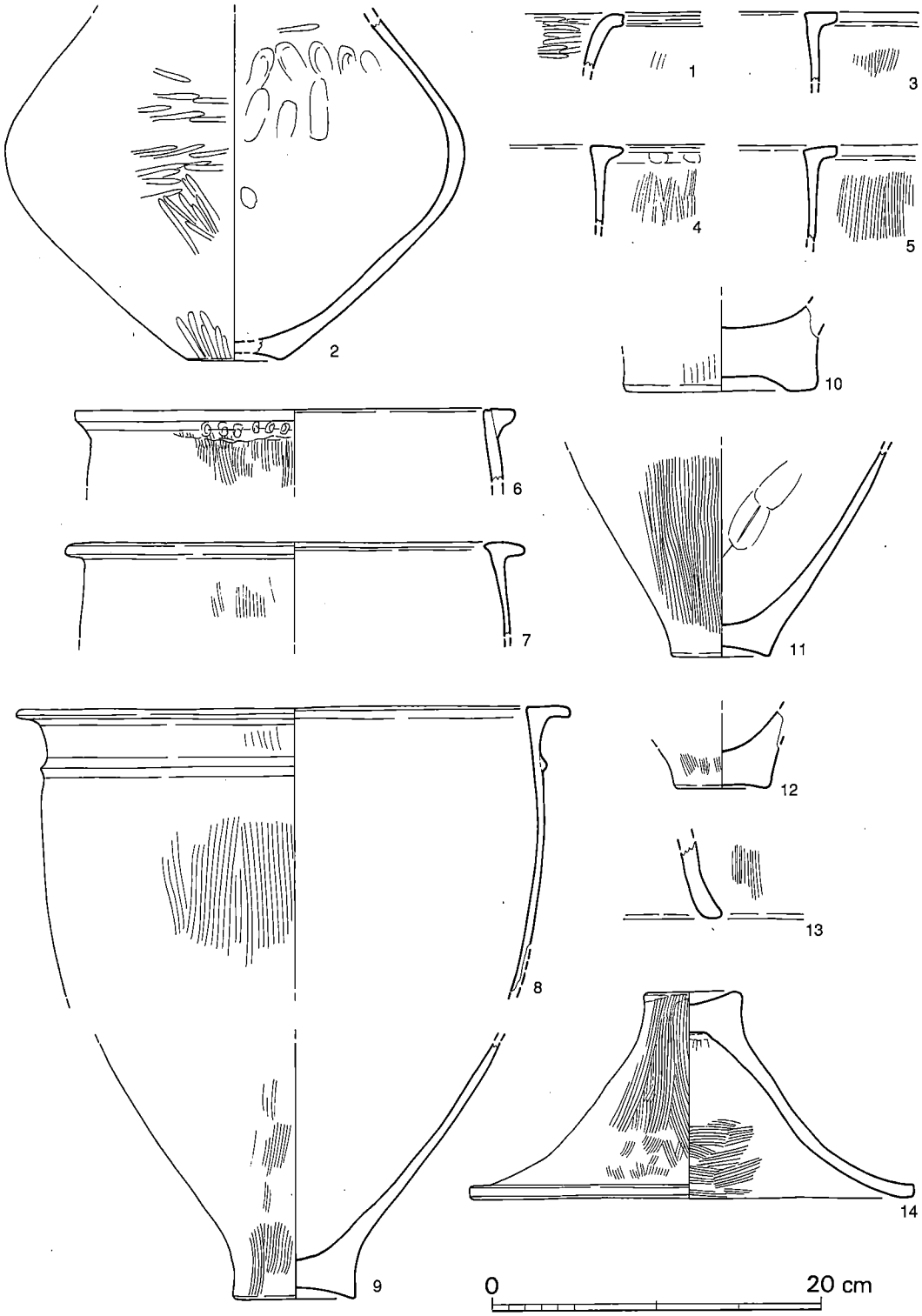
第24図　10・11号竪穴出土土器実測図（1/4）



第25図　11・12号竪穴出土土器実測図（1/4）



第26図　12号竪穴出土土器実測図（1/4）



第27図　13号竪穴出土土器実測図①（1/4）

13号竪　穴（図版8-2，第23図）

8・9号住居跡に切られ，11号竪穴を切っている。22号竪穴とも重複するが，前後関係は不詳。平面形は隅丸長方形を呈すると思われるが，11号竪穴との切り合いを間違えたため長軸は不明で，短軸の最大幅は3.35mを測る。深さは14cmで，床面から10cm程浮いた状態で大量の土器が出土している。

出土遺物（図版42-2，第27・28図）

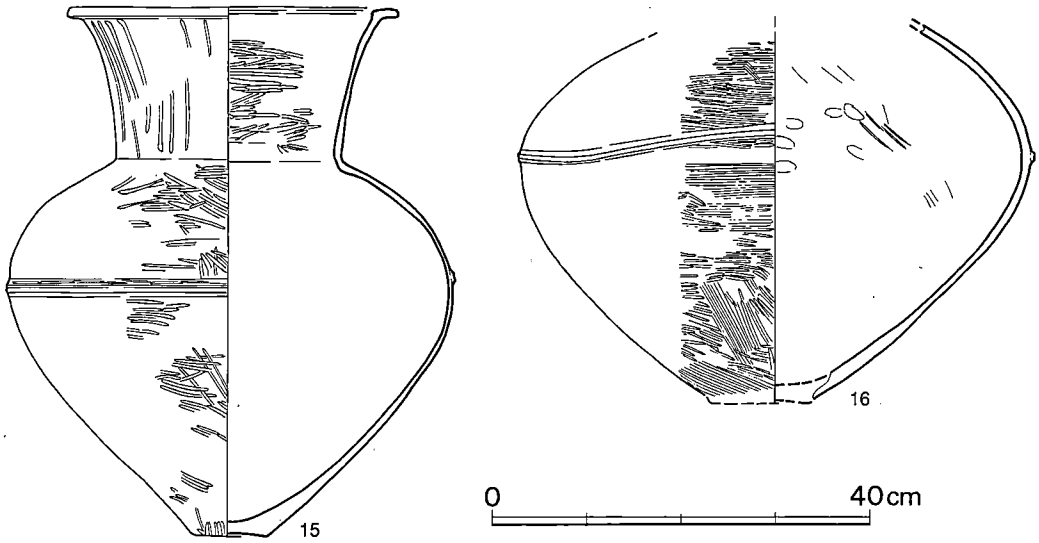
土　器（1～16）　1は広口壺の口縁部片で，端部は小さく屈曲する。2は口頸部を欠く。胴部は算盤玉形を呈する。3～8は逆L字形口縁の甕で，6は肥厚し，7は内側にも突出する。8は頸部下位に三角凸帯を貼付する。9～12は甕の底部で，8・9は同一個体になろう。10は肉厚で，上底を呈する。12は甑に転用しようとしたものか。刺突しているが，貫通していない。13は器台の底部片。14は富士山形の蓋で，裾部は大きく開く。器高12.5cm，復原口径27.5cm。

15・16は大型の壺で，15は鋤先状口縁を呈する。胴部中位に台形凸帯を貼付している。16は口頸部及び底部を欠く。胴部中位にはM字形凸帯を貼付する。15は器高55.6cm，口径35.2cm。

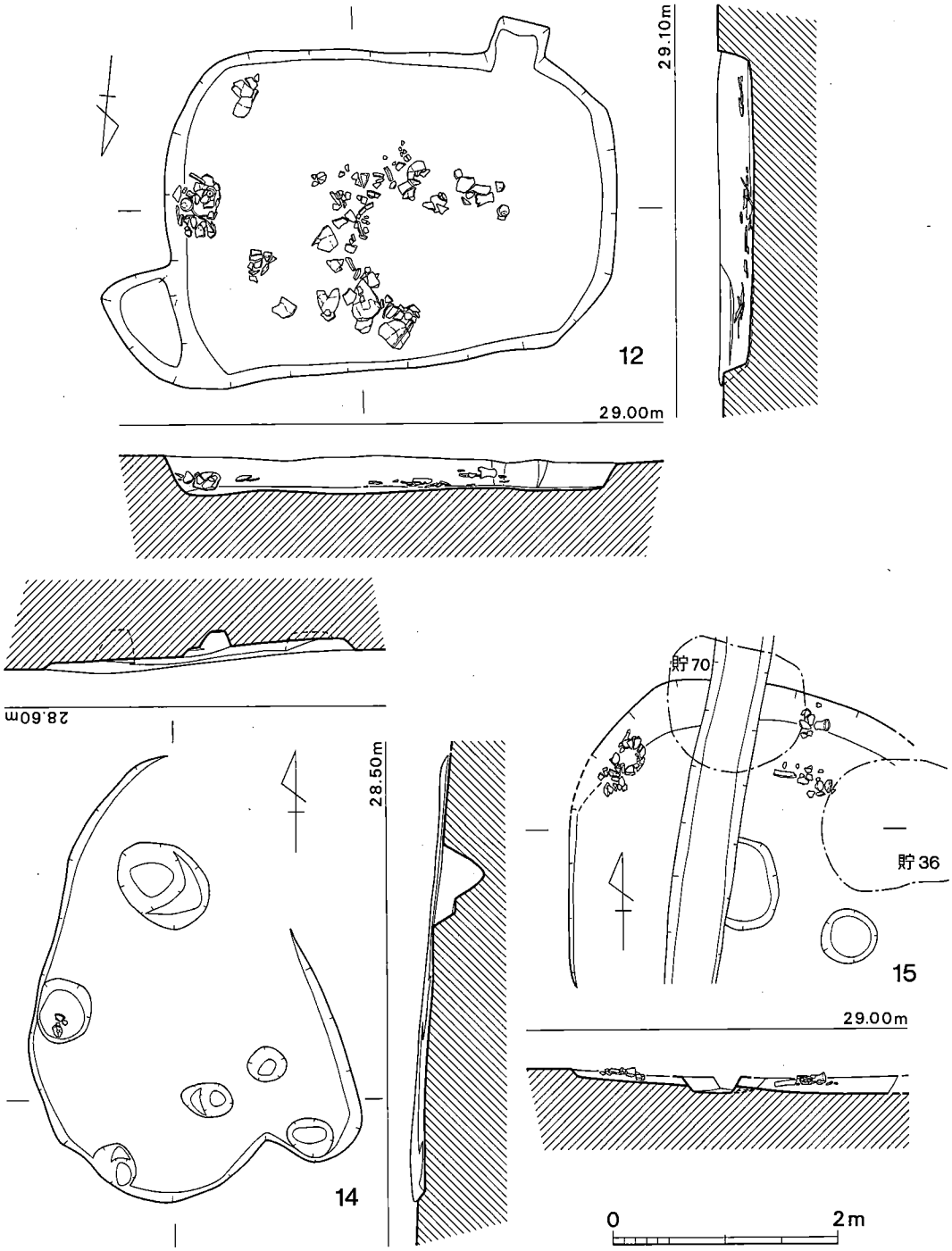
14号竪　穴（第29図）

8号竪穴の3m北側に位置する。平面形は不整形を呈し，長軸3.9m，短軸2.78mを測る。深さは12cmと浅く，底面は北側に傾斜している。ピットが6個検出されたが，関連するか不明。

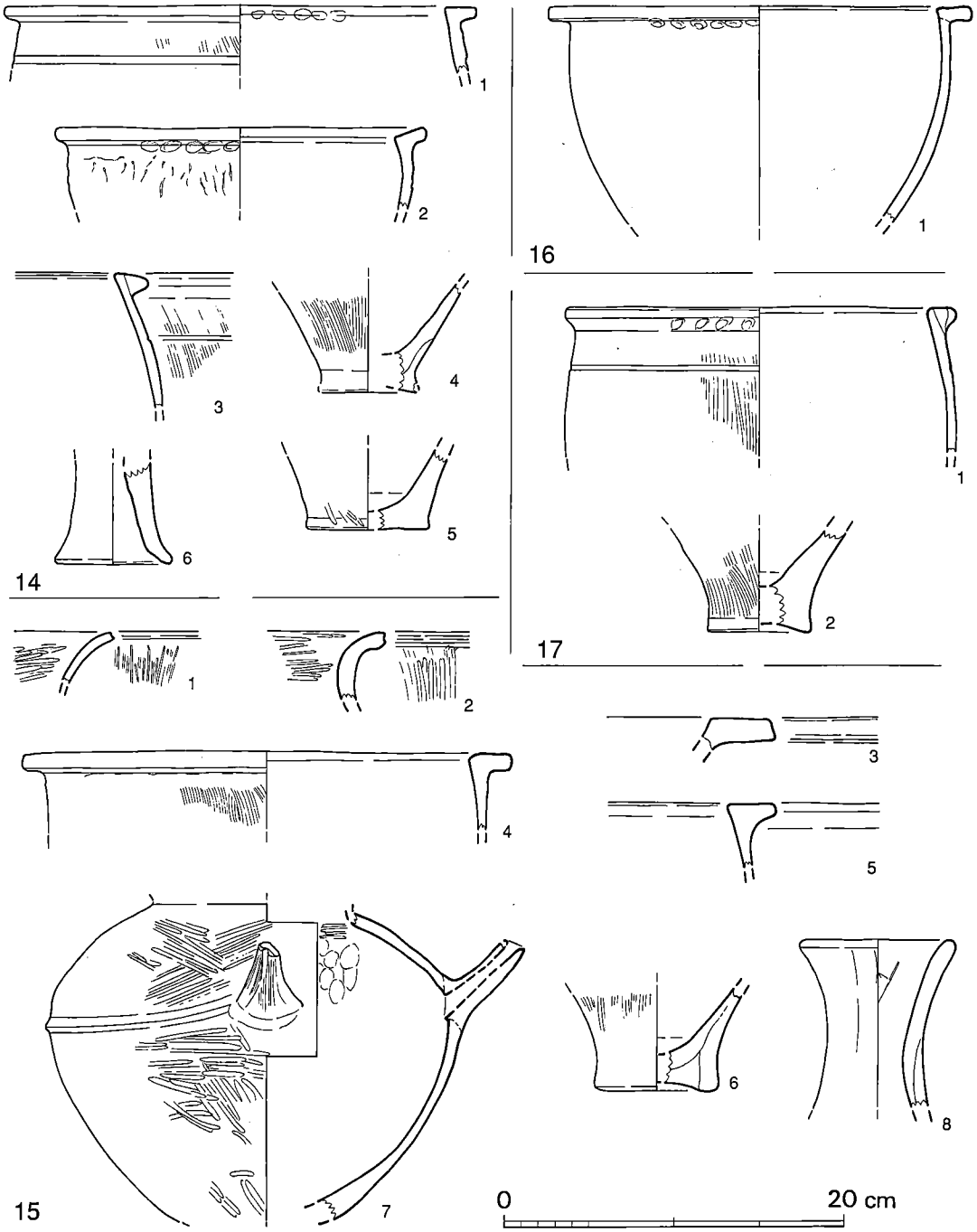
出土遺物（第30図）



第28図　13号竪穴出土土器実測図②（1/8）



第29図　12・14・15号竪穴実測図（1/60）



第30図　14～17号竪穴出土土器実測図（1/4）

土　器（1～6）　1は逆Ｌ字形口縁甕で，頸部下位に沈線を施す。2は鉢で，逆Ｌ字形口縁を呈する。復原口径22.0cm。外面には無数のヒビが入る。3は亀の甲タイプの甕で，傾きはもう少し起きるか。頸部下位にヘラ沈線を施す。4・5は甕の底部破片。6は器台の脚部破片。

15号竪　穴（図版9-2，第29図）

5号竪穴の1.5m北側に位置し，旧10号溝に切られ，36・70号貯蔵穴と重複する。平面形・規模ともに詳細不明。北西壁付近から注口土器が出土した。

出土遺物（図版43-1，第30図）

土　器　（1～8）　1・2は広口壺の口縁部破片で，2は外方に屈曲し，口唇部に沈線を施す。3は鋤先状口縁壺の小片であるが，口縁部は未発達。4・5は逆Ｌ字形口縁の甕で，4の復原口径は29.0cm。6は甕の底部片。7は注口土器で，口頸部及び底部を欠く。胴部中位に三角凸帯を巡らし，そこに注口を貼付している。注口は長さ4cm，基部幅3.8cmの扁平な筒形を呈する。外面は丁寧なミガキ調整。8は器台で，口径は7cmを測る。

16号竪　穴（図版10-1，第31図）

6号竪穴に東壁を切られて位置する。平面形は不整長円形を呈し，長軸4.0m，短軸2.7m，深さ0.23mを測り，底面は南側にやや傾斜している。ピットが2個あるが，炉跡・屋内土壙は無く，通常の住居とはみなし難い。

出土遺物（第30図）

土　器（1）　1は体部が丸みを帯びる逆Ｌ字形口縁の鉢で，復原口径は25.0cmを測る。

17号竪　穴（第31図）

6・67号住居跡の中間に位置し，6号住居跡に東壁を切られる。平面形は不整方形を呈し，長軸2.5m，短軸2.43mを測る。深さは6cmと浅く，底面中央には不整形のピットがある。

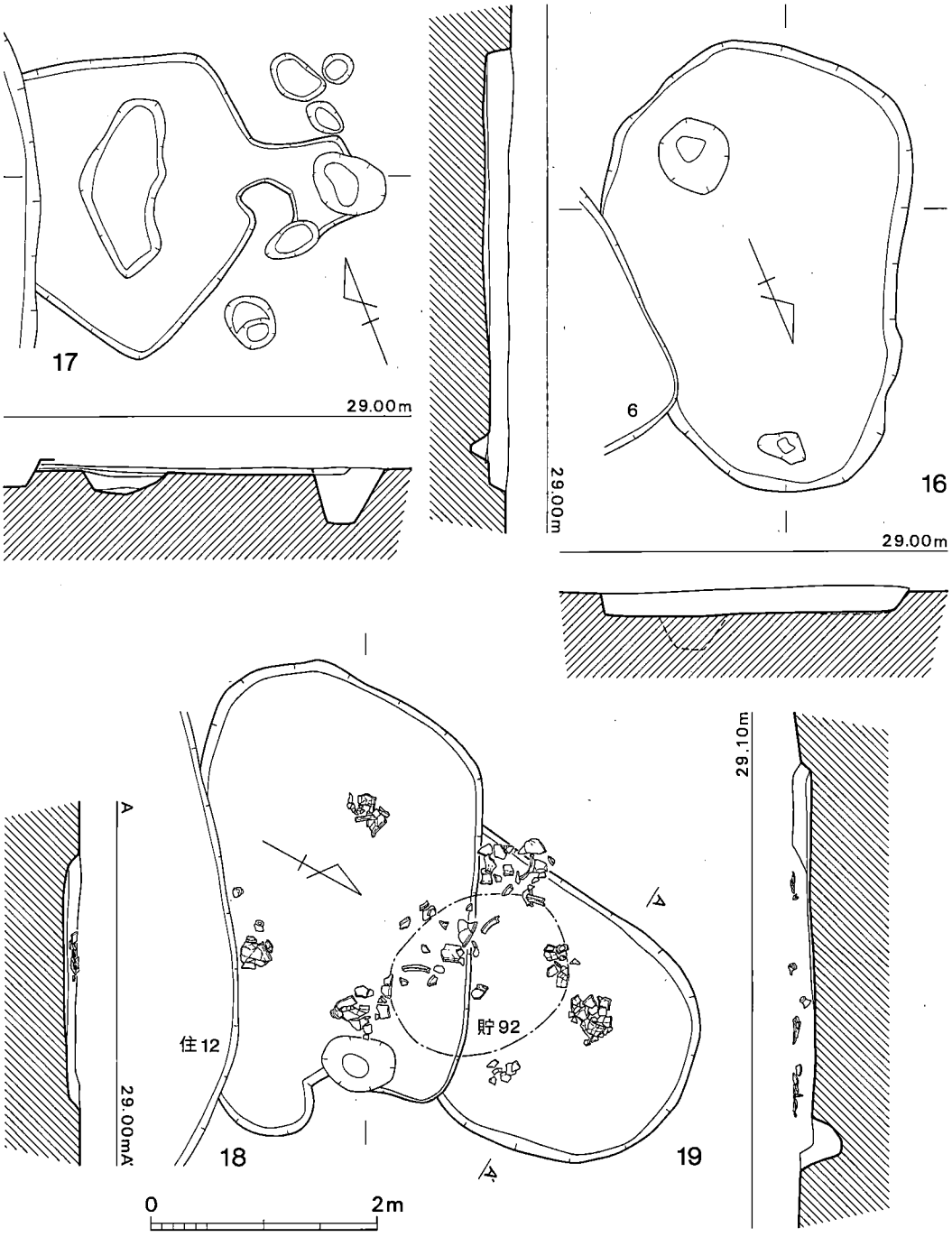
出土遺物（第30図）

土　器（1・2）　1は亀の甲タイプの甕で，口縁部は肥厚する。頸部下位にヘラ沈線を施す。2は甕の底部破片で，内面には炭化物が遺存している。

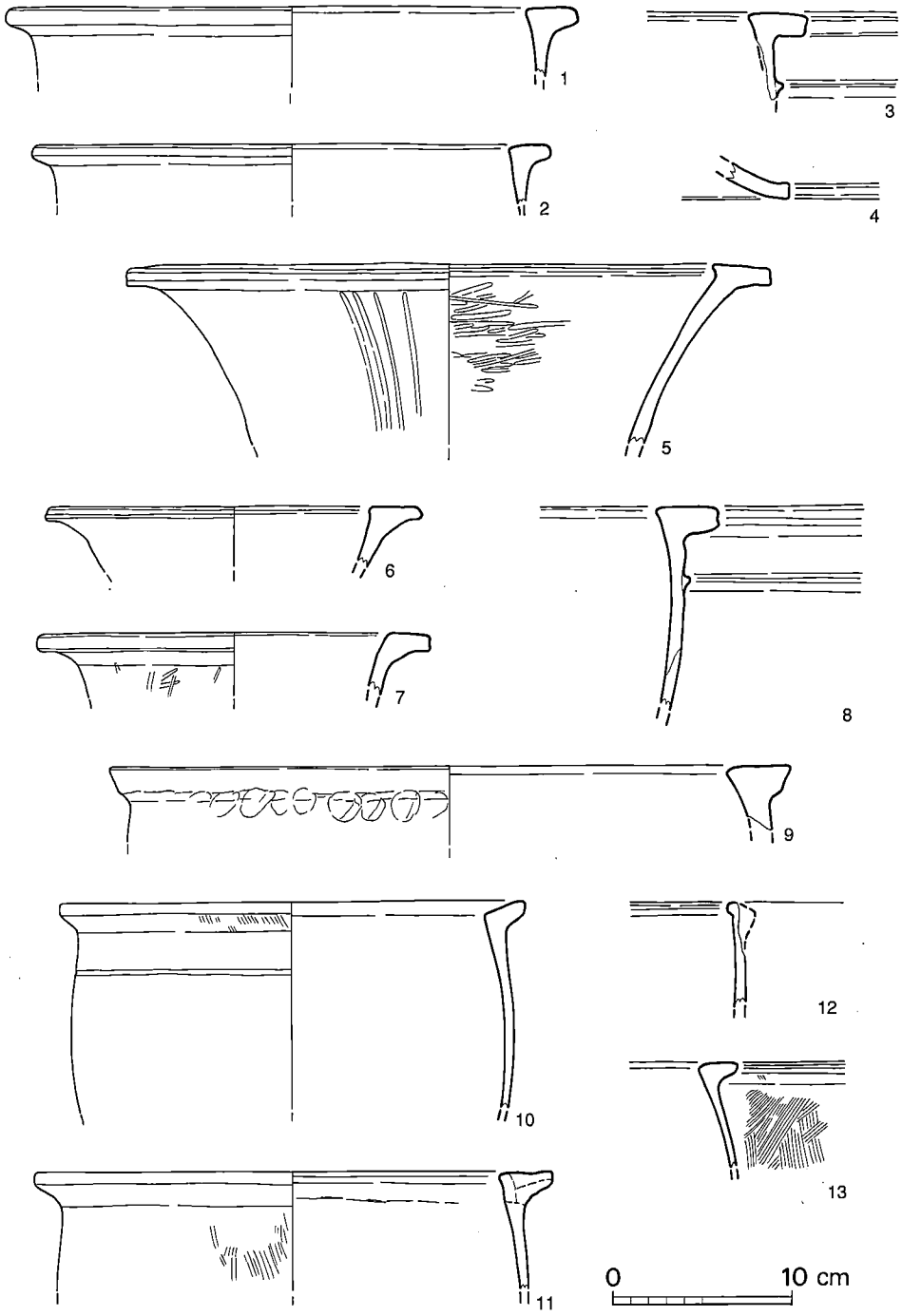
18号竪　穴（図版10-2，第31図）

12号住居跡に南壁を切られて位置し，19号竪穴，92号貯蔵穴を切っている。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸3.65m，短軸2.5m，深さ0.14mを測り，底面はほぼ水平である。遺物の一部は19号竪穴と混在しているが，時期的に18号が後出する。

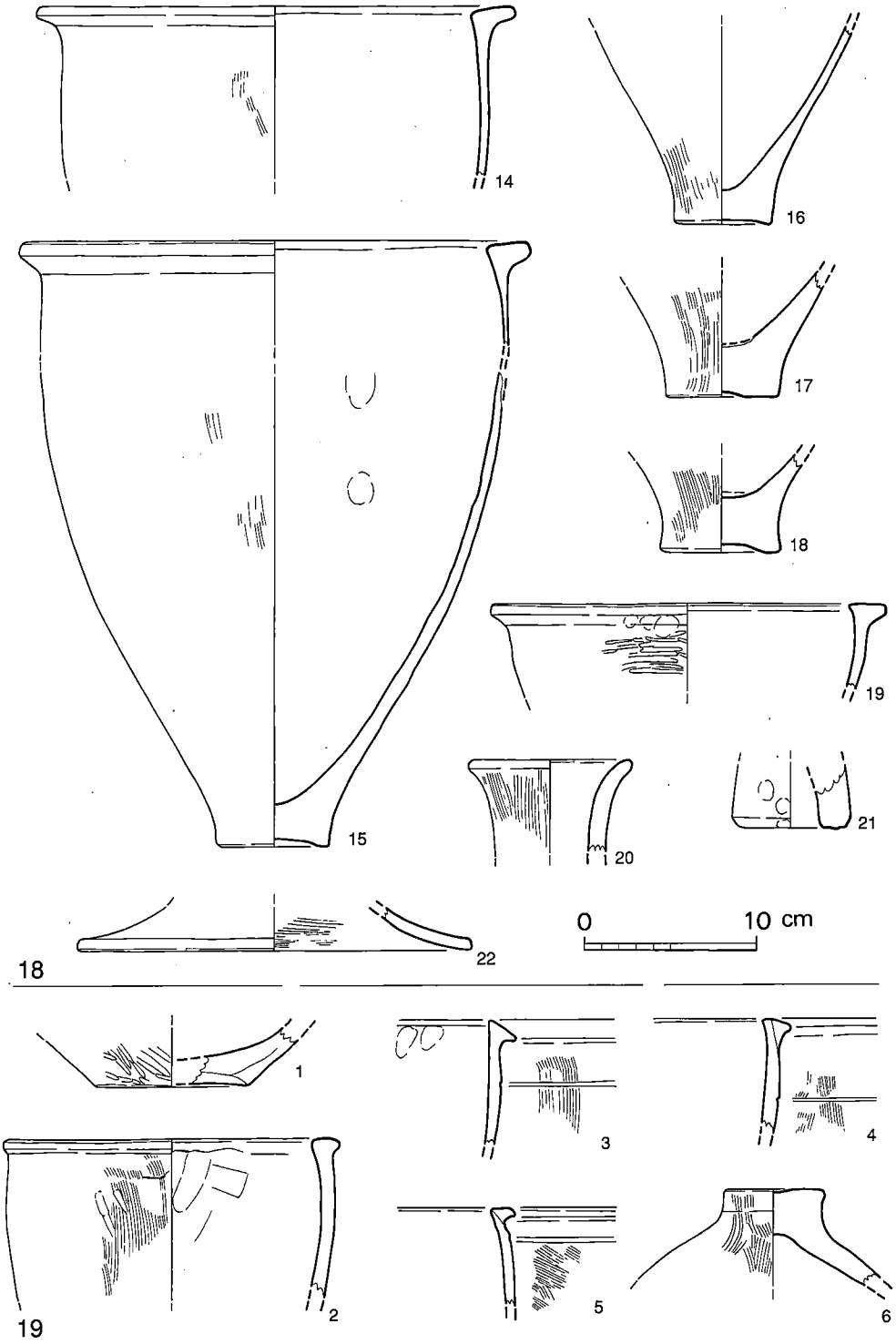
出土遺物（第32・33図）



第31図　16～19号竪穴実測図（1/60）



第32図　18号竪穴出土土器実測図（1/4）



第33図　18・19号竪穴出土土器実測図（1/4）

土　器（1～22）　1～4は18・19号竪穴上層出土，5～22は18号竪穴埋土上層及び埋土中の出土品。1～4は逆L字形口縁の甕で，3は頸部下位に三角凸帯を貼付する。4は蓋の口縁部破片。

5～7は鋤先状口縁壺で，6・7の口縁部は未発達。8はやや大きめの甕で，頸部下位に三角凸帯を貼付する。9は甕の口縁部片で，突出度は弱い。10・11・13～15は逆L字形口縁の甕で，10は口縁部平坦面が内傾する。12は口縁部が剝離しているが，剝離状況から亀の甲タイプになろう。15は口縁部と胴部が接合しないが，器高は35cm程になろう。16・17は甕の底部片。18は開き気味であり，蓋になるか。19は高坏の口縁部。20は器台，21は支脚破片。22は蓋の口縁部破片。

19号竪　穴（図版10-2，第31図）

18号竪穴に南半部を切られるが，平面形は長円形を呈しよう。残存長2.76m，幅2.3m，深さ0.14mを測る。底面より浮いた状態で，土器が出土している。

出土遺物（第33図）

土　器（1～6）　1は壺の底部破片。2～5は甕で，2は口縁端部が肥厚する。3～5は亀の甲タイプの甕で，頸部下位にヘラ沈線を施す。6は蓋の撮み部。撮み径は5.8cm。

20号竪　穴（第34図）

67号住居跡の2m北側に位置する。9号住居跡に切られ，14号土壙を切っている。平面形は隅丸方形を呈するかと思われるが，詳細不明。底面にはピットが数個ある。

出土遺物（第35図）

土　器（1）　1は甕の底部破片で，若干の上底を呈する。底径は6.4cm。

21号竪　穴（第34図）

5号住居跡の西側で土器が入った浅い段を検出し，竪穴とした。15号竪穴，35・36号貯蔵穴と切り合うが，コーナー部を残すのみで詳細不明。

出土遺物（第35図）

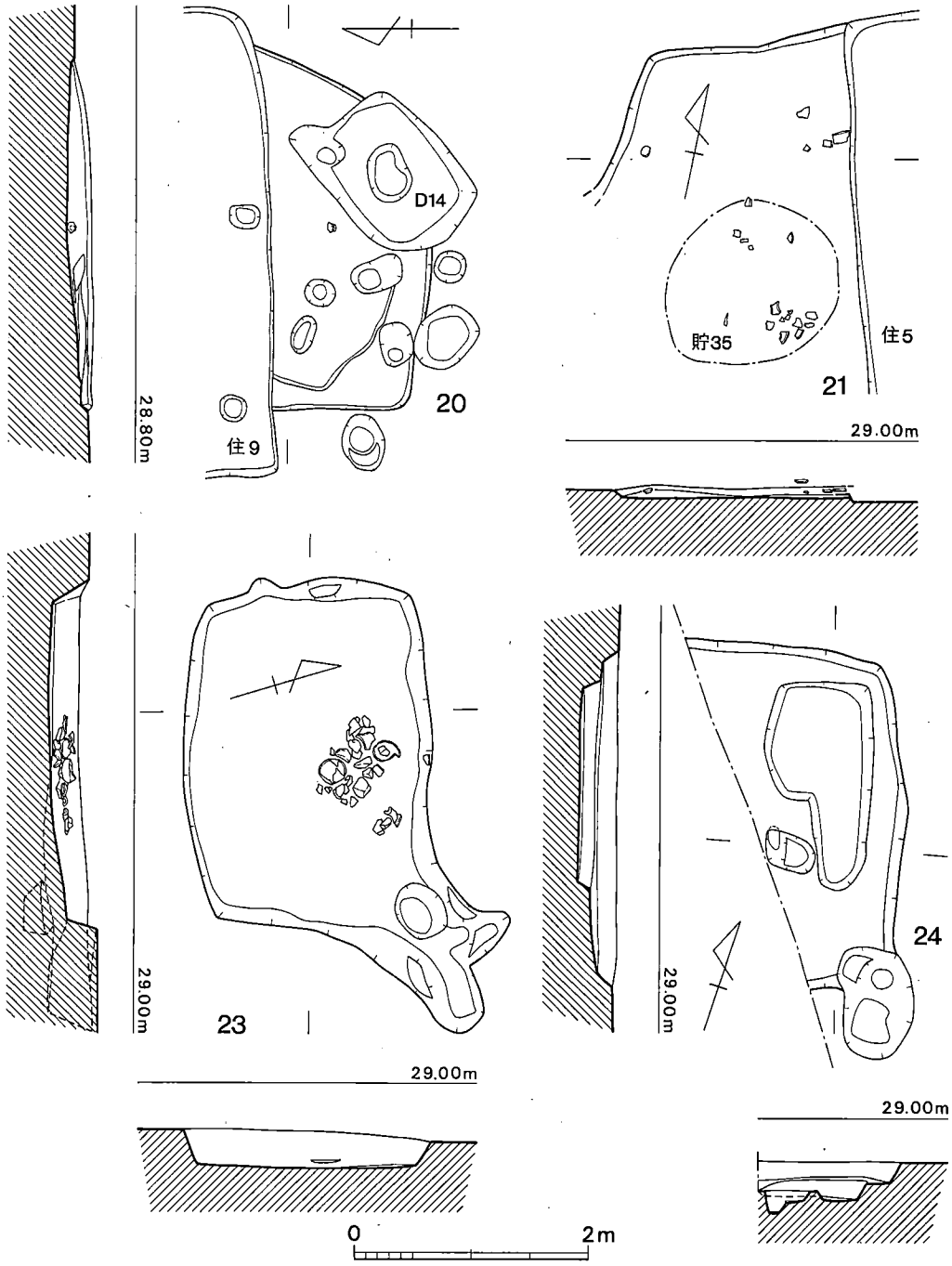
土　器（1）　1は甕の底部破片で，器面は剝離している。底径は7.3cm。

22号竪　穴（図版8-2，第23図）

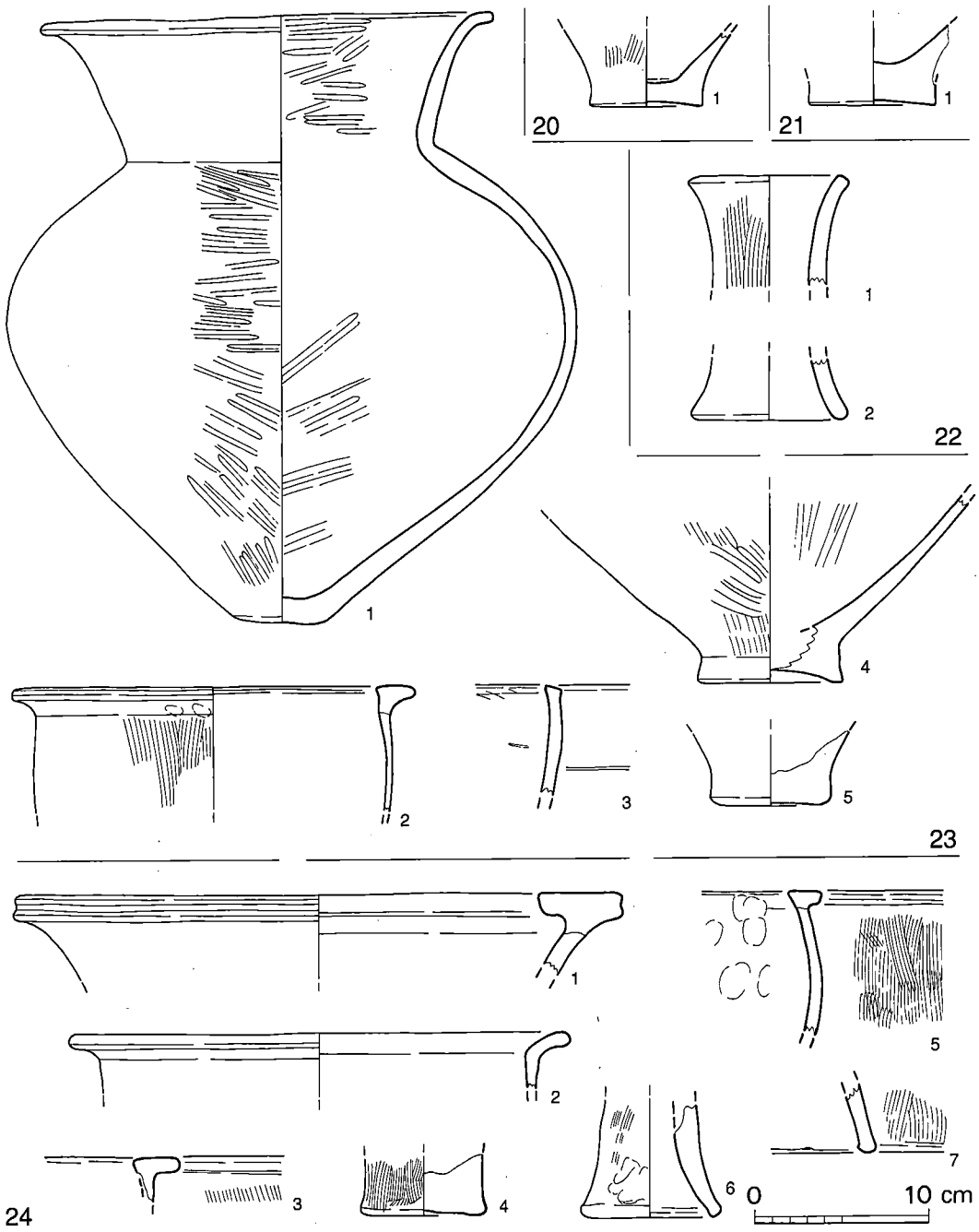
8号住居跡，11号竪穴に切られて位置する。平面形は隅丸方形を呈するものと思われるが，規模は不詳。8号住居跡下層で検出した遺構は，当竪穴とは別遺構と考えられる。

出土遺物（第35図）

土　器（1・2）　1・2は器台の口縁部と底部で，同一個体と思われる。復原口径は9.2cm。



第34図　20・21・23・24号竪穴実測図（1/60）



第35図　20～24号竪穴出土土器実測図（1/4）

23号竪　穴（図版11，第34図）

69号住居跡の2m北側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸3.0m，短軸2.12m，深さ0.24mを測る。北東コーナー部には上面幅0.85mの張出しがあり，入口部になるか。土器・川原石が浮いた状態で出土した。

出土遺物（図版43-2，第35図）

土　器（1～5）　1は広口壺で，器高35.0cm，口径26.0cm，底径5.4cmを測る。調整は内外面ともミガキによる。2は逆L字形口縁の甕で，3は口縁が剝離しているが，亀の甲タイプの甕。4・5は底部破片で，4の内面には炭化物が遺存している。内外面ともミガキによる。

24号竪　穴（第34図）

調査区の南西部に位置し，70号住居跡ピットと重複する。大半が調査区外に進展するため詳細は不明。南北幅2.9m，深さ0.25mで，底面にはピットを有する。

出土遺物（第35図）

土　器（1～7）　1は大型壺の口縁部破片で，内側に突出する。2は「く」字形口縁の甕で，3は逆L字形口縁の甕。4は甕の底部破片。5は胴下半部が丸みを帯びることから鉢になろう。6・7は器台の底部破片。

25号竪　穴（図版12，第36図）

調査区の南東端部に位置し，18号住居跡を切っている。北辺長3.1m，深さ0.2mを測るが，大半が調査区外にあるため詳細は不明。底面から土器が一括して出土している。

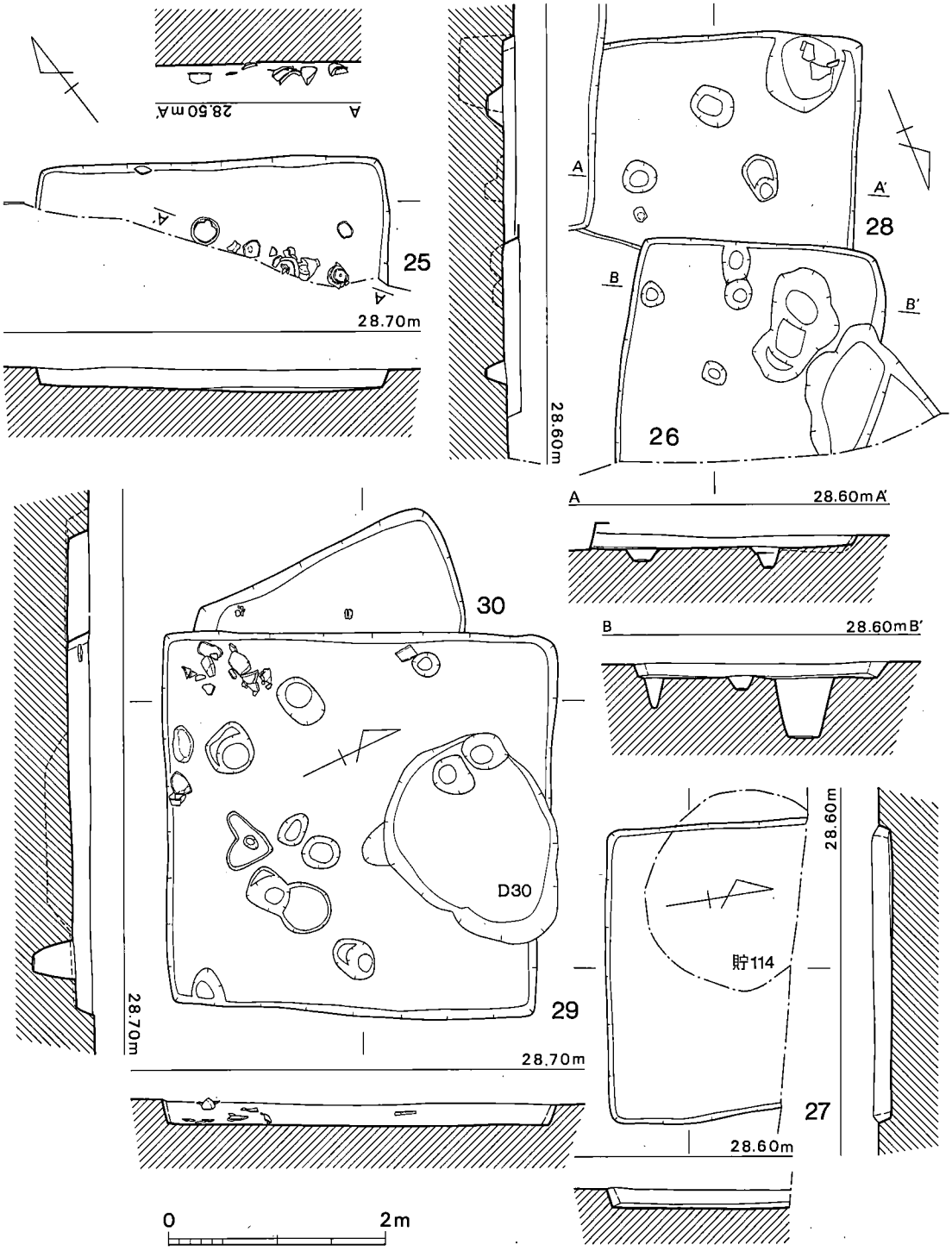
出土遺物（図版43-3・44-1・60-2，第37・127・129図）

土　器（1～12）　1は鋤先状口縁壺で，よく締まった頸部から大きく開く。口縁部平坦面は4.5cmと幅が広い。胴部中位と頸部との中間にM字形凸帯を貼付している。復原口径は27.2cm。2・3は「く」字形口縁の甕で，3は器高27.9cm，口径22.3cm，底径6.0cmを測る。口縁部形態からは新しい印象を受けるが，底部は肉厚の上底であり，古い手法を留めている。

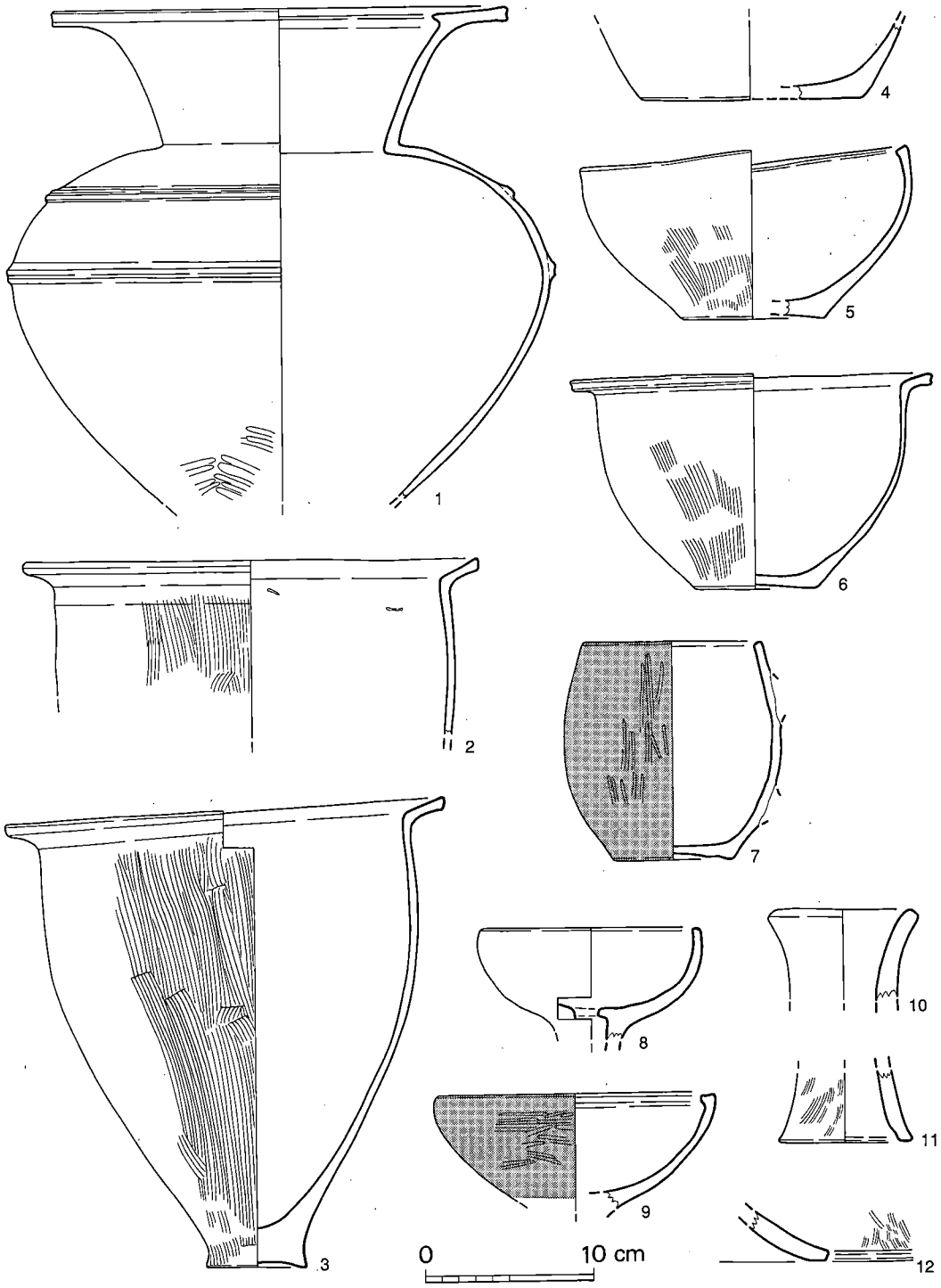
4は底径が大きいことから鉢になろう。5・6も鉢で，9－5－6は入れ子の状態で出土した。5は無頸の鉢で，口唇部が若干窪む。器高10.2cm，口径19.6cm。6は「く」字形口縁の鉢で，頸部から大きく開く。器高12.7cm，口径21.6cm，底径7.4cmを測る。7はジョッキ形の鉢で，取手を欠く。外面には丹を塗布している。8・9は高坏の口縁部で，9の口唇部は内側に突出する。外面は丹塗り。10・11は器台の破片。12は蓋の口縁部破片である。

石　器（20）　20は棒状の自然石を転用したもので，長さ24.0cm，幅4.7cm。上下2面を砥面として使用している。片岩系の石材。

土製品（11）　11はミニチュア土器の底部破片で，復原底径は5.0cm。



第36図　25～30号竪穴実測図（1/60）



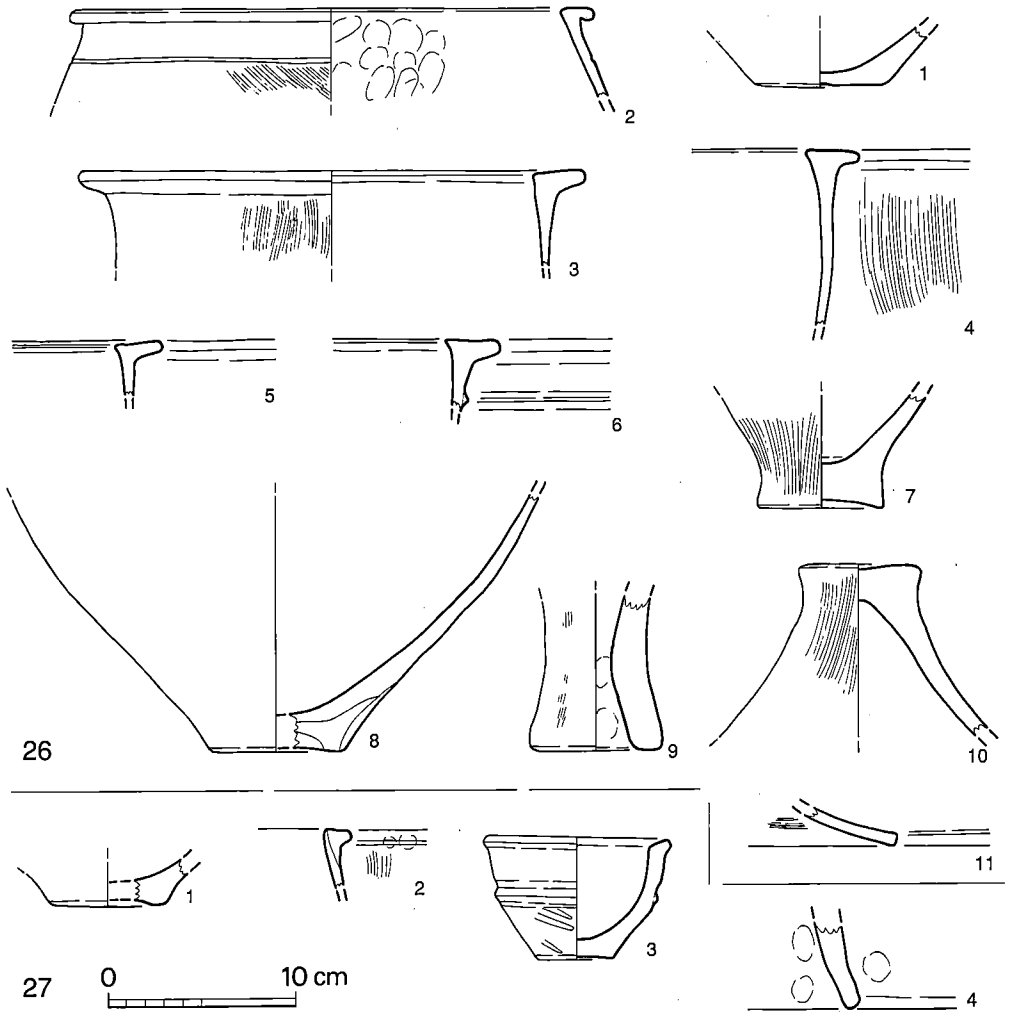
第37図　25号竪穴出土土器実測図（1/4）

26号竪　穴（第36図）

調査区の南端部に位置し，28号竪穴，20号住居跡を切っている。北側部分は未掘であるが，隅丸方形を呈するか。東西幅2.36m，深さ0.14m。

出土遺物（第38図）

土　器（1～11）　1は壺の底部破片。2は甕で，口縁部は小さく突出する。頸部下位にヘラ沈線を巡らす。3～6は逆L字形口縁の甕で，6は内側にも突出する。鉢になるか。7は甕の底部。8は胴部が張ることから鉢になろう。9は支脚の底部片で，肉厚である。10・11は蓋で，10が摘み部，11は口縁部の破片。10の摘み径は6.5cmを測る。



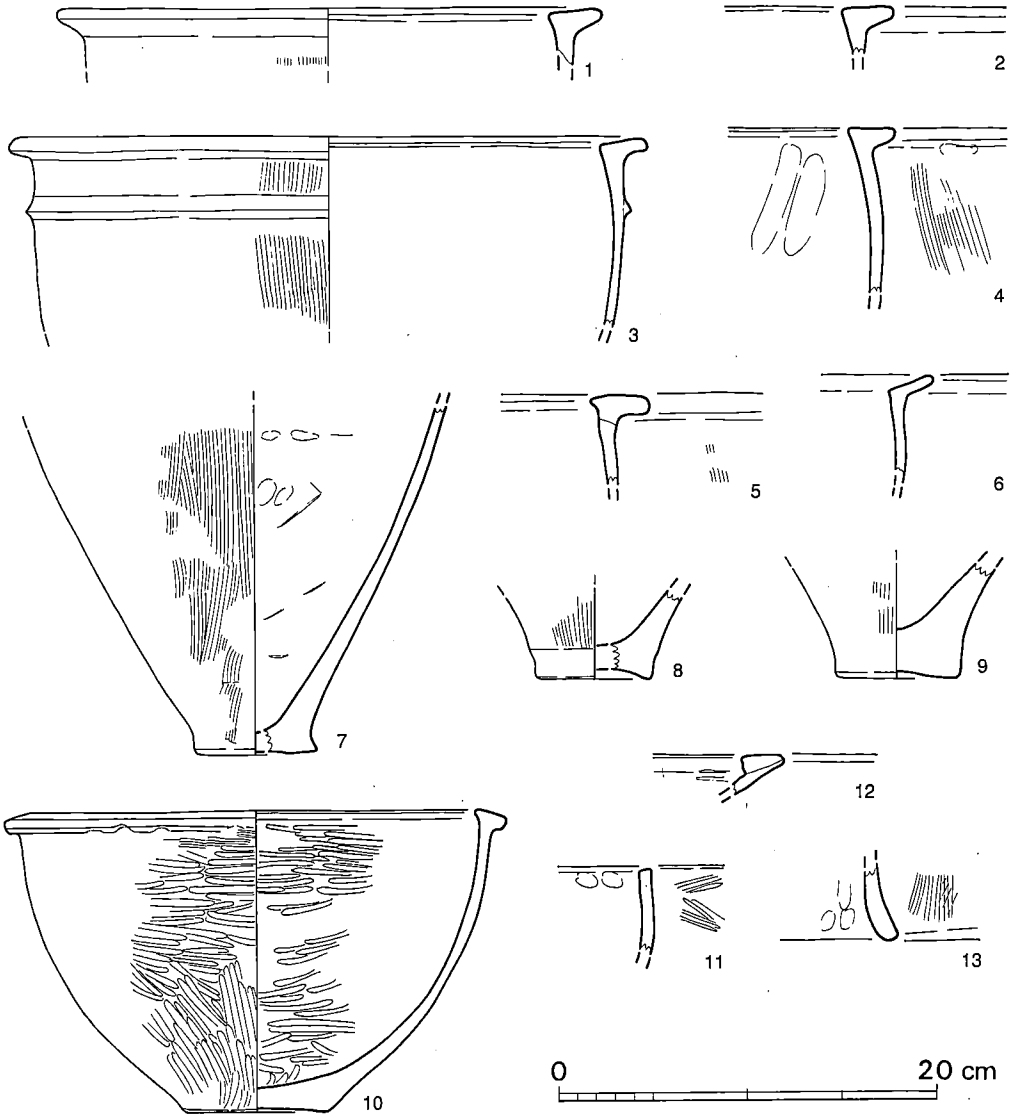
第38図　26・27号竪穴出土土器実測図（1/4）

27号竪　穴（第36図）

26号竪穴のすぐ東側に位置し，20号住居跡，114・115号貯蔵穴を切っている。南辺長2.7m，深さ0.16mを測る。当竪穴も方形を呈するか。

出土遺物（図版44-2，第38図）

土　器（1～4）　1は壺の底部小片で，上底をなす。2は甕の口縁部で，肥厚する。3は小型の鉢で，胴部中位に三角凸帯を貼付する。器高6.5cm。4は器台の底部破片。



第39図　28号竪穴出土土器実測図（1/4）

28号竪　穴（第36図）

26号竪穴に切られる。調査時点では，31号土壙が切っているとしたが，D31→竪28→竪26の順。長方形を呈し，長軸2.4＋αm，短軸長1.9m，深さ0.17mを測る。

出土遺物（図版44-3，第39図）

土　器（1～13）　1～5は逆L字形口縁の甕で，5は内側にも若干突出する。3は頸部下位に三角凸帯を貼付し，復原口径は24cmを測る。6は「く」字形口縁の甕。7～9は底部で，7は平底，8・9は上底を呈する。10は逆L字形口縁の鉢で，器高16.0cm。内外面ともミガキによる。11は無頸鉢の口縁部破片。12は口縁の傾きからして高坏になろう。13は器台の底部破片。

29号竪　穴（第36図）

27号竪穴の4m南に位置する。20・23号住居跡，30号竪穴を切り，30号土壙に切られる。平面形は方形を呈し，長軸3.56m，短軸3.54m，深さ0.2mを測る。底面にはピットが数個あるものの確実に柱穴といえるものがないことから竪穴とした。

出土遺物（図版44-4・60-2・61-1，第40・125・128図）

土　器（1～13）　1・2は鋤先状口縁壺であるが，ともに口縁部は未発達。3～5は逆L字形口縁の甕で，3の復原口径は25.0cm。6は小型の甕。口縁部は小さく突出する程度。7・8は甕の底部破片。9・10は鉢で，9は口縁部が剝離している。器高12.5cm。外面はミガキ調整。11は口縁部小片であるが，椀になるか。12は器台の口縁部破片。13は蓋で，へたばり気味。

鉄　器（1）　1は鉄斧で，長さ7.5cm，刃部幅3.6cmを測る。袋部の断面形は台形を呈する。

石　器（4）　4は短冊形の石器で，側縁に刃部はみられないが，全体を粗く研磨している。石剣の未製品か。石材は片岩系。

30号竪　穴（第36図）

29号竪穴の西側に切られて位置する。残存長2.4m，深さ0.2mで，隅丸長方形を呈するか。

出土遺物（第40図）

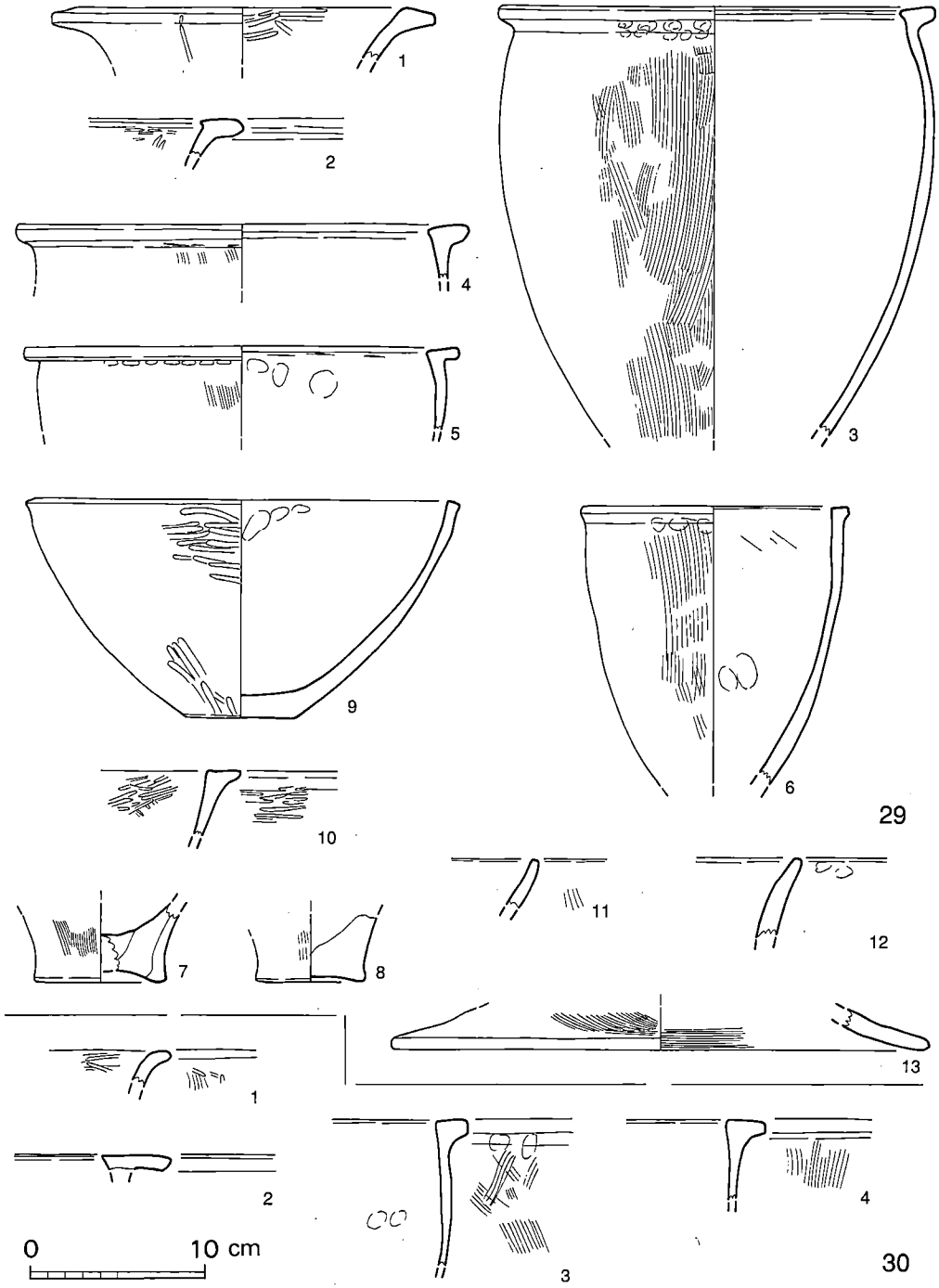
土　器（1～4）　1は広口壺の口縁部破片で，側方に小さく屈曲する。2は口縁部小片で，鋤先状口縁壺になるか。3・4は逆L字形口縁の甕。

31号竪　穴（第41図）

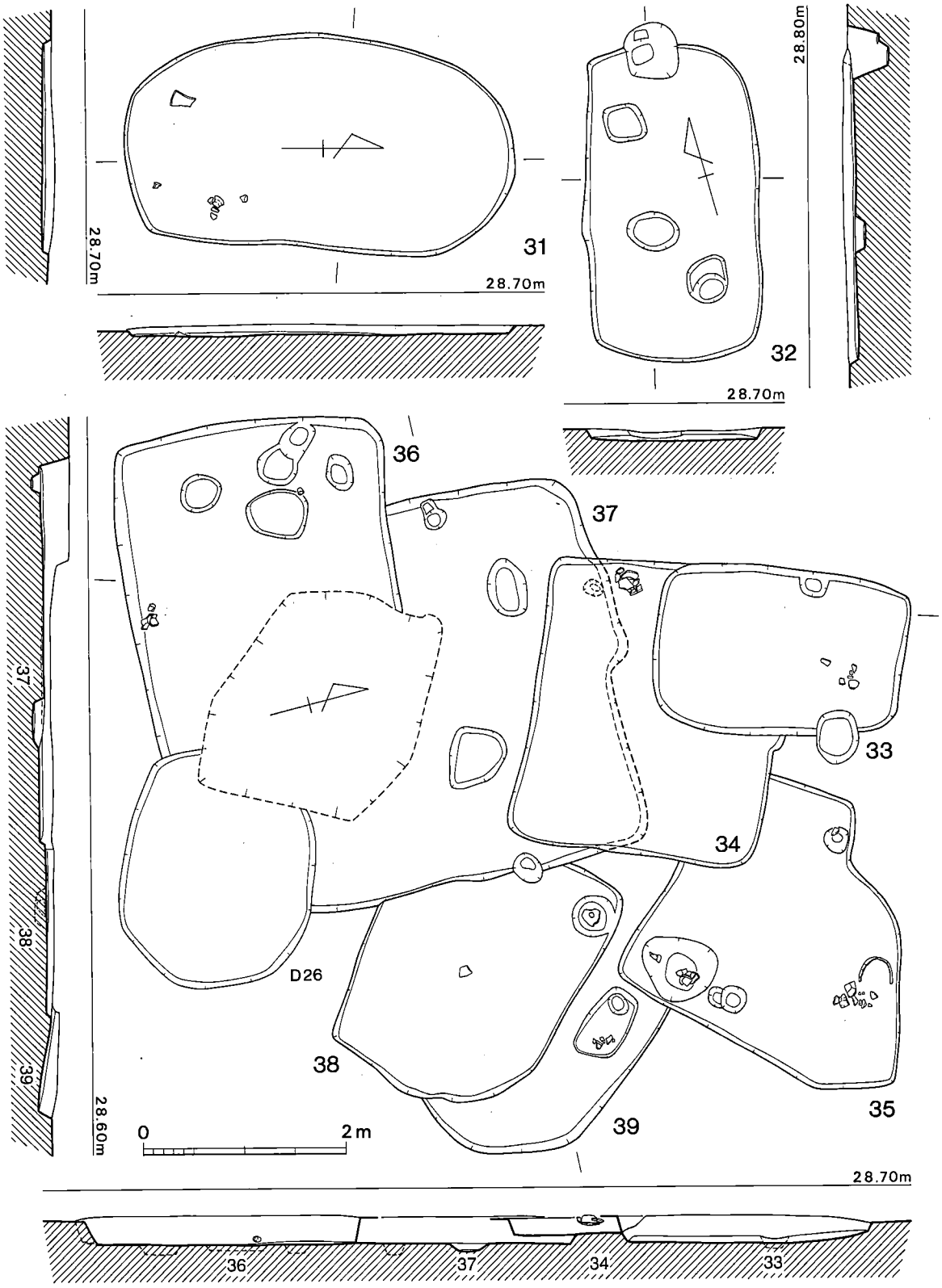
29号竪穴の2.5m西側に位置し，22・24号住居跡を切っている。平面形は長円形を呈し，長軸3.8m，短軸2.1mで，深さは10cmと浅い。底面は平坦である。

出土遺物（図版44-5，第42図）

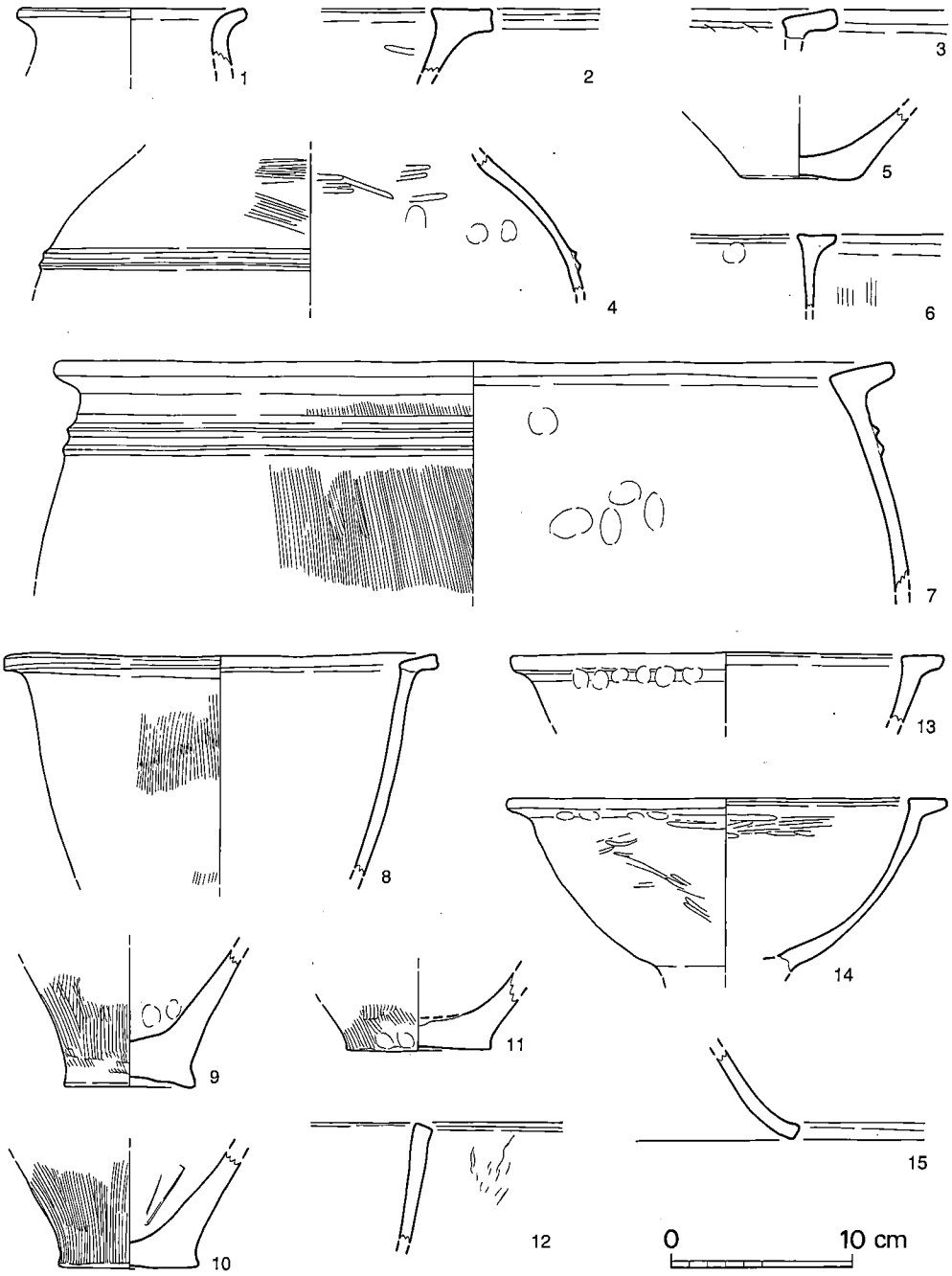
土　器（1～15）　1は広口壺，2・3は鋤先状口縁壺，4は壺の胴部破片，5は底部破片。6は



第40図　29・30号竪穴出土土器実測図（1/4）



第41図　31～39号竪穴実測図（1/60）



第42図　31号竪穴出土土器実測図（1/4）

逆L字形口縁の甕。7は大型の逆L字形口縁甕。胴部には2条の三角凸帯を貼付し，みかけM字形とする。8の口縁部は肥厚せずに折れ曲がる。9～11は甕の底部片で，9は上底。12は口縁部破片で，無頸の鉢になるか。14は高坏の坏部で，深めの器形。15は蓋で，裾部の広がりは弱い。

32号竪　穴（第41図）

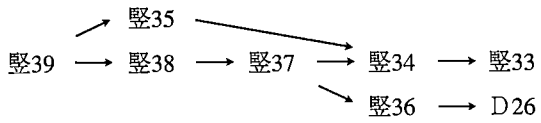
29号竪穴の2.6m南側に位置し，121号貯蔵穴を切っている。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸3.1m，短軸1.72mで，深さは10cm。底面は平坦で，ピットが3個ある。

出土遺物（図版44-6，第43図）

土　器　(1～7)　1は壺で，口頸部を欠く。胴部は算盤玉形に張っている。2・3は逆L字形口縁の甕。4は亀の甲タイプの甕で，頸部下位にヘラ沈線を施す。5・6は底部破片で，ともに上底を呈する。7は深めであることから鉢とした。口縁部は肥厚せずに屈曲する。

33号竪　穴（図版13，第41図）

最後に調査を行った当地区は，遺構の密集が著しく，かつ時間的な制約もあって便宜的に住居番号を付して遺物を取り上げた。切り合い関係は，以下のとおり（矢印は古→新）。



33号竪穴は隅丸方形を呈し，長軸2.44m，短軸1.67m，深さ0.26mを測る。

出土遺物（巻頭図版2-2，第43・125図）

土　器（1～6）　1・2・4は逆L字形口縁の甕で，1は頸部下位に2条のヘラ沈線を施す。3の口縁部は三角形を呈する。5・6は甕の底部破片。

石　器（1）　石剣で，側縁は二次的に打ち欠く。残存長11.9cm，幅3.1cm。粘板岩製か。

34号竪　穴（図版13，第41図）

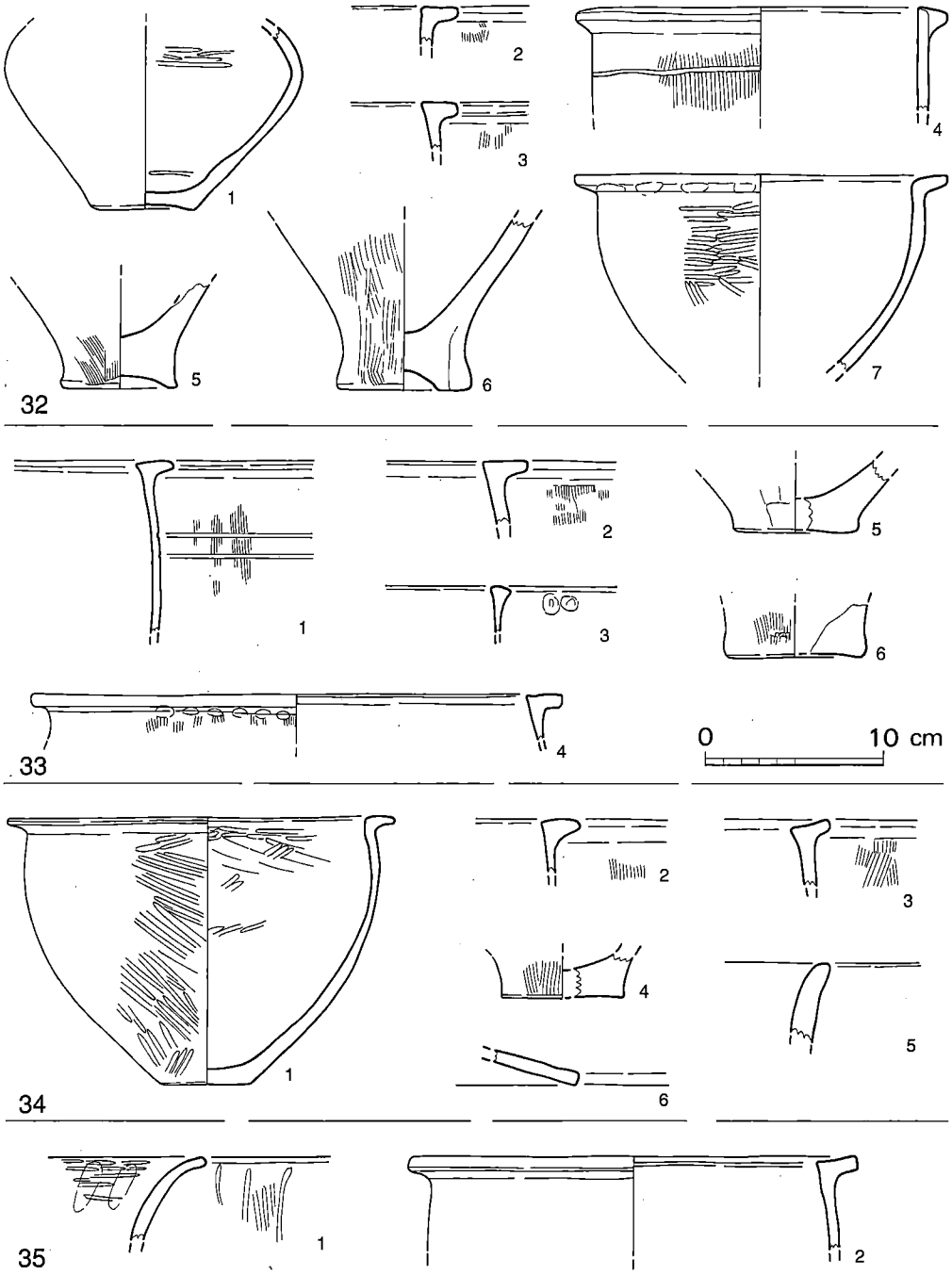
隅丸長方形を呈し，長軸2.98m，短軸2.48m，深さ0.16mを測る。

出土遺物（図版45-1，第43図）

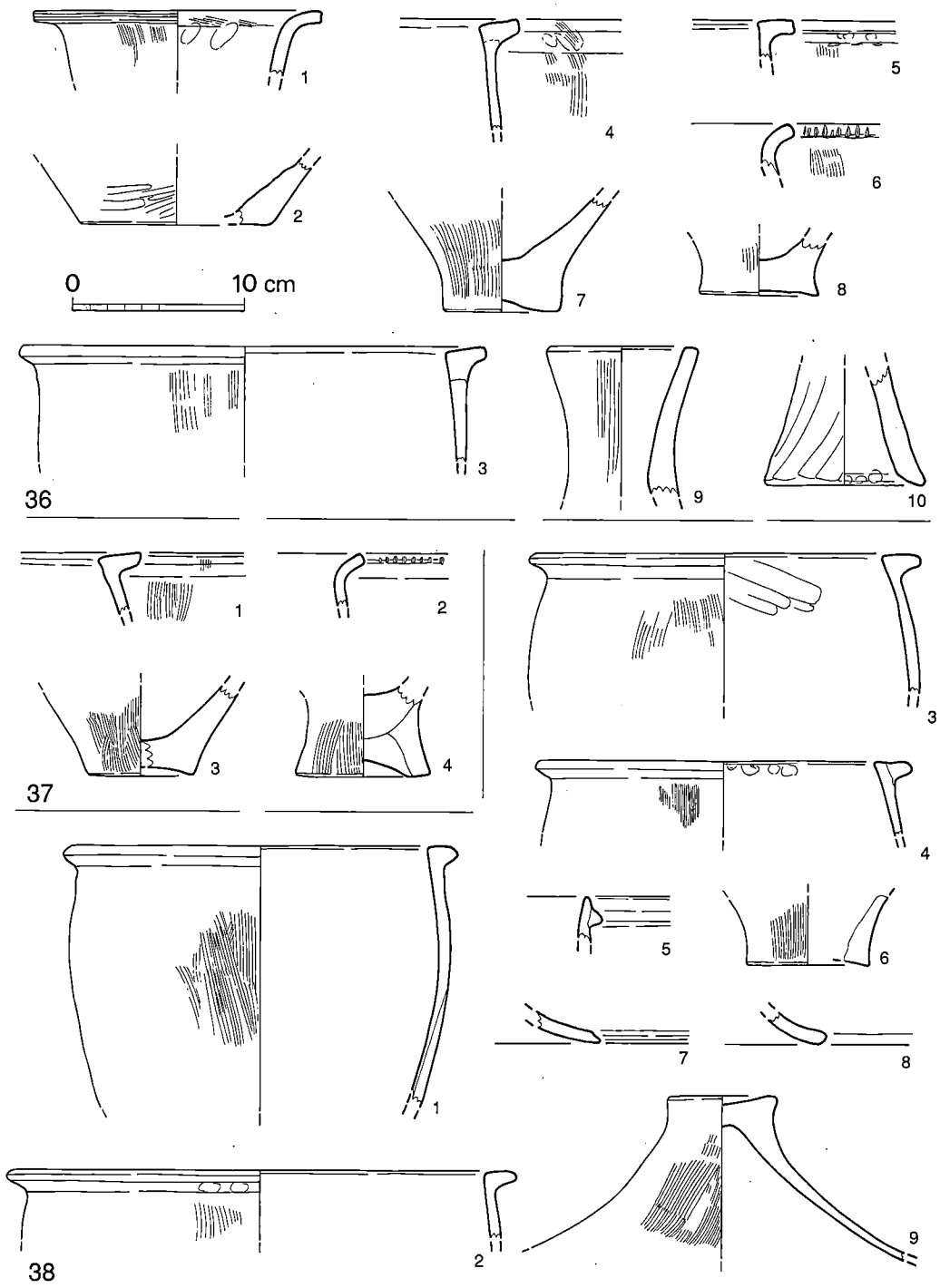
土　器（1～6）　1は逆L字形口縁の鉢で，器高15.1cm，復原口径21.9cm。内外面ともミガキ調整による。2・3は逆L字形口縁の甕で，2は肥厚する。4は甕の底部破片で，平底をなす。5は支脚の口縁部破片で，6は蓋の口縁部破片。

35号竪　穴（図版13，第41図）

不整方形を呈し，長軸2.94m，短軸2.6mで，深さは5cmと浅い。土器が出土した。



第43図　32～35号竪穴出土土器実測図（1/4）



第44図　36～38号竪穴出土土器実測図（1/4）

出土遺物（第43図）

土　器（1・2）　1は広口壺の口縁部破片で，内外面ともミガキによる。2は逆L字形口縁の甕で，口縁部平坦面は内傾する。口径は25.0cmに復原した。

36号竪　穴（図版13，第41図）

不整方形を呈し，残存長3.1m，短軸2.67m，深さは0.22mを測る。

出土遺物（図版45-2，第44図）

土　器（1～10）　1は広口壺の口縁部破片で，端部は大きく屈曲する。2は底部破片。3～5は逆L字形口縁の甕。6は如意形口縁の甕で，口唇部にキザミ目を付している。7・8は甕の底部破片。9・10は器台で，10の外面は指頭による強いナデアゲ調整。

37号竪　穴（図版13，第41図）

隅丸方形を呈し，東西幅3.8m，深さ0.16mを測る。

出土遺物（第44図）

土　器（1～4）　1～4は甕である。1は逆L字形，2は如意形の口縁部。3・4は底部破片。

38号竪　穴（図版13，第41図）

隅丸長方形を呈し，長軸2.75m，短軸2.12m，深さは10cmと浅い。

出土遺物（図版45-3，第44・126図）

土　器（1～9）　1～4は逆L字形口縁の甕で，肥厚する。1の口径は23.2cmに復原した。5は亀の甲タイプ状の甕。6は底部破片。7～9は蓋で，7・8は口縁部，9は富士山形を呈する。

石　器（13）　13は蛤刃形石斧片で，凝灰岩製か。

39号竪　穴（図版13，第41図）

他の竪穴に切られ最も古いが，詳細は不明。

出土遺物（第46図）

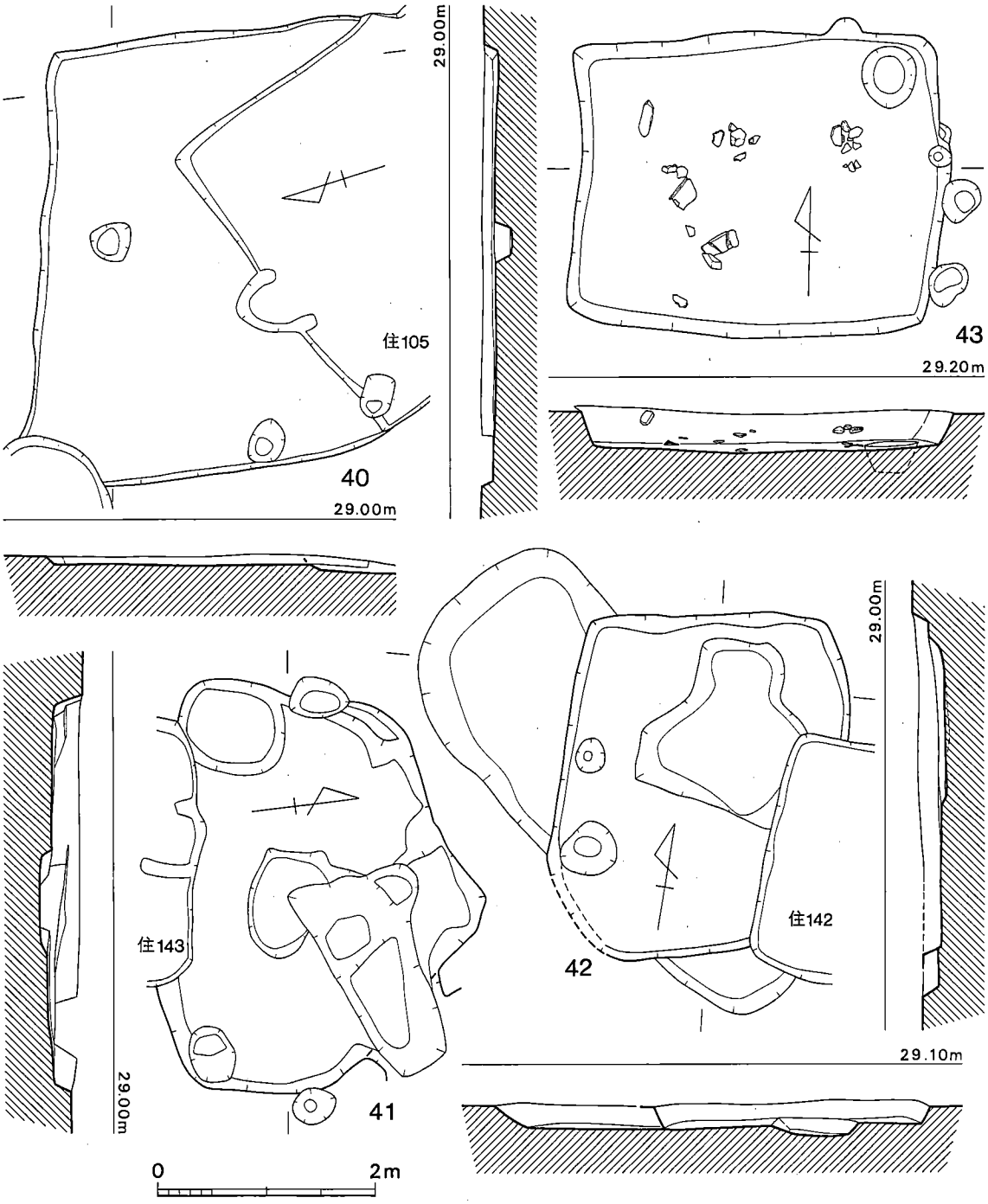
土　器（1～4）　1～4は甕で，1は亀の甲タイプ。2・3は逆L字形の口縁片。4は底部破片。

40号竪　穴（第45図）

29号住居跡の2.5m西側に位置し，古墳時代の105号住居跡に切られる。平面形は方形を呈し，北辺長3.88m，深さ0.1mを測る。底面にはピットが2個ある。

出土遺物（図版45-4，第46図）

土　器（1～11）　1・2は鋤先状口縁壺の口縁部破片。3～6は逆L字形口縁の甕で，3・4は



第45図　40～43号竪穴実測図（1/60）

頸部下位に三角凸帯を貼付する。7は椀で，器高12.9cm，口径11.8cm。8は鉢もしくは壺の底部。9は甕の底部片。10・11は支脚の破片で，10の端部は肥厚する。

41号竪　穴（第45図）

40号竪穴の3m東側に位置し，奈良時代の143号住居跡に切られる。平面形は楕円形を呈し，長軸3.64m，短軸2.28m，深さ0.25mを測る。底面中央に1m×0.6mの土壙がある。

出土遺物（第46図）

土　器（1～4）　1は「く」字形口縁甕で，頸部下位に三角凸帯を貼付する。2～4は甕の口縁部小片。3は逆L字形口縁，4は鈎形に屈曲する。

42号竪　穴（第45図）

41号竪穴と重複し，奈良時代の142号住居跡に切られる。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸3.1m，短軸2.56m，深さ0.22mを測る。底面中央に不整形の土壙がある。

出土遺物（第47図）

土　器（1～17）　1・2は鋤先状口縁壺の口縁部小片。3は壺の底部になるか。4～9は甕の口縁部破片で，4・5は亀の甲タイプ，6・7は逆L字形口縁。8・9は「く」字形口縁で，5・8は頸部下位にヘラ沈線を施す。10～13は甕の底部で，10・11は肉厚。14は器台の口縁部破片で，15・16は支脚片。17は下半部が開いているので蓋とした。

43号竪　穴（図版14-2，第45図）

40号竪穴の6m北西側に位置し，39号住居跡を切っている。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸3.36m，短軸2.8m，深さ0.36mを測る。底面から浮いた状態で土器が出土した。

出土遺物（図版45-5，第47図）

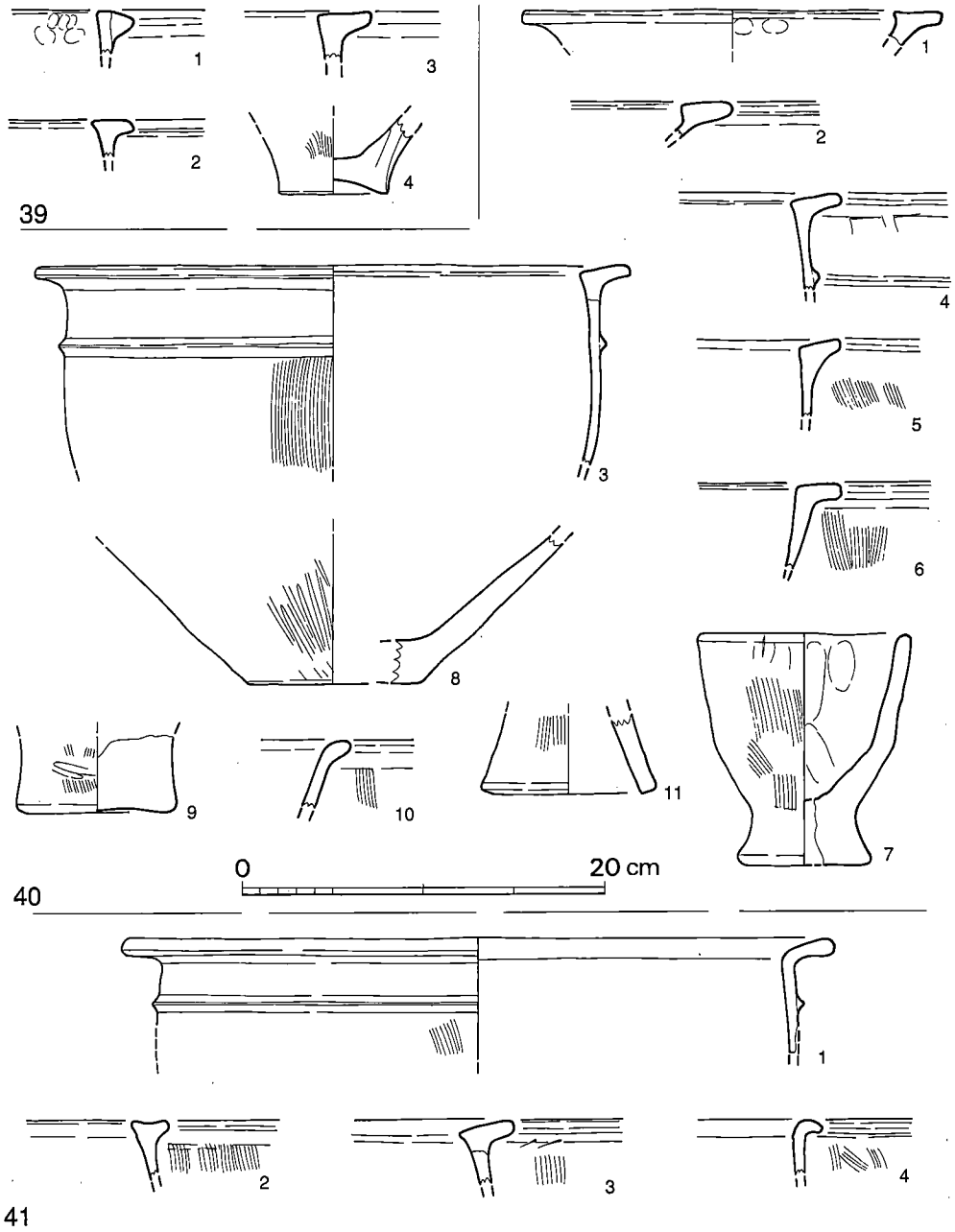
土　器（1～4）　1は鋤先状口縁壺の口縁部小片。2～4は甕で，2は口縁部中央が窪む。3は「く」字形口縁を呈し，端部はやや肥厚する。器高37.9cm，口径33.1cm。2・3は混入品。

44号竪　穴（図版14-2，第48図）

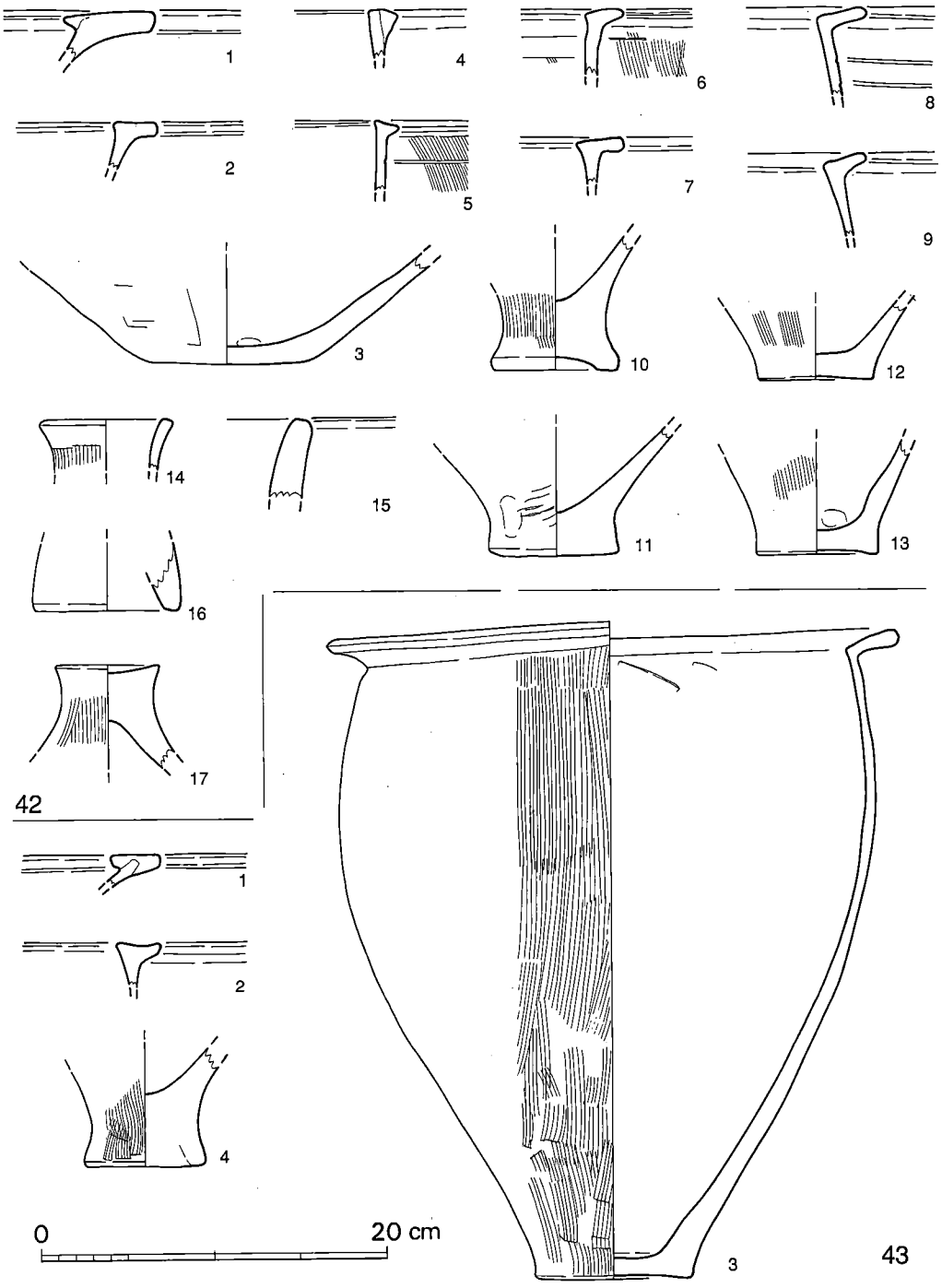
43号竪穴の1.6m南側に位置し，39号住居跡を切っている。38・72号住居跡と重複するが，前後関係は不明。遺存状態は悪いが，平面形は隅丸長方形を呈しよう。床面にはピットが数個あるが，当竪穴に伴うものか不明。

出土遺物（第50図）

土　器（1～3）　1～3は逆L字形口縁の甕で，1の復原口径は29.2cm。2は内側にも突出する。3は頸部下位に三角凸帯を貼付する。



第46図　39～41号竪穴出土土器実測図（1/4）



第47図　42・43号竪穴出土土器実測図（1/4）

45号竪　穴（第48図）

37号住居跡の2m南側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し，北壁長2.42m，東壁長2.96m，深さ0.22mを測る。南壁は別遺構と切り合う。

出土遺物（第50図）

土　器（1）　1は逆L字形口縁甕の口縁部小破片。

46号竪　穴

4号建物跡の3m西側に位置し，古墳・奈良時代の住居に切られ，南西コーナー部を残す程度。

出土遺物（第50図）

土　器（1～4）　1は鋤先状口縁壺の小破片。2は亀の甲タイプの甕で，3は口縁端部が鈎形に屈曲する。2・3とも頸部下位にヘラ沈線を施す。4は器台の口縁部破片。

47号竪　穴（第48図）

52号住居跡の3.3m西側に位置し，古墳時代の124号住居跡に切られる。平面形は長方形を呈し，北辺長4.12m，東辺長2.76mで，深さは6cmと削平が著しい。底面にはピットが数個あるが，炉跡がみられないことから竪穴とした。弥生土器片が出土しているが，実測に耐えない。

48号竪　穴（第48図）

53号住居跡の北側に切られて位置する。また，北壁コーナー付近には，古墳時代の103号土壙がある。北側コーナー部を残す程度で，北西壁長3.22m，深さ12cmを測る。

49号竪　穴（図版15-1，第49図）

48号竪穴の7m北側に位置する。平面形は長方形を呈し，長軸3.98m，短軸2.72m，深さは北壁側で0.17mを測る。底面にはピットが数個存在するが，纏まりはない。

出土遺物（第50・125図）

土　器（1～3）　1は逆L字形口縁甕片，2は亀の甲タイプの甕片。3は壺の底部になろう。

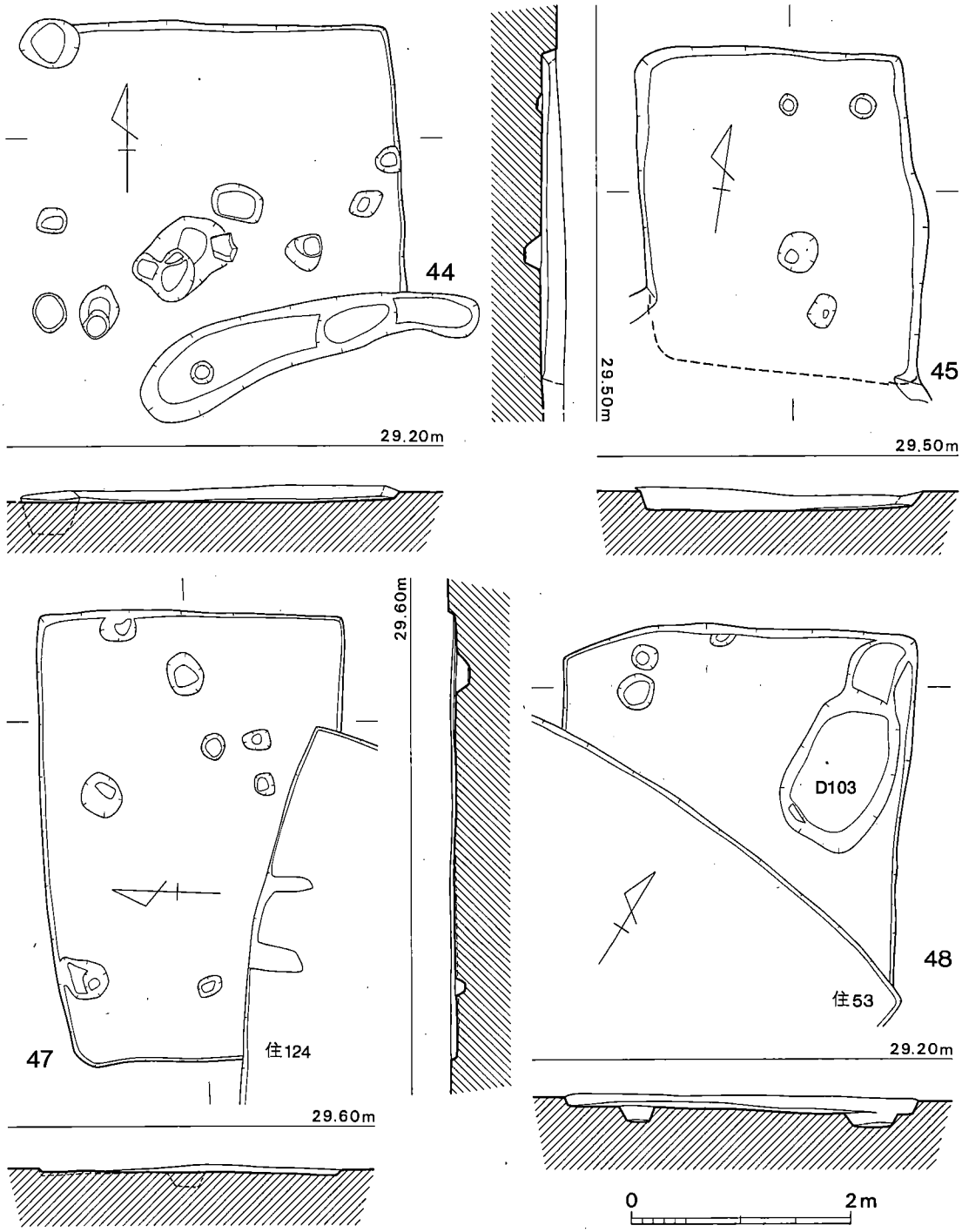
石　器（3）　3は石剣の破片で，断面は菱形を呈する。

50号竪　穴（第49図）

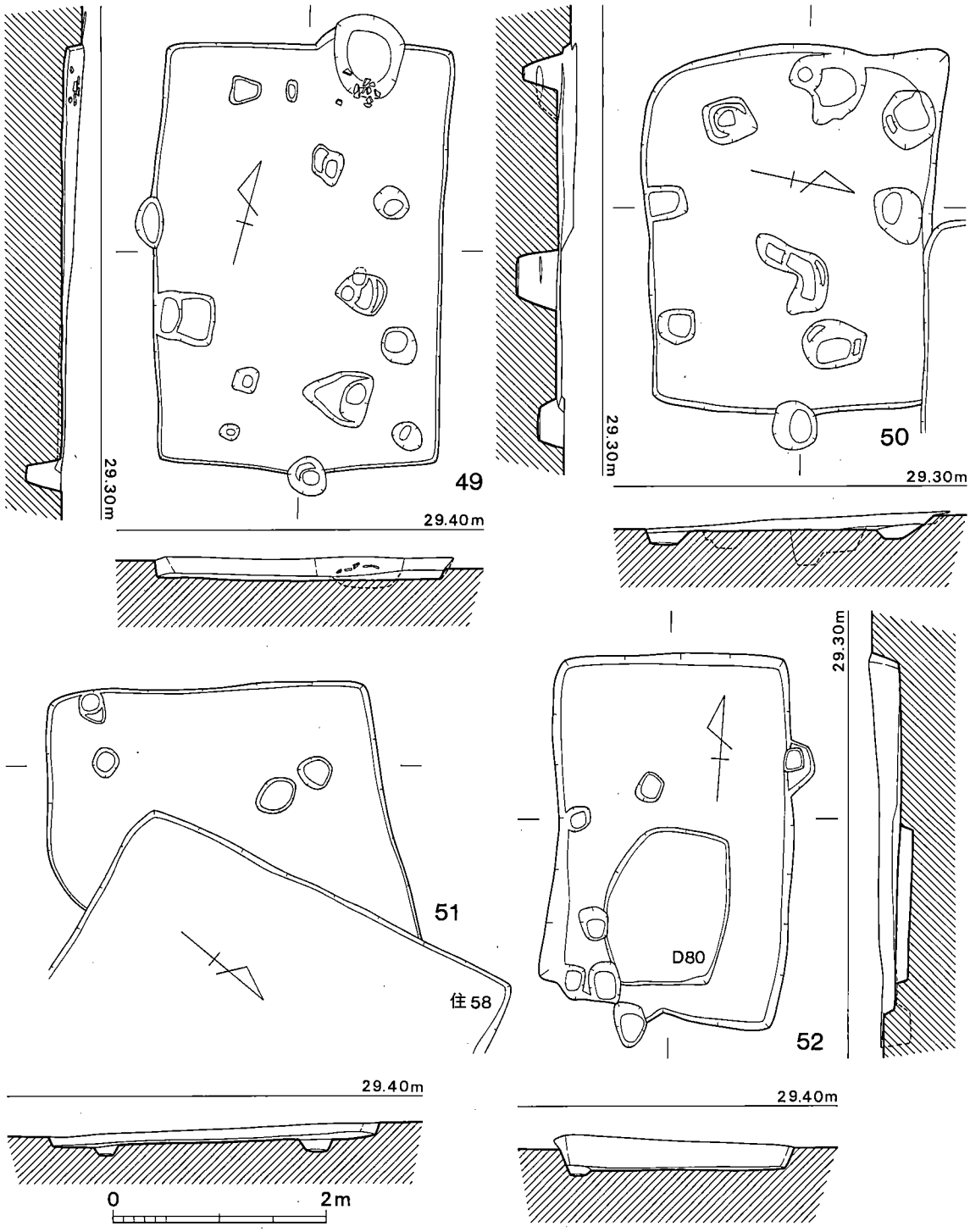
49号竪穴の4.2m東側に位置し，古墳時代の116号住居跡に切られる。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸3.45m，短軸2.64mで，深さ0.13mを測る。底面にはピットが数個ある。

出土遺物（第50図）

土　器（1・2）　1は亀の甲タイプ甕の口縁片。2は底部が開いていることから蓋とした。



第48図　44・45・47・48号竪穴実測図（1/60）



第49図　49～52号竪穴実測図（1/60）

51号竪　穴（第49図）

50号竪穴の4m北東側に位置し，58号住居跡に切られる。南西辺長2.9m，深さ0.1mで，平面形は隅丸長方形を呈しよう。床面にはピットが数個ある。

出土遺物（第50図）

土　器（1）　1は胴部下半の破片で，内面に丹を塗布しているので鉢になろう。底径7.0cm。

52号竪　穴（図版16-1，第49図）

59号住居跡の4m東側に位置する。平面形は長方形を呈し，長軸3.45m，短軸2.2m，深さ0.32mを測る。また，底面が一段窪むことから80号土壙として番号を付した。

出土遺物（第50図）

土　器（1・2）　1・2は甕の口縁部小片で，1は内側に強く突出する。2は亀の甲タイプの口縁部破片。頸部下位に沈線を施す。

53号竪　穴（第51図）

52号竪穴の5m北側に軸を等しくして位置するが，大半が調査区外に進展するため詳細不明。

出土遺物（第50図）

土　器（1）　1は「く」字形口縁甕の小破片で，端部を丸く納める。

54号竪　穴（第51図）

53号竪穴の11m北西側に位置するが，東半部は調査区外に進展する。西壁長2.7m，深さは10cmと浅い。底面中央には径0.8mの土壙がある。土器片が出土したが，図示不可能。

55号竪　穴（図版16-2，第51図）

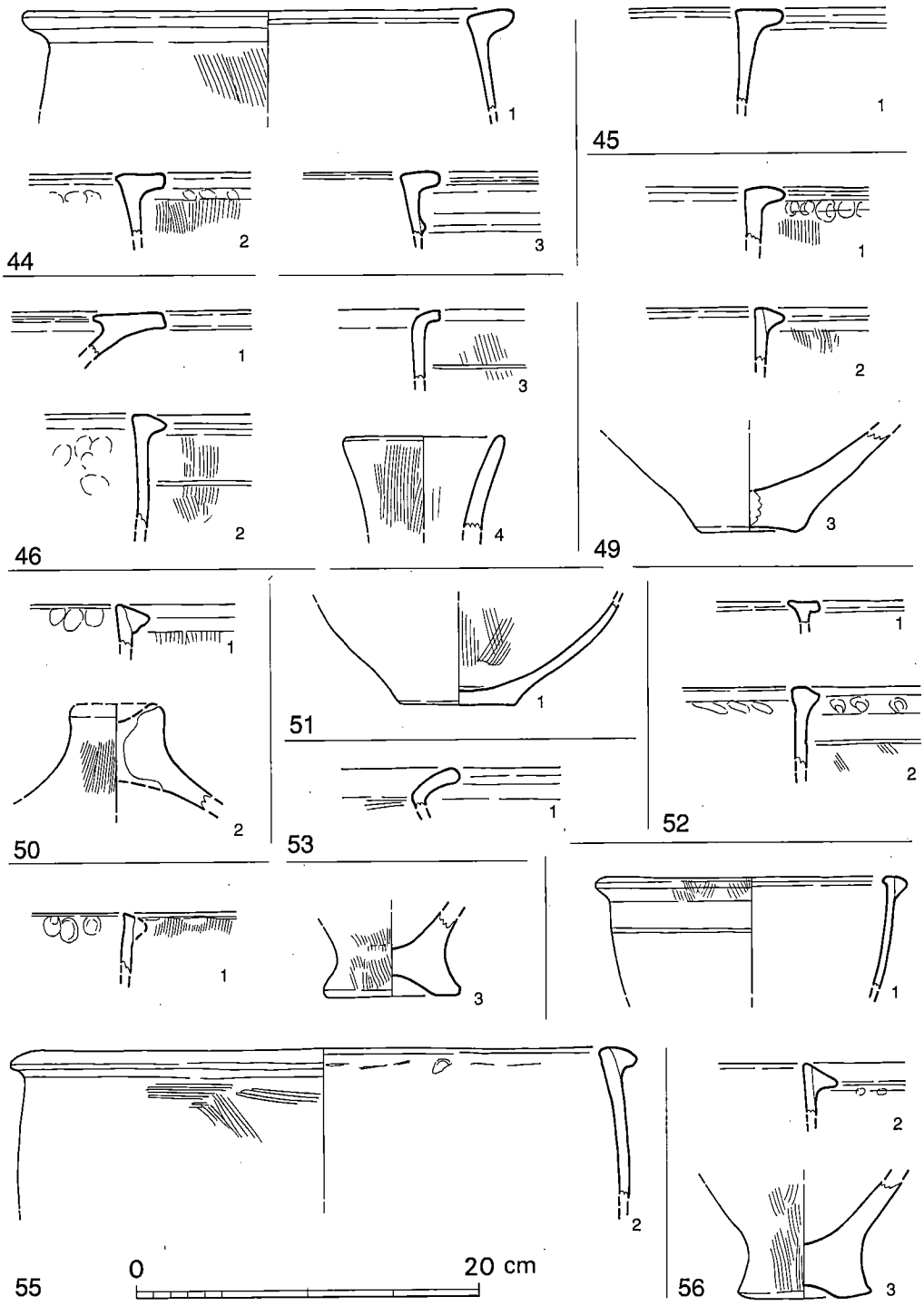
73号住居跡の1m北側に位置し，古墳時代の16号建物跡に切られる。平面形は長方形を呈し，長軸3.13m，短軸2.23m，深さは10cmと浅い。底面には数個ピットがあるが，関連するかは不明。埋土中から土器が出土した。

出土遺物（第50図）

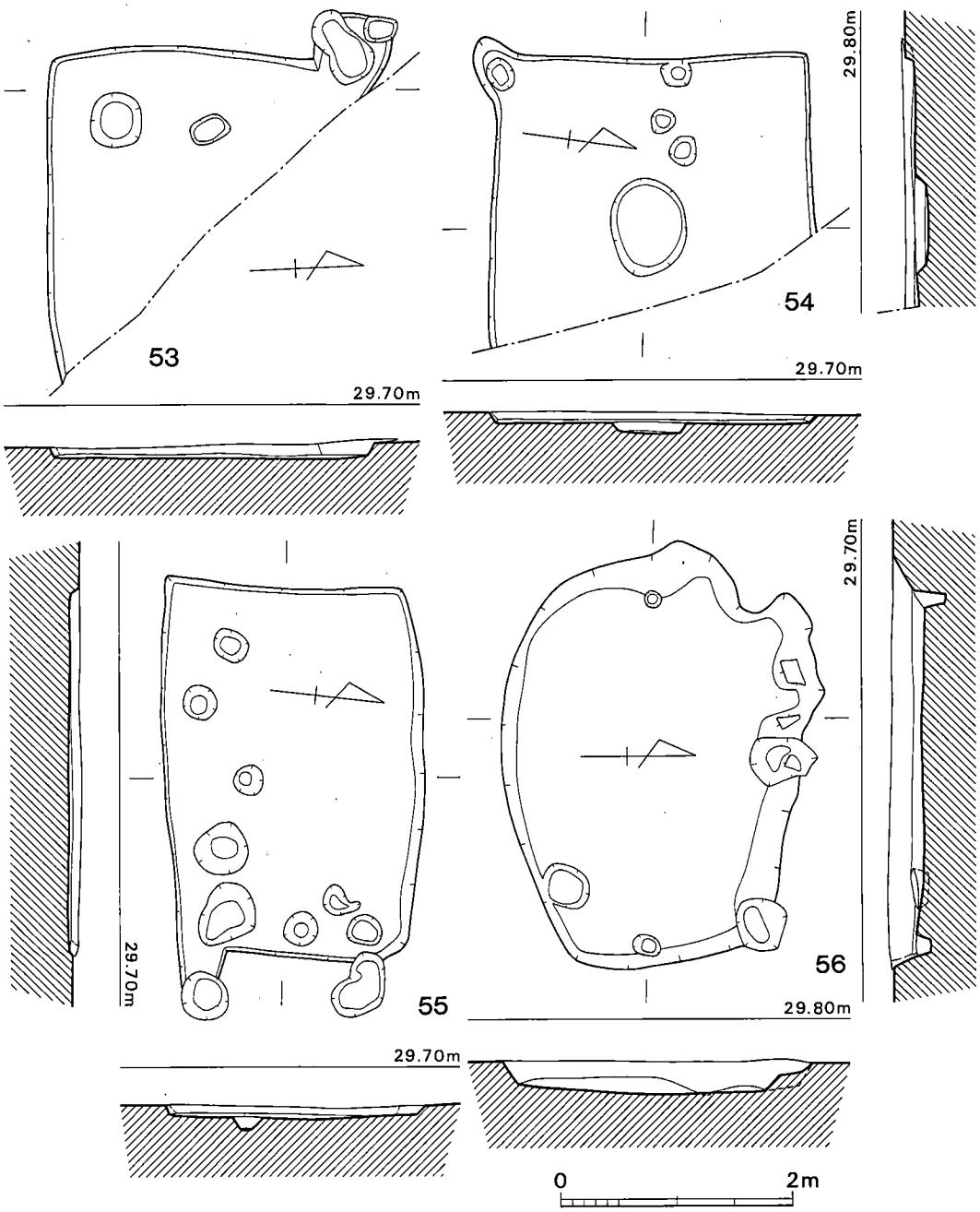
土　器（1～3）　1～3は甕で，1は口縁部が剝離しているが，亀の甲タイプの口縁を呈しよう。2の口径は36.6cmに復原した。3は上底の底部破片。

56号竪　穴（図版17-1，第51図）

73号住居跡の1m西側に位置する。平面形は長円形を呈し，長軸3.48m，短軸2.62m，深さ0.26mを測る。底面はほぼ水平である。



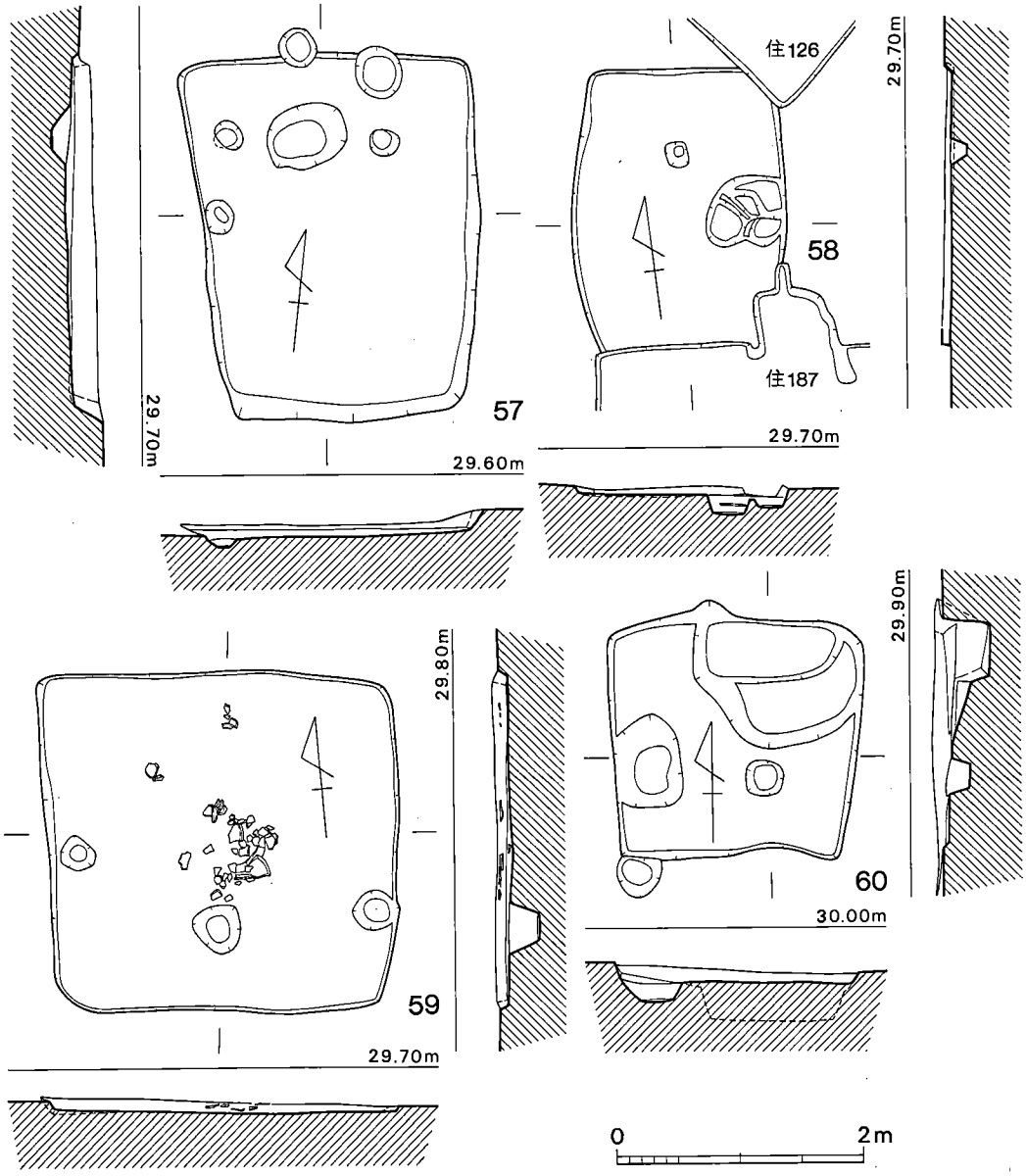
第50図　44～46・49～53・55・56号竪穴出土土器実測図（1/4）



第51図　53～56号竪穴実測図（1/60）

出土遺物（第50図）

土　器（1～3）　1は口縁部片で，鉢になるか。2は口縁部小片。3は内窪みの底部片。

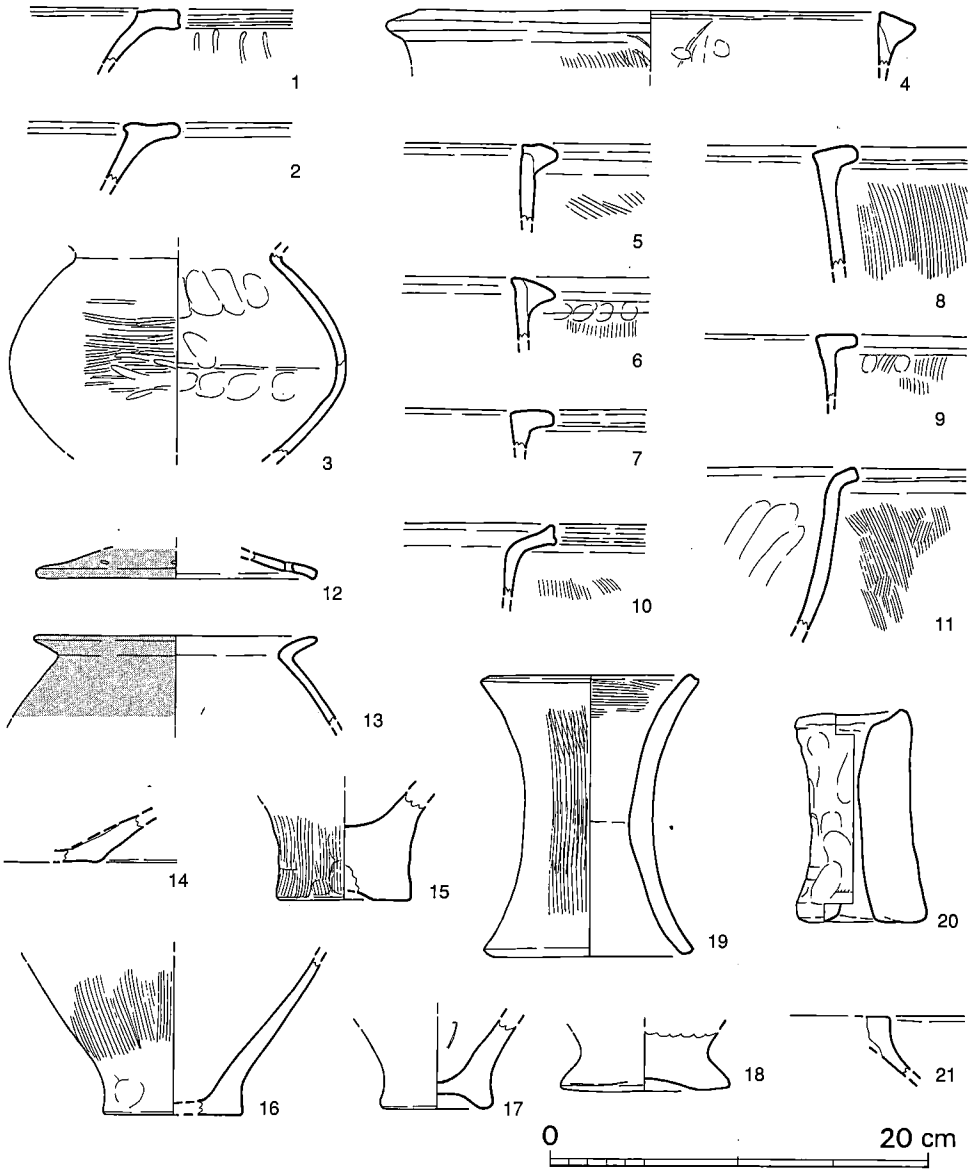


第52　57～60号竪穴実測図（1/60）

57号竪　穴（図版17-2，第52図）

55号竪穴の1.3m北西に位置し，奈良時代の180号住居跡に切られる。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸2.96m，短軸2.25m，深さ0.23mを測る。割合多くの土器が出土した。

出土遺物（図版45-6，第53図）



第53図　57号竪穴出土土器実測図（1/4）

土　器（1～21）　1・2は鋤先状口縁壺の破片で，1の口縁部は未発達。3は壺の胴部破片で，口頸部・底部を欠く。4～11は甕の口縁部破片で，4～6は亀の甲タイプ，7～9は逆L字形口縁，10は「く」字形口縁で端部を跳ね上げている。11は如意形口縁の甕になろう。12は陣笠形の蓋で，2個一組の円孔を2箇所に空ける。外面は丹塗りで，13の短頸壺とセットをなす。13は外面と口縁部の内側に丹を塗布している。14は壺の底部片。15～18は甕の底部破片で，15は肉厚，16・17の内底部の器肉は薄い。混入品か。18は端部が外方に張り出す。

19は鼓形器台で，口唇部は若干窪む。器高14.9cm，口径11.6cm，底径11.2cmを測る。20は肉厚の支脚で，中央に1cmの円孔を穿つ。外面は指オサエによる。21は蓋として実測した。

58号竪　穴（第52図）

56号竪穴の6m西側に位置する。126・187号住居跡に切られ，72号土壙を切っている。平面形は隅丸長方形を呈し，残存長2.23m，短軸1.74mで，深さは5cmと浅い。埋土中から土器が出土しているが，実測に耐えない。

59号竪　穴（図版18-1；第52図）

58号竪穴の2.7m西側に位置する。平面形は隅丸方形を呈し，長軸2.84m，短軸2.26mで，当竪穴も深さは8cmと浅い。底面の中央から土器が出土した。

出土遺物（図版45-7，第54図）

土　器（1～10）　1は大型の鋤先状口縁壺で，口径は41.4cmに復原した。3の胴部破片と同一個体と思われる。胴部中位にM字形凸帯を貼付する。2も鋤先状口縁壺であるが，口縁部は未発達。4は亀の甲タイプの甕で，頸部下位にヘラ沈線を施す。5・6は逆L字形口縁で，6は外側に張るようだ。7・8は甕の底部破片。9・10は支脚の破片で，9が口縁部，10は底部破片。

60号竪　穴（第52図）

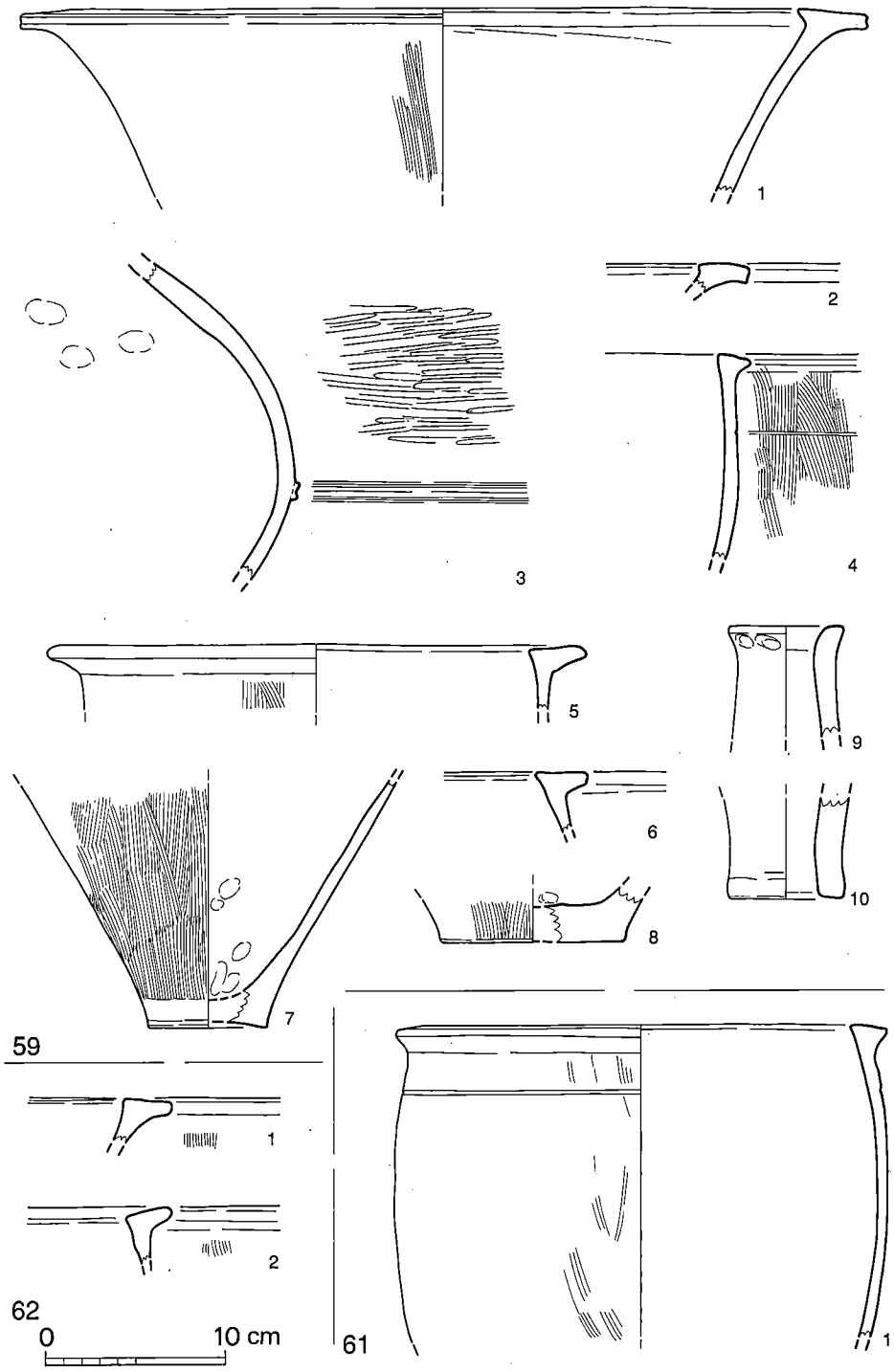
6号建物跡の12m北側に位置する。平面形は隅丸方形を呈し，長軸2.04m，短軸1.92mで，深さは16cmと浅い。底面にはピット及び土壙が存在するが，関連するかは不明。

61号竪　穴（下巻第238図）

60号竪穴の2.8m南側に位置し，奈良時代の206号住居跡に西半部を切られる。平面形は楕円形を呈するか。

出土遺物（第54図）

土　器（1）　1は亀の甲タイプの甕で，口径は24.2cmに復原した。頸部下位にはヘラ沈線を1条巡らす。



第54図　59・61・62号竪穴出土土器実測図（1/4）

62号竪　穴（下巻第198図）

46号竪穴の0.8m西側に位置し，奈良時代の158号住居跡に大半が切られる。北辺長2.8m，深さは6cmと浅い。埋土中から土器が出土した。

出土遺物（第54図）

土　器　（1・2）　1は鋤先状口縁壺の口縁部小片で，2は逆L字形口縁甕の小片。

63号竪　穴

調査時点では認識していなかったが，39号住居跡の東壁は方形を呈し，かつ床面が窪んでいることから方形竪穴と重複していると考えた。「上の原遺跡Ⅱ」の報告段階では，68号竪穴と番号を付したが，63号に修正しておく。住居跡と重複するため詳細は不明。東辺長は3.25m，深さ0.25mを測る。

表1　竪穴新旧番号対照表

新番号	旧番号	新番号	旧番号	新番号	旧番号	新番号	旧番号
1		21	竪 21	41	住 50	61	住 86
2		22	竪 22	42	住 53	62	住153
3		23	竪 33	43	住 66	63	住 39
4		24	住129	44	住 68		
5	新	25	住202	45	住143		
6		26	住199	46	住150		
7	旧	27	住205	47	住124		
8		28	住198	48	住162		
9	変	29	住194	49	竪 25		
10	わ	30	住196	50	住 25		
11		31	D 97	51	住 23		
12	ら	32	竪 34	52	竪 24		
13		33	竪 35	53	住 17		
14	ず	34	住189	54	住 40		
15		35	住192	55	竪 26		
16		36	住187	56	竪 27		
17		37	住188	57	住 60		
18		38	住193	58	竪 30		
19		39	住207	59	住100		
20		40	住 71	60	竪 29		

5．土　　壙

調査区の全域において93基検出したが，分布的には貯蔵穴群と重複している。平面形は隅丸長方形・隅丸方形・楕円形・円形・不整形を呈し，一般的に貯蔵穴より浅めである。

1号土　壙（図版19-1，第55図）

1号竪穴の1.5m北西側に位置する。平面形は楕円形を呈し，長軸2.56m，短軸1.77m，深さ0.23mを測る。底面はほぼ水平で，浮いた状態で土器が出土した。

出土遺物（図版46-1，第56図）

土　器（1～14）　1は鋤先状口縁壺の小片。2は壺の胴部破片で，三角凸帯を2段に付す。3・4は「く」字形口縁甕の小片。5・6は甕の底部破片。7～9は甕棺用大甕で，7の口縁部は内側に強く突出する。8は逆L字形口縁甕で，9と同一個体。9は三角凸帯を2条貼付し，みかけM字形としている。10は高坏の口縁部片。11～13は器台で，復原底径は12が10.8cmで，13は15.0cm。14は蓋の口縁部破片。

2号土　壙（第55図）

1号土壙の0.8m西側に位置する。平面形は隅丸方形状を呈するが，西半部は未掘。短軸1.45m，深さ0.18mを測る。埋土中から土器が出土した。

出土遺物（第56図）

土　器（1～5）　1は「く」字形口縁甕で，口縁部内面の稜は鋭い。2・3は甕の底部破片。4は高坏の口縁部破片。5は蓋で，復原口径25.0cm。胎土に黒曜石を含む。

3号土　壙（第55図）

1号竪穴の1.2m南西側に位置する。東壁は削平され，西壁部を残す程度で詳細不明。深さは23cmを測る。

出土遺物（第56図）

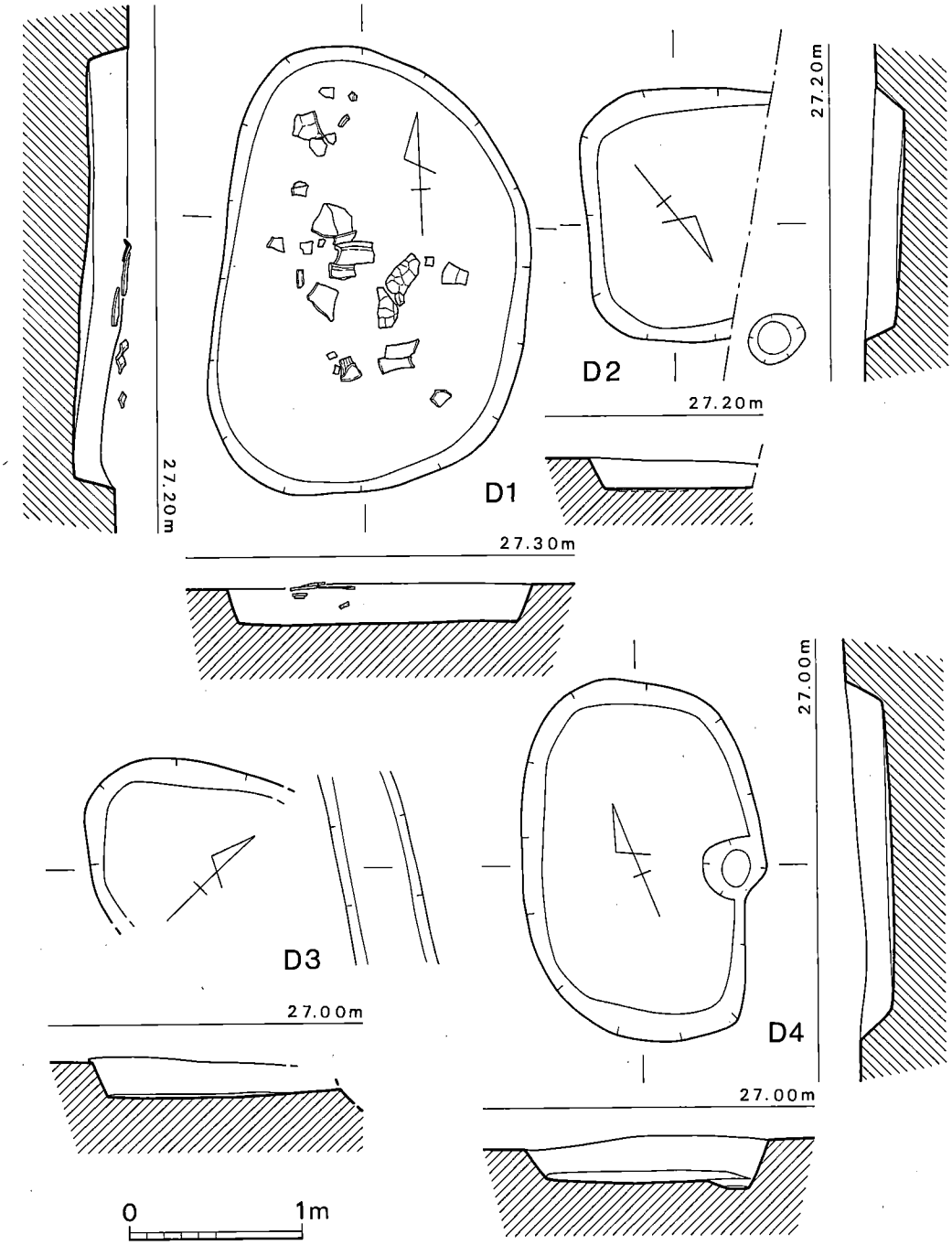
土　器（1・2）　1・2は「く」字形口縁甕の小破片で，端部は丸く納める。

4号土　壙（第55図）

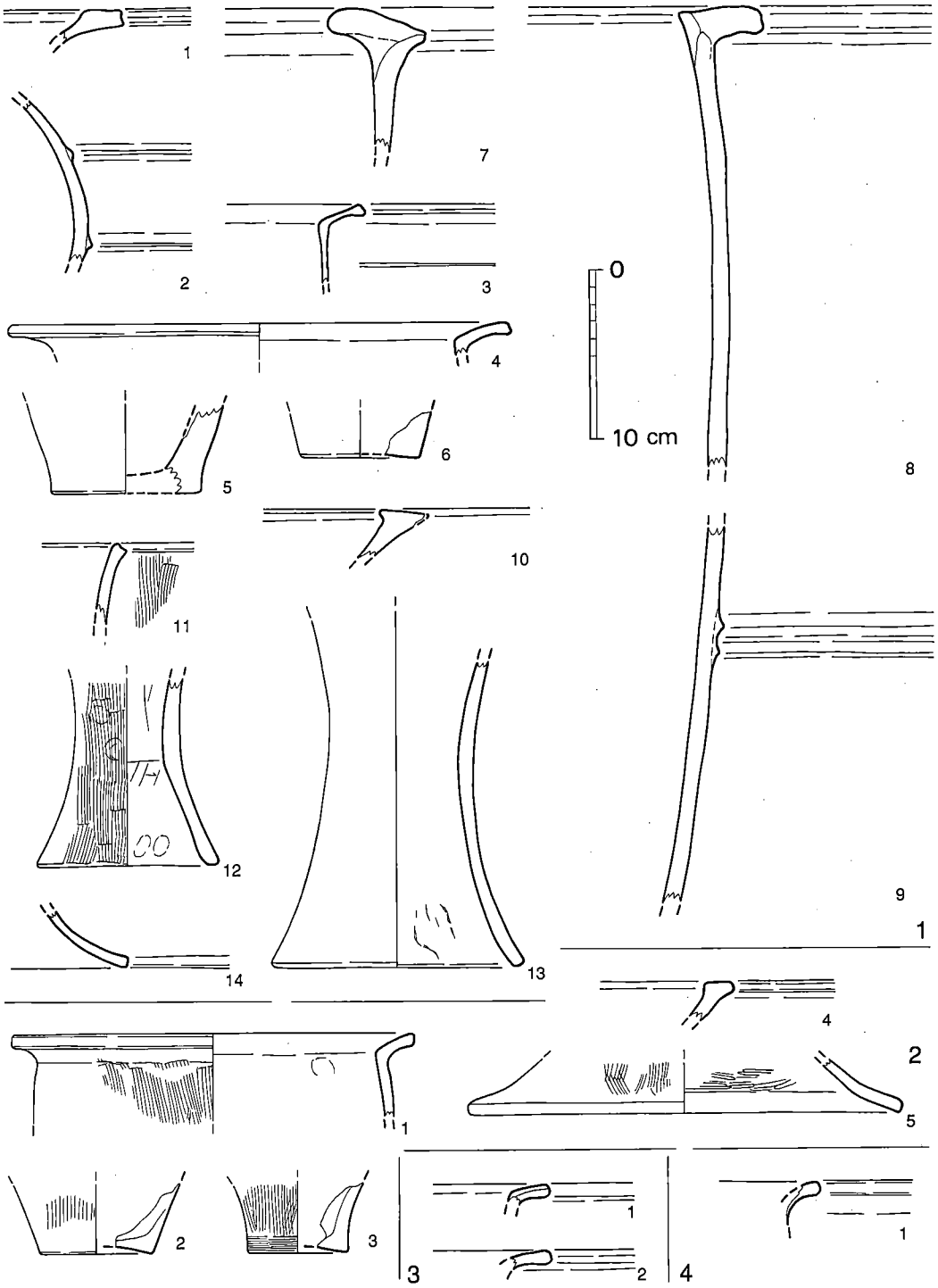
1号土壙の13m北西側に位置する。長円形を呈し，長軸2.1m，短軸1.4m，深さ0.28mを測る。

出土遺物（第56図）

土　器（1）　1は「く」字形口縁甕の小破片で，端部は丸く納める。



第55図　1～4号土壙実測図（1/40）



第56図　1～4号土壙出土土器実測図（1/4）

5号土　壙（第57図）

4号土壙の5m北東側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し，西半部は未掘。短軸1.18m，深さ0.2mで，底面にはピットがある。

出土遺物（第58図）

土　器（1・2）　1は広口壺の口縁部片で，側方に開く。5は逆L字形口縁甕の破片。

6号土　壙（第57図）

5号土壙のすぐ南西側に位置する。平面形は長円形を呈し，北側の一部は未掘。短軸0.7m，深さ0.12mを測る。底面はほぼ水平である。

出土遺物（第58図）

土　器（1）　1は甕の胴部破片か。2条の三角凸帯を貼付する。

7号土　壙（第57図）

2号竪穴のすぐ南西に位置する。平面形は台形を呈し，長軸1.74m，短軸1.57m，深さ0.55mと深めである。遺物は出土していない。

8号土　壙（第57図）

2号土壙の1m南西側に位置する。平面形は隅丸方形状を呈し，東壁長1.25m，深さ0.22mを測る。底面はほぼ水平で，土器が浮いた状態で出土した。

出土遺物（図版46-2，第58図）

土　器（1～7）　1は壺の胴部中位片で，三角凸帯を貼付する。2・3は「く」字形口縁の甕で，2の端部は跳ね上げる。4～6は甕の底部で，上底をなす。7は蓋で，口縁端部は上方に立つ。

9号土　壙（第57図）

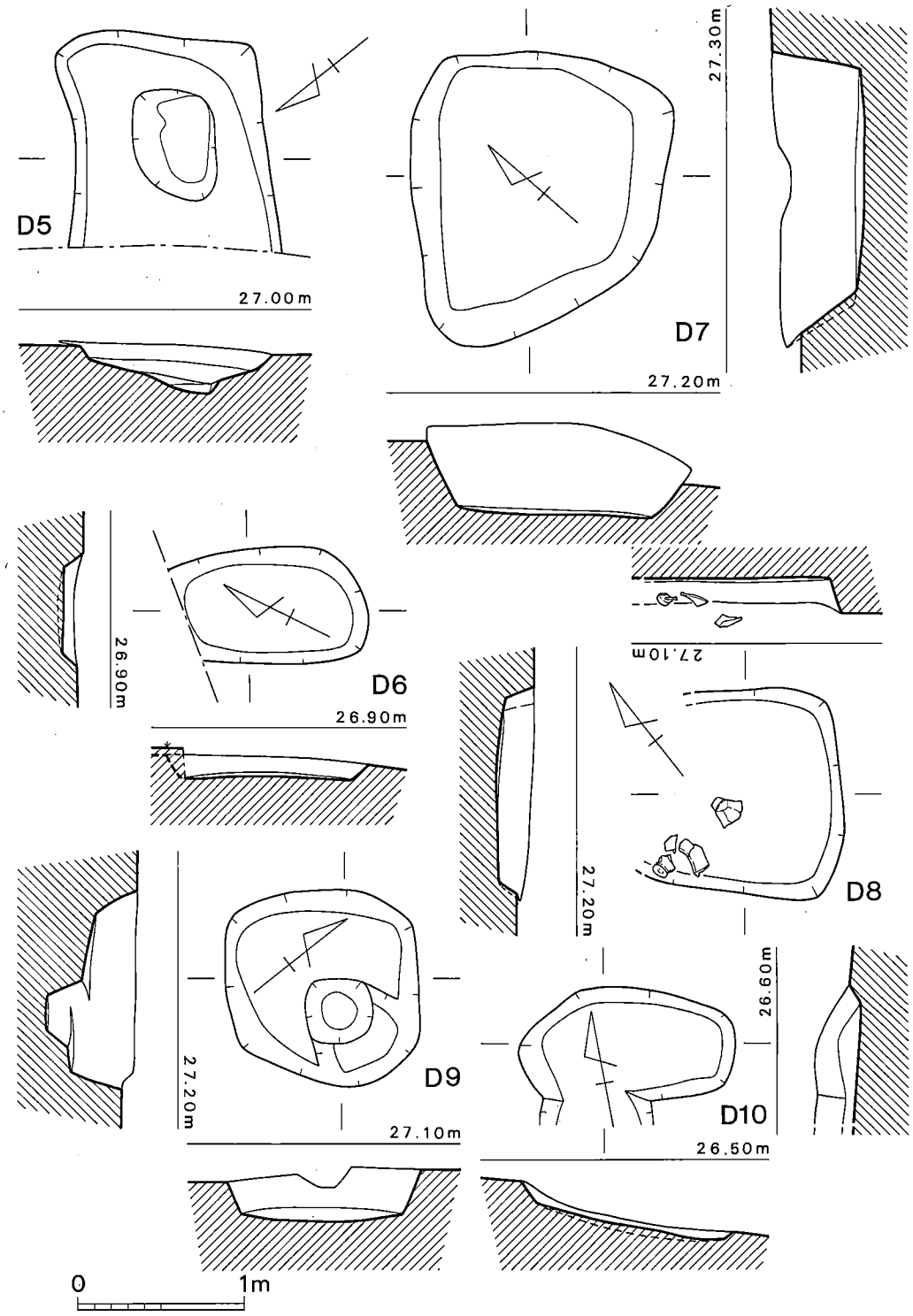
3号土壙のすぐ北西側に位置する。平面形は隅丸方形を呈し，長軸1.2m，短軸1.16m，深さ0.32mを測る。底面にはピットがある。土器片が出土したが，図示に耐えない。

10号土　壙（第57図）

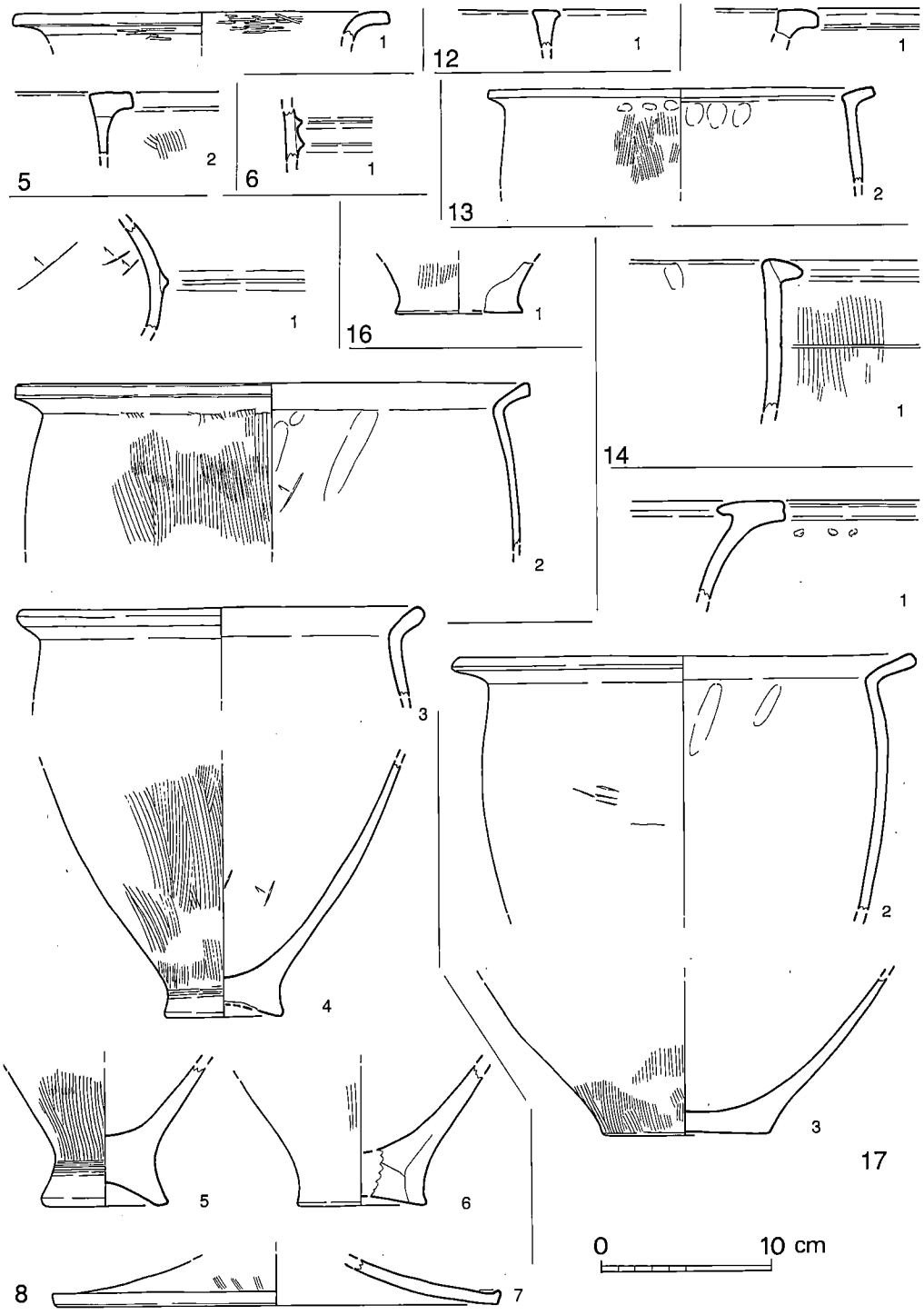
1号住居跡の5m南側に位置し，3号溝に切られる。平面形は長円形を呈し，長軸1.3m，短軸0.7m，深さ0.15mを測る。底面は東に傾斜する。

11号土　壙（第59図）

15号貯蔵穴の0.5m東側に位置する。平面形は不整形を呈し，長軸1.25m，短軸0.86m，深さ



第57図　5～10号土壙実測図（1/40）



第58図　5・6・8・12～14・16・17号土壙出土土器実測図（1/4）

0.28mを測る。底面はほぼ水平である。

12号土　壙（第59図）

11号土壙の3m東側に位置し，17・20号貯蔵穴を切っている。平面形は不整方形を呈し，長軸1.8m，短軸1.65mで，深さは3～8cmと浅い。

出土遺物（第58図）

土　器（1）　1は甕の口縁部小片。

13号土　壙（第59図）

14号竪穴のすぐ西側に位置する。平面形は不整円形を呈し，長軸1.48m，短軸1.14m，深さ0.14mを測る。底面はほぼ水平で，据わった状態で川原石が出土した。

出土遺物（第58図）

土　器（1・2）　1・2は逆L字形口縁甕で，1は肥厚する。2の復原口径は22.4cm。

14号土　壙（第59図）

13号土壙の3m西側に位置し，20号竪穴に切られる。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸1.4m，短軸1.02m，深さ0.57mを測る。底面中央に径47cm，深さ17cmのピットを有する。

出土遺物（第58図）

土　器（1）　1は亀の甲タイプの甕で，頸部下位にヘラ沈線を施す。

15号土　壙（第59図）

12号土壙の11.5m北側に位置する。平面形は偏円形を呈し，長軸1.62m，短軸1.55mで，深さは8cmと浅い。土器片が出土しているが，図示に耐えない。

16号土　壙（第59図）

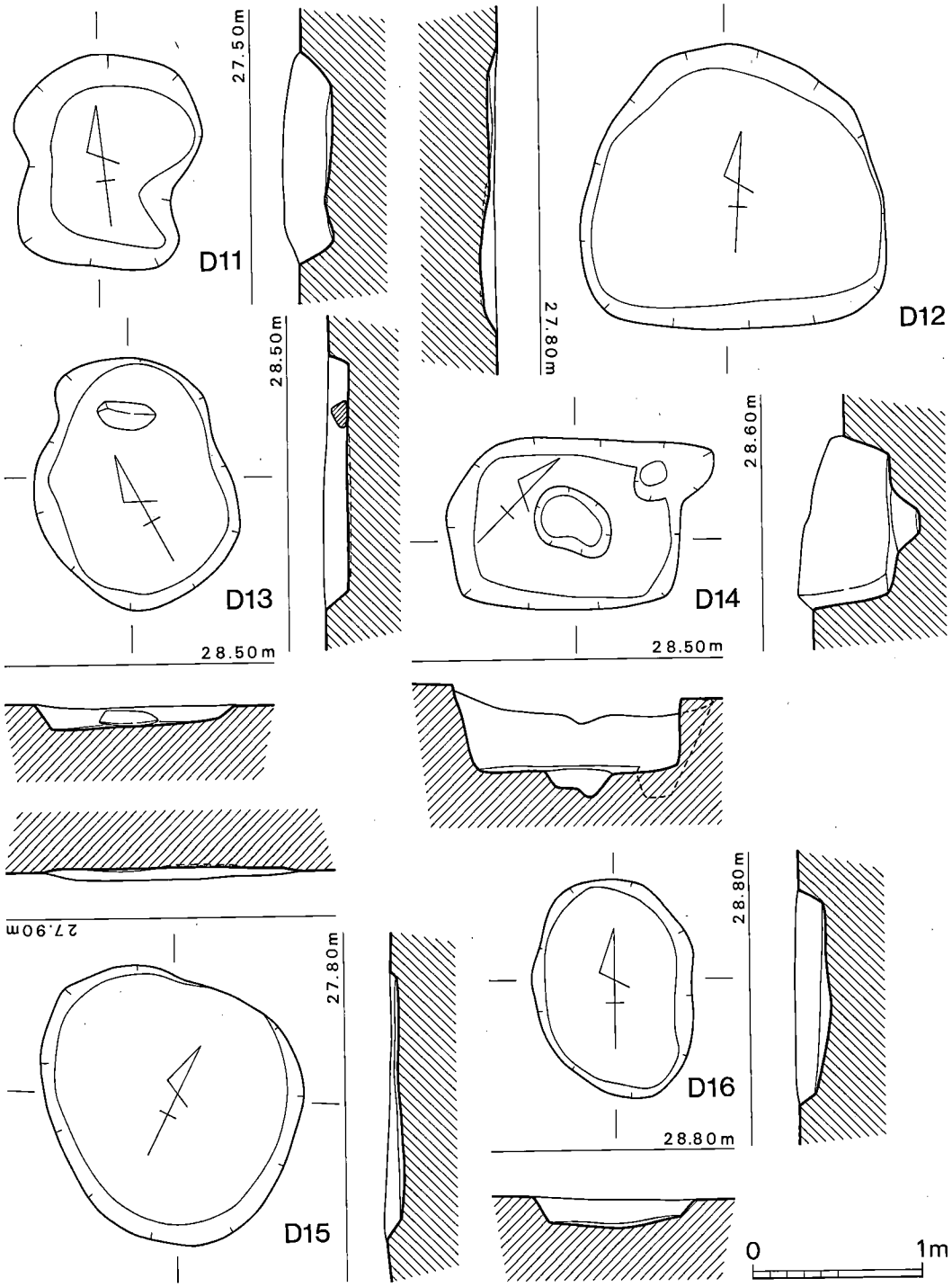
66号住居跡のすぐ北側に位置する。平面形は長円形を呈し，長軸1.32m，短軸0.95mで，深さ0.22mを測る。

出土遺物（第58図）

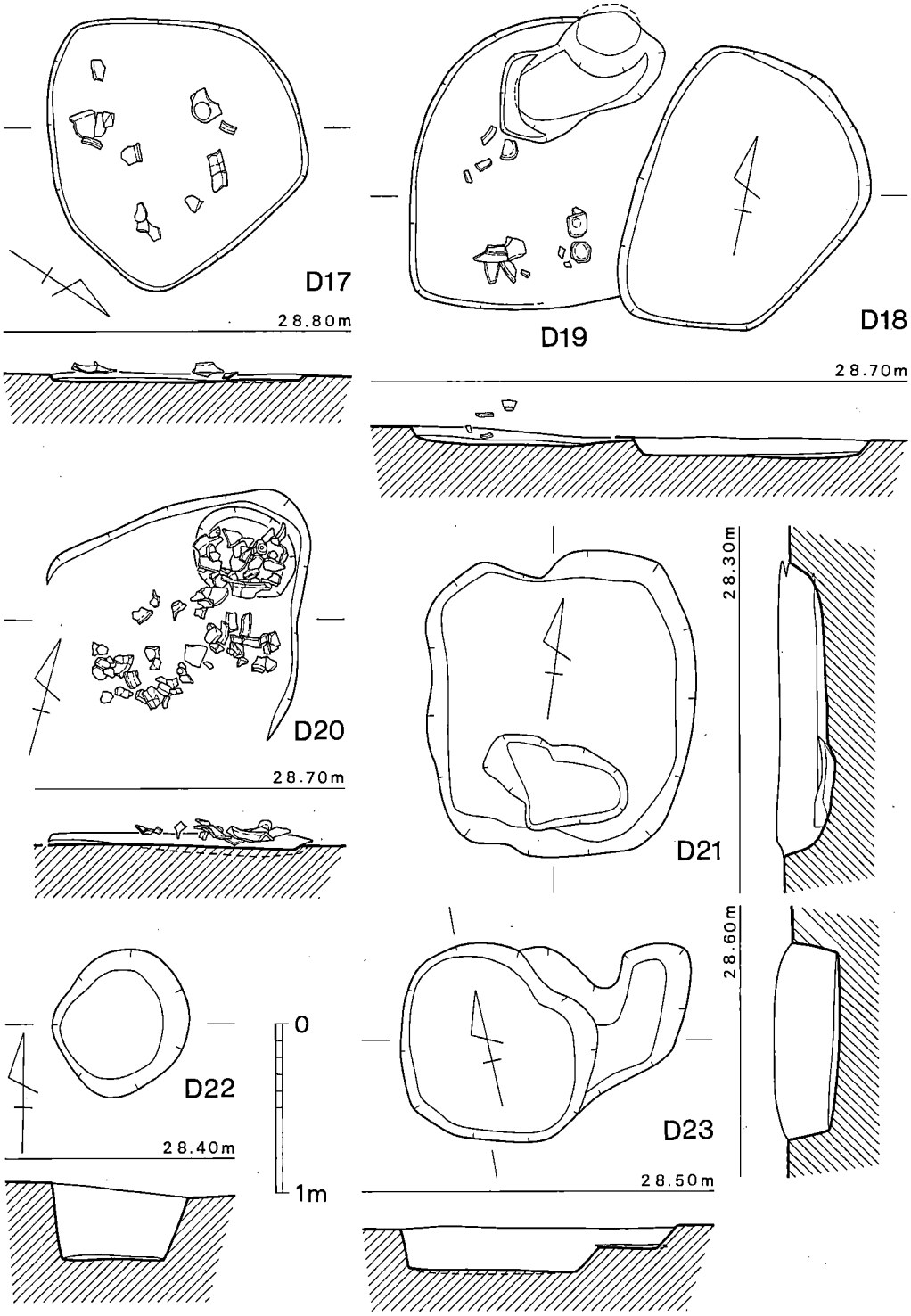
土　器（1）　1は甕の底部片で，底径は7.4cmに復原した。

17号土　壙（図版19-12，第60図）

21号竪穴のすぐ南に位置し，38号貯蔵穴を切っている。平面形は不整方形を呈し，長軸1.55m，短軸1.52mで，深さは5cmと浅いが，やや浮いた状態で土器が出土した。



第59図　11～16号土壙実測図（1/40）



第60図　17～23号土壙実測図（1/40）

出土遺物（図版46-3，第58図）

土　器（1～3）　1は鋤先状口縁壺で，内側への突出度は大きい。2は「く」字形口縁の甕で，端部はやや跳ね上げ気味。3は底径が9.8cmと大きいことから鉢の底部になろう。

18号土　壙（図版21-1，第60図）

66号住居跡のすぐ南側に位置し，19号土壙，41号貯蔵穴を切っている。平面形は不整長方形を呈し，長軸1.67m，短軸1.32m，深さ0.1mを測る。底面はほぼ水平である。

出土遺物（第61図）

土　器（1～10）　1～8は18・19号土壙上面及び埋土中の出土で，9・10が当土壙の出土品。1は鋤先状口縁壺片で，口縁部は未発達。2・3は逆L字形口縁の甕。4・5は甕の底部で，4は肉厚。6～8は鉢で，7・8は内外ともミガキを施す。9・10は壺で，9の口縁は1より発達している。10は胴部破片で，M字形の凸帯を貼付する。

19号土　壙（図版20-1，第60図）

18号土壙の西側に切られて位置する。平面形は方形を呈し，長軸1.7mを測る。深さは10cmと浅いものの割合多くの土器が出土した。北側のピットは66号住居跡の柱穴。

出土遺物（第61図）

土　器（1～12）　1は鋤先状口縁壺の小破片。2は壺の頸部で，頸部には三角凸帯を2条貼付し，見かけM字形とする。3は壺の底部破片。4は壺の底部にしては10.6cmと大きいことから鉢の底部とした。5～7は甕の口縁部破片で，5はT字形，6・7は逆L字形を呈する。9は鉢で，口縁部は緩やかに屈曲する。10・11は鉢の底部になろう。8は甕の底部で，12は蓋の口縁部片。

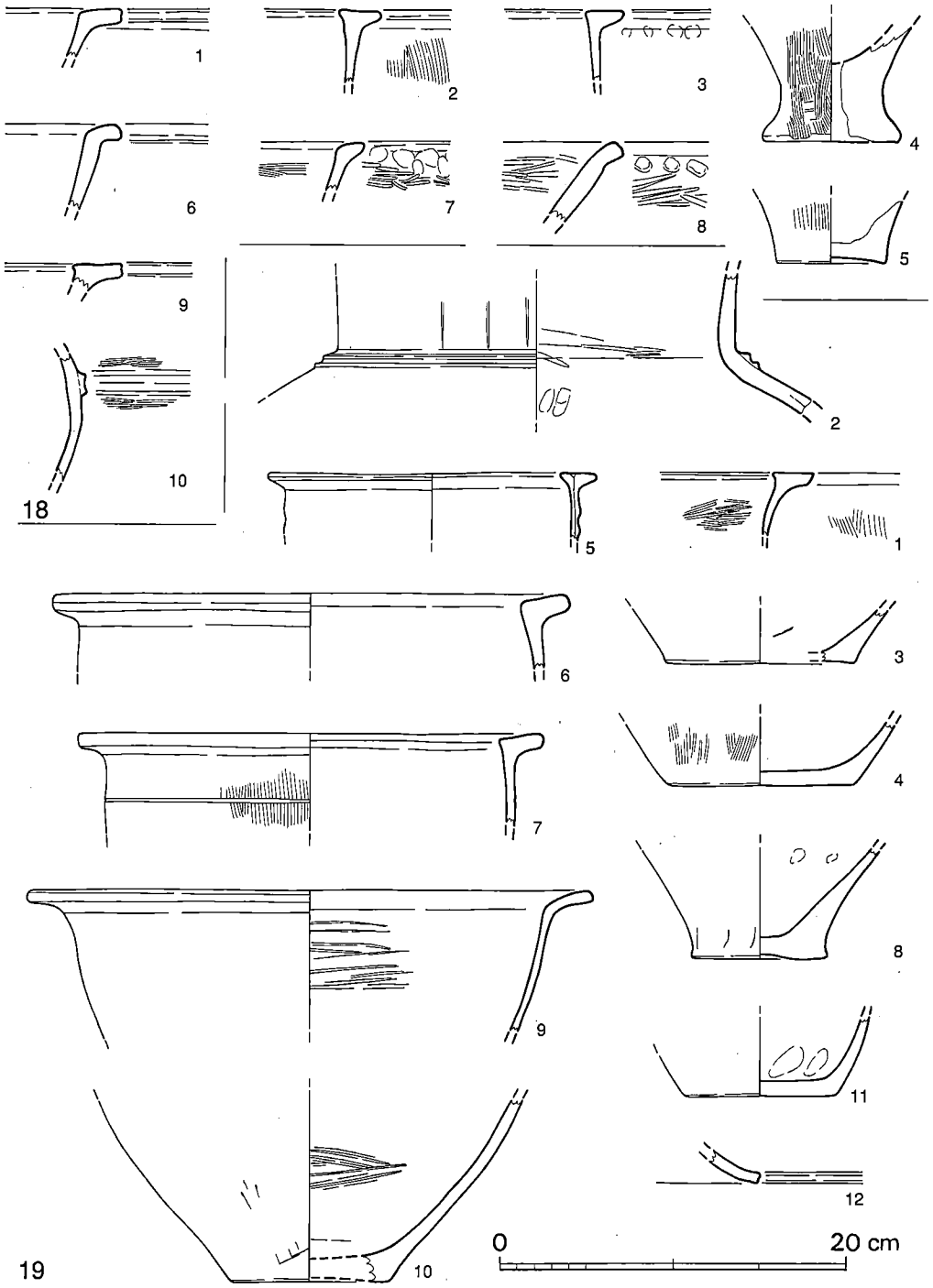
20号土　壙（図版20-2，第60図）

4号住居跡の北東壁に存する土器群を20号土壙として番号を付した。切り合い関係はつかめなかったが，出土土器からみて当土壙が後出する。北側コーナーを残す程度で，規模不詳。浅かったものの割合多くの土器が出土した。

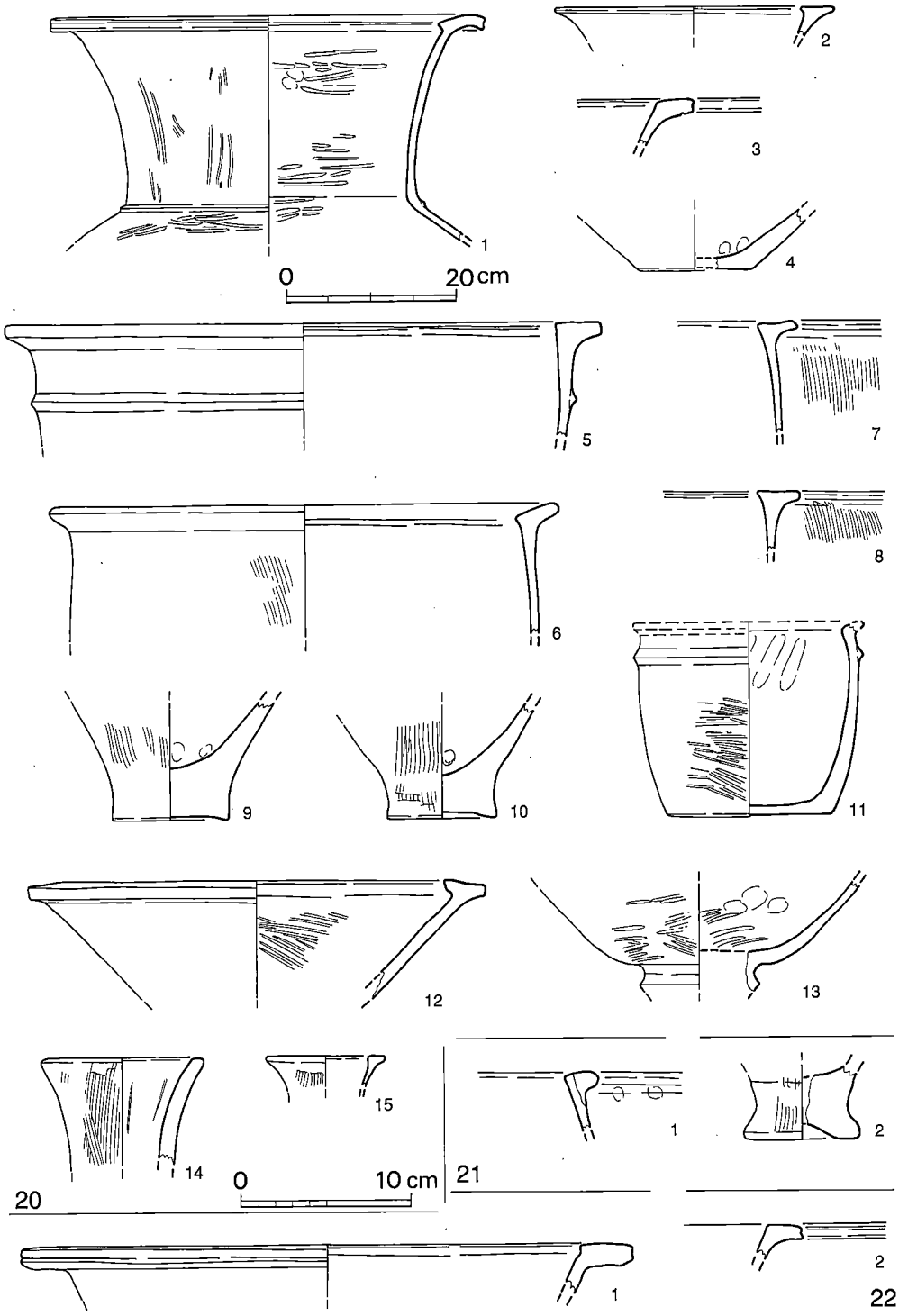
出土遺物（図版46-4，第62図）

土　器（1～15）　1～3は鋤先状口縁壺で，1・2は内面の突出が大きい。4は壺の底部破片。5～8は逆L字形口縁の甕で，6の口縁部平坦面は内傾する。5は頸部下位に三角凸帯を貼付する。復原口径は5が35.2cm，6は30.0cm。9・10は甕の底部で，器肉は厚い。

11は鉢で，口縁部は小さく屈曲する。頸部のすぐ下に三角凸帯を貼付している。器高は11.5cm程になろう。12・13は高坏で，12が口縁部，13は坏部破片。13は脚部との境に三角凸帯を貼付している。14は器台の口縁部破片。15は口縁部片で，小型の壺になるか。



第61図　18・19号土壙出土土器実測図（1/4）



第62図　20～22号土壙出土土器実測図（1/4・1/8）

21号土　壙（第60図）

27号竪穴の5m東側に位置する。平面形は隅丸方形を呈し，長軸1.8m，短軸1.6m，深さ0.28mを測る。南壁側底面にピットがある。

出土遺物（第62図）

土　器（1・2）　1・2は甕で，1は口縁部片。2は上底の底部片。

22号土　壙（第60図）

21号土壙の4.5m南側に位置する。円形を呈し，長軸0.9m，短軸0.8m，深さ0.42mを測る。

出土遺物（第62図）

土　器（1・2）　1・2は鋤先状口縁壺で，1の口径は36.0cmに復原した。

23号土　壙（第60図）

22号土壙の1m西側に位置する。不整形を呈し，東側はピットと切り合う。長軸1.25m，短軸1.18m，深さ0.24mを測る。壺の胴部片が出土しているが，図示不可能。

24号土　壙（第63図）

22号土壙の6m南東側に位置する。平面形は長円形を呈し，長軸1.72m，短軸1.4mで，深さは西壁側で0.4mを測る。底面は東側に若干傾斜する。

出土遺物（第64図）

土　器（1～6）　1は逆L字形口縁甕片。2の口縁部は「く」字形に屈曲し，頸部下位にシャープな三角凸帯を貼付する。3～6は甕の底部破片で，3の底径は7.6cm。

25号土　壙（第63図）

24号土壙の1m西側に位置する。平面形は隅丸方形を呈し，長軸1.4m，短軸1.3m，深さ0.38mを測る。底面はほぼ水平である。

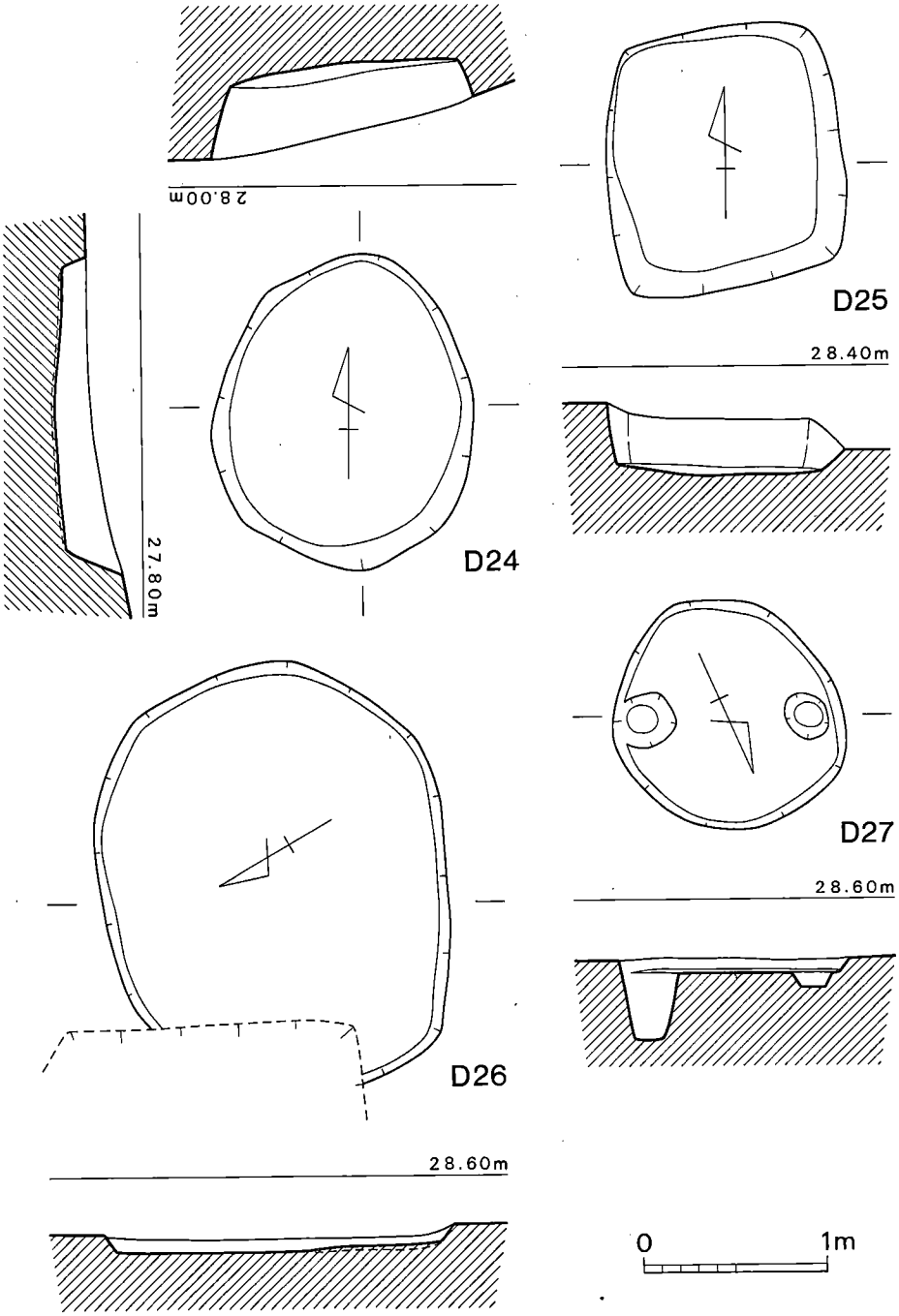
出土遺物（第64図）

土　器（1～3）　1は鋤先状口縁壺の口縁部片であるが，未発達。2は広口壺の口縁部片で，口唇部の稜はシャープである。3は甕の底部片で，底径は9.1cm。

26号土　壙（第63図）

25号土壙の4m南西側に位置し，36・37号竪穴を切っている。西壁は撹乱に切られるが，長円形を呈し，長軸は2.4m程になろう。短軸は1.9m，深さ0.1mで，底面はほぼ水平である。

出土遺物（第64図）



第63図　24～27号土壙実測図（1/40）

土　器（1～3）　1は広口壺の口縁部小片。2は壺の胴部片で，M字形凸帯を貼付する。3は亀の甲タイプ甕の口縁で，頸部下位にヘラ沈線を施文する。

27号土　壙（第63図）

25号住居跡内に位置する。平面形は円形を呈し，長軸1.3m，短軸1.2m，深さ0.1mを測る。底面にピットが2個ある。

28号土　壙（第64図）

19号土壙の1m南側に位置し，47号貯蔵穴を切っている。南壁を残す程度であるが，円形を呈するか。10cmと浅いが，甕・器台が出土した。

出土遺物（図版46-5，第65図）

土　器（1～3）　1は逆L字形口縁甕で，口径は27cmに復原した。2・3は鼓形器台で，器肉は厚い。器高は2が12.1cm，3は11.9cmを測る。

29号土　壙（第64図）

11号土壙の2m南東側に位置する。東半部を失うが，平面形は隅丸方形を呈しよう。西辺長0.9m。土器片が出土したが，図示に耐えない。

30号土　壙（第64図）

23号土壙の3m西側に位置し，29号竪穴を切っている。平面形は楕円形を呈し，長軸2.02m，短軸1.56m，深さ0.28mを測る。底面はほぼ水平である。

出土遺物（図版46-6，第65図）

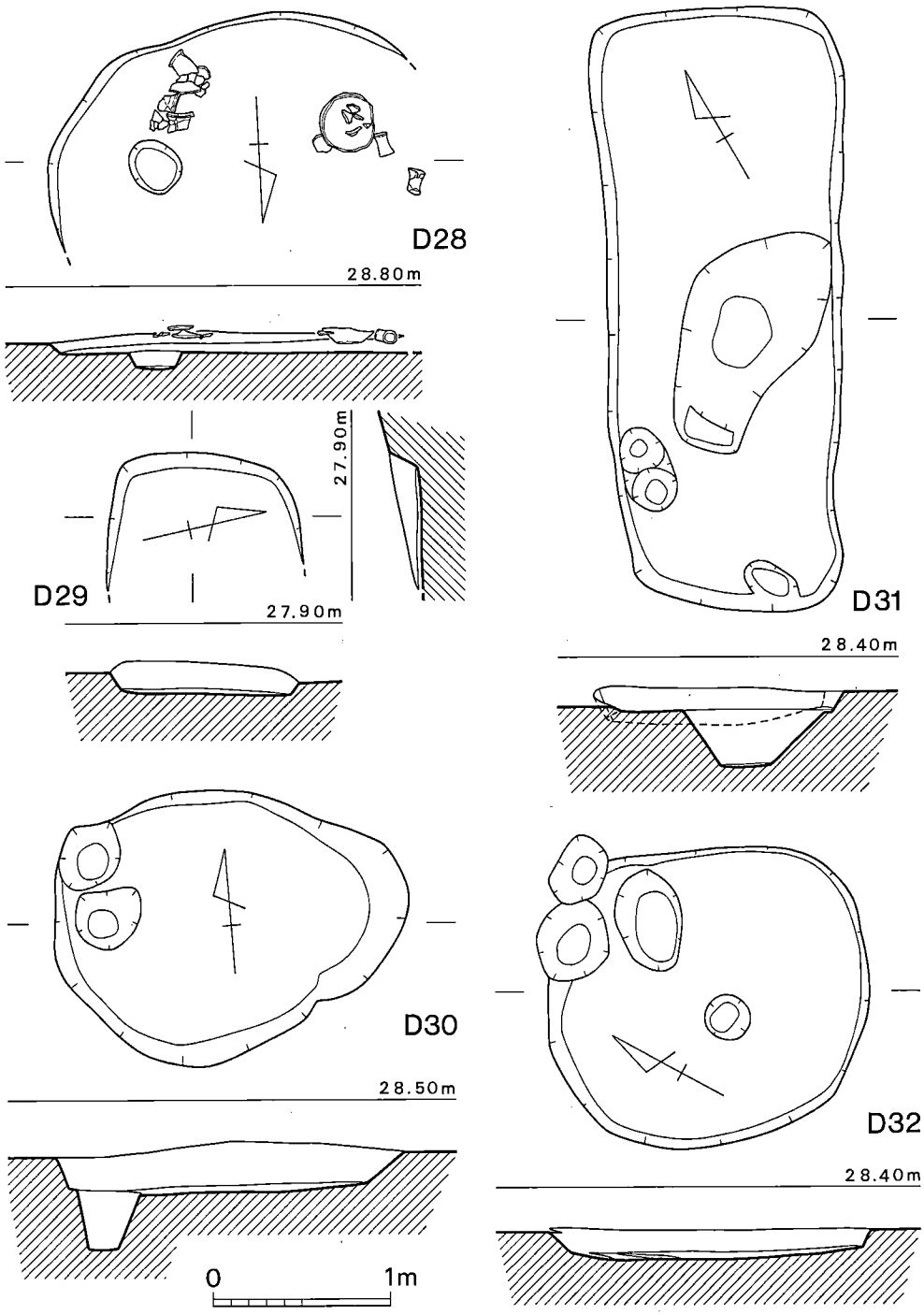
土　器（1～3）　1・2は甕の口縁部破片で，1は亀の甲タイプ，2は逆L字形を呈する。1の頸部下位にはヘラ沈線を施す。3は口縁部破片で，頸部から水平近く外反する。鉢になるか。

31号土　壙（第64図）

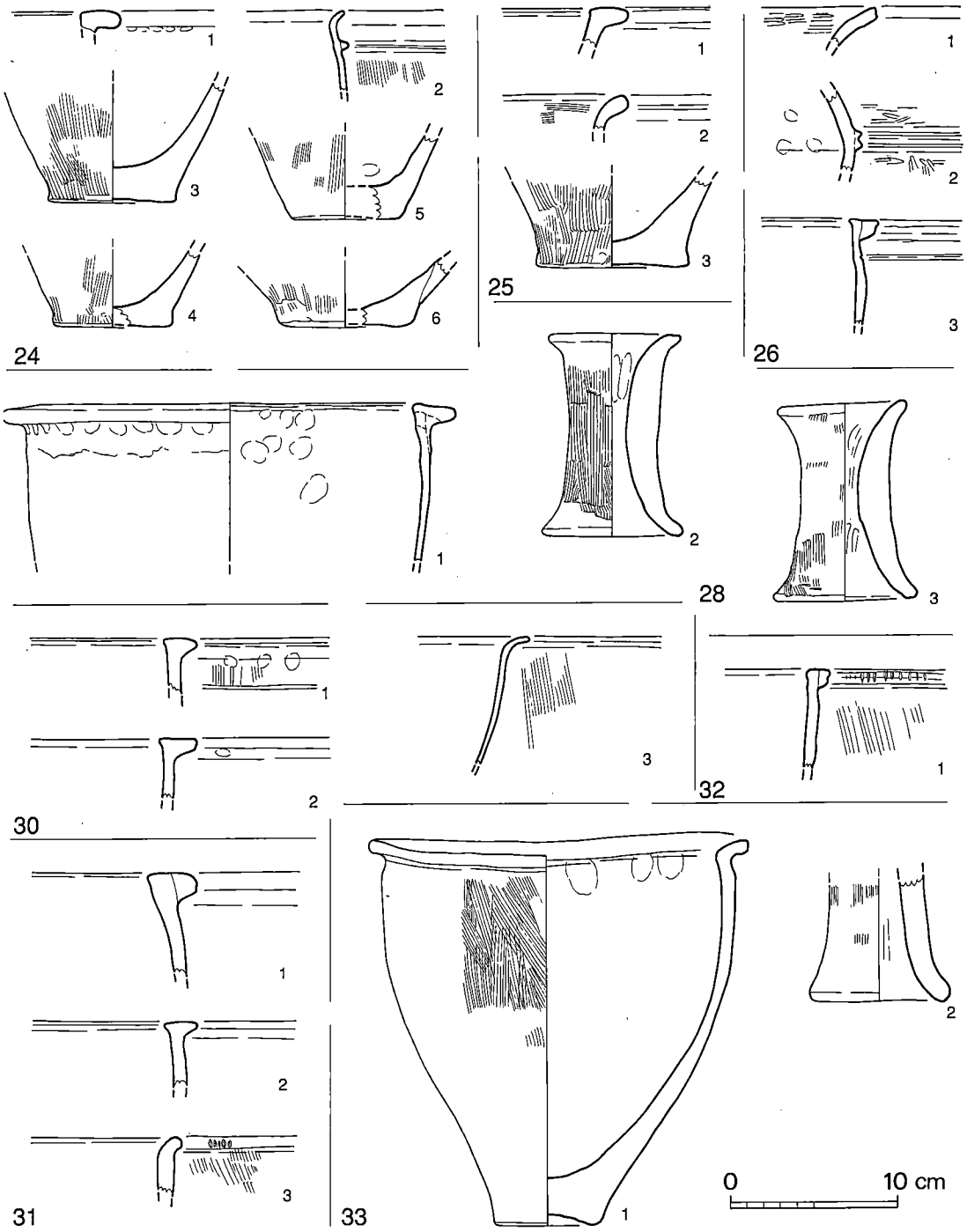
20号住居跡の床面中央で検出した土壙で，28号竪穴に切られる。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸3.4m，短軸1.35m，深さ0.14mを測る。土壙の中央にあるピットは20号住居跡に伴うもの。底面はほぼ水平である。

出土遺物（第65図）

土　器（1～3）　1～3は甕の口縁部小片で，1・2が逆L字形，3は如意形を呈する。3の口唇部にはヘラ先によるキザミ目を付している。



第64図　28～32号土壙実測図（1/40）



第65図　24～26・28・30～33号土壙出土土器実測図（1/4）

32号土　壙（第64図）

20号住居跡の南壁床面で検出した。平面形は隅丸方形を呈し，長軸1.8m，短軸1.7m，深さ0.14mを測る。底面はほぼ水平。

出土遺物（第65図）

土　器（1）　1は逆L字形口縁の甕で，肥厚する。口唇部にキザミ目を付している。

33号土　壙（第66図）

32号土壙の1.5m南東側に位置し，23号住居跡を切る。平面形は楕円形を呈し，長軸1.1m，短軸0.75m，深さ0.38mを測る。東側にはテラスを有する。

出土遺物（図版46-6，第65図）

土　器（1・2）　1は逆L字形口縁の甕で，器高23.7cm，復原口径22.8cm，底径6.4cmを測る。器壁は全体的に肉厚。2は器台の底部破片で，底径は8.4cm。1と同様に器壁が厚い。

34号土　壙（図版21-1，第66図）

31号土壙の2m北西側に位置し，17号住居跡，26・28号竪穴に切られ，19号住居跡を切る。不整方形を呈し，西辺長1.8m，深さ0.13mを測る。北側は一段深くなる。

出土遺物（図版47-1・60-2・61-1，第67・127～129図）

土　器（1～16）　1・2は鋤先状口縁壺で，2の口縁部平坦面はほぼ水平。復原口径は36.0cm。3・4は壺の底部で，3は球状に張るようだ。5～11は甕で，5は逆L字形口縁。6・7は「く」字形口縁を呈し，6の頸部下位には三角凸帯を貼付する。8～11は底部破片で，8・9は平底，10・11は上底を呈する。12は鉢で，口縁部は「く」字形に屈曲する。13は高坏の脚部。14は器台で，15は支脚。16は蓋で，摘みを欠くが，富士山形を呈しよう。

石　器（16・19）　16は砥石で，現状で4面を砥面としている。石材は砂岩。19は棒状の敲石で，両端に敲打痕がみられる。長さ14.4cm，径4.2cmで，石材は安山岩。

鉄　器（4）　4は板状の鉄片で，側縁に刃部はみられない。鉄素材であろうか。

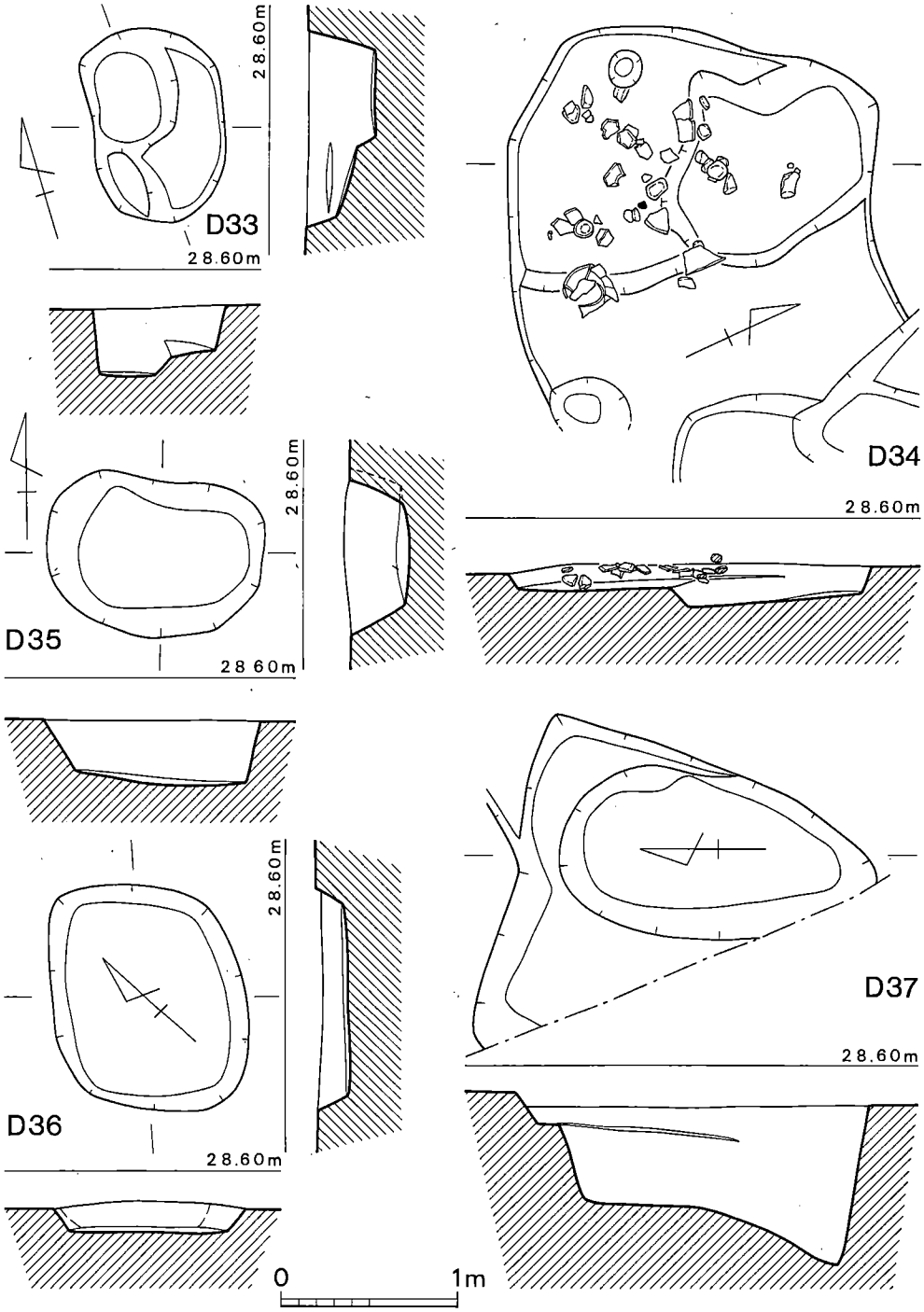
土製品（3）　3は土製の勾玉で，釣針形を呈する。長さ4.3cm，径1.5cm。

35号土　壙（第66図）

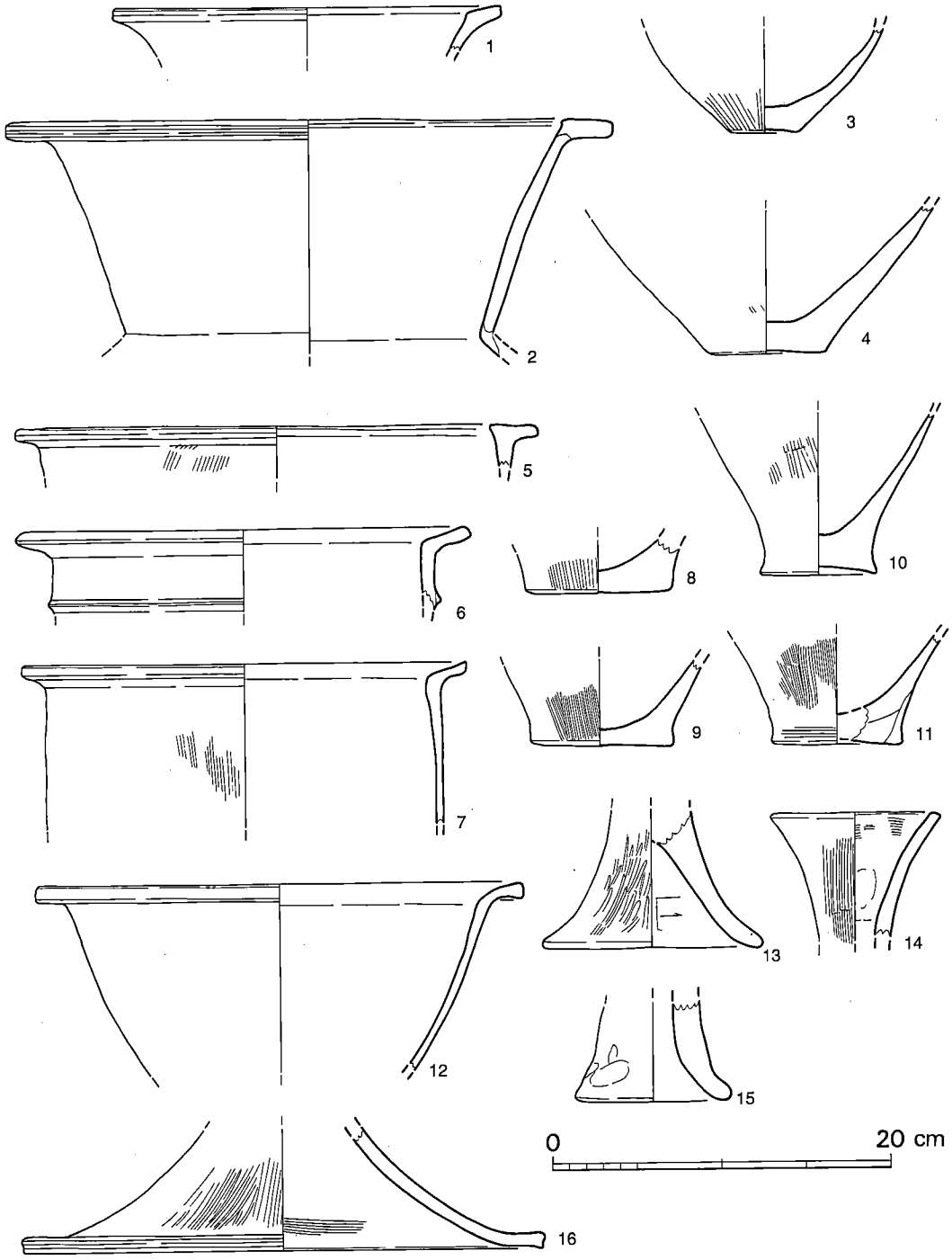
34号土壙の2m北西側に位置し，19号住居跡床面で検出した。長円形を呈し，長軸1.23m，短軸0.88m，深さ0.35mを測る。

出土遺物（図版61-2，第68・129図）

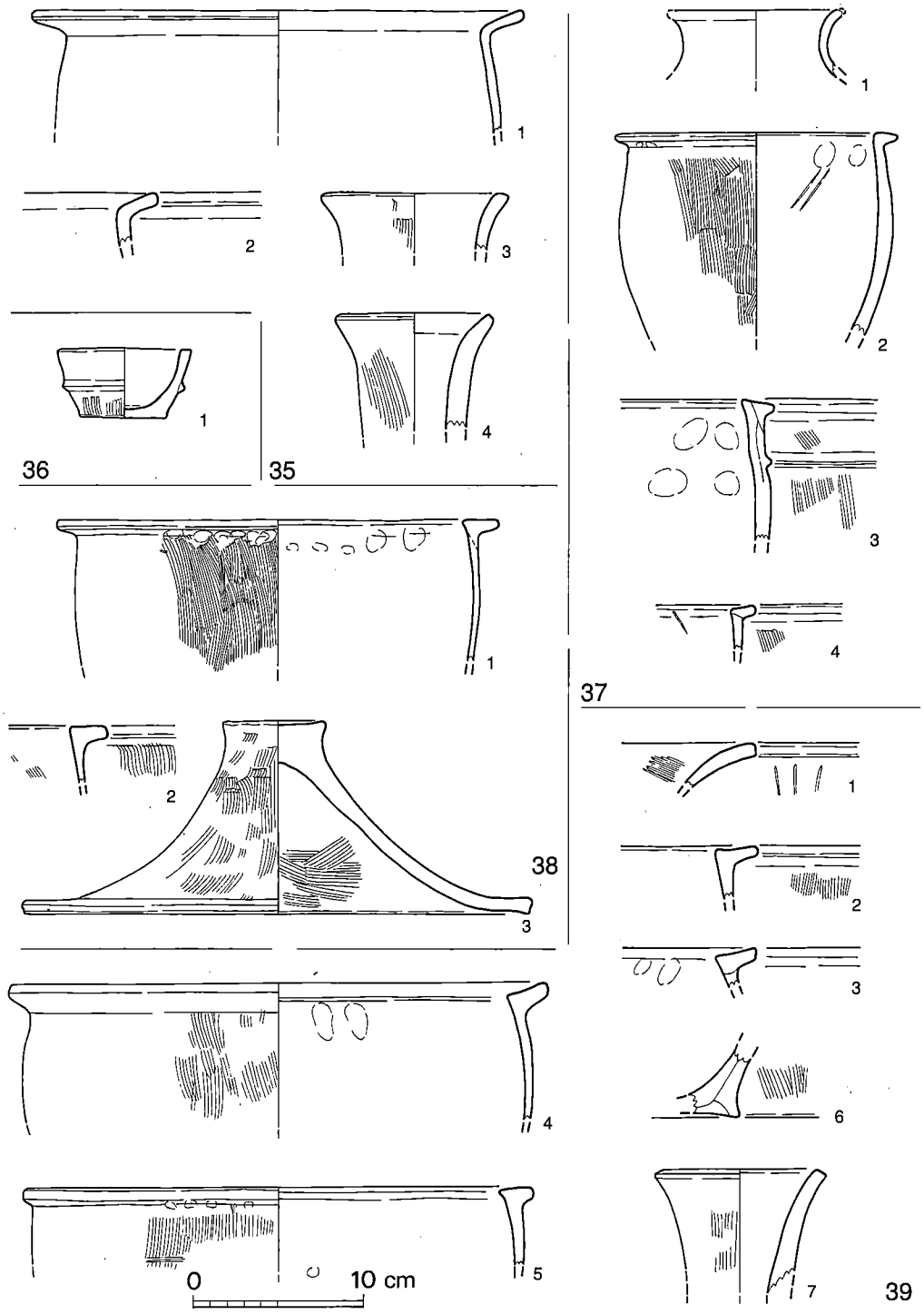
土　器（1～4）　1・2は「く」字形口縁の甕で，口唇部は丸く納める。1の復原口径は29.0cm。3・4は器台の口縁部破片。



第66図　33～37号土壙実測図（1/40）



第67図　34号土壙出土土器実測図（1/4）



第68図　35～39号土壙出土土器実測図（1/4）

土製品（2）　2は土製の勾玉で，頭部を欠損する。幅1.2cm。

36号土　壙（第66図）

35号土壙の2m西側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸1.3m，短軸1.1mで，深さは18cmと浅い。底面はほぼ水平である。

出土遺物（図版47-2，第68図）

土　器（1）　1は小型の椀で，器高は4.2cm。胴部に三角凸帯を貼付する。

37号土　壙（第66図）

36号土壙の2m南西側に位置し，半分は調査区外に進展する。隅丸方形を呈し，北辺長1.35m。東壁寄りに長さ1.8m，幅0.93m，深さ0.4mの穴が穿たれる。底面は南側に下がる。

出土遺物（第68図）

土　器（1～4）　1は小型の広口壺で，口縁部は緩やかに開く。2・4は逆L字形口縁の甕で，2の復原口径は16.6cm。3は亀の甲タイプの甕で，頸部下位に三角凸帯を貼付する。

38号土　壙（第69図）

13号住居跡の西壁に接して位置する。円形を呈し，長軸1.05m，短軸5.85m，深さ0.22mを測る。底面から浮いた状態で土器が出土した。

出土遺物（図版47-3，第68図）

土　器（1～3）　1・2は逆L字形口縁甕で，1の復原口径は26.0cm。3は富士山形の蓋で，裾部はへたばる。器高11.3cm，口径30.0cm，摘み径6.1cmを測る。内外面ともハケ目調整。

39号土　壙（第69図）

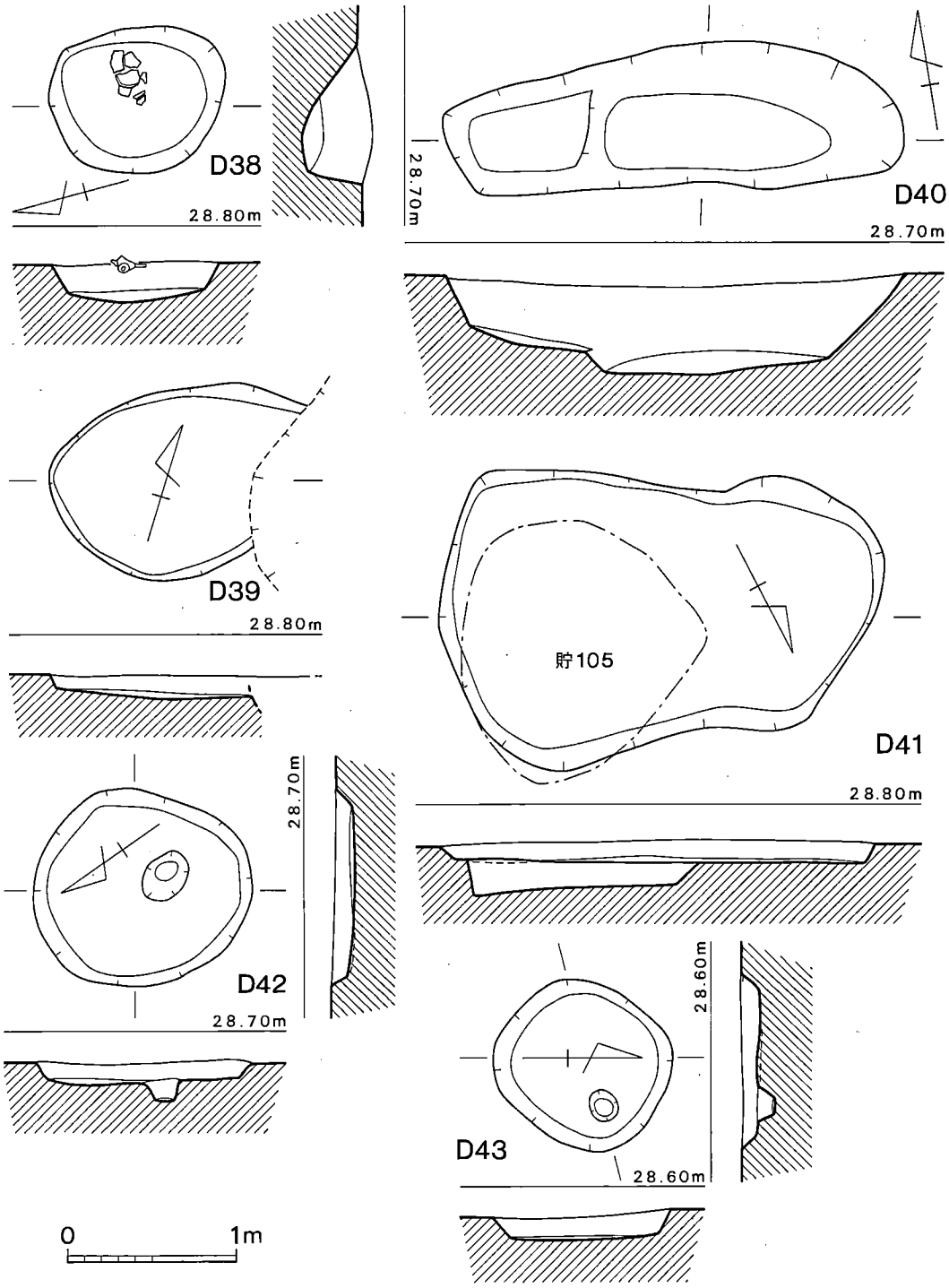
38号土壙の2.5m西側に位置し，東壁は撹乱坑に切られる。楕円形を呈し，短軸1.1mで，深さは13cmと浅い。底面はほぼ水平である。

出土遺物（第68図）

土　器（1～7）　1は広口壺の口縁部破片。2～5は逆L字形口縁の甕で，3・4は内傾する。5は口縁部が肥厚する。6は甕の底部小片。7は器台の口縁部破片で，復原口径11.6cm。

40号土　壙（第69図）

39号土壙の1m西側に位置する。靴底形を呈し，長軸2.7m，短軸0.9m，深さ0.52mを測る。西側に幅40cmのテラスを設けている。



第69図　38～43号土壙実測図（1/40）

41号土　壙（第69図）

40号土壙のすぐ西側に位置し，105号貯蔵穴を切っている。不整長方形を呈し，長軸2.6m，短軸1.76m，深さ0.12mを測る。

出土遺物（第71図）

土　器（1～3）　1・2は甕の口縁部破片で，1は逆L字形，2は亀の甲タイプ。3は器台破片。

42号土　壙（第69図）

41号土壙の3m南西側に位置する。円形を呈し，長軸1.3m，短軸1.16m，深さ0.12mを測る。底面中央に30cmのピットがある。

出土遺物（第71図）

土　器（1・2）　1は「く」字形口縁甕片で，三角凸帯を貼付する。2は器台の底部破片。

43号土　壙（第69図）

42号土壙の2m南西側に位置する。隅丸方形を呈し，長軸1.0m，短軸0.93m，深さ0.12mを測る。土器が出土しているが，小片のため図示不可能。

44号土　壙（第70図）

44号土壙の2.5m北西側に位置する。27号甕棺に切られ，127号貯蔵穴を切る。楕円形を呈し，長軸2.72m，短軸1.56mで，深さは12cmと浅い。

出土遺物（図版47-4，第71図）

土　器（1～5）　1は逆L字形口縁甕の破片。2～4は甕の底部破片。5は鼓形器台で，器高16.0cm，口径7.8cm，底径7.8cmを測る。

45号土　壙（第72図）

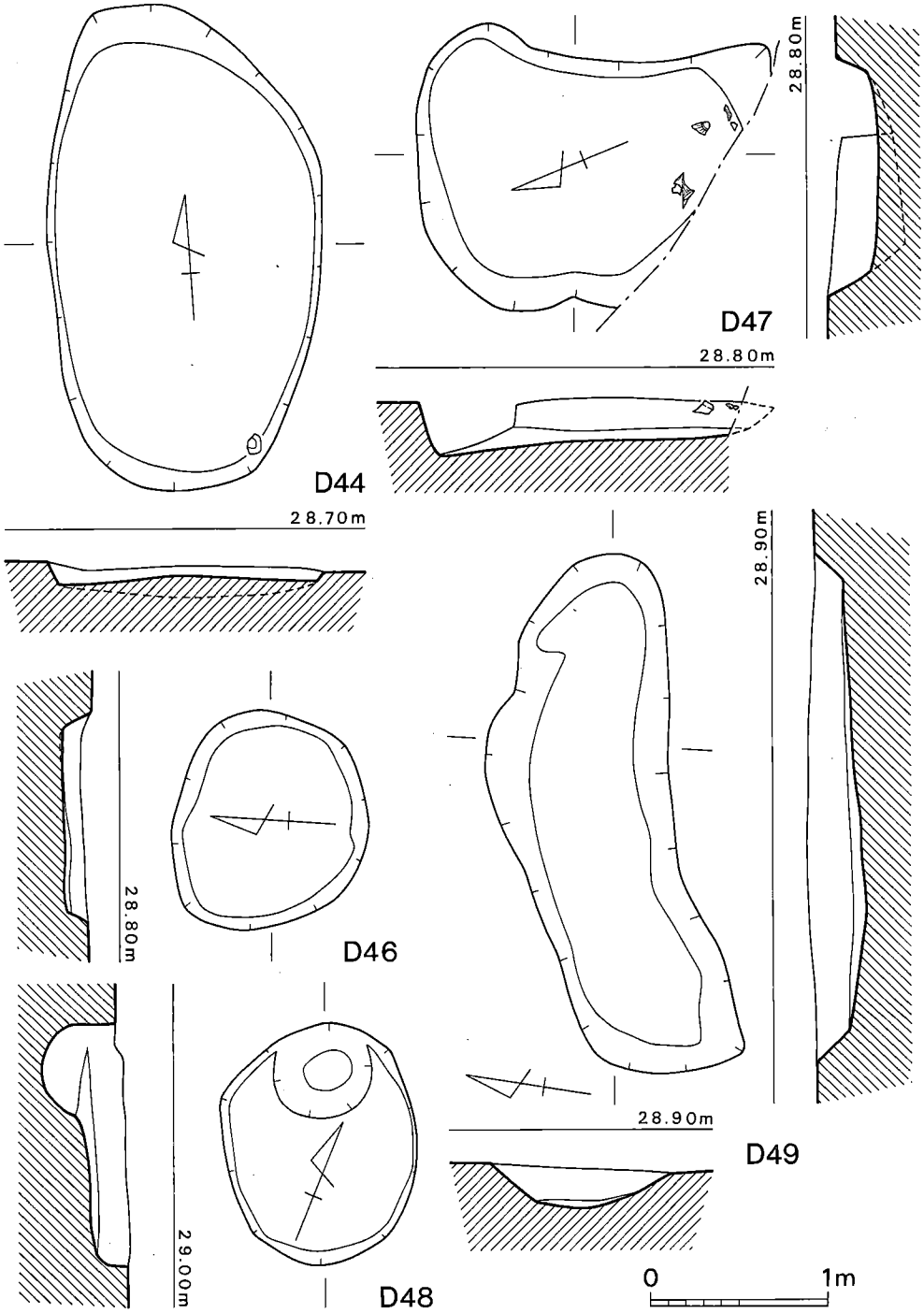
17号土壙のすぐ東側に位置し，37号貯蔵穴と重複する。貯蔵穴を先に掘ってしまったため，南壁を残すのみ。南辺長1.1mで，4cmと浅い。

出土遺物（第71図）

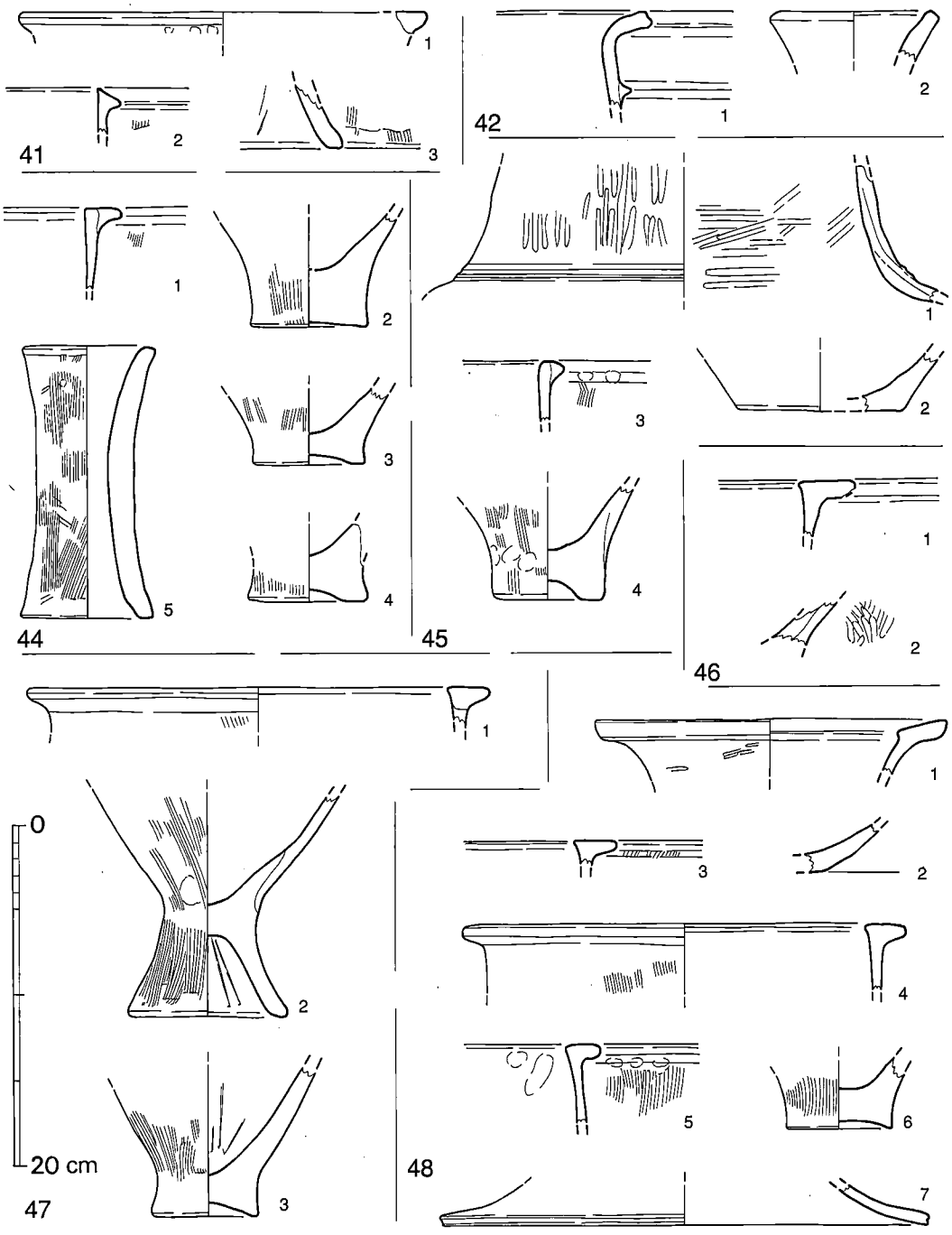
土　器（1～4）　1は壺の頸部破片で，頸部に三角凸帯を2条貼付する。2は壺の底部破片。3は甕の口縁部小片で，4は上底の甕底部破片。

46号土　壙（第70図）

44号土壙の3m北側に位置する。偏円形を呈し，長軸1.25m，短軸1.1m，深さ0.1mを測る。底面はほぼ水平で，土器が出土した。



第70図　44・46～49号土壙実測図（1/40）



第71図　41・42・44～48号土壙出土土器実測図（1/4）

出土遺物（第71図）

土　器（1・2）　1は逆L字形口縁甕の小破片。2は壺の底部片で，ミガキを施す。

47号土　壙（図版21-2，第70図）

46号土壙の3m西側に位置する。不整長方形を呈し，長軸2.0m，短軸1.4m，深さ0.25mを測る。底面は北側に傾斜している。

出土遺物（第71図）

土　器（1～3）　1は逆L字形口縁の甕片。2・3は甕の底部で，2は脚台状を呈する。

48号土　壙（第70図）

46号土壙の6m北側に位置し，10号竪穴を切っている。円形を呈し，長軸1.36m，短軸1.1m，深さ0.25mを測る。底面北側に径55cmのピットがある。

出土遺物（第71図）

土　器（1～7）　1は鋤先状口縁壺で，平坦面は内傾する。2は壺の底部破片。3～5は逆L字形口縁の甕で，4の復原口径は26.0cm。6は甕の底部片。7は蓋の口縁部破片で，口径は28.8cm。

49号土　壙（第70図）

19号竪穴の1m北側に位置する。平面形は長円形の溝状を呈し，長軸2.95m，短軸1.05m，深さ0.3mを測る。埋土中から土器が出土した。

出土遺物（第73図）

土　器（1・2）　1・2は甕の口縁部破片で，1は逆L字形，2は「く」字形を呈する。

50号土　壙（第72図）

49号土壙の1.5m東側に位置する。平面形は楕円形を呈し，長軸2.0m，短軸1.32mで，深さは7cmと浅い。底面はほぼ水平である。

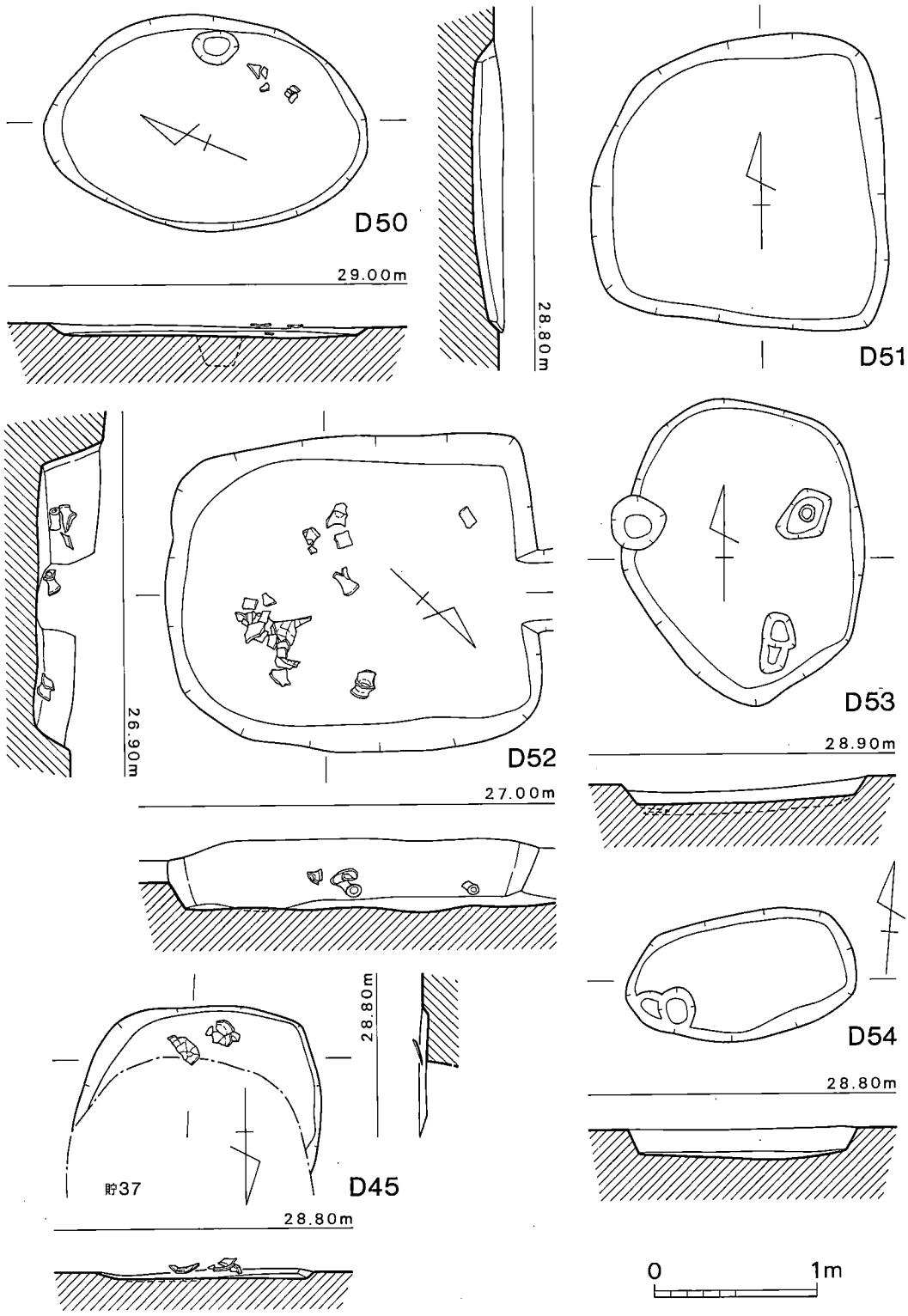
出土遺物（第73図）

土　器（1～7）　1は逆L字形口縁甕の小片。2・3は甕の底部破片。4～6は器台の口縁部破片で，鼓形を呈しよう。7は蓋の口縁部破片。

51号土　壙（第72図）

50号土壙の5m北側に位置し，7号住居跡に切られる。平面形は隅丸方形を呈し，長軸2.0m，短軸1.32m，深さ0.2mを測る。底面はほぼ水平である。

出土遺物（第73図）



第72図　45・50～54号土壙実測図（1/40）

土　器（1～6）　1は広口壺の口縁部小片。2は底径2.6cmの破片で，小型壺の底部になるか。3・4は逆L字形口縁甕の小片。5は甕の底部破片。6は蓋の口縁部小片。

52号土　壙（第72図）

13号竪穴の5m北東側に位置し，旧11号溝に切られる。隅丸長方形を呈し，長軸2.25m，短軸1.93m，深さ0.45mを測る。底面はほぼ水平で，浮いた状態で土器が出土した。

出土遺物（図版47-5，第74図）

土　器（1～18）　1は壺の口縁部で，端部に粘土帯を貼付し，鋤先状となす。口唇部にはヘラ先によるキザミ目を施す。2～8は甕の口縁部で，2・5～8は逆L字形を呈し，2・8は肥厚する。3・4は亀の甲タイプで，2・3・5～7は頸部下位にヘラ沈線を施す。10～16は甕の底部破片で，10は平底，13・14は肉厚の平底，11・15は内窪み，12・16は上底を呈する。また，15は蓋になる可能性がある。9は復原口径19.6cmで，鉢の口縁部になろう。17は支脚で，器高10.6cm。中央に径2cmの穴を空ける。18は蓋の口縁部小片。

53号土　壙（第72図）

69号住居跡の1m西側に位置する。平面形は長円形を呈し，長軸1.9m，短軸1.5mで，深さは12cmと浅い。底面はほぼ水平で，ピットが2個ある。

出土遺物（第73図）

土　器（1～4）　1・2は亀の甲タイプの甕で，2は頸部下位にヘラ沈線を施す。3・4は甕の底部破片で，上底を呈する。

54号土　壙（第72図）

53号土壙の2.5m北側に位置する。平面形は長円形を呈し，長軸1.43m，短軸0.8mで，深さ0.2mを測る。底面はほぼ水平で，ピットが1個ある。

出土遺物（第73図）

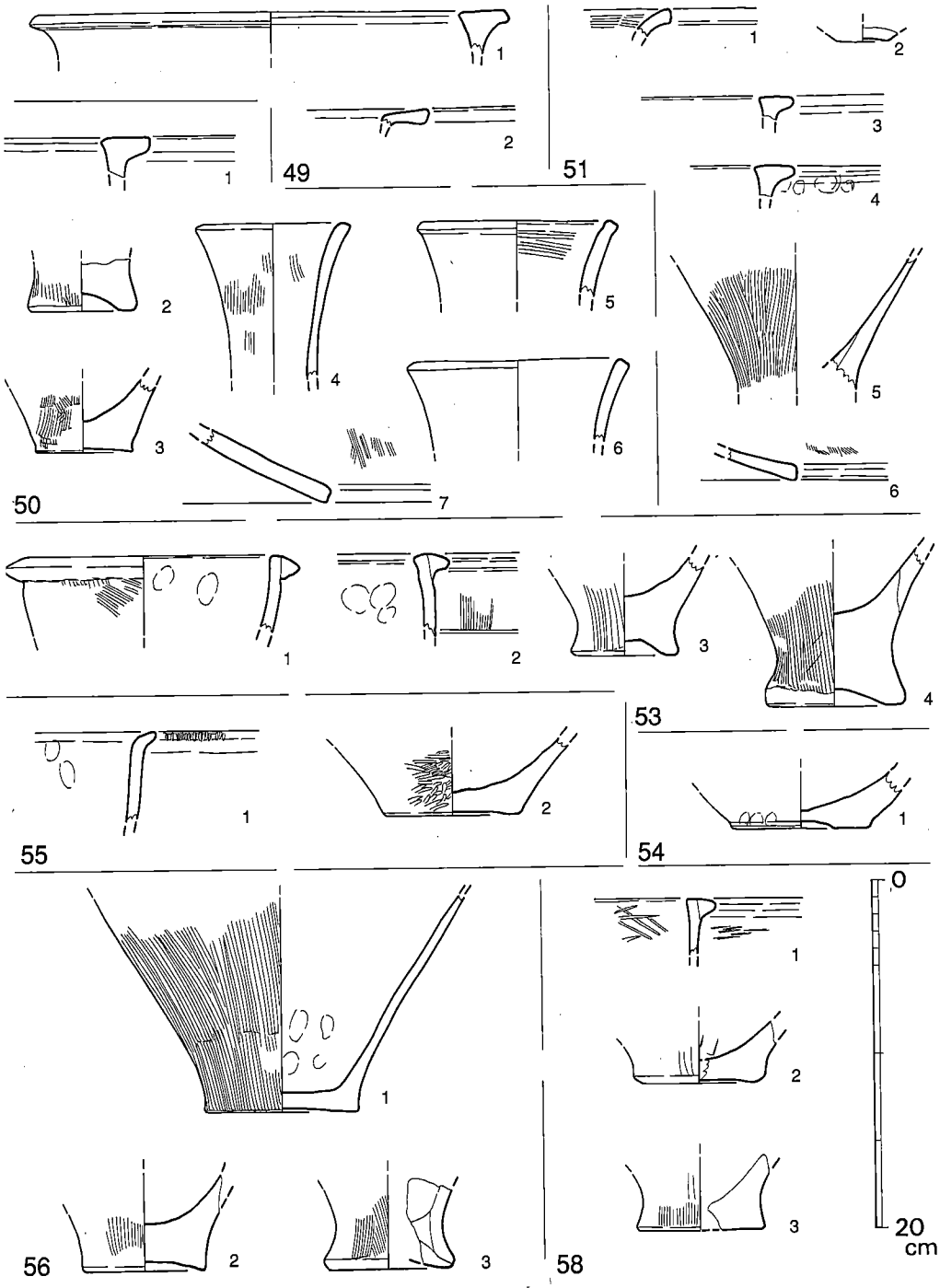
土　器（1）　1は復原底径8.0cmで，前期壺の底部になるか。

55号土　壙（第75図）

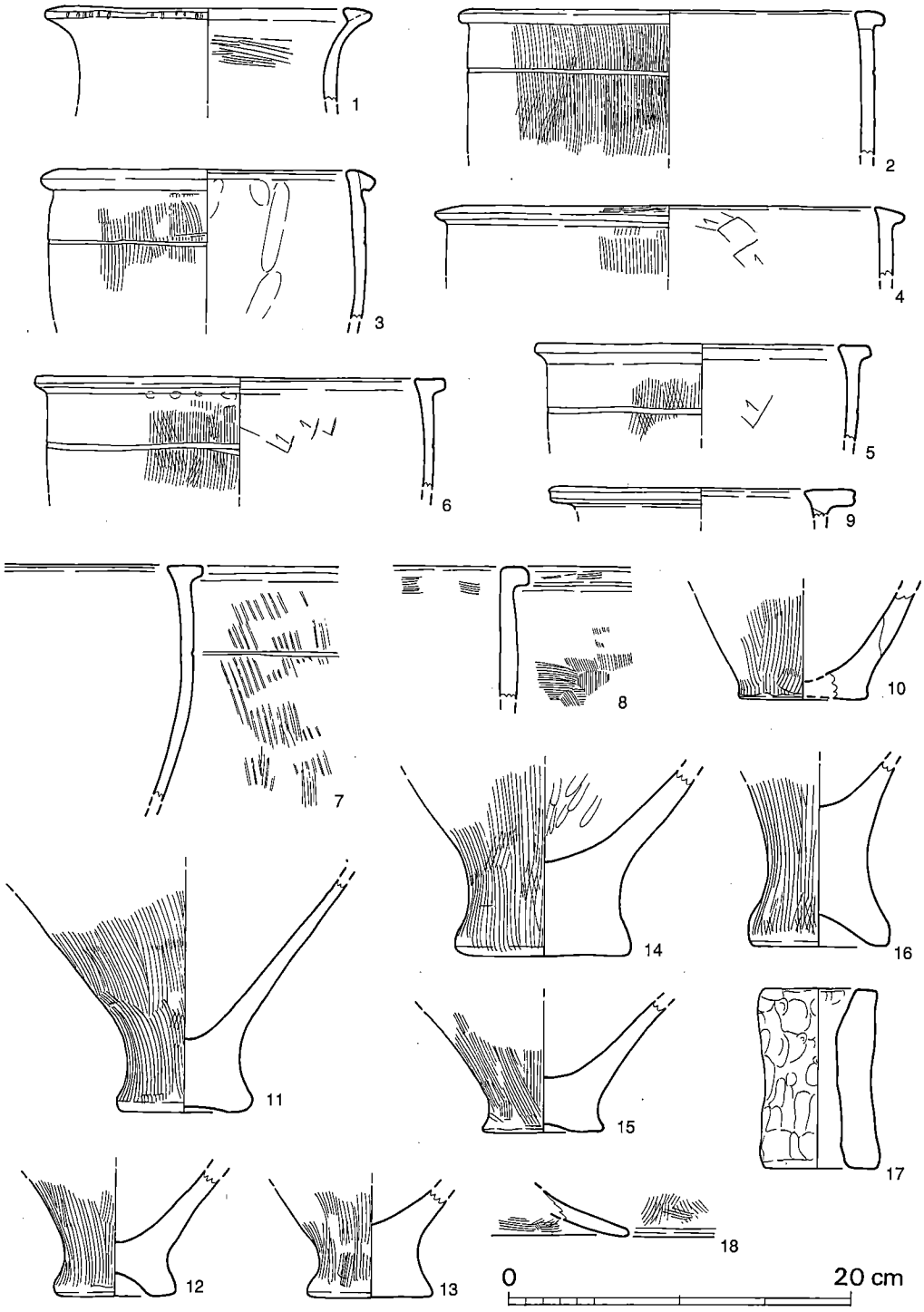
71号住居跡の2m西側に位置する。平面形は隅丸方形を呈し，長軸1.16m，短軸1.12m，深さ0.17cmを測る。底面にはピットが4個ある。

出土遺物（第73図）

土　器（1・2）　1は如意形口縁の甕で，口唇部にキザミ目を施す。2は壺の底部破片。



第73図　49～51・53～56・58号土壙出土土器実測図（1/4）



第74図　52号土壙出土土器実測図（1/4）

56号土　壙（第75図）

55号土壙のすぐ西側に位置する。平面形は隅丸方形を呈し，長軸1.35m，短軸1.22mで，深さは10cmと浅い。底面にはピットが5個程ある。

出土遺物（図版47-6，第73図）

土　器（1～3）　1～3は甕の底部で，1は平底，2は上底，3は肉厚の上底を呈する。

57号土　壙（図版21-3，第75図）

32号住居跡の2m北側に位置する。長円形を呈し，長軸1.35m，短軸0.75m，深さ0.32mを測る。底面から10cm程浮いた状態で，土器が出土した。

出土遺物（図版47-7・48-1，第76図）

土　器（1～8）　1・2は広口壺で，口縁部は緩やかに開く。1・2とも頸部に三角凸帯を貼付する。2・3は別々に実測したが，同一個体。4は頸部の破片で，広口壺になるか。5は鋤先状口縁壺であるが，広口壺に粘土帯を貼付した形態をなす。6は逆L字形口縁甕で，7は肉厚の底部破片。8は無頸の鉢で，器高15.5cm，復原口径26.6cm。口縁の下位にヘラ沈線を施す。

58号土　壙（第75図）

4号建物跡のすぐ南側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸2.15m，短軸1.55mで，深さは7cmと浅い。底面にはピットが数個あるが，関連するか不明。

出土遺物（第73図）

土　器（1～3）　1は亀の甲タイプ甕の口縁片。2・3は甕の底部破片。

59号土　壙（図版22-2，第75図）

58号土壙の1.5m東側に位置し，東端部を古墳時代の120号住居跡に切られる。平面形は不整長方形の溝状を呈し，残存長4.15m，短軸1.35m，深さ0.2mを測る。底面中央部が窪む。

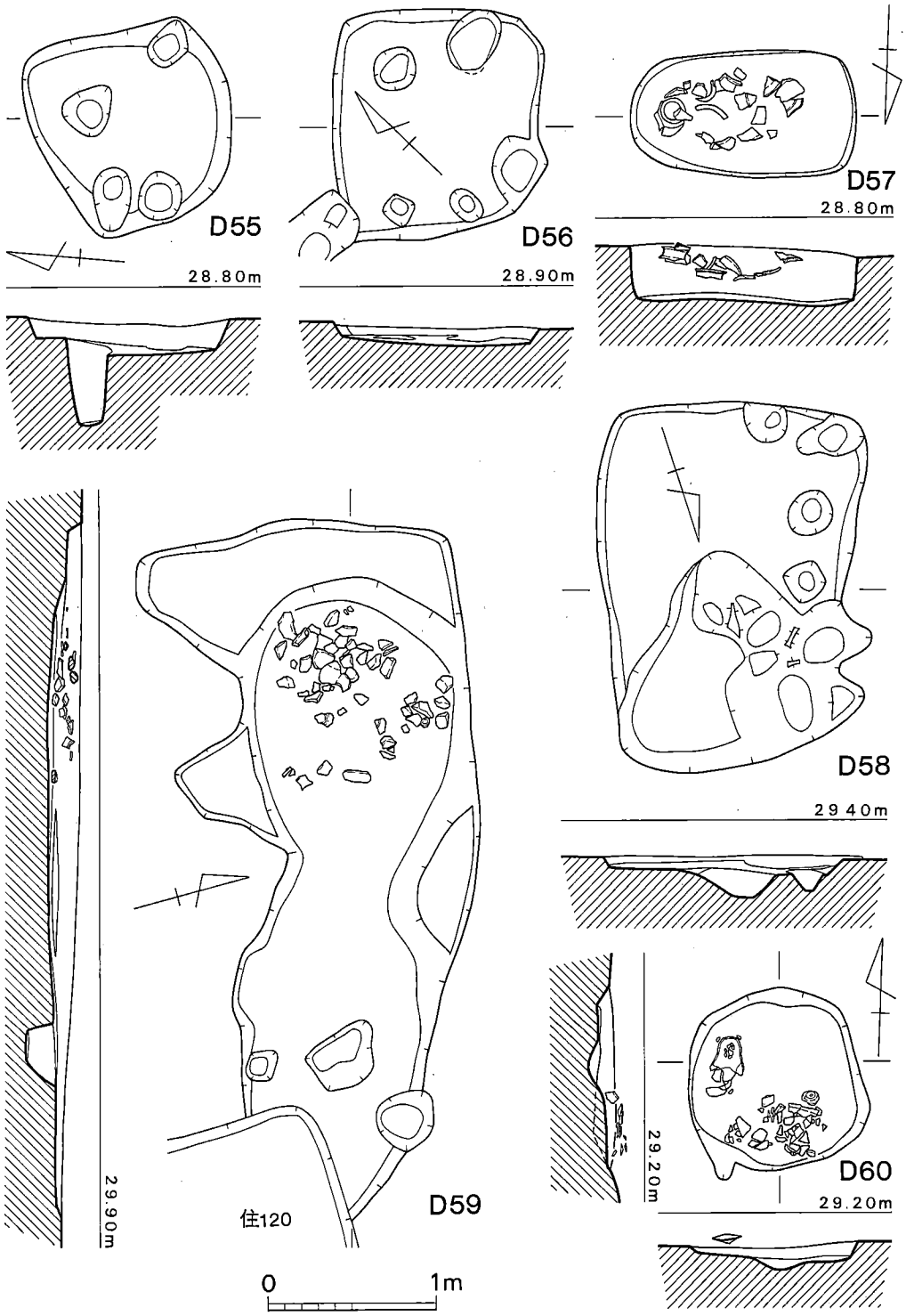
出土遺物（図版48-2，第78図）

土　器（1～8）　1・2は壺の頸部破片で，頸部に三角凸帯を貼付する。3は逆L字形口縁甕で，復原口径は26.6cm。4～6は甕の底部で，4・6は平底，5は肉厚の上底を呈する。3・4は同一個体。7は脚台状の底部破片。8は富士山形の蓋で，器高7.1cm，口径23.3cm。

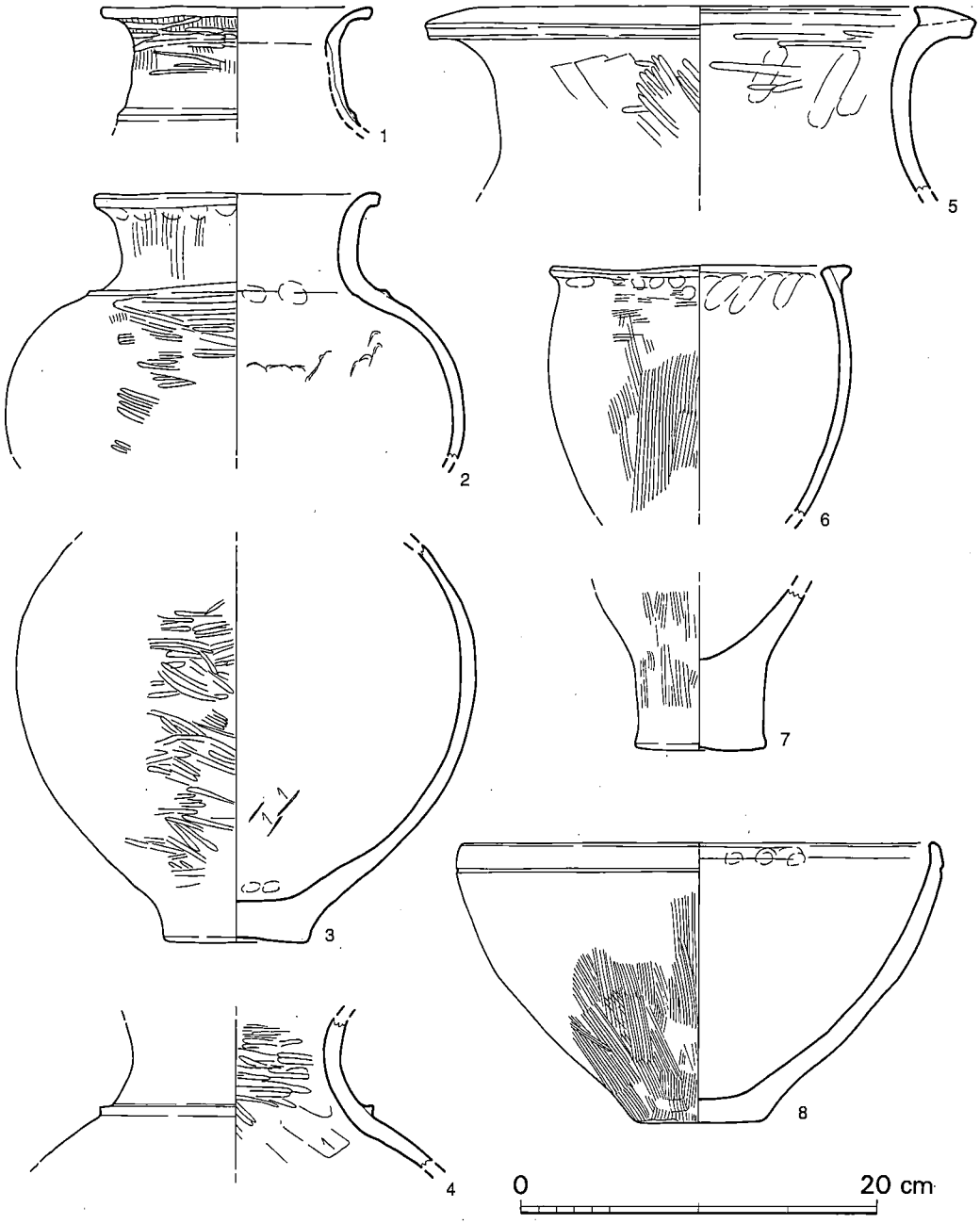
60号土　壙（図版22-2，第75図）

46号住居跡のすぐ南東側に位置する。平面形は隅丸方形を呈し，長軸1.05m，短軸1.02mで，深さは7cmと浅いものの土器が出土ている。

出土遺物（図版48-3，第79図）



第75図　55～60号土壙実測図（1/40）



第76図　57号土壙出土土器実測図（1/4）

土　器（1～7）　1～4は壺，5～7は甕である。1は広口壺で，口縁端部で屈曲する。2は鋤先状口縁壺片。3は胴部片で，M字凸帯を貼付する。4は底部破片で，復原底径6.0cm。5は逆L字

形口縁の甕で，頸部下位に2状のヘラ沈線を施文する。器高38.0cm，口径30.8cm。6は如意形口縁，7は亀の甲タイプで，頸部下位にヘラ沈線を施す。

61号土　壙（第77図）

56号住居跡の3m南側に位置する。平面形は隅丸方形を呈し，長軸1.26m，短軸1.14m，深さ0.3mで，南側はピットと重複している。

出土遺物（図版48-4，第78図）

土　器（1～5）　1～5は甕で，1は如意形口縁，2は逆L字形口縁で，1は頸部下位にヘラ沈線を巡らす。3・4は底部破片で，やや肉厚。5は蓋の口縁部小片。

62号土　壙（第77図）

46号住居跡の4m北側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸1.14m，短軸0.86m，深さ0.26mで，底面は水平である。また，南側はピットと重複している。

出土遺物（図版48-5，第78図）

土　器（1）　1は逆L字形口縁の甕で，平坦面は外方に垂れる。復原口径は30.2cm。

63号土　壙（図版23-1，第77図）

48号竪穴に切られて北側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸2.04m，短軸1.03m，深さ0.15mで，底面から浮いた状態で土器が出土した。

出土遺物（図版48-6，第80図）

土　器（1～11）　1は壺の頸部破片で，頸部にシャープな三角凸帯を貼付する。2は壺の底部破片。3～10は甕。3～8は亀の甲タイプで，何れも頸部下位にヘラ沈線を施す。9・10は上底の底部で，肉厚である。11は体部下半が開いていることから蓋の撮みとした。

64号土　壙（第77図）

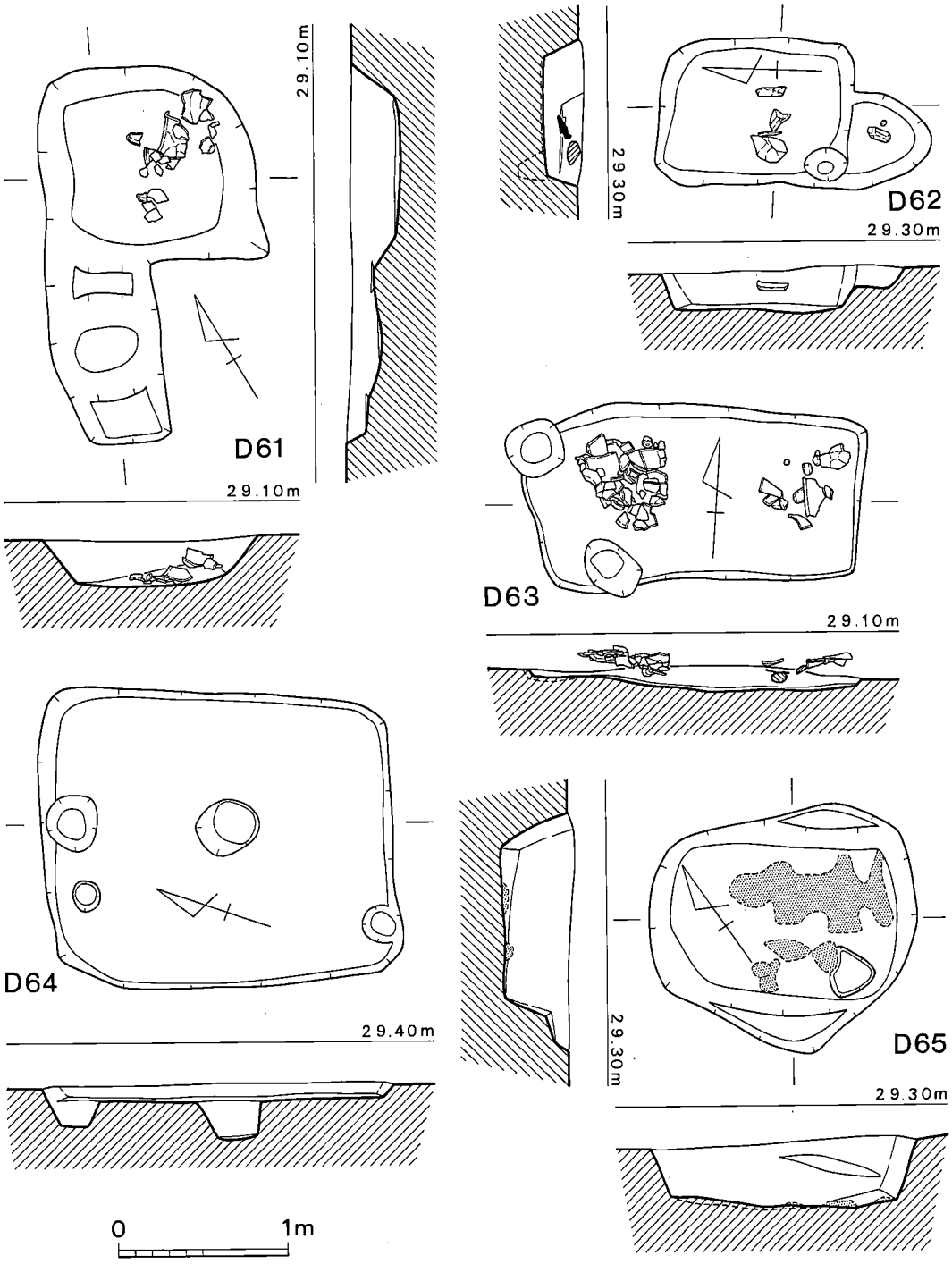
56号住居跡の4m北側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸2.07m，短軸1.75mで，深さは10cmと浅い。底面は水平で，ピットが4個ある。

65号土　壙（図版23-2，第77図）

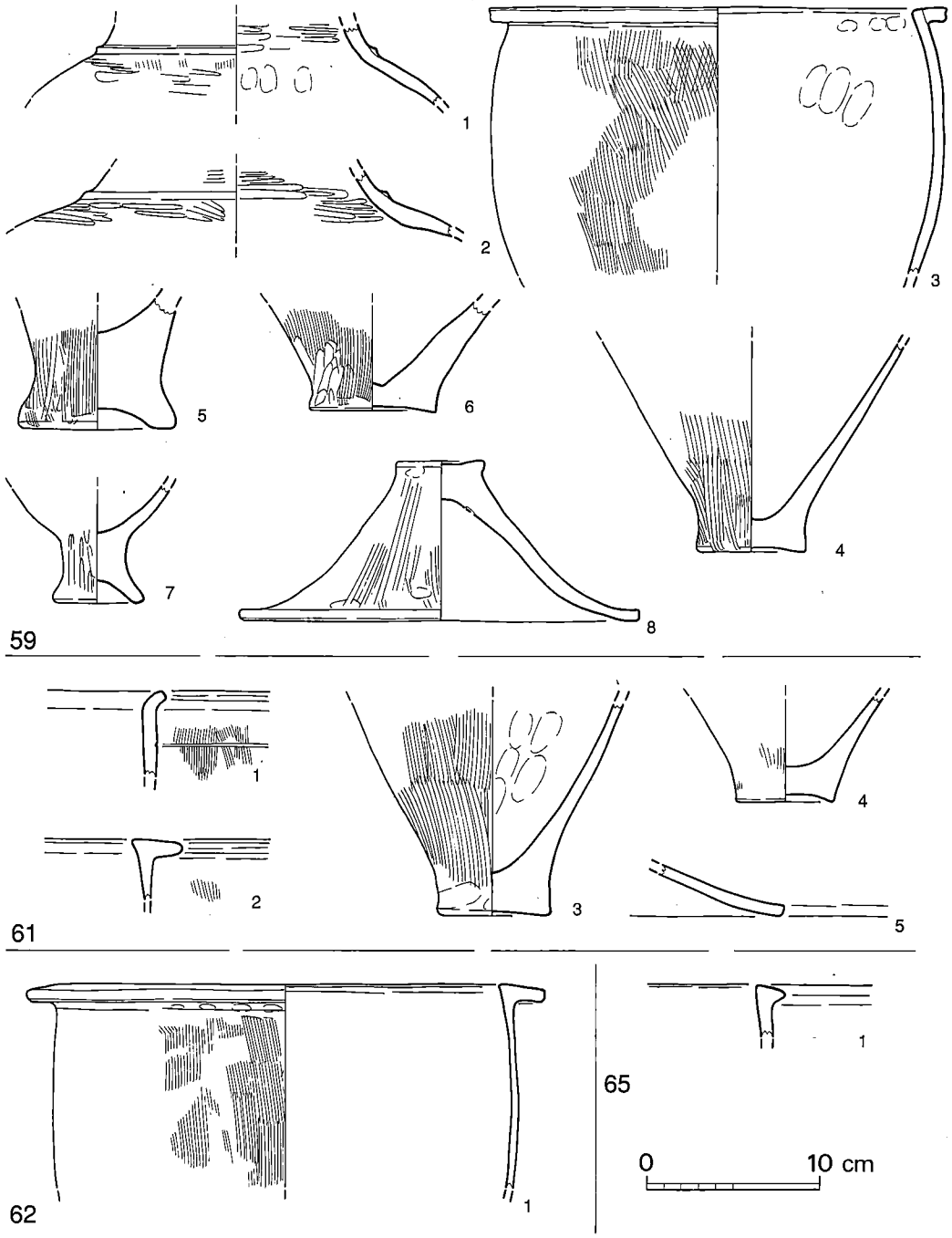
64号土壙の5m北側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸1.6m，短軸1.5mで，深さは0.4mと深めである。埋土下位には焼土がみられた。

出土遺物（第78図）

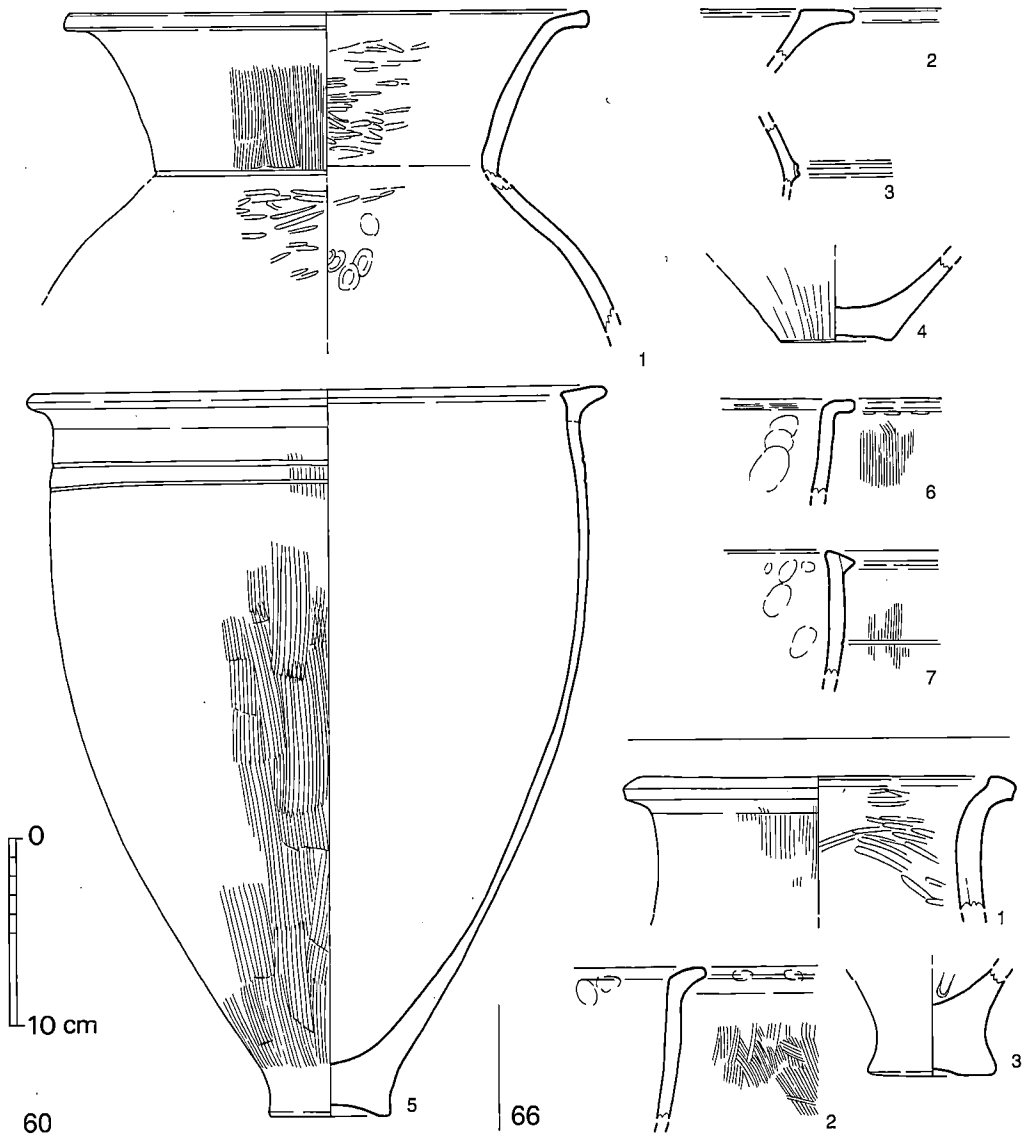
土　器（1）　1は亀の甲タイプ甕の小破片。



第77図　61～65号土壙実測図（1/40）



第78図　59・61・62・65号土壙出土土器実測図（1/4）



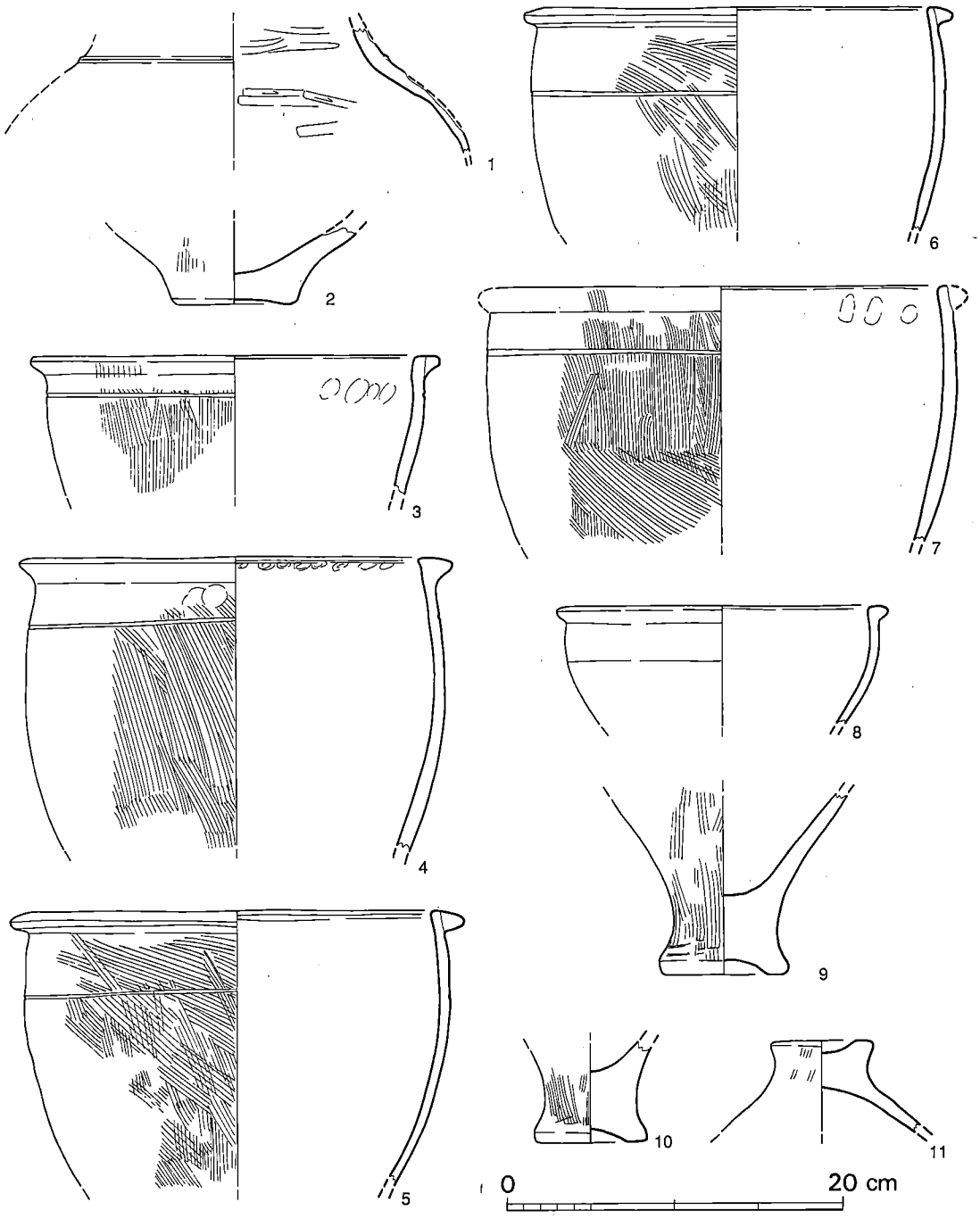
第79図　60・66号土壙出土土器実測図（1/4）

66号土　壙（第81図）

52号竪穴の1.5m南西側に位置する。平面形は長円形を呈し，長軸1.5m，短軸1.1mで，深さは0.56mと深めである。

出土遺物（第79図）

土　器（1～3）　1は壺の口縁部で，直立する頸部から若干開く。端部は肥厚し，段を有す



第80図　63号土壙出土土器実測図（1/4）

る。2は如意形状の甕の口縁部破片で，肥厚する。3は甕の底部で，内窪み。

67号土　壙（図版24-1，第81図）

66号土壙の8m南側に位置し，57号住居跡に切られる。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸4.3m，短軸2.15m，深さは0.3mを測る。底面から浮いた状態で土器が出土した。

出土遺物（図版48-7，第82・83図）

土　器（1～13）　1～11は甕で，1～8が口縁部，9～11は底部破片である。口縁部形態は1～5・7が亀の甲タイプ，6は逆L字形，8は如意形を呈する。1～5・8はヘラ沈線，6は三角凸帯を施す。10・11は肉厚の上底を呈する。12は小型の椀で，13は蓋の口縁部片。

68号土　壙（第81図）

51号竪穴の4m北西側に位置する。不整円形を呈し，長軸1.13m，短軸1.05m，深さ0.34mを測る。底面は中央部が若干窪み，ピットを有する。

69号土　壙（第81図）

53号竪穴の5m西側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸1.45m，短軸1.24m，深さ0.28mを測る。底面には不整形のピットがある。

出土遺物（第83図）

土　器（1・2）　1は甕の口縁部片で，水平に屈曲する。2は支脚の底部破片。

70号土　壙（第81図）

68号土壙の5.5m南西側に位置し，奈良時代の141・142号土壙に切られる。平面形は三角形を呈し，底面はほぼ水平である。

出土遺物（第83図）

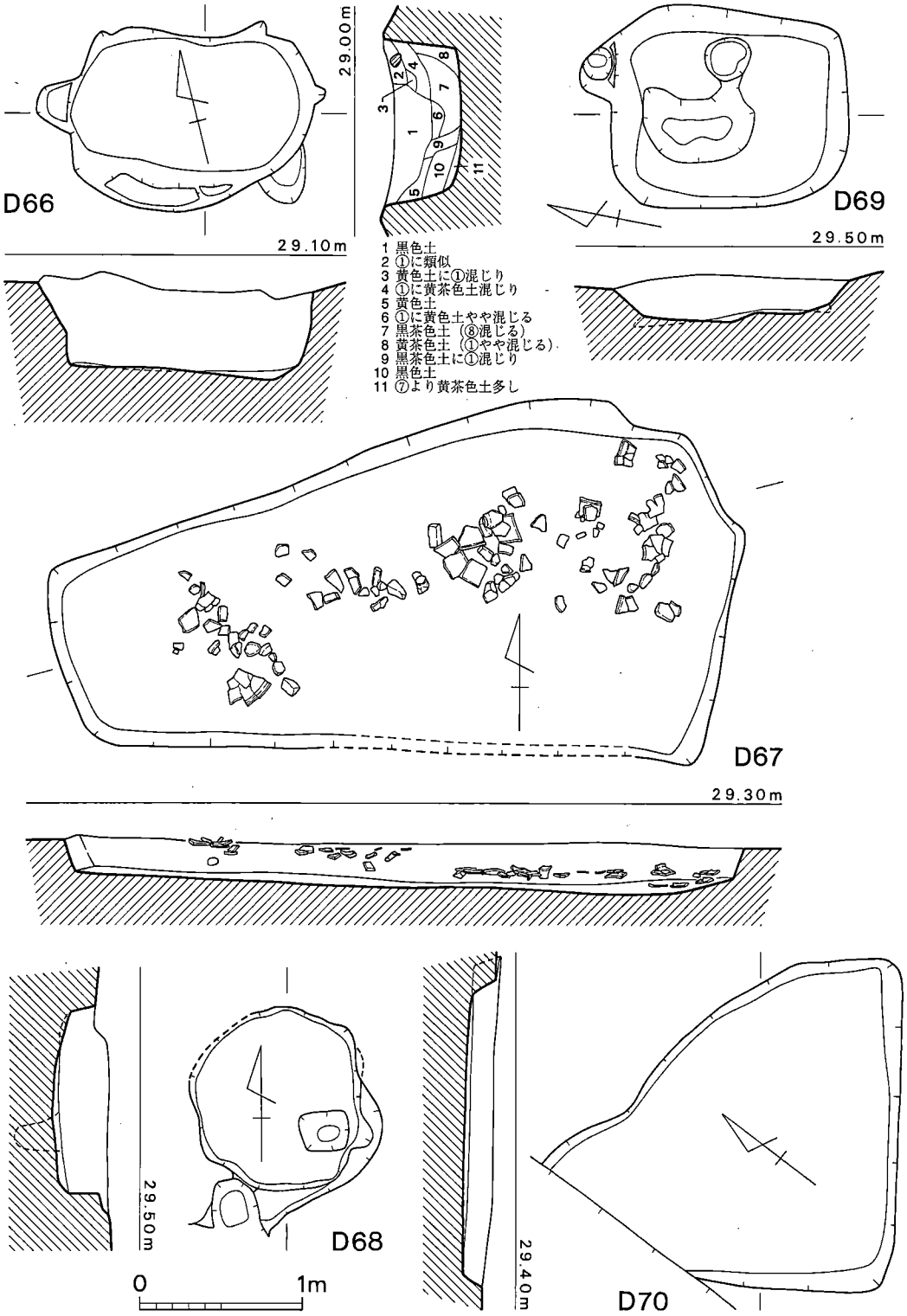
土　器（1～3）　1は如意形口縁甕の小片。2は壺の底部。3は甕の底部で，肉厚の上底。

71号土　壙（図版24-2，第84図）

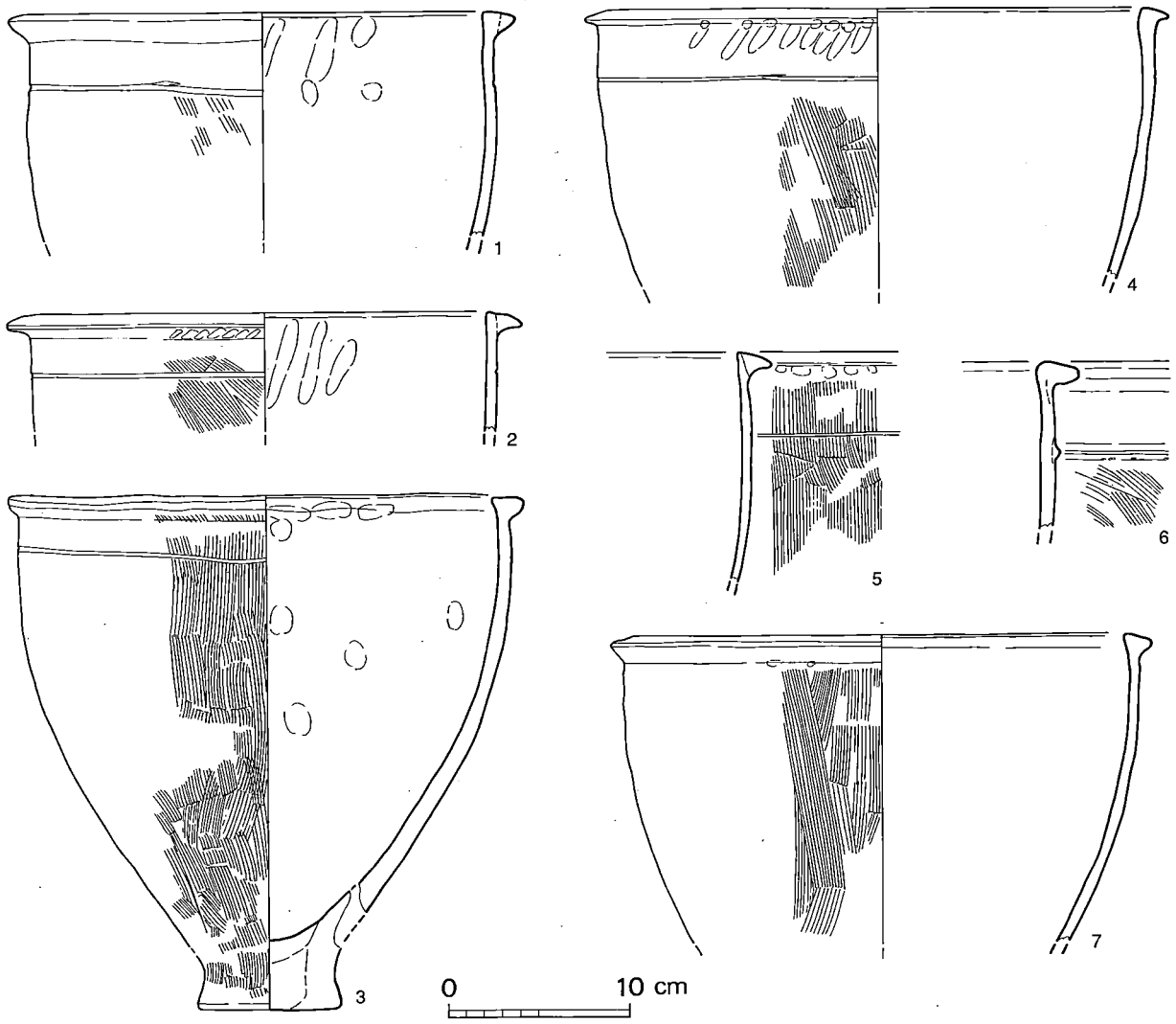
47号竪穴のすぐ東側に位置する。平面形は長円形を呈し，長軸1.8m，短軸1.15m，深さ0.4mを測り，西壁側にテラスを有する。底面より土器が出土した。

出土遺物（図版49-1，第83図）

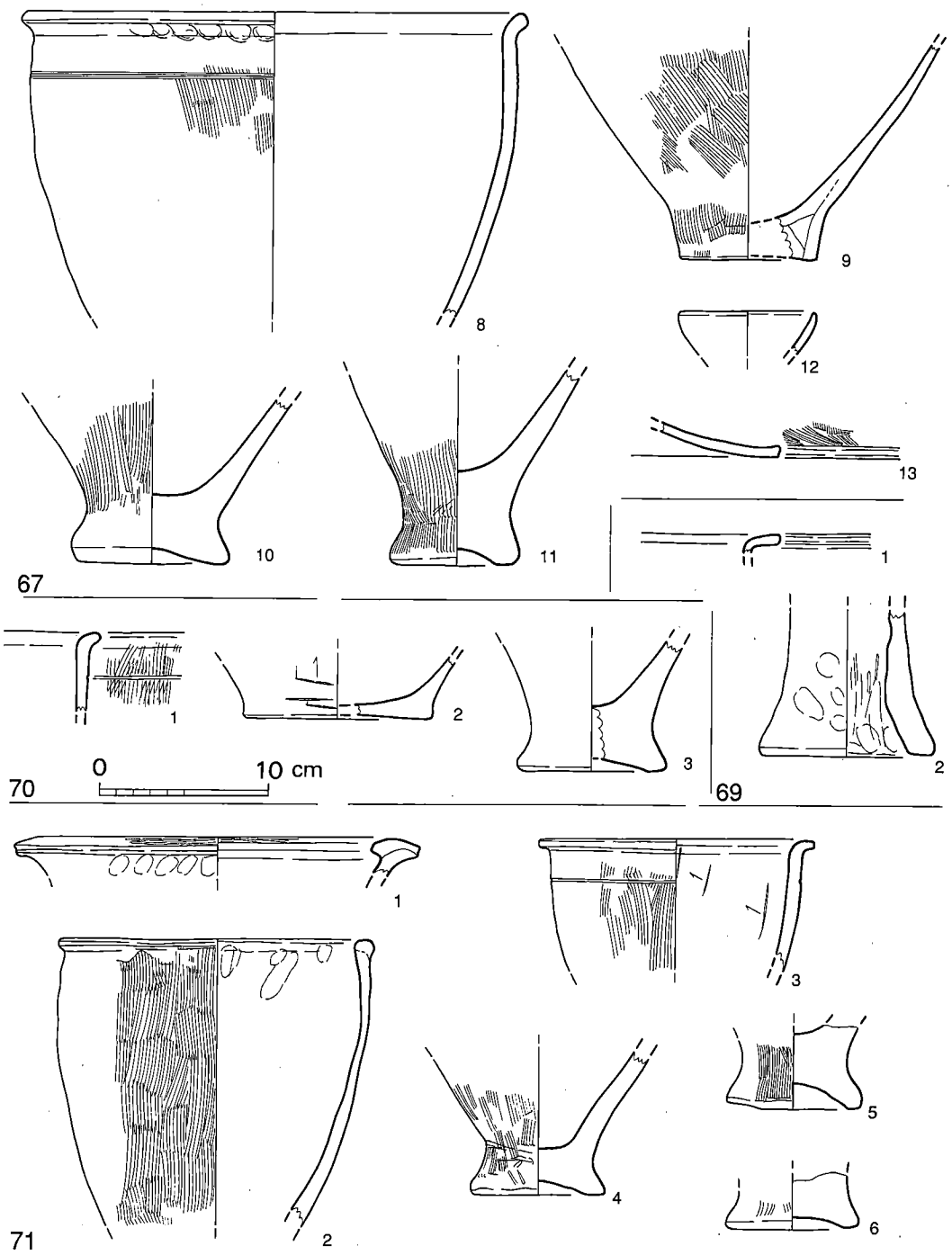
土　器（1～6）　1は口縁端部に粘土帯を貼付し，鋤先状口縁壺としたもの。2～6は甕で，2の口縁端部は肥厚するのみ。3は端部が水平に屈曲し，頸部下位にヘラ沈線を施す。4～6は底部破片で，肉厚の上底を呈する。



第81図　66～70号土壙実測図（1/40）



第82図　67号土壙出土土器実測図（1/4）



第83図　67・69～71号土壙出土土器実測図（1/4）

72号土　壙（図版25-1，第84図）

58号竪穴のすぐ東側に重複して位置する。隅丸長方形を呈し，長軸1.25m，短軸0.95m，深さ0.16mを測る。底面より若干浮いた状態で土器が出土した。

出土遺物（第85図）

土　器（1～4）　1は短頸壺で，頸部から短く外反する。2・3は底部破片で，2は壺，3は甕になろう。4は甕の底部破片で，混入したもの。

73号土　壙（第84図）

55号竪穴の8m北側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸1.6m，短軸1.15mで，底面には1.15m×0.8mの穴があり，土器が出土した。

出土遺物（図版49-2，第85図）

土　器（1～4）　1は壺の底部小片。2は亀の甲タイプの甕で，頸部下位にヘラ沈線を施す。底部は肉厚の上底をなす。器高30.3cm。3は口縁部小片。4は底部破片で，肉厚の平底。

74号土　壙（図版25-2，第84図）

73号土壙の1.5m西側に位置する。平面形は隅丸方形を呈し，長軸1.65m，短軸1.65mで，底面中央には1.35m×0.9mの楕円形の穴がある。

出土遺物（図版49-3，第85図）

土　器（1～9）　1・2は壺の底部破片で，2は高台状を呈する。3～6は甕の口縁部で，3・4が亀の甲タイプ，5・6は逆L字形を呈し，3・4は頸部下位にヘラ沈線を施す。7・8は肉厚の底部破片で，8は上底をなす。9は蓋の摘み部破片。

75号土　壙（図版26-1，第84図）

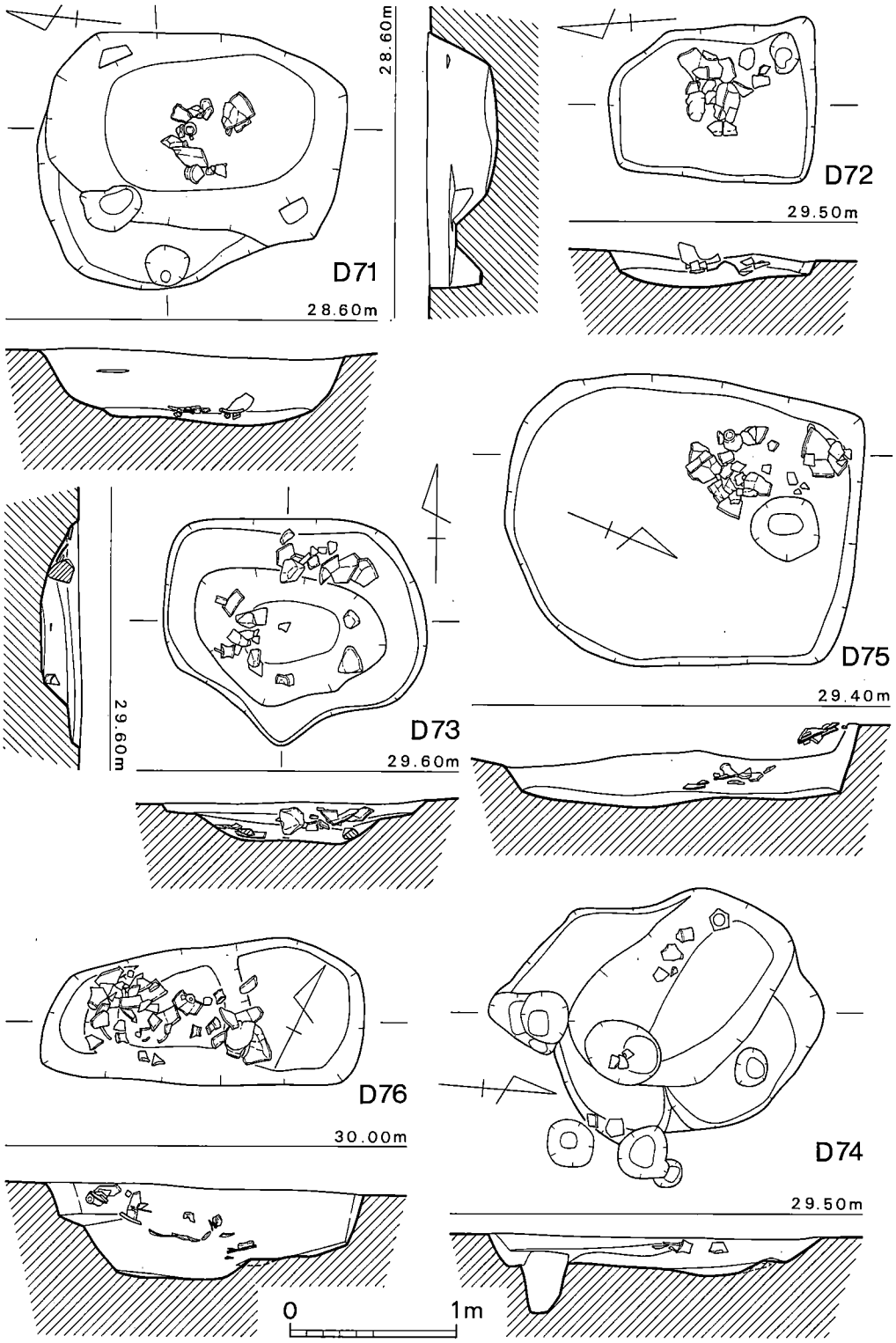
60号住居跡の西側に切られて位置する。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸2.13m，短軸1.75m，深さ0.4mを測る。底面より若干浮いた状態で土器が出土した。

出土遺物（図版49-4，第86図）

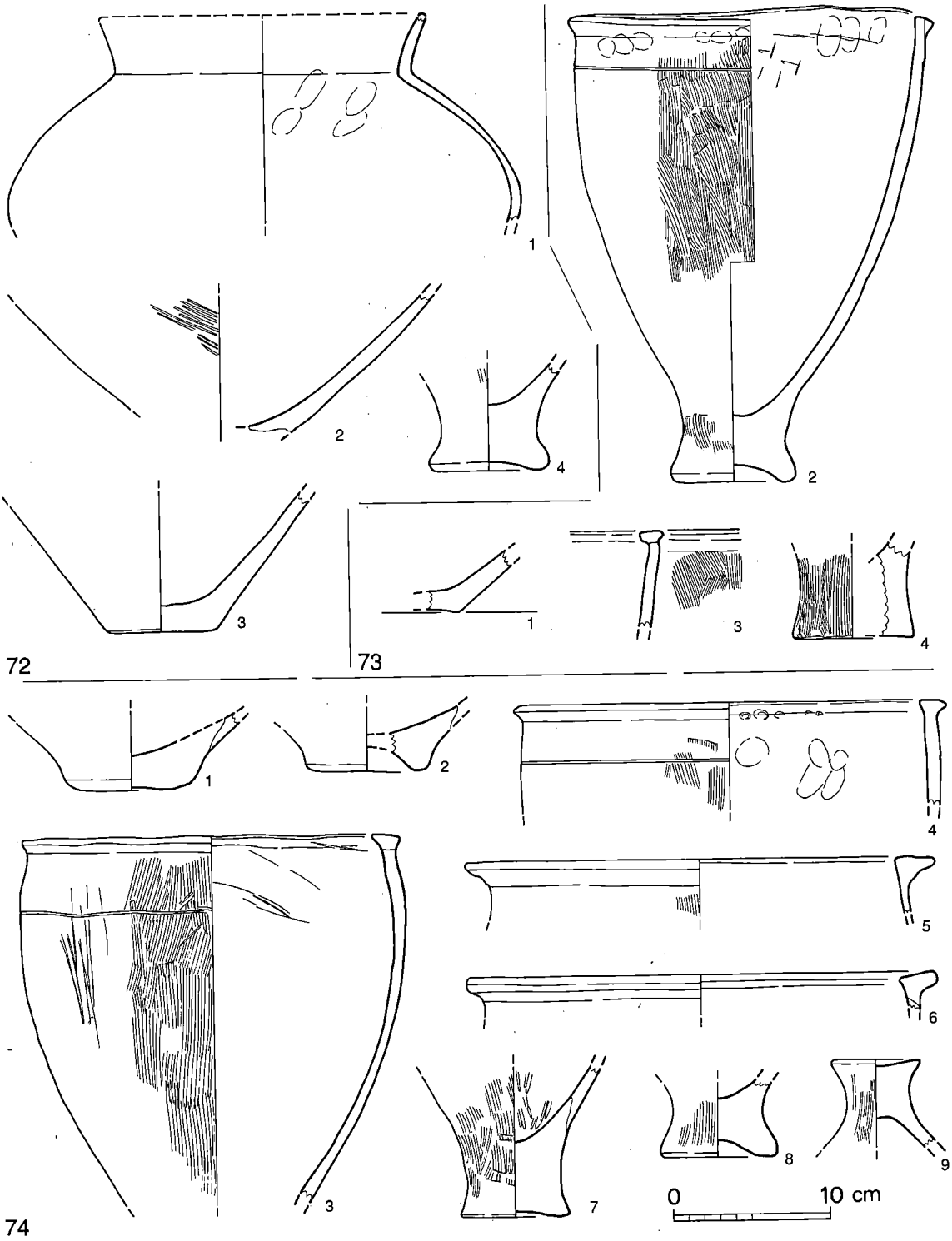
土　器（1～5）　1～4は甕で，1は如意形口縁，2・3は亀の甲タイプで，1・2は頸部下位にヘラ沈線を施す。口径は1が28.7cm，2は30.0cm，3は28.0cm。4は胴下半部の破片で，肉厚の内窪み底を呈する。5は蓋の口縁部小片で，内面に煤が遺存する。

76号土　壙（図版26-2，第84図）

60号竪穴の1m西側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸1.93m，短軸0.9m，深さ0.55mを測る。長軸の両方にテラスがあり，底面より浮いた状態で土器が出土した。

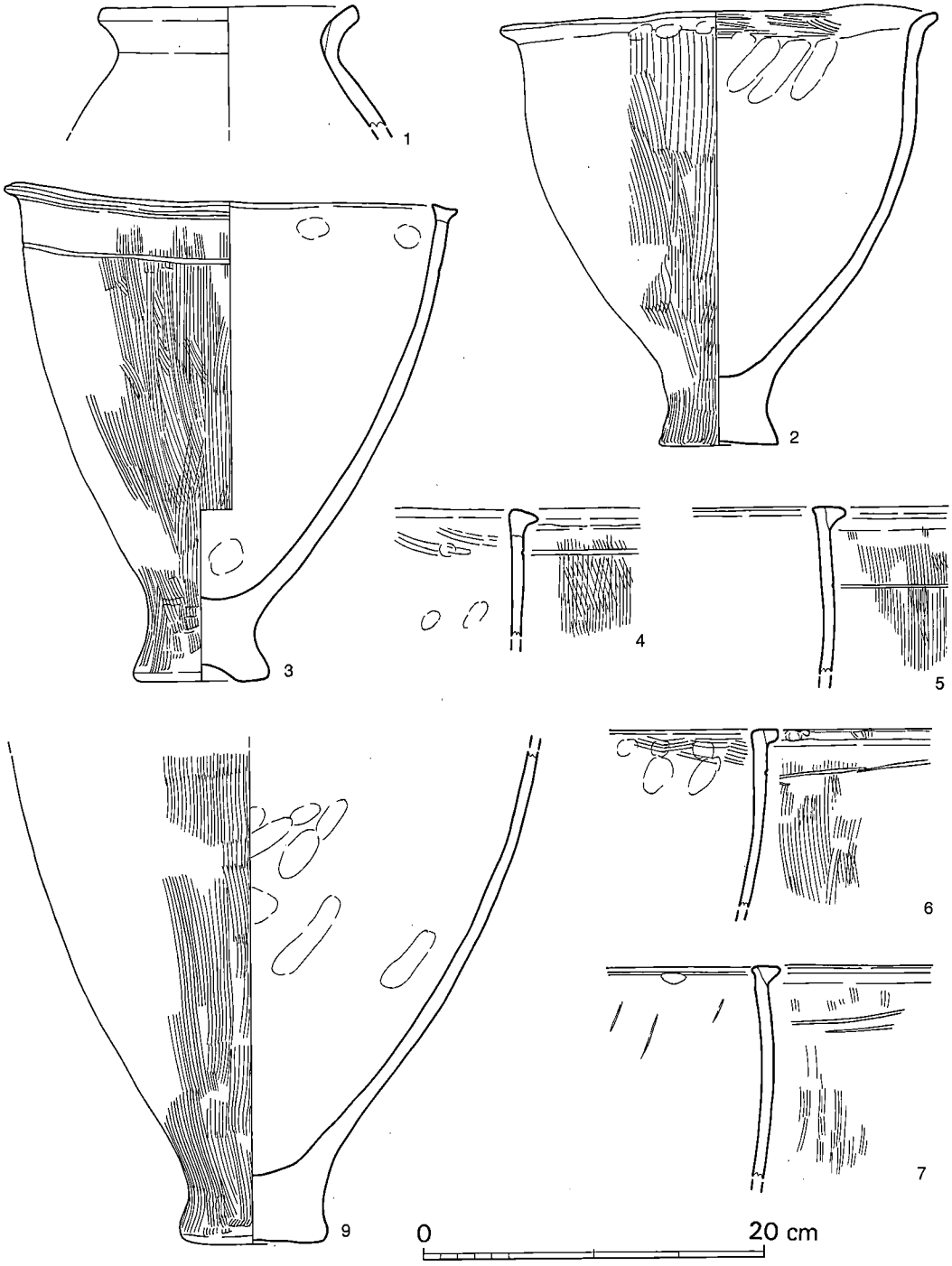


第84図　71～76号土壙実測図（1/40）

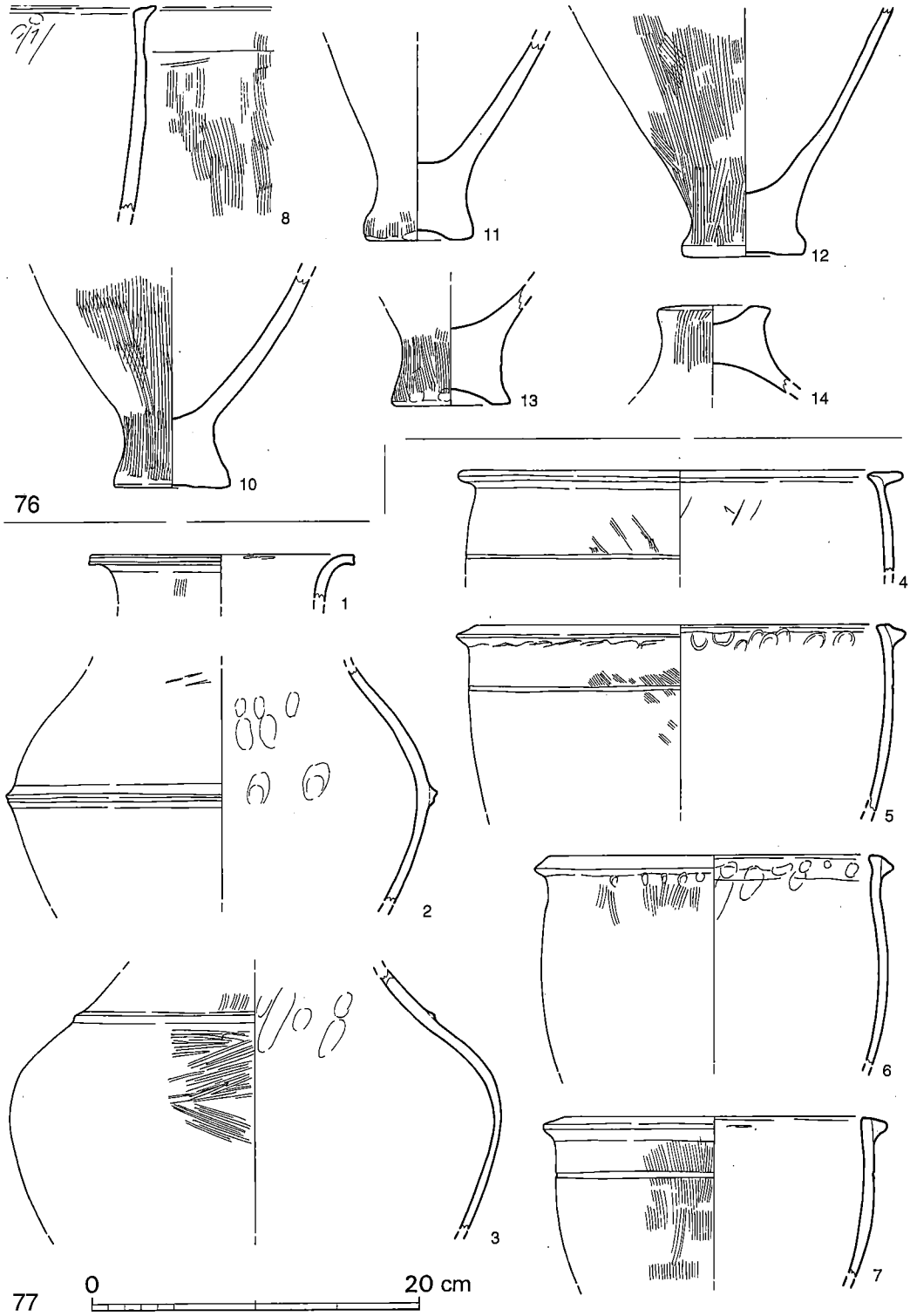


第85図　72～74号土壙出土土器実測図（1/4）

第86図　75号土壙出土土器実測図（1/4）



第87図　76号土壙出土土器実測図（1/4）



第88図　76・77号土壙出土土器実測図（1/4）

出土遺物（図版49-5，第87・88図）

土　器（1～14）　1は短頸壺で，口縁部は「く」字に屈曲する。2は如意形口縁の甕で，底部は肉厚の平底。3の口縁部は内外ともに突出し，頸部下位にヘラ沈線を施す。底部は肉厚の上底。器高は2が25.9cm，3は29.3cm。4～8は口縁部破片で，何れも頸部下位にヘラ沈線を施す。9～13は甕の底部破片で，9・10が平底，11・12が内窪み，13は上底。14は蓋の撮み部破片。

77号土　壙（図版27-1，第89図）

72号土壙の1m東側に位置する。平面形は長円形を呈し，長軸2.25m，短軸1.06m，深さ0.2mを測る。東壁側に幅0.6mのテラスがあり，底面より浮いた状態で土器が出土した。

出土遺物（図版50-1，第88・90図）

土　器（1～12）　1は広口壺の口縁部破片で，大きく開く。2・3は壺の胴部破片で，2は胴部中位にM字形凸帯を貼付し，3は肩部に三角凸帯を貼付する。4～9は甕の上半部破片で，4・9が逆L字形，5～8は亀の甲タイプを呈し，6を除き頸部下位にヘラ沈線を施す。10～12は甕の底部破片で，肉厚の上底を呈する。

78号土　壙（図版27-2，第89図）

41号竪穴の5m北側に位置する。平面形は方形を呈し，長軸1.1m，短軸0.95m，深さ0.3mを測る。土器片が出土したが，実測不可能。

79号土　壙（第89図）

17号竪穴の1m北側に位置する。平面形は不整円形を呈し，長軸2.05m，短軸1.75mで，深さは15cmと浅い。底面より若干浮いた状態で土器片が出土した。

出土遺物（図版50-2，第90図）

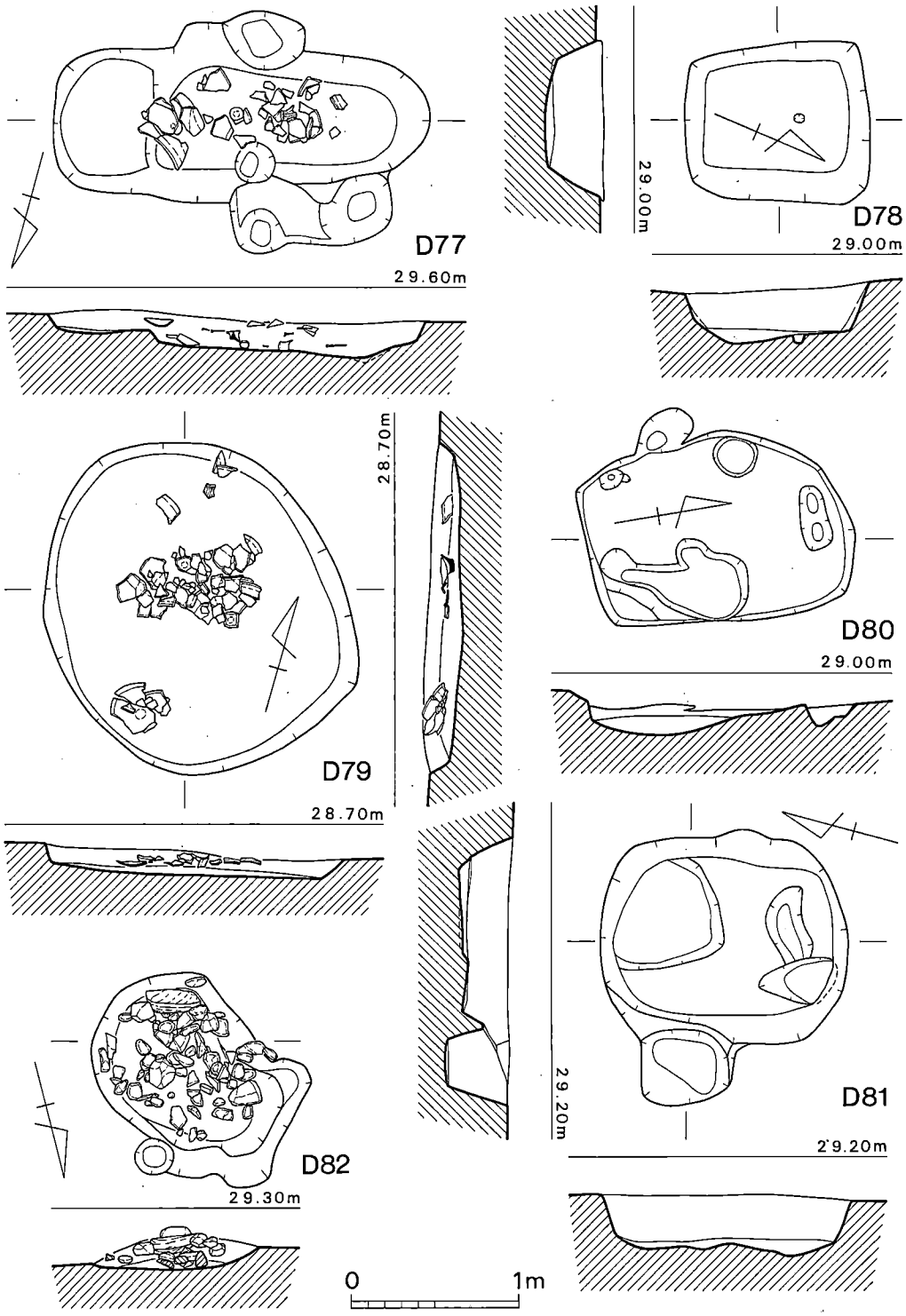
土　器（1）　1は短頸壺で，口縁部は締まりのよい頸部から「く」字形に開く。調整は内外面ともヘラミガキによる。器高27.3cm，口径15.8cm，底径7.7cm。

80号土　壙（第89図）

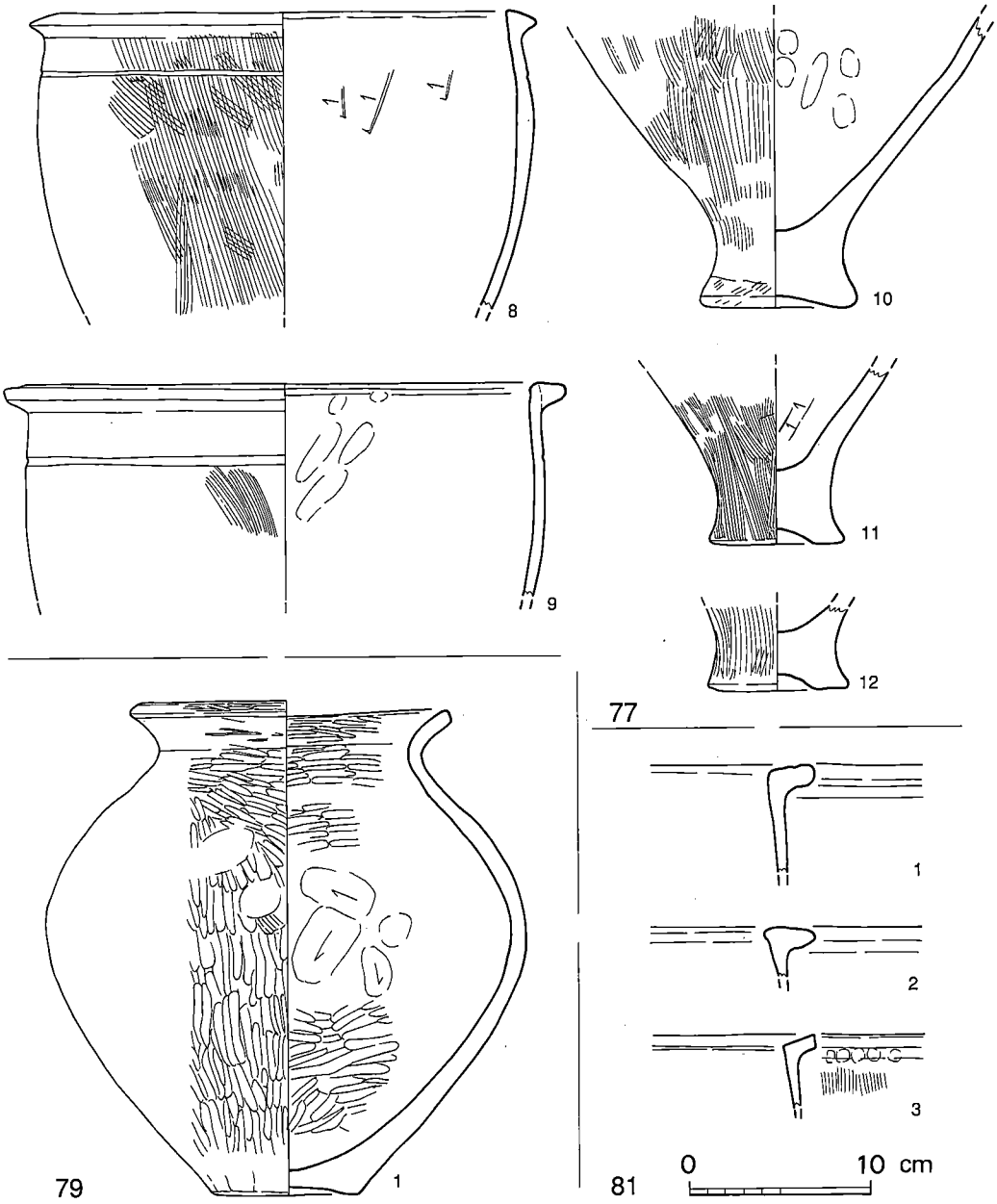
52号竪穴内に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸1.58m，短軸1.15m，深さ0.2mで，底面は南側に傾斜する。

81号土　壙（第89図）

60号土壙の5m南東側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸1.5m，短軸1.22m，深さ0.3mで，底面には不整形のピットがある。



第89図　77～82号土壙実測図（1/40）



第90図　77・79・81号土壙出土土器実測図（1/4）

出土遺物（第90図）

土　器（1～3）　1～3は逆Ｌ字形口縁甕の小片で，3の口縁部平坦面は内傾する。

82号土　壙（第89図）

奈良時代の158・159号住居跡の中間に切られて位置する。平面形は円形を呈し，長軸1.3m，短軸0.9m，深さ0.2mを測る。小石に混じって土器が出土した。

出土遺物（第92図）

土　器（1・2）　1は逆L字形口縁の甕であるが，口縁部は未発達。頸部下位にヘラ沈線を施す。2は底部破片で，甕になろう。

83号土　壙（第91図）

46号住居跡の4m北側に位置する。平面形は隅丸の菱形を呈し，長軸2.0m，短軸1.63m，深さ0.25mで，底面は東側に傾斜している。

出土遺物（第92図）

土　器（1）　1は甕の底部破片で，肉厚の上底を呈する。

84号土　壙（第91図）

31号住居跡の底面で検出した。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸2.0m，短軸1.4m，深さ0.35mを測る。底面は東側に傾斜している。

出土遺物（第92図）

土　器（1・2）　1は逆L字形口縁の甕で，復原口径は26.8cm。2は如意形口縁甕の小片で，頸部下位にヘラ沈線を施す。

85号土　壙（第91図）

32号住居跡に切られ，56号土壙と接する。平面形は隅丸長方形を呈し，長軸2.26mで，深さは5cmと浅い。底面にはピットが多くある。

出土遺物（第92図）

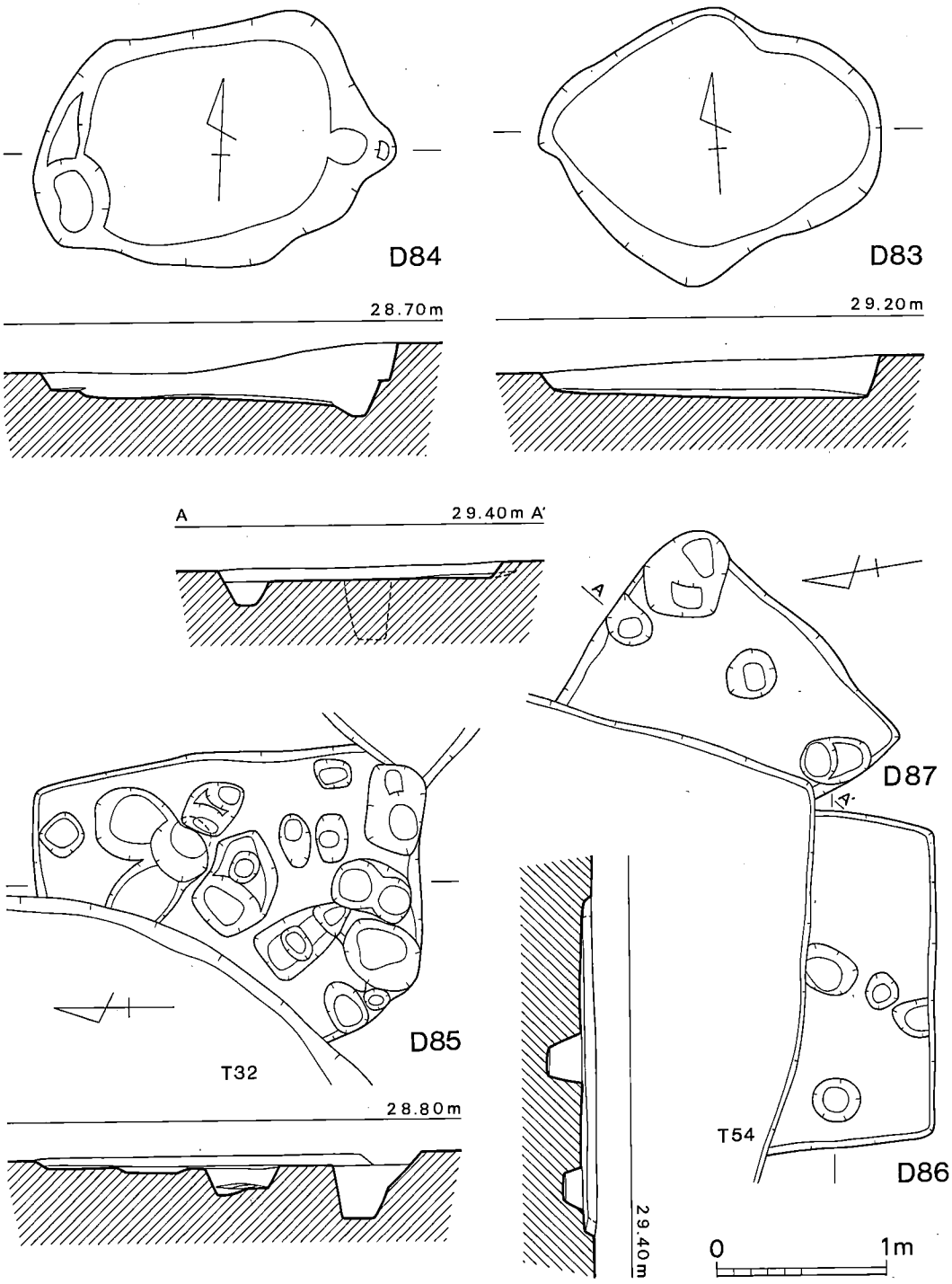
土　器（1～3）　1は逆L字形口縁甕の小片で，端部は肥厚する。2は「く」字形口縁甕の小片で，口唇部は丸く納める。3は甕の底部小片。

86号土　壙（第91図）

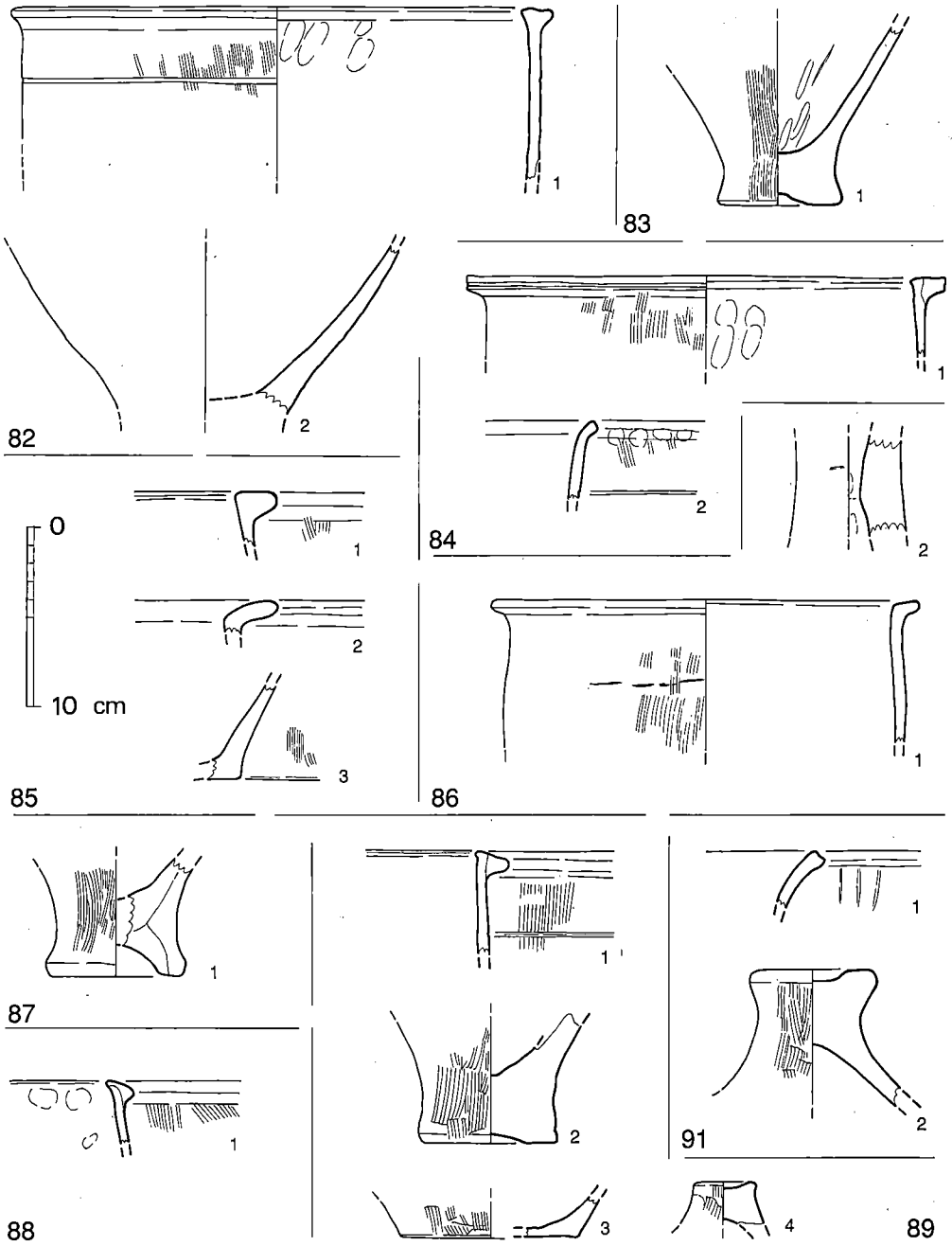
58号土壙の1.5m西側に位置し，54号住居跡に切られる。平面形は隅丸方形を呈するか。南辺長1.8mで，深さは8cmと浅い。底面にはピットが3個ある。

出土遺物（第92図）

土　器（1・2）　1は逆L字形口縁の甕で，口縁部は小さく屈曲する。口径は24cmに復原した。2は支脚の体部小片。



第91図　83～87号土壙実測図（1/4）



第92図　82～89・91号土壙出土土器実測図（1/4）

87号土　壙（第91図）

58号土壙のすぐ西側に位置し，54号住居跡に切られる。平面形は隅丸方形を呈しよう。南東辺長1.7mで，深さは5cmと浅い。底面にはピットがある。

出土遺物（第92図）

土　器（1）　1は甕の底部片で，肉厚の上底をなす。

88号土　壙（第93図）

74号土壙の1.5m西側に位置する。平面形は隅丸方形を呈し，長軸1.4m，短軸1.0m，深さ0.25mを測る。底面は東西両壁側が下がる。

出土遺物（第92図）

土　器（1）　1は亀の甲タイプ甕の口縁部小片。

89号土　壙（第93図）

55号竪穴の1m南側に位置し，73号住居跡と重複する。平面形は円形を呈し，長軸1.36m，短軸1.32m，深さ0.14mを測る。底面はほぼ水平である。

出土遺物（第92図）

土　器（1～4）　1は亀の甲タイプ甕の口縁部小片。2は甕の底部で，肉厚の内窪み。3は鉢の底部になろう。4は蓋の撮み部として実測した。

90号土　壙（第93図）

89号土壙の2m南東側に位置する。平面形は不整長方形を呈し，長軸1.05m，短軸0.85mで，深さは8cmを測る。底面はほぼ水平である。

出土遺物（第94図）

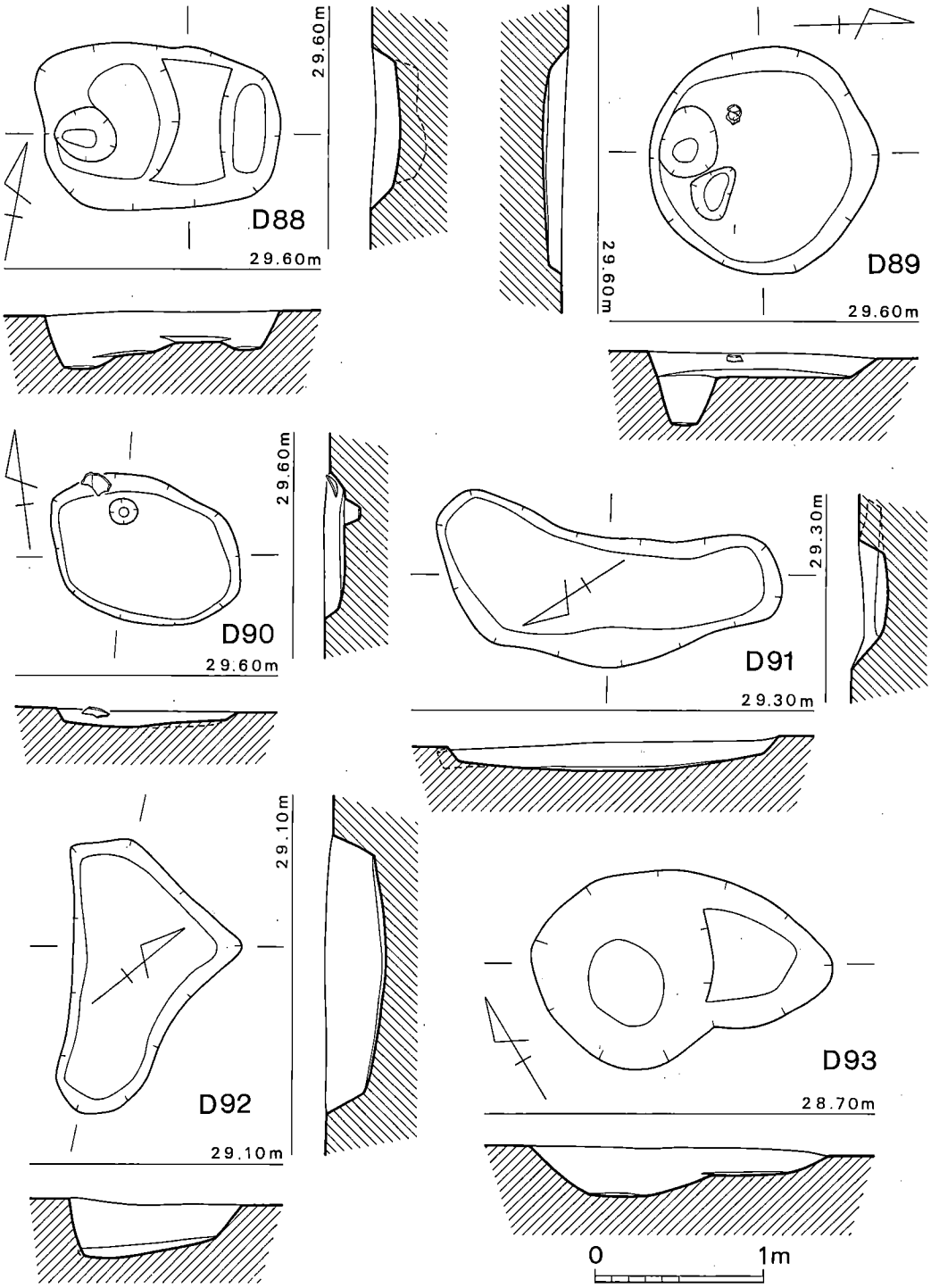
土　器（1・2）　1は亀の甲タイプの甕で，口縁部は肥厚する。頸部下位にはヘラ沈線を施す。2は「く」字形口縁甕で，口縁部は内湾する。復原口径は1が24.4cm，2は29.6cm。

91号土　壙（第93図）

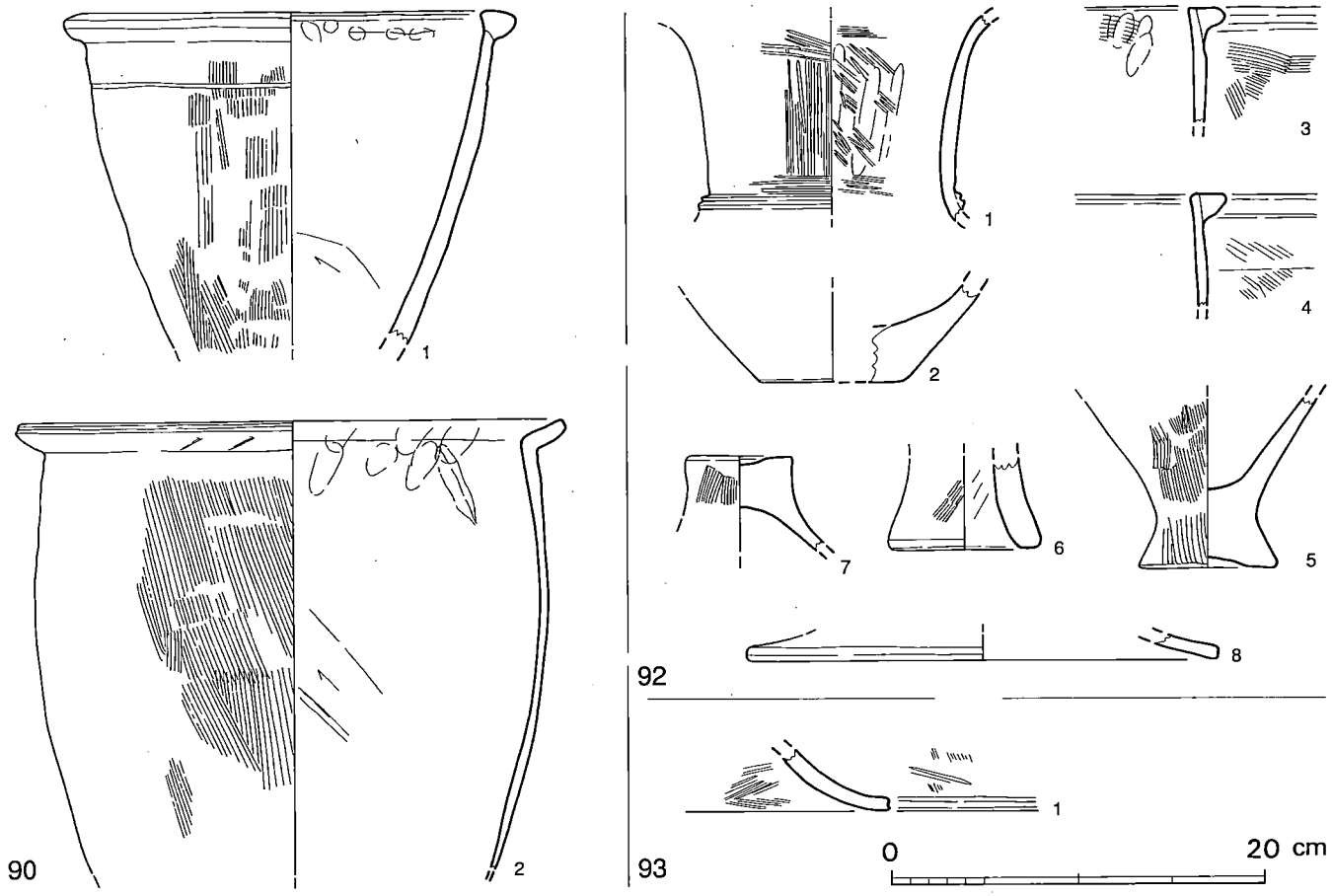
35号住居跡の2.5m北側に位置する。平面形は不整長方形を呈し，長軸1.8m，短軸0.75m，深さ0.18mを測る。底面は中央部が若干窪む。

出土遺物（第92図）

土　器（1・2）　1は広口壺の口縁部破片で，外面には暗文がみられる。2は体部下半が開いているので蓋とした。撮み径は7.2cm。



第93図　88～93号土壙実測図（1/40）



第94図　90・92・93号土壙出土土器実測図（1/4）

92号土　壙（第93図）

35号住居跡の3.5m南側に位置する。平面形は不整長方形を呈し，長軸1.4m，短軸1.1m，深さ0.3mを測る。底面は中央部が若干窪んでいる。

出土遺物（第94図）

土　器（1～8）　1は壺の頸部破片で，頸部にはM字形凸帯を貼付する。2は壺の底部破片で，肉厚である。3・4は逆L字形口縁甕で，端部は肥厚する。5は甕の底部で，肉厚の上底をなす。6は器台の底部片。7は蓋の撮み部破片。8は蓋の口縁部破片で，内面には煤が遺存する。

93号土　壙（第93図）

29号住居跡の5m東側に位置する。平面形は不整長円形を呈し，長軸1.8m，短軸1.16m，深さ0.3mを測り，東側には幅0.5mのテラスを有する。

出土遺物（第94図）

土　器（1）　1は蓋の口縁部小片で，内面には煤が遺存する。

表2　土壙新旧番号対照表

新番号	旧番号	新番号	旧番号	新番号	旧番号	新番号	旧番号	新番号	旧番号
1	1	21	101	41	23	61	61	81	125
2	2	22	103	42	94	62	64	82	121
3	3	23	102	43	95	63	91	83	杭69北
4	貯2	24	111	44	113	64	63	84	126
5	5	25	110	45	114	65	37	85	竪32
6	6	26	115	46	16	66	40	86	住158
7	4	27	116	47	34	67	55	87	住159
8	8	28	貯40	48	21B	68	42	88	P404
9	9	29	貯86	49	31	69	39	89	P204
10	13	30	99	50	15	70	54	90	P203
11	貯19	31	96	51	30	71	82	91	P781
12	貯27	32	112	52	27	72	78	92	住137
13	18B	33	98	53	83	73	65	93	P433
14	25	34	109	54	85	74	66		
15	貯26	35	105	55	86	75	93		
16	20	36	107	56	87	76	76		
17	14	37	108	57	88	77	77		
18	12	38	32	58	89	78	72		
19	11B	39	17	59	92	79	貯78		
20	18A	40	21A	60	68	80	38		

6．甕 棺 墓

調査区の東側において27基検出した。成人棺を中心に二列埋葬されており，墓域は調査区外に進展するようである。

1号甕棺墓（図版29-1，第96図）

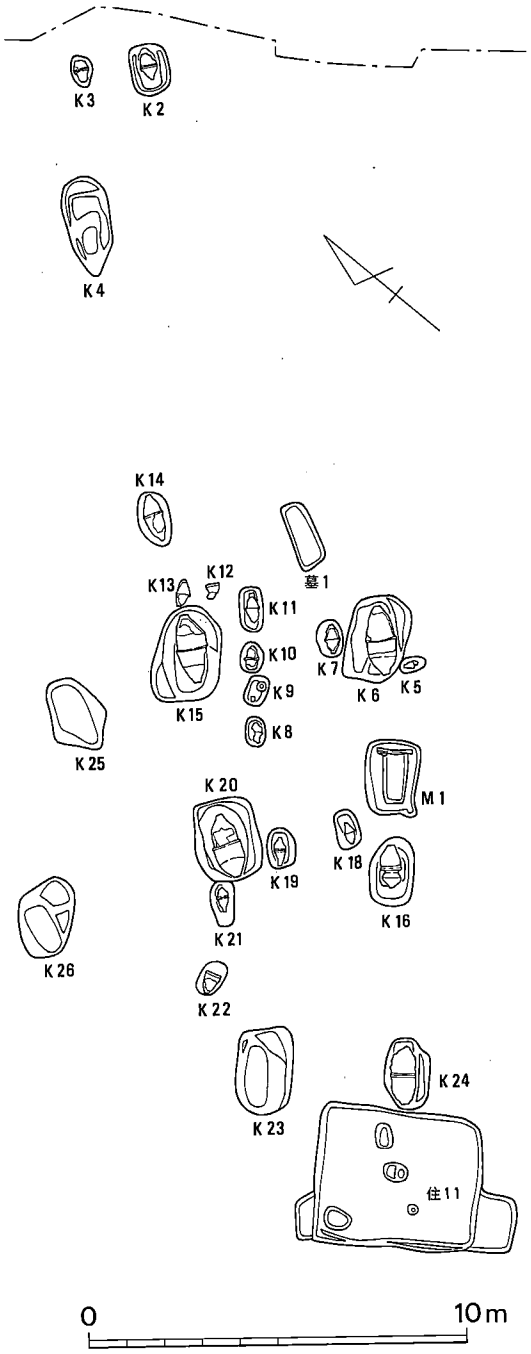
墓地群から外れて，6・7号住居跡の中間に埋葬された接口式の小児甕棺墓である。墓壙は現状で楕円形を呈し，長軸1.07m，短軸0.56mを測る。西側を上甕とした。主軸方位はN46°Eを示す。

上　甕（図版51-1，第97図）　口縁部は「く」字形を呈し，端部がやや肥厚する。頸部下位にはシャープな三角凸帯を貼付している。体部の張りは弱く，平底気味の底部に移行する。外面ハケ目，内面ナデ調整で，器高44.1cm，口径34.2cm，底径6.7cm。

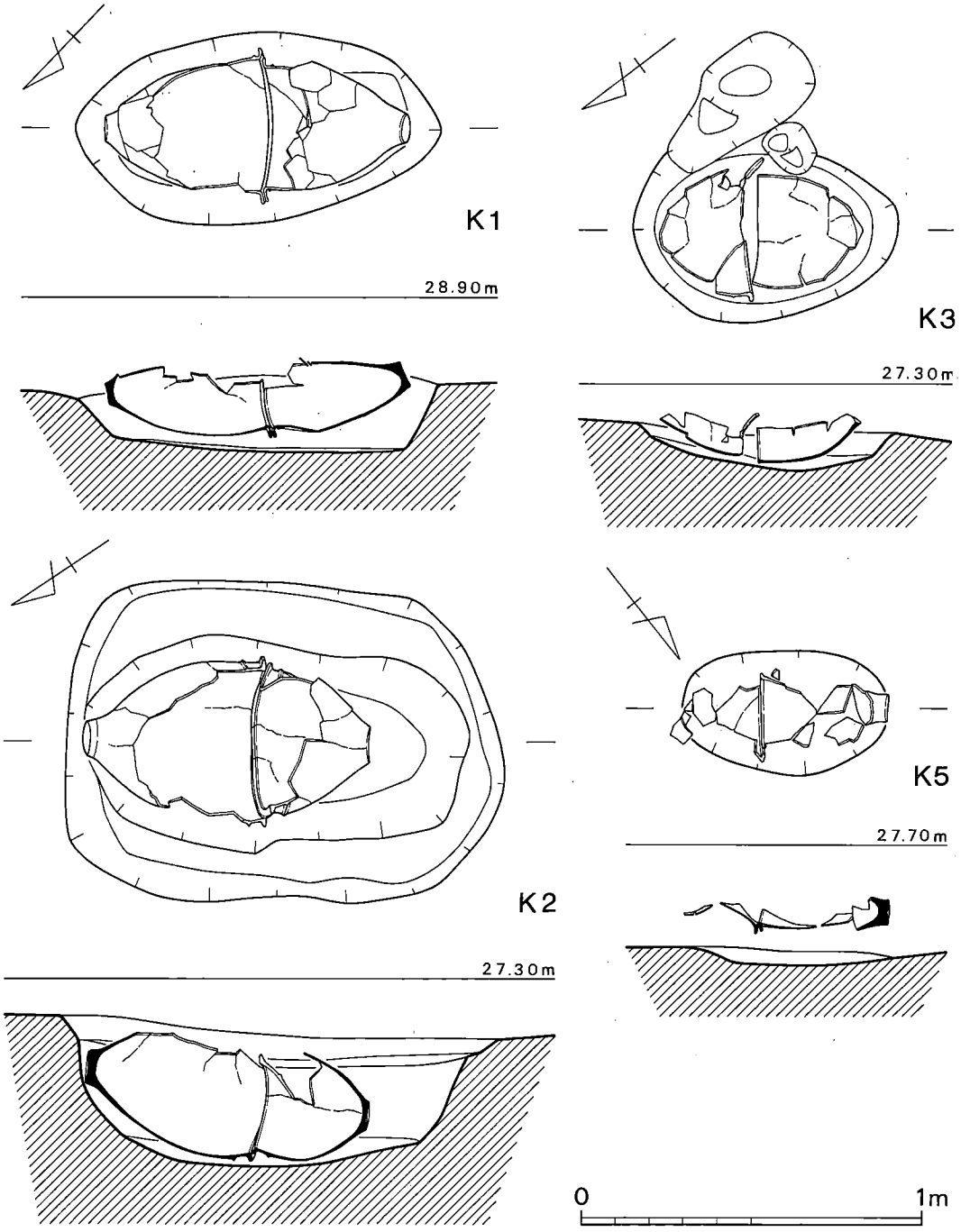
下　甕（図版51-1，第97図）　上甕と同形態を呈し，器高45.7cm，口径35.0cm，底径7.5cmを測る。頸部下位に三角凸帯を貼付する。胴部の張りは弱く，緩やかに平底の底部に移行する。また，胴部中位には径2cm程の円孔を焼成後に穿っている。

2号甕棺墓（図版29-2，第96図）

墓地群の最東端で検出した挿入式の小児甕棺墓で，遺存状態は比較的良い。墓壙は隅丸長方形を呈し，二段に掘り込まれる。上面での長さ1.3m，幅0.94mを測る。甕棺は斜めに埋置され，傾斜角度は－10°，主軸方位はN35°Eを示す。副葬品・人骨等は検出されていない。



第95図　甕棺墓群配置図（1/200）



第96図　1～3・5号甕棺墓実測図（1/20）

上　甕（図版51-2，第97図）　逆Ｌ字形口縁の鉢で，器高32.6cm，口径40.0cm，底径8.2cmを測る。口縁部平坦面は内傾し，頸部のやや下位に三角凸帯を貼付する。器面調整は口縁部ヨコナデ，内外面丁寧なヘラミガキによる。

下　甕（図版51-2，第97図）　中型の甕で，器高53.3cm，口径46.2cm，底径9.4cmを測る。口縁部は肥厚する逆Ｌ字形で，平坦面は内傾する。頸部のやや下位にシャープな三角凸帯を貼付する。器面調整は外面ハケ目，内面ナデで，頸部外面には指頭痕がみられる。

3号甕棺墓（図版29-3，第96図）

2号甕棺墓の1m北西側に位置する挿入式の小児甕棺墓である。遺存状態は悪く，下半部を留める程度。墓壙は現状で楕円形を呈し，長軸0.77m，短軸0.54mを測る。主軸方位はN37°Eを示す。副葬品・人骨等の出土はない。

上　甕（図版51-3，第102図）　底部を欠くが，器高32cm程になろう。口縁部は剝落しているが，剝離の状況から亀の甲タイプの口縁を呈するものであろう。また，胴部中位にも凸帯が剝離した痕があり，凸帯貼付時の沈線がみられる。調整は内外面ともヘラミガキによる。

下　甕（図版51-3，第102図）　残存高26.9cmで，器高に比して胴部が張っていることから鉢とした。口縁部は逆Ｌ字形を呈し，頸部下位に三角凸帯を貼付する。器面調整は口縁部ヨコナデ，内外面ヘラミガキにより，頸部外面には指頭痕がみられる。

4号甕棺墓（第98図）

3号甕棺墓の2.4m南西側に位置する。甕棺は抜き去られ，墓壙を留めるのみ。墓壙は羽子板状を呈し，長軸2.64m，短軸1.15m，深さ0.52mを測る。墓壙の規模からして成人棺で，北西側が上甕になると考えられる。壁面に密着して目張りの粘土と下甕の胴部片が出土した。

5号甕棺墓（図版30-1，第96図）

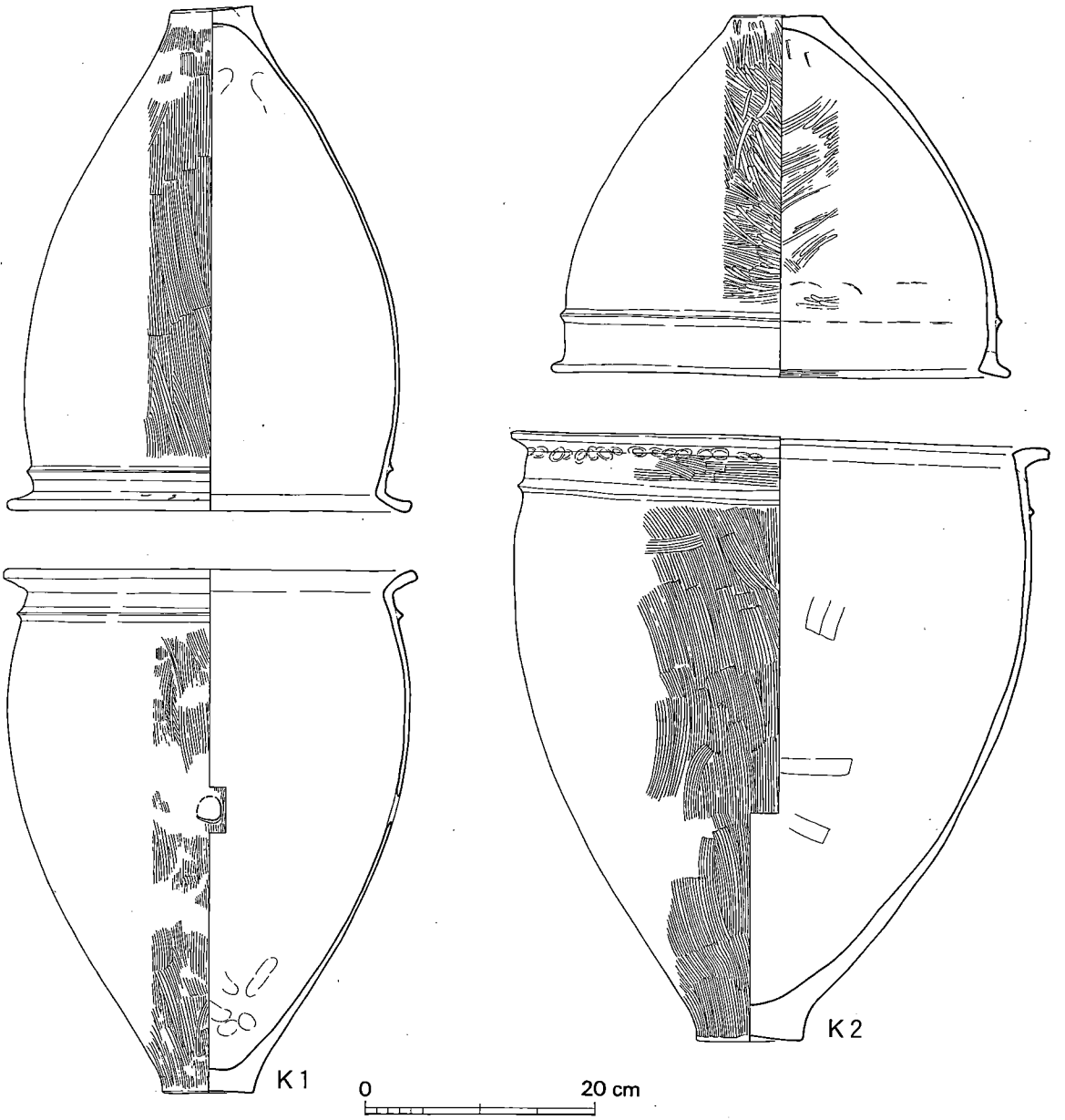
6号甕棺墓の南側に接して位置する小児棺で，遺存状態は悪く，辛うじて接口式と判る程度。甕棺が底面から10cm程浮いているのは，地山と埋土の区別ができなかったことによる。

上　甕（図版51-4，第102図）　鋤先状口縁壺で，口縁部は未発達。調整は外面縦方向のミガキ，内面ナデ・ミガキによる。口径は25.8cmに復原した。。

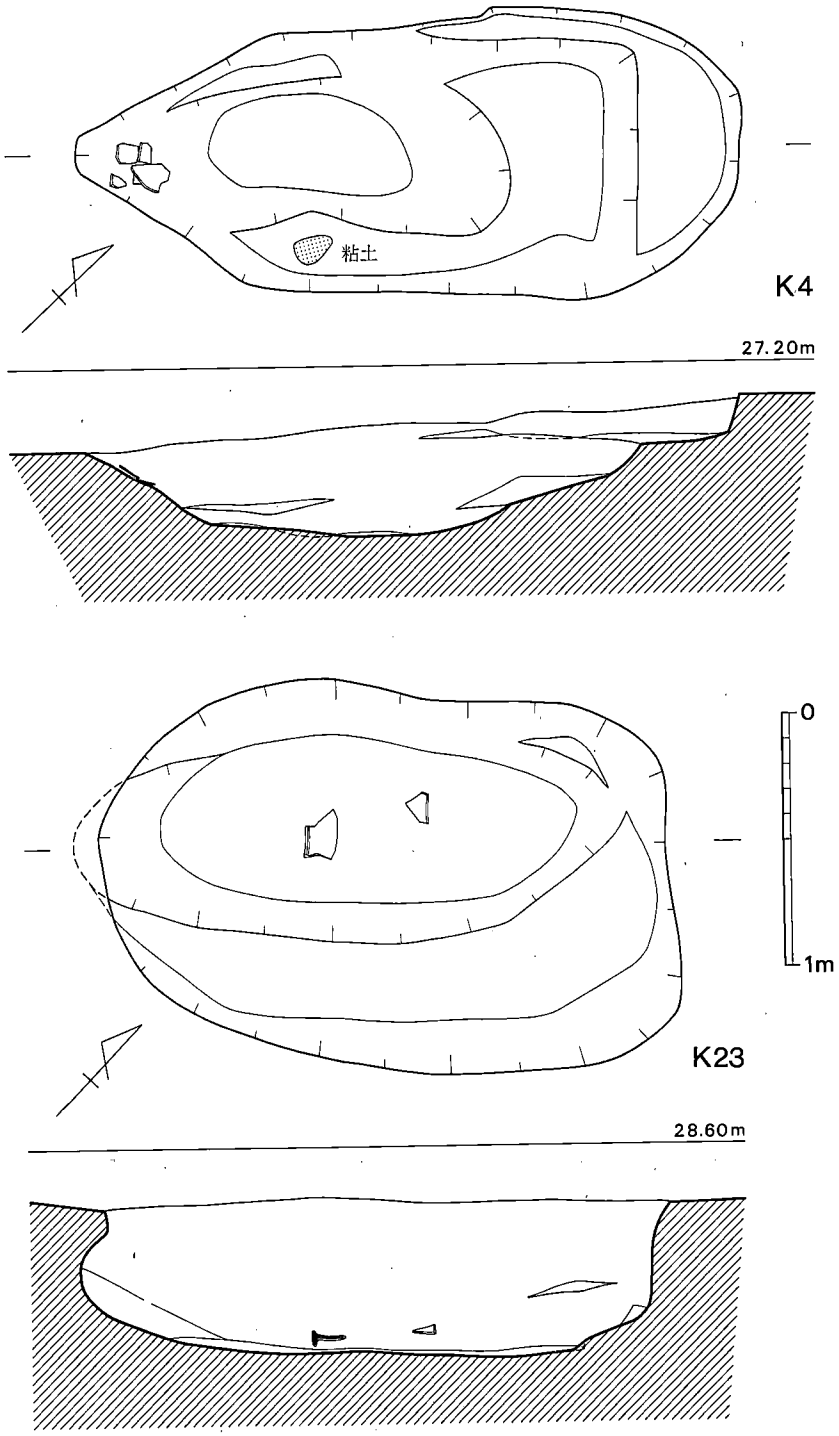
下　甕（図版51-4，第102図）　逆Ｌ字形口縁の甕で，器高34.8cm，復原口径23.8cm，底径6.3cmを測る。口縁部はさほど肥厚せず，平坦面は外傾する。外面ハケ目，内面ナデ調整による。

6号甕棺墓（図版30-1，第99図）

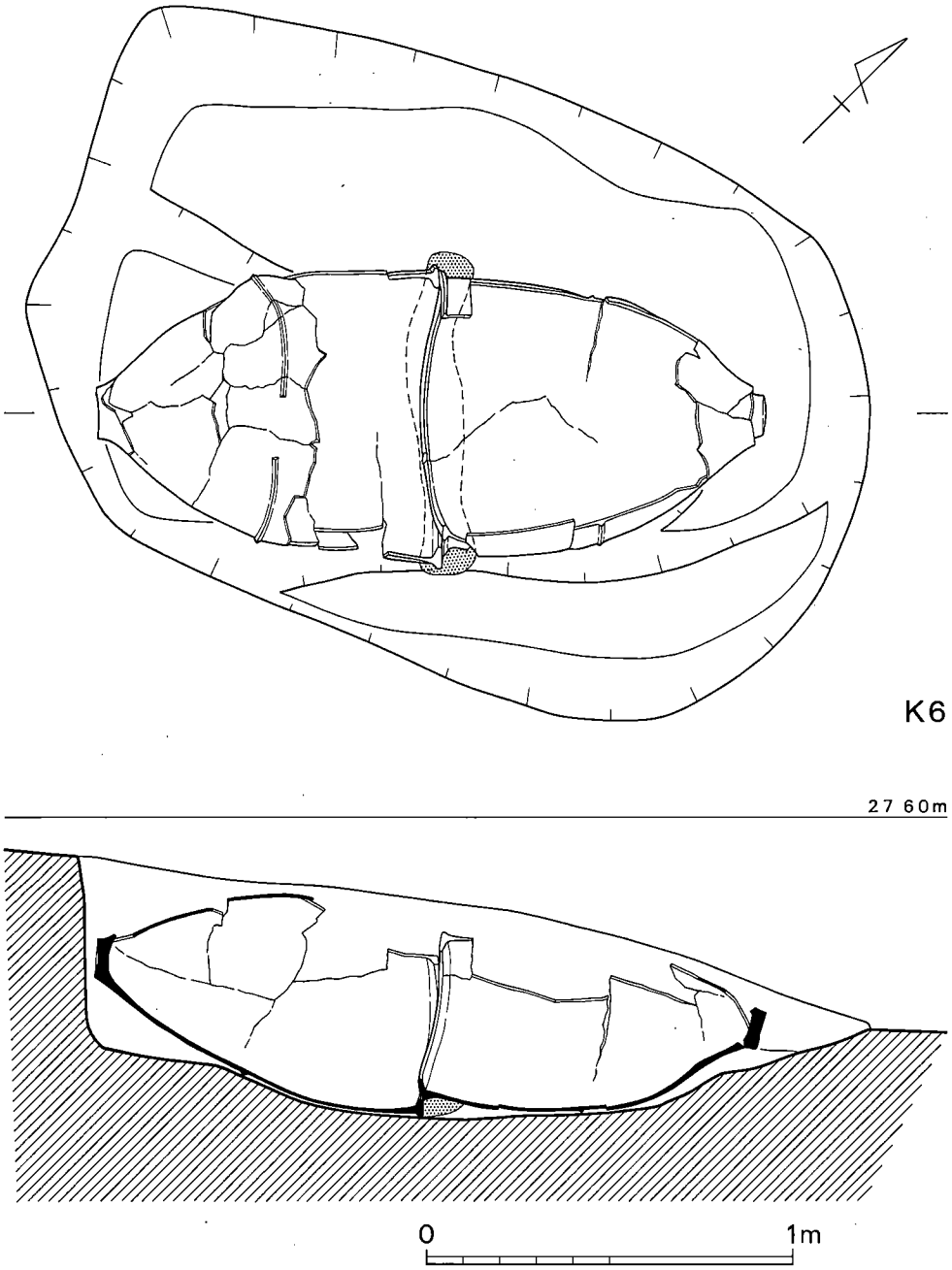
15号甕棺墓と対に配される。接口式の成人甕棺墓で，比較的遺存状態は良かった。墓壙は不



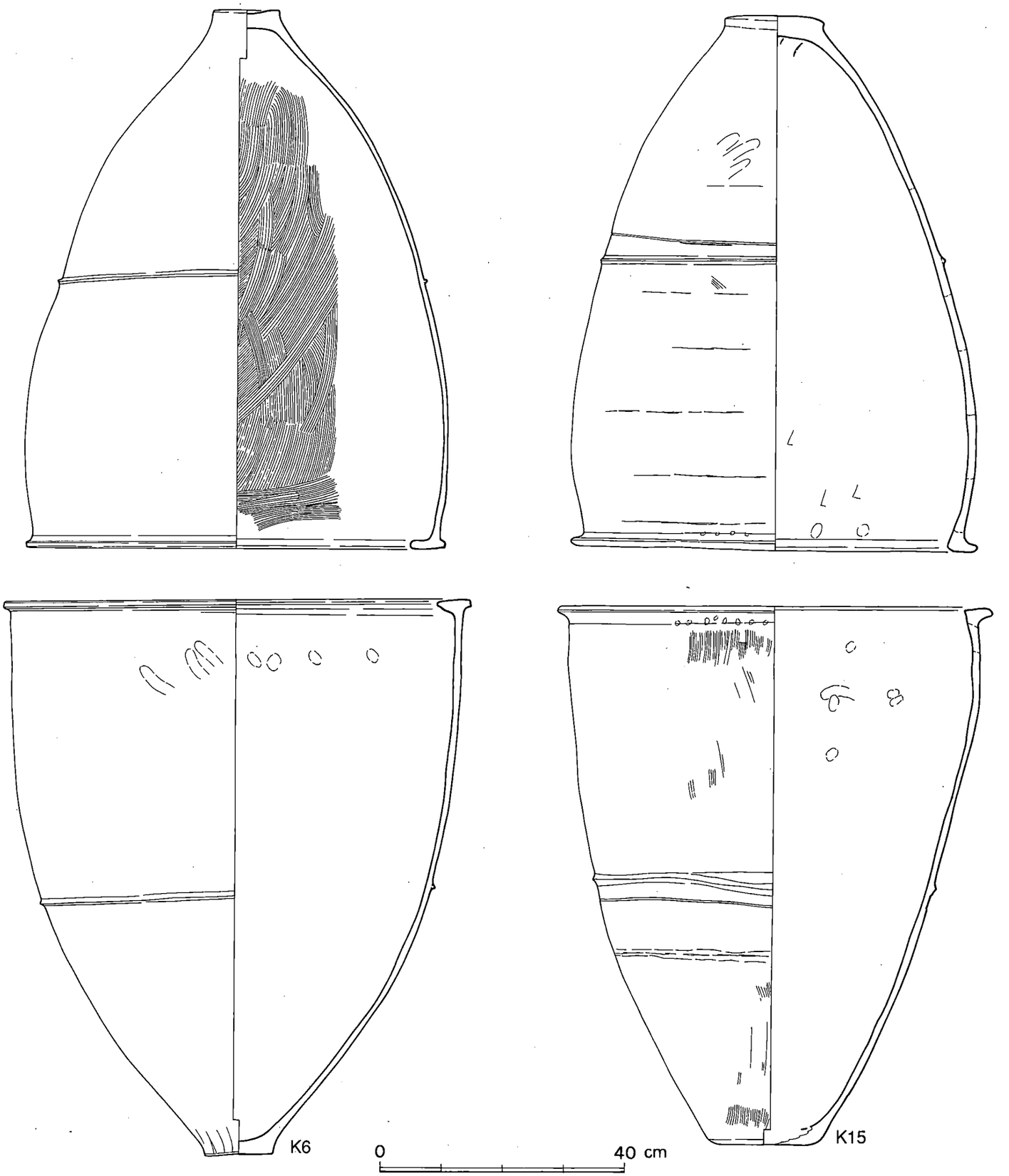
第97図　1・2号甕棺実測図（1/6）



第98図　4・23号甕棺墓実測図（1/30）



第99図　6号甕棺墓実測図（1/20）



第100図　6・15号甕棺墓実測図（1/8）

整長方形を呈し，長軸2.28m，短軸1.57m，深さ0.53mを測る。甕棺は斜めに埋置され，傾斜角度は－6°，主軸方位はN45°Eを示す。口縁部に目張りの粘土がみられたが，副葬品・人骨等は検出されていない。

上　甕（図版52-1，第100図）　器高87.8cm，口径67.0～68.6cm，底径11.1cmを測る大型の埋葬用甕である。口縁部は内側に大きく突出し，口縁部平坦面はほぼ水平である。胴部中位にシャープな三角凸帯を貼付している。器面調整は外面ナデ，内面ハケ目による。

下　甕（図版52-1，第100図）　器高91.8cm，口径76.8cm，底径11.0cmを測る大型の埋葬用甕で，口縁部は内側に突出し，肥厚する。頸部から緩やかに平底の底部に移行する。胴部中位にはシャープな三角凸帯を貼付している。器面調整は内外面ともナデによる。

7号甕棺墓（図版30-2，第101図）

5号甕棺墓の西隣に埋葬される接口式の小児甕棺墓で，上部が削平されている。墓壙は現状で不整楕円形を呈し，長軸0.90m，短軸0.67mを測る。西側を上甕としたが，6号甕棺墓との関係からいくと上下逆転する可能性がある。甕棺は斜めに埋置され，埋置角度は＋10°，主軸方位はN46°Eを示す。口縁部に目張りの粘土がみられたが，副葬品・人骨等の出土はない。

上　甕（図版52-2，第103図）　逆L字形口縁の甕で，器高39.8cm，復原口径31.4cm，底径6.9cmを測る。口縁部はさほど肥厚せず，平坦面は内傾する。頸部の下位に三角凸帯を貼付する。器面調整は口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ナデによる。

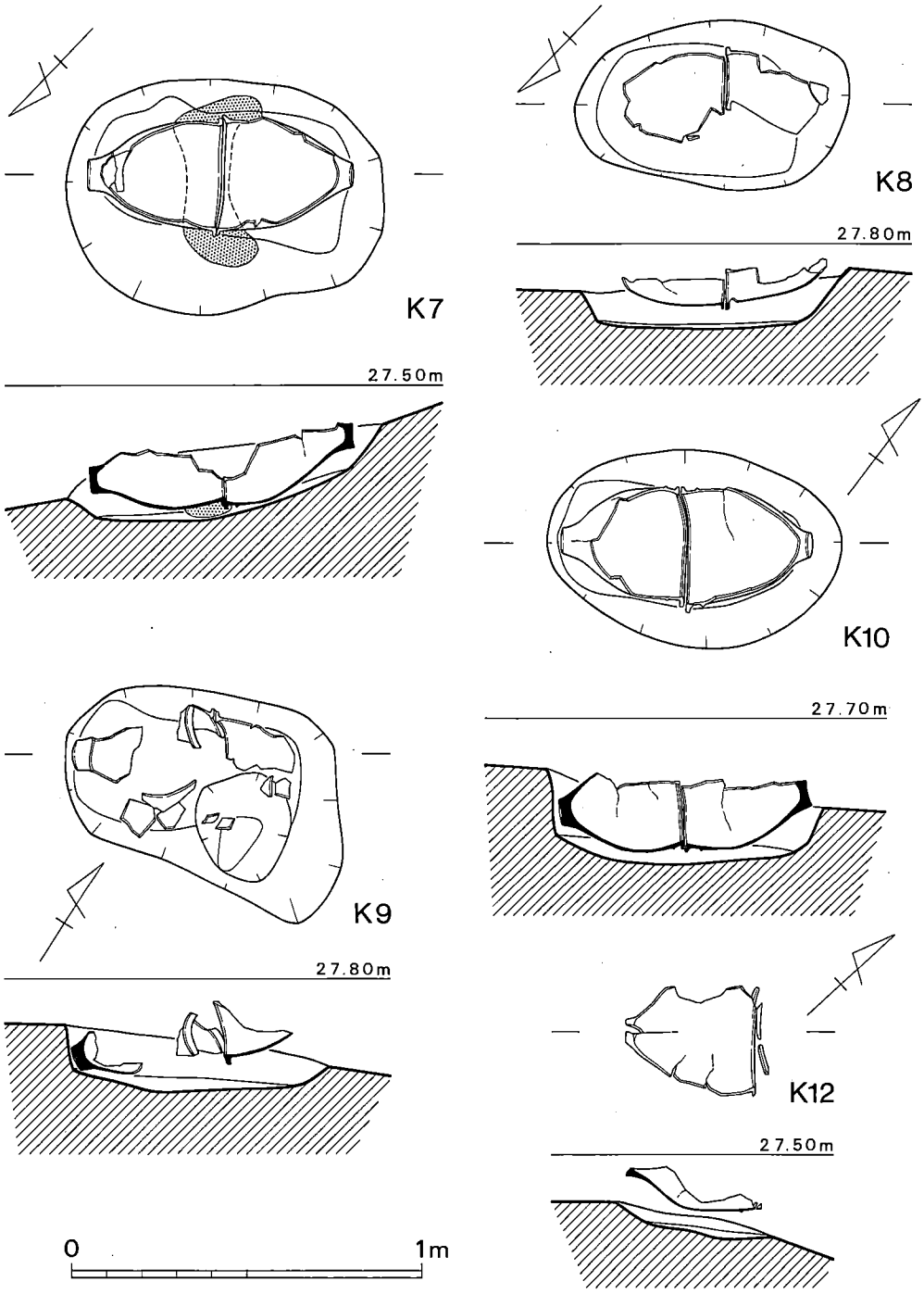
下　甕（図版52-2，第103図）　逆L字形口縁の甕で，器高36.7cm，復原口径30.4cm，底径6.5cmを測る。口縁部はさほど肥厚せず，平坦面は若干内傾する。外面ハケ目，内面ナデ調整。

8号甕棺墓（図版31-1，第101図）

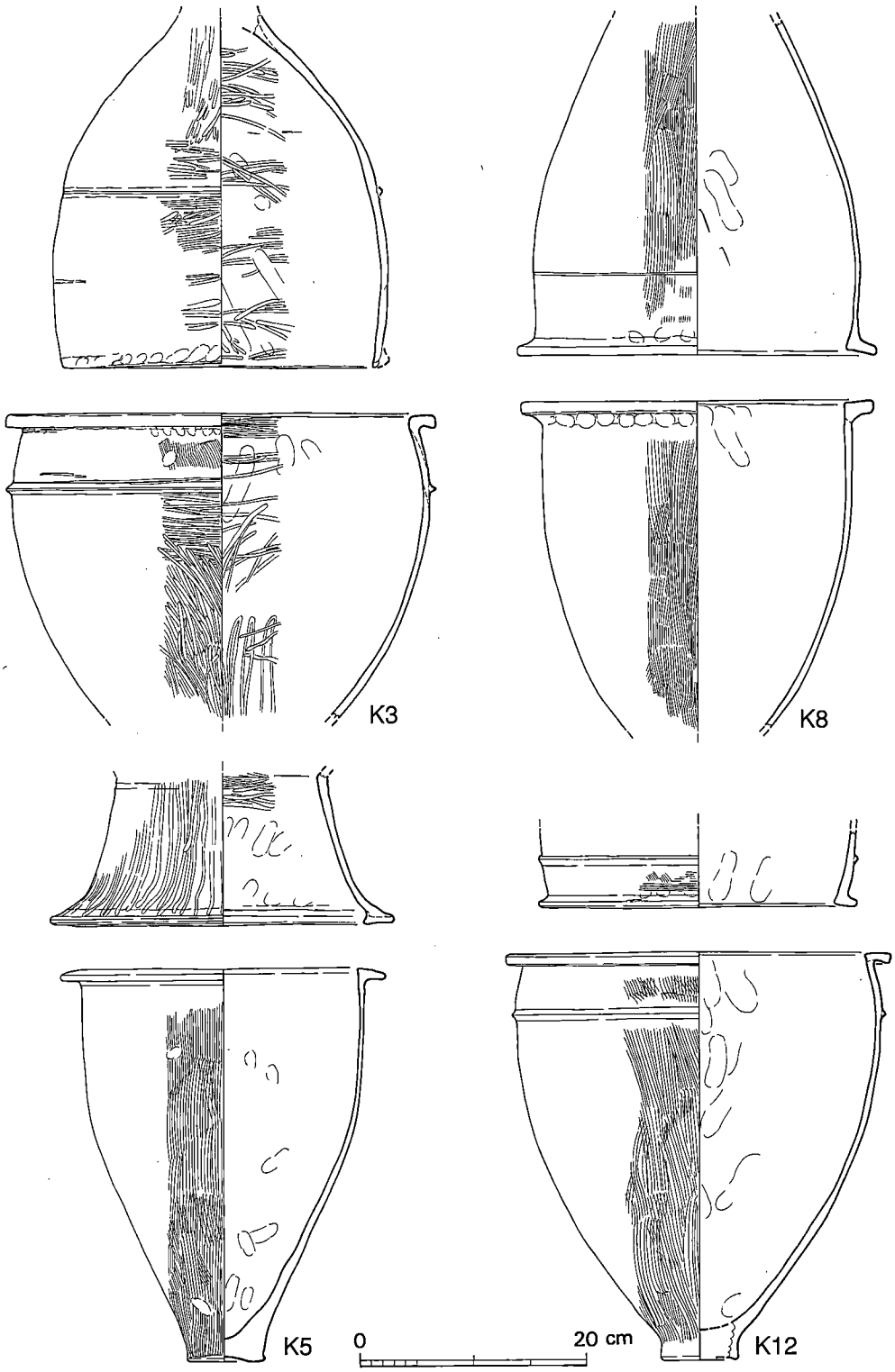
7号甕棺墓の2.5m西側に位置し，上半部は削平されている。接口式の小児甕棺墓で，東側を上甕とした。墓壙は現状で楕円形を呈し，長軸0.78m，短軸0.48mを測る。甕棺は底面から7cm程浮いている。目張りの粘土は施されていない。

上　甕（図版52-3，第102図）　逆L字形口縁の甕で，口縁部は若干肥厚する。底部を欠き，残高29.5cm，復原口径31.4cmを測る。頸部のやや下位にはヘラ沈線を施している。器面調整は口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ナデで，頸部外面には指頭痕がみられる。外面には煤が遺存しており，日常容器の転用品である。

下　甕（図版52-3，第102図）　逆L字形口縁の甕で，口縁部は肥厚する。底部を欠き，残高29.0cm，復原口径30.8cmを測る。器面調整は口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ナデで，頸部外面には指頭痕がみられる。外面には煤が遺存しており，日常容器の転用品である。



第101図　7～10・12号甕棺墓実測図（1/20）



第102図　3・5・8・12号甕棺実測図（1/6）

9号甕棺墓（図版31-2，第101図）

8号甕棺墓の0.4m北東側に位置する。接口式の小児甕棺墓であるが，ピットに切られ遺存状態は極めて悪い。墓壙は現状で不整長方形を呈し，長軸0.77m，短軸0.55mを測る。

上　甕（図版53-1，第103図）　逆L字形口縁の甕で，口縁部は若干肥厚する。底部を欠き，残高25.0cm，復原口径28.4cmを測る。器面調整は外面ハケ目，内面ナデで，頸部外面には指頭痕がみられる。外面には煤が遺存しており，日常容器の転用品。

下　甕（図版53-1，第103図）　逆L字形口縁の甕で，口縁部は内側にも突出する。器高35.9cm，復原口径29.1cm，底径6.9cmを測る。器面調整は口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ナデによる。外面には煤が遺存しており，日常容器の転用品である。

10号甕棺墓（図版31-3，第101図）

9号甕棺墓のすぐ北東側に位置する。接口式の小児甕棺墓で，上部が削平されている。墓壙は現状で楕円形を呈し，長軸0.84m，短軸0.57mを測る。甕棺は斜めに埋置され，埋置角度は＋4°，主軸方位はN53°Eを示す。副葬品・人骨等の出土はなかった。

上　甕（図版53-2，第103図）　逆L字形を呈する甕で，器高36.1cm，口径31.4cm，底径7.3cmとやや寸胴である。頸部の下位に太めの三角凸帯を貼付する。器面調整は口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ナデにより，頸部外面には指頭痕がみられる。

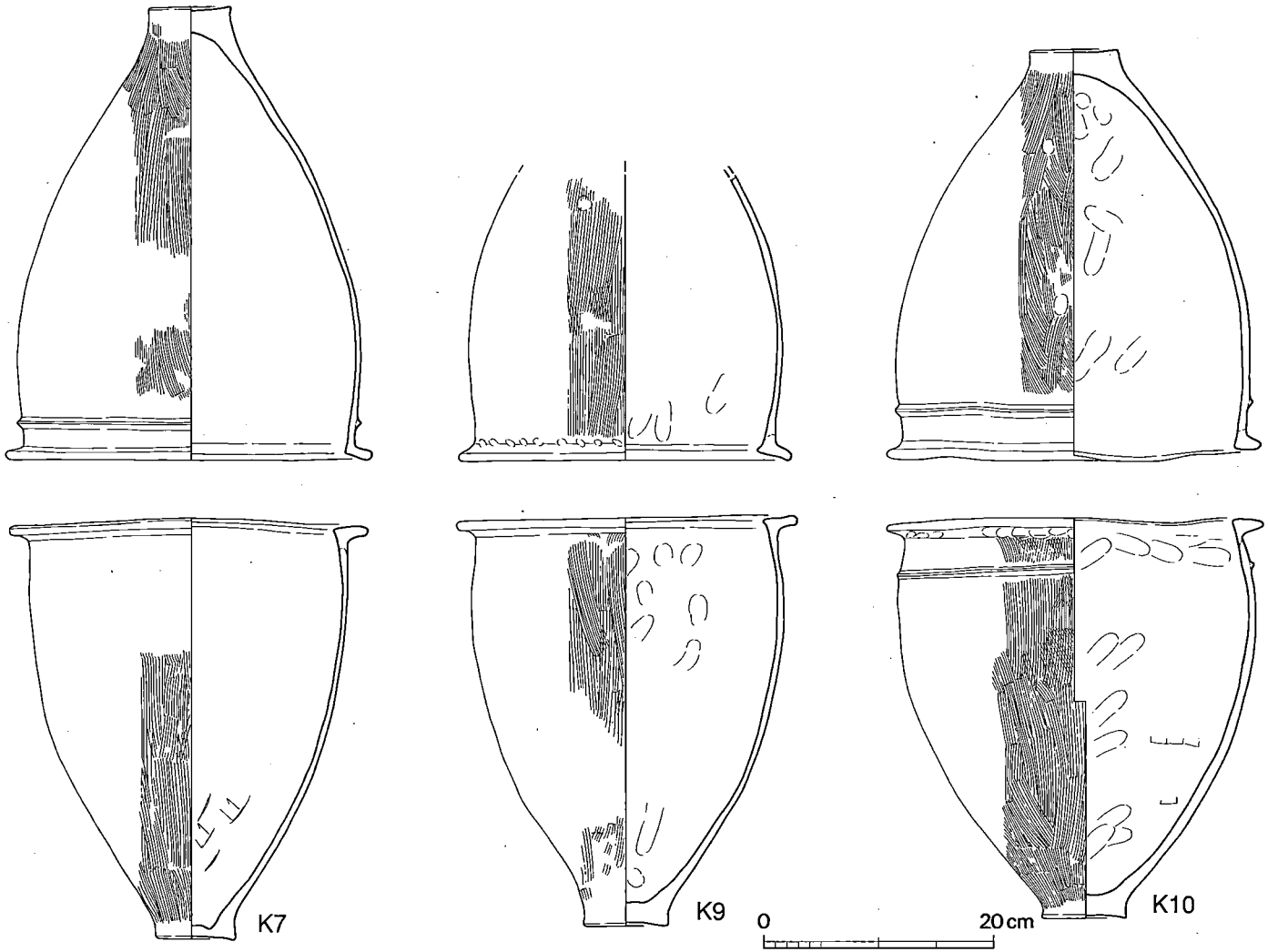
下　甕（図版53-2，第103図）　逆L字形を呈する甕で，器高35.0cm，口径32.2cm，底径7.4cmを測る。上甕同様，やや寸胴な器形を呈する。頸部の下位にシャープな三角凸帯を貼付する。器面調整は口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ナデ・ユビナデアゲによる。

11号甕棺墓（図版32-1，第104図）

10号甕棺墓のすぐ北東側に位置する。接口式の小児甕棺墓で，上部が削平されている。墓壙の南東側は撹乱されているが，楕円形を呈しよう。甕棺はほぼ水平に埋置されており，東側を上甕とした。主軸方位はN41°Eを示す。口縁部には粘土の目張りを施しているが，副葬品・人骨等の出土はなかった。

上　甕（図版53-3，第105図）　逆L字形口縁の甕で，器高37.3cm，口径28.7～30.0cm，底径6.9cmを測る。口縁部はやや肥厚し，口縁部平坦面は内傾する。器面調整は口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ナデによる。

下　甕（図版53-3，第105図）　逆L字形口縁の甕で，器高38.3cm，口径27.4～29.4cm，底径6.2cmを測る。胴部上位に張りがみられ，上底の底部に移行する。頸部の下位にシャープな三角凸帯を貼付する。器面調整は口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ナデによる。



第103図　7・9・10号甕棺実測図（1/6）

12号甕棺墓（図版32-2，第101図）

10号甕棺墓の1.5m北側に位置し，13号甕棺墓と並葬される。遺存状態は悪く，上甕の口縁部破片と下甕の下半部を留める程度。甕棺は墓壙底面より5cm程浮いている。

上　甕（図版53-4，第102図）　口頸部のみ1/2程残存する。逆L字形口縁の甕で，復原口径は28.2cm。頸部下位に垂れ気味の三角凸帯を貼付している。

下　甕（図版53-4，第102図）　逆L字形口縁の甕で，器高36.2cm，復原口径34.0cm，復原底径6.2cmを測る。口縁端部は面を有し，口縁部平坦面は水平である。頸部の下位にシャープな三角凸帯を貼付する。器面調整は外面ハケ目，内面ナデ・ユビナデアゲによる。

13号甕棺墓（図版32-3，第104図）

12号甕棺墓の0.5m北西側に位置する。接口式の小児甕棺墓で，上部が削平されている。墓壙は現状で楕円形を呈し，長軸0.82m，短軸0.40mを測る。甕棺は斜めに埋置されており，東側を上甕とした。主軸方位はN62°Eを示す。口縁部には粘土の目張りを施しているが，副葬品・人骨等の出土はなかった。

上　甕（図版54-1，第105図）　逆L字形口縁の甕で，口縁部は肥厚する。底部を欠き，残高23.7cm，復原口径28.1cmを測る。器面調整は外面ハケ目，内面ナデで，頸部外面にはキザミ目風のキズがある。外面には煤が遺存しており，日常容器の転用品。

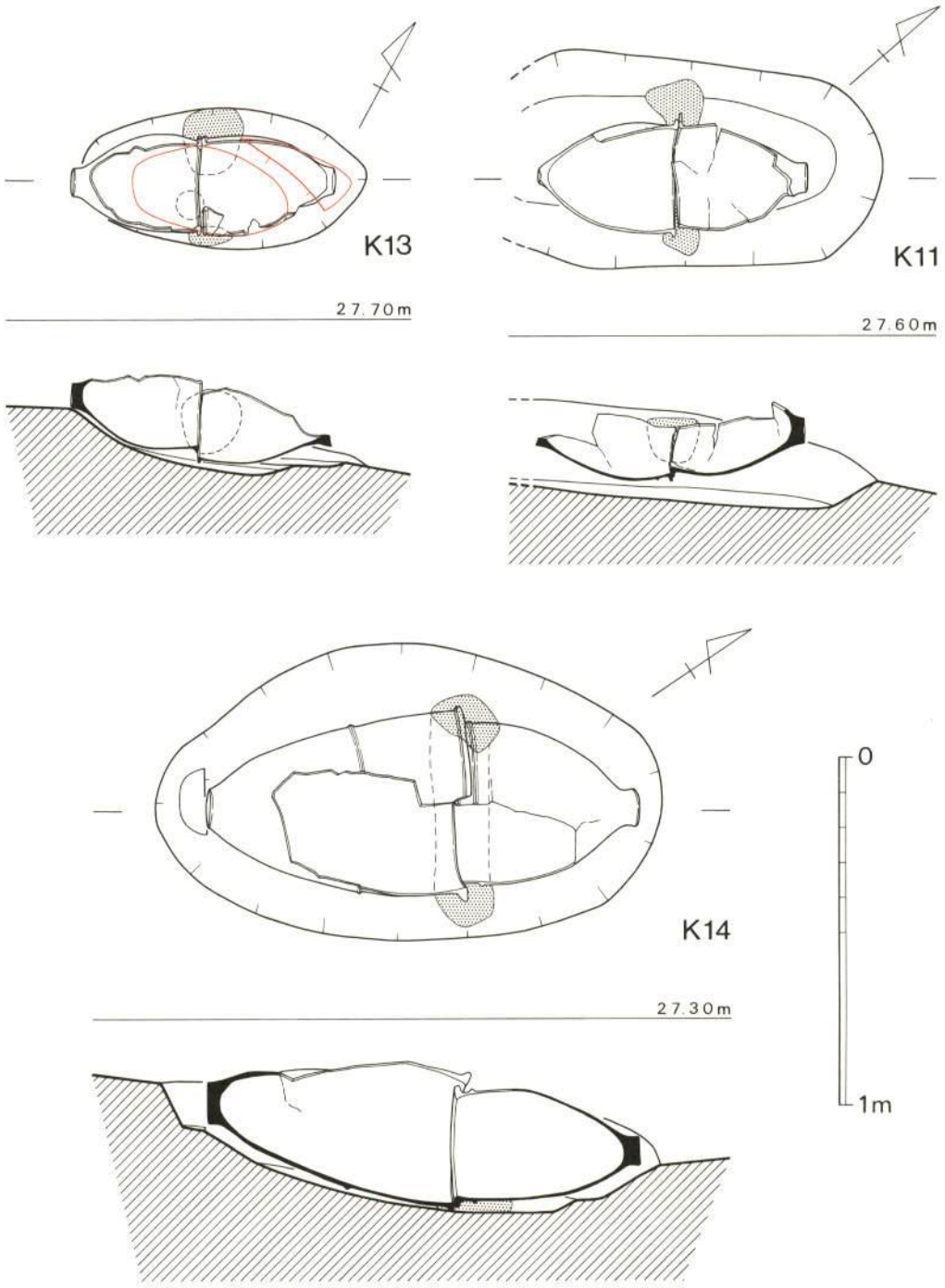
下　甕（図版54-1，第105図）　逆L字形口縁の甕で，口縁部平坦面は内傾する。器高37.3cm，口径30.0cm，底径6.8cmを測る。器面調整は口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ナデによる。外面には煤が遺存しており，日常容器の転用品である。

14号甕棺墓（図版33-1，第104図）

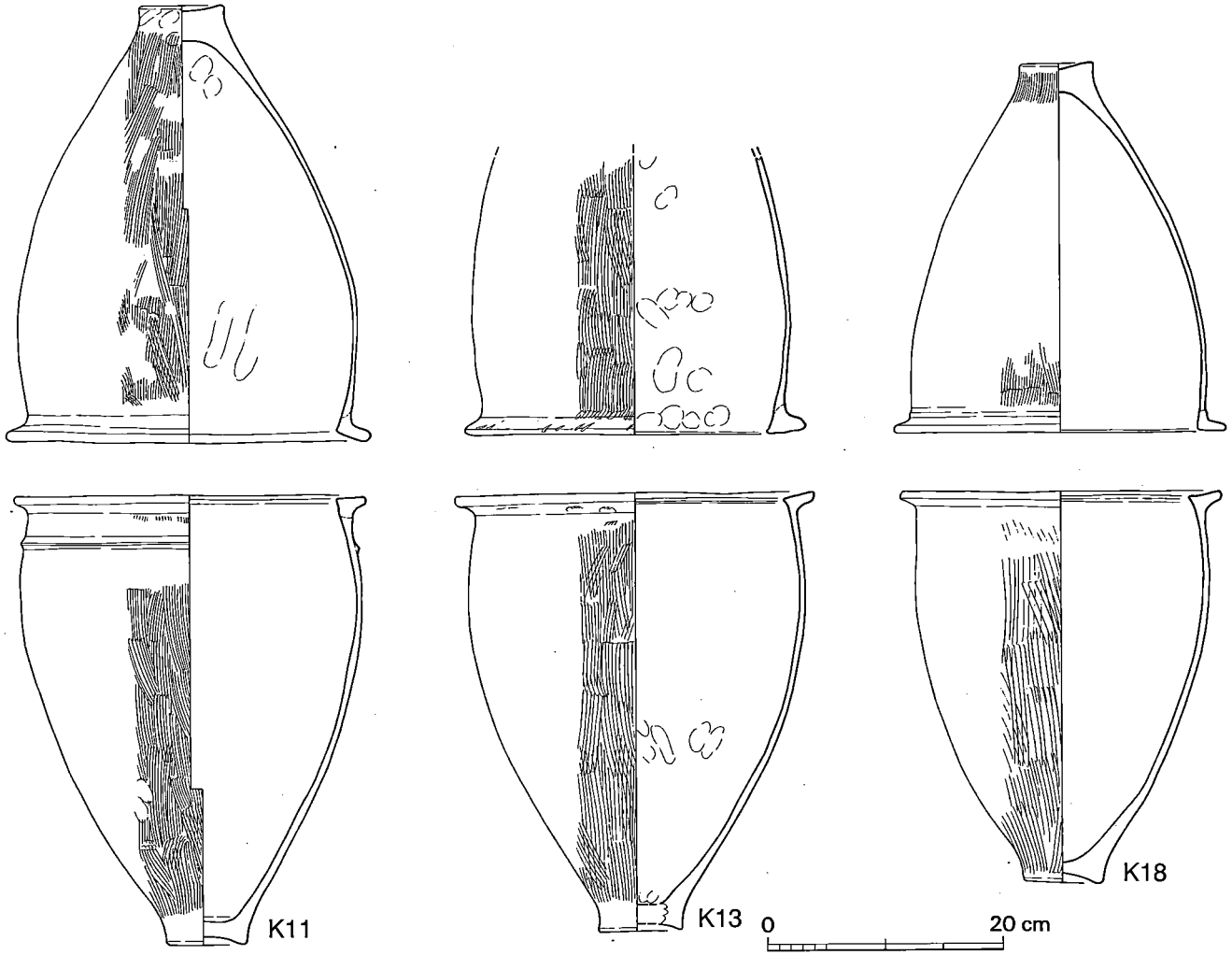
13号甕棺墓の1m北側に位置する。挿入式の中型甕棺で，遺存状態は比較的良い。墓壙は楕円形を呈し，長軸1.45m，短軸0.84m，深さ0.4mを測る。甕棺は斜めに埋置され，傾斜角度は－6°，主軸方位はN33°Eを示す。口縁部には目張りの粘土が施されているが，副葬品・人骨等は検出されていない。

上　甕（図版54-2，第108図）　逆L字形口縁を呈する中型甕で，器高51.0cm，口径42.7cm，底径9.8cmを測る。口縁部平坦面は若干内傾し，頸部のやや下位に三角凸帯を貼付する。器面調整は外面ハケ目，内面ナデによる。外面には煤が遺存しており，日常容器の転用品。

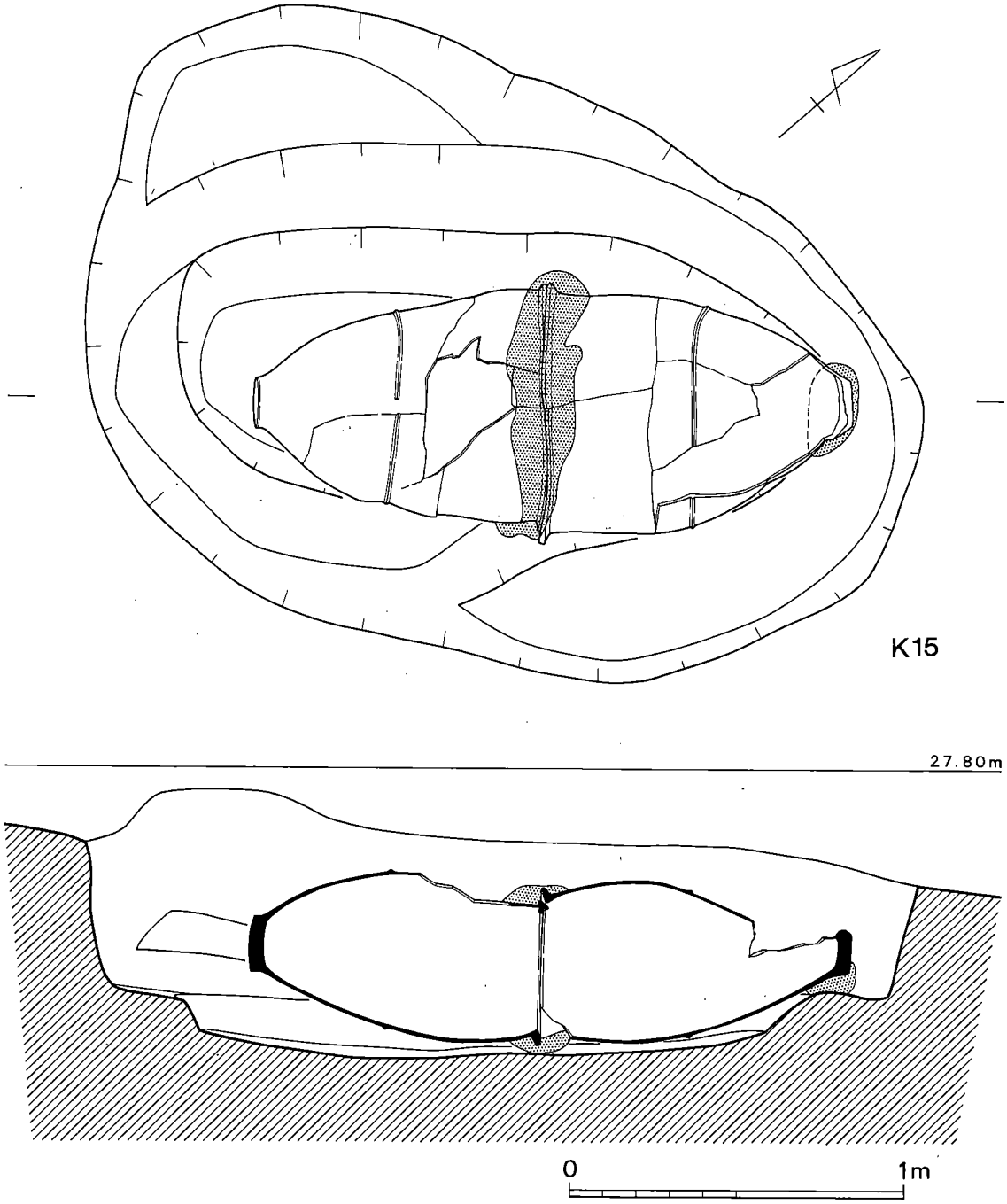
下　甕（図版54-2，第108図）　器高73.3cm，口径48.0cm，復原底径10.8cmを測る長胴の中型甕である。口縁部は肥厚する逆L字形を呈し，口縁部平坦面は若干内傾する。胴部上位に張りがみられ，肉厚の底部に移行する。また，胴部の中位にシャープな三角凸帯を貼付する。器面調整は口縁部ヨコナデ，内外面ミガキによる。



第104図　11・13・14号甕棺墓実測図（1/20）



第105図　11・13・18号甕棺実測図（1/6）

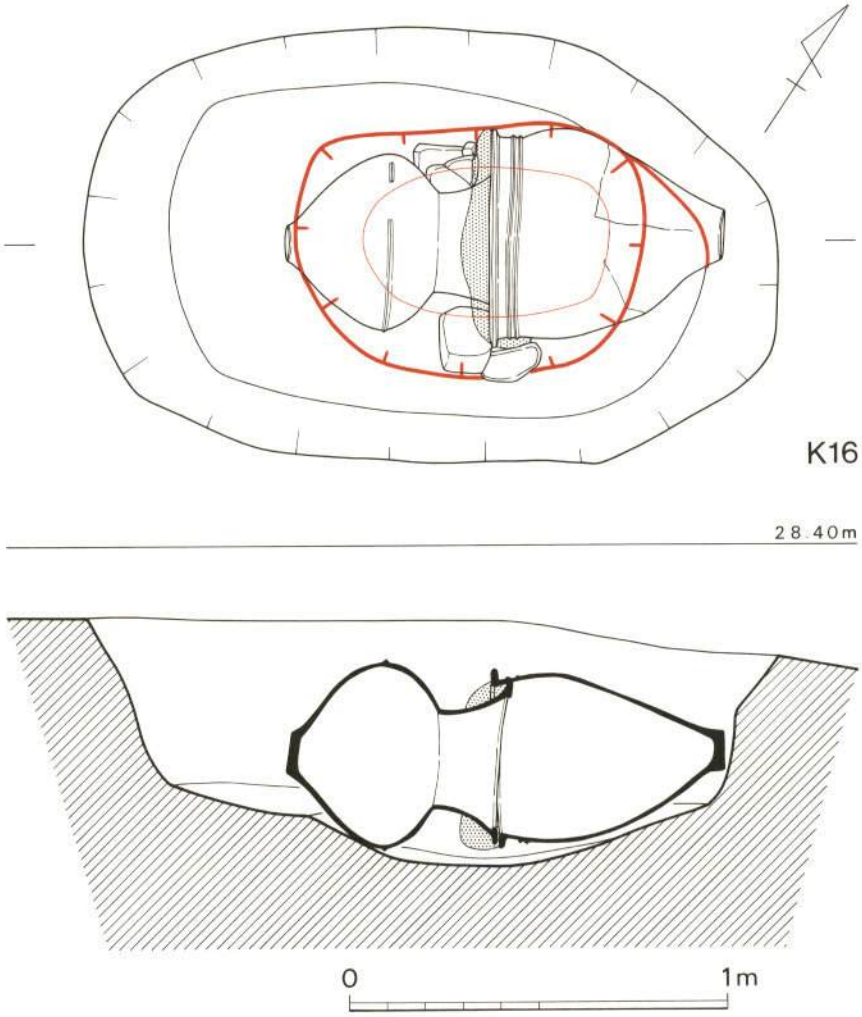


第106図　15号甕棺墓実測図（1/20）

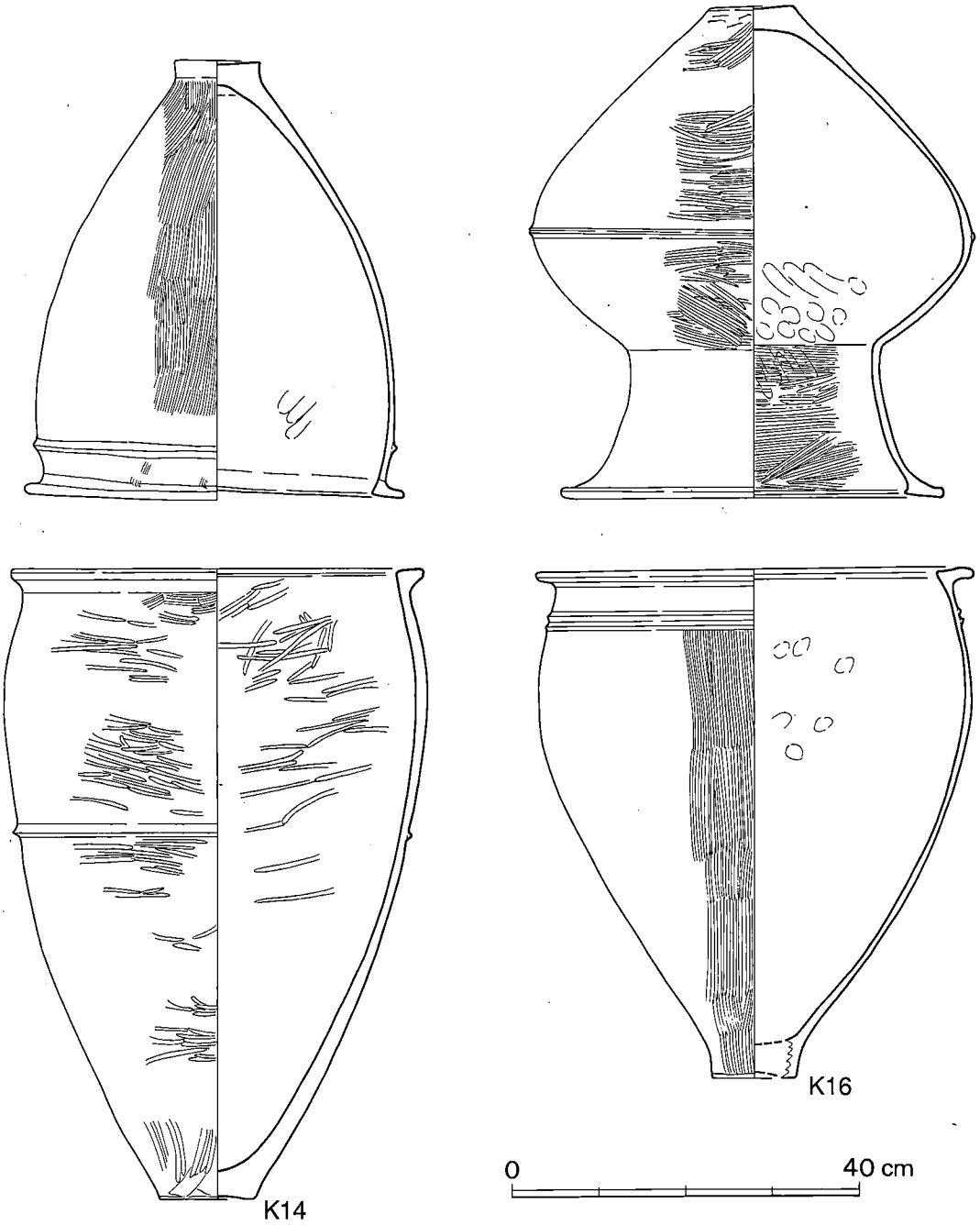
15号甕棺墓（図版33-2，第106図）

6号甕棺墓の3.3m北西側に並葬される。接口式の成人甕棺墓で，遺存状態は良い。墓壙は長円形状を呈し，北東側にテラスを有する。規模は長軸2.52m，短軸1.68m，深さ0.76mを測る。甕棺は水平に埋置されており，下甕底部には支えの粘土がみられた。主軸方位はN40° Eを示す。口縁部には目張りの粘土がみられたが，副葬品・人骨等は検出されなかった。

上　甕（図版55-1，第100図）　器高87.7cm，口径59.7～66.4cm，底径16.2cmを測る大型の埋葬用甕である。口縁部は肥厚する逆L字形を呈し，器高に比して胴部の張りが弱いため長胴の感を受ける。胴部下半にはシャープな三角凸帯を貼付している。底部は肉厚で，自重により潰



第107図　16号甕棺墓実測図（1/20）



第108図　14・16号甕棺実測図（1/8）

れている。器面調整は内外面ともナデで，体部には8～10cm間隔で粘土接合痕がみられる。

下　甕（図版55-1，第100図）　推定器高90.0cm，口径71.0cm，復原底径18.0cmを測る大型の埋葬用甕である。口縁部は肥厚する逆L字形で，胴部は張りをみせずに底部に移行する。器高に比して長胴ではあるものの底部の締まりは悪い。胴部中位にはシャープな三角凸帯を貼付しており，その上下にはヘラ沈線を施している。器面調整は口縁部ヨコナデ，外面ハケ目→ナデ，内面ナデにより，胴下半部には補修痕がみられる。

16号甕棺墓（図版34-1，第107図）

5号甕棺墓の4m南西側に位置する。挿入式の中型甕棺で，遺存状態は良好である。墓壙は楕円形を呈し，長軸1.83m，短軸1.15m，深さ0.65mを測る。甕棺は水平に埋置されており，主軸方位はN56°Eを示す。上甕が壺であるため口縁下部に川原石を6個程据え安定を図っている。また，口縁部には目張りの粘土が施されているが，副葬品・人骨等は出土していない。

上　甕（図版55-2，第108図）　鋤先状口縁壺で，器高56.8cm，口径44.4cm，底径10.3cmを測る。口縁部はよく締まった頸部から大きく開き，胴部中位にM字形凸帯を貼付する。器面は内外面ともヘラミガキによる。また，外面には黒塗りを施している。

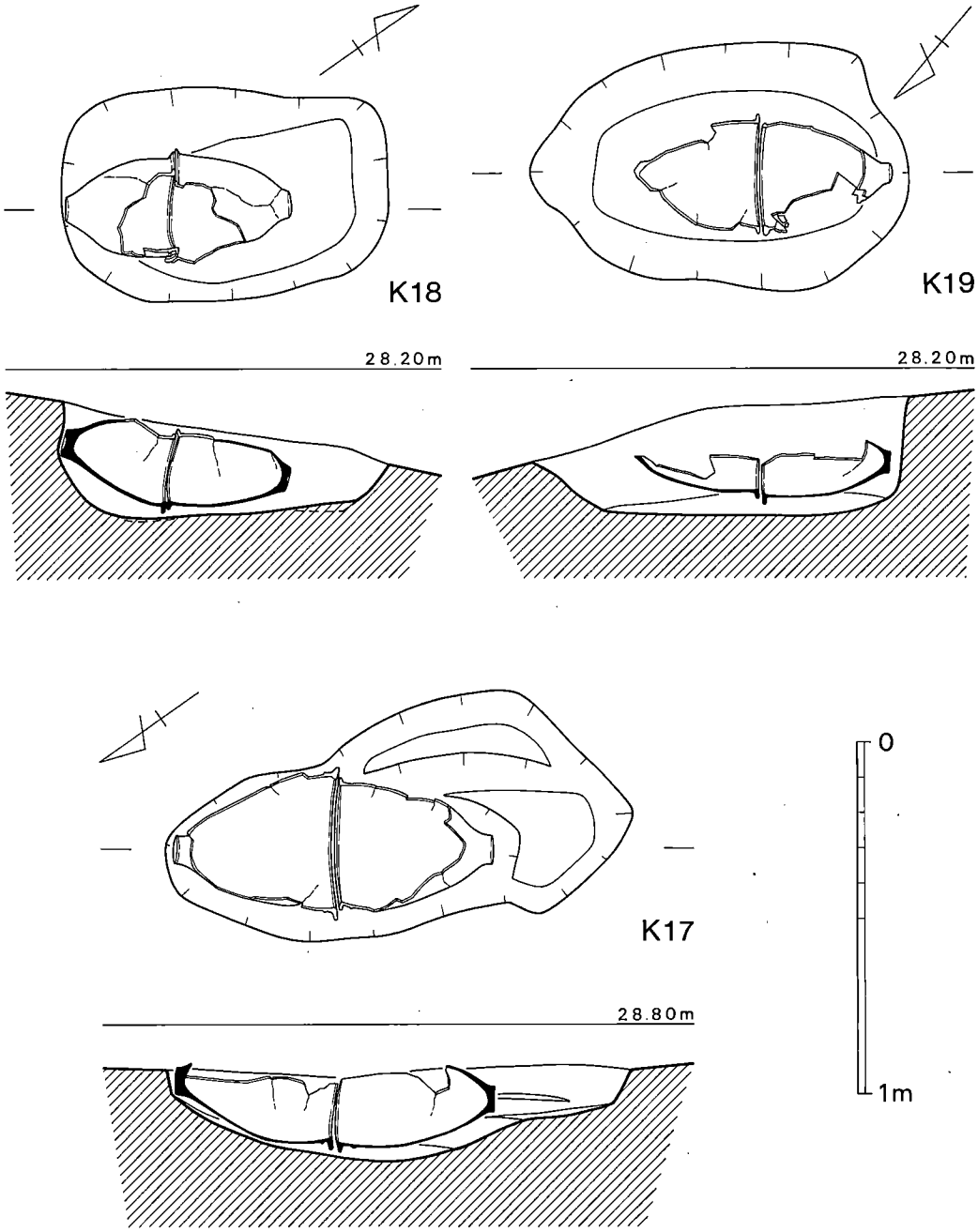
下　甕（図版55-2，第108図）　逆L字形口縁を呈する中型甕で，器高59.3cm，口径51.0cm，底径10.0cmを測る。口縁部平坦面は若干内傾し，口唇部は丸く納める。胴部上位に張りがあり，肉厚の底部に移行する。頸部のやや下位に三角凸帯を2条貼付している。器面調整は口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ナデによる。外面には煤が遺存しており，日常容器の転用品。

17号甕棺墓（図版34-2，第109図）

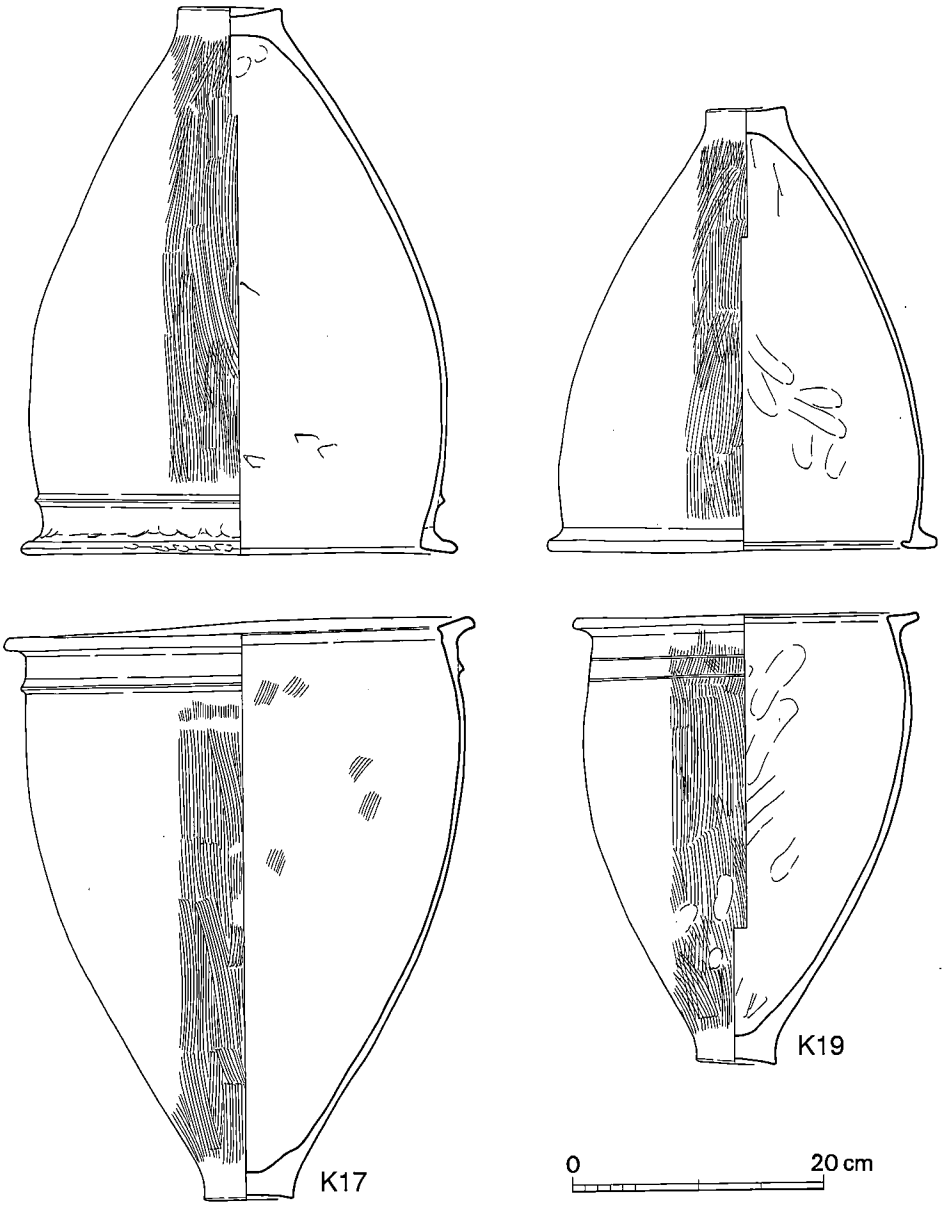
40号竪穴の3m南西側に位置し，甕棺墓群から離れて埋葬されている。接口式の小児甕棺墓で，上部は削平される。墓壙は現状で不整長円形を呈し，長軸1.32m，短軸0.59mを測る。甕棺はやや斜めに埋置されており，埋置角度は－4°，主軸方位はN35°Eを示す。甕棺内から副葬品・人骨等の出土はなかった。

上　甕（図版54-3，第110図）　逆L字形口縁の甕で，器高43.7cm，口径34.6cm，底径7.9cmを測る。口縁部はやや肥厚し，口縁部平坦面は内傾する。胴部上位に張りがみられ，上底の底部に移行する。器面調整は口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ナデによる。また，外面には煤が遺存しており，日常容器を転用したもの。

下　甕（図版54-3，第110図）　逆L字形口縁の甕で，器高46.3cm，口径36.5cm，底径6.8cmを測る。口縁部平坦面は内傾し，その直下を強くユビナデしている。胴部の張りは上甕程ではなく，平底の底部に移行する。器面調整は口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ハケ目→ナデによる。



第109図　17～19号甕棺墓実測図（1/20）



第110図　17・19号甕棺実測図（1/6）

18号甕棺墓（図版34-3，第109図）

16号甕棺墓の0.5m北側に位置する。接口式の小児甕棺墓で，遺存状態は比較的良い。墓壙は隅丸長方形を呈し，長軸0.92m，短軸0.60mを測る。甕棺はやや斜めに埋置され，埋置角度は−9°で，主軸方位はN35°Eを示す。副葬品・人骨等の出土はなかった。

上　甕（図版54-3，第110図）　逆Ｌ字形口縁の甕で，器高31.4cm，口径28.2cm，底径6.4cmを測る。口縁部は若干肥厚し，水平に開く。胴部の張りは弱く，肉厚の上底に移行する。器面調整は口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ナデによる。

下　甕（図版54-3，第110図）　逆Ｌ字形口縁の甕で，器高46.3cm，口径27.2cm，底径6.8cmを測る。口縁部平坦面は内傾し，内側に突出する。胴部に張りはなく，上底の底部に移行する。調整は外面ハケ目，内面ナデによる。また，外面には煤が遺存しており，日常容器の転用品。

19号甕棺墓（図版35-1，第109図）

18号甕棺墓の1m北西側に並葬される。接口式の小児甕棺墓で，遺存状態は悪い。墓壙は楕円形を呈し，長軸1.07m，短軸0.7m，深さ0.3mを測る。甕棺はほぼ水平に埋置され，底面より5cm程浮いている。主軸方位はN50°Eを示す。副葬品・人骨等は出土していない。

上　甕（図版56-2，第110図）　逆Ｌ字形口縁の甕で，器高36.1cm，口径27.6cm，底径6.4cmを測る。口縁部は若干肥厚し，ほぼ水平に開く。頸部下位にはヘラ沈線を2条施している。胴部の張りは弱く，肉厚の底部に移行する。口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ナデ調整による。

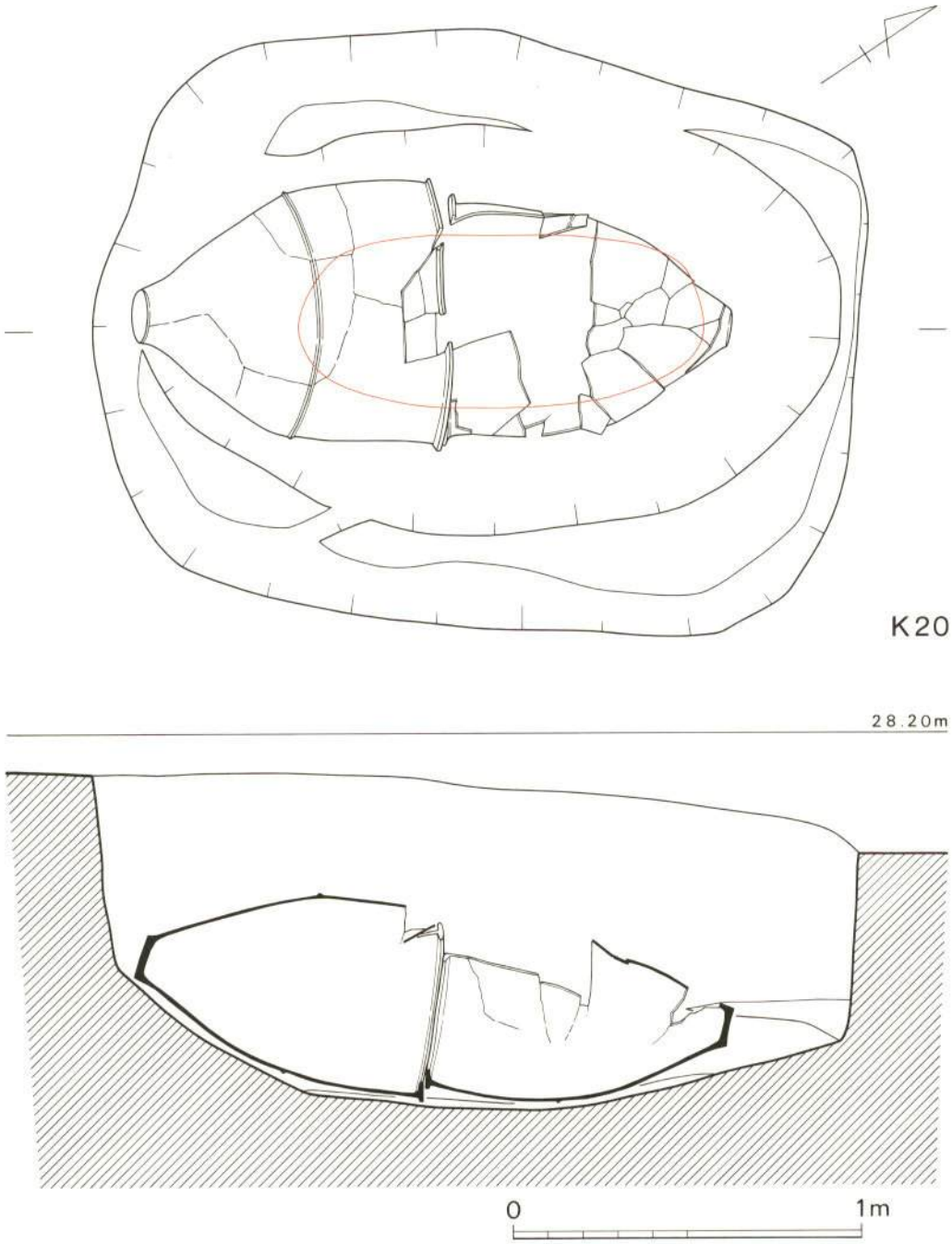
下　甕（図版56-2，第110図）　逆Ｌ字形口縁の甕で，器高35.4cm，口径30.0cm，底径6.3cmを測る。口縁部は肥厚し，内側に大きく突出する。胴部に張りはなく，肉厚の底部に移行する。器面調整は口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ナデによる。

20号甕棺墓（図版35-2，第111図）

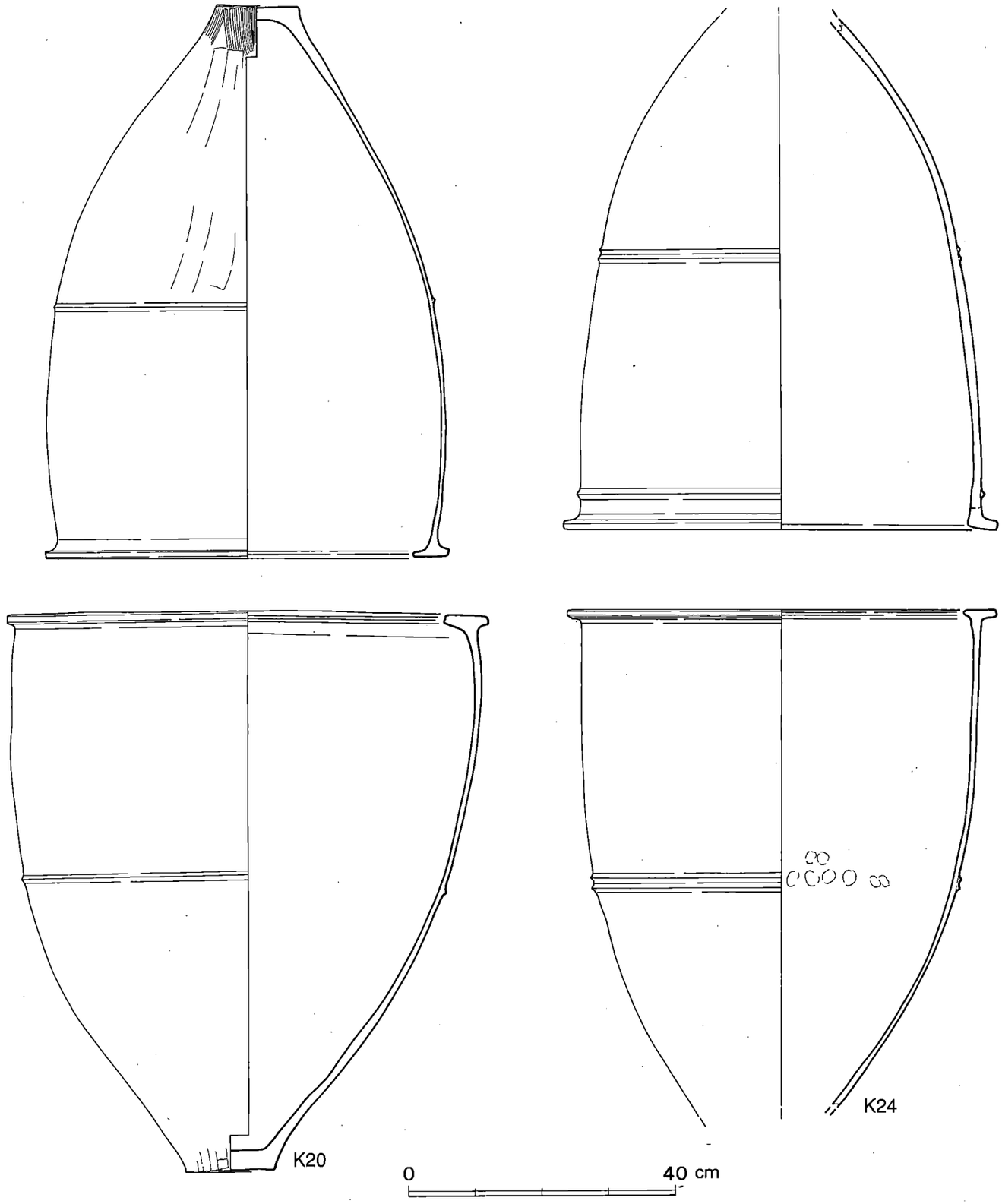
19号甕棺墓の西隣に並葬される。接口式の成人甕棺墓で，遺存状態は比較的良い。墓壙は隅丸長方形を呈し，周囲にテラスを有する。規模は長軸2.2m，短軸1.7m，深さ0.93mを測る。甕棺は斜めに埋置され，埋置角度は－7°で，主軸方位はN35°Eを示す。目張りの粘土はみられず，副葬品・人骨等も検出されていない。

上　甕（図版56-3，第112図）　器高82.8cm，口径60.2cm，底径12.5cmを測る大型の埋葬用甕である。口縁部は内側に大きく突出し，口縁部平坦面は水平である。胴部中位にはシャープな三角凸帯を貼付している。胴部の張りは弱く，平底の底部に移行する。器面調整は口縁部ヨコナデ，内外面ナデで，体部外面には黒塗りを施している。

下　甕（図版56-3，第112図）　器高84.5cm，口径64.8～72.4cm，底径13.5cmを測る大型の埋葬用甕である。口縁部は肥厚し，内側に大きく突出する。胴部は張りをみせずに平底の底部に移行する。胴部中位にはシャープな三角凸帯を貼付している。また，体部には7cm程の間隔で粘土接合痕がみられる。器面調整は口縁部ヨコナデ，内外面ナデにより，外面には黒塗りを施している。



第111図　20号甕棺墓実測図（1/20）



第112図　20・24号甕棺実測図（1/8）

21号甕棺墓（図版35-3，第113図）

20号甕棺墓の北西側に切られて位置する。接口式の小児甕棺墓で，上半部は削平されている。墓壙は長円形を呈し，残存長1.21m，短軸0.62mを測る。甕棺は斜めに埋置され，埋置角度は－2°で，主軸方位はN43°Eを示す。副葬品・人骨等は出土していない。

上　甕（図版57-1，第114図）　逆L字形口縁の甕で，器高36.1cm，口径30.8cm，底径6.6cmを測る。口縁部は若干肥厚し，内傾する。胴部の張りは弱く，肉厚の上底に移行する。調整は外面ハケ目，内面ナデによる。また，外面には煤が遺存しており，日常容器の転用品。

下　甕（図版57-1，第114図）　逆L字形口縁の甕で，器高37.2cm，口径30.6cm，底径6.9cmを測る。口縁部は若干肥厚し，内傾する。胴部に張りはなく，肉厚の底部に移行する。器面調整は口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ナデにより，外面には煤が厚く遺存している。

22号甕棺墓（図版36-1，第113図）

21号甕棺墓の1m南西側に位置する。接口式の小児甕棺墓で，上甕はピットに壊されている。墓壙は現状で長円形を呈し，長軸0.92m，短軸0.63mを測る。甕棺は斜めに埋置されており，主軸方位はN76°Eを示す。副葬品・人骨等は出土していない。

上　甕　小破片であるため図示していないが，壺の胴部破片である。頸部を打ち欠いて，下甕と接口している。外面ヘラミガキ，内面ナデによる。

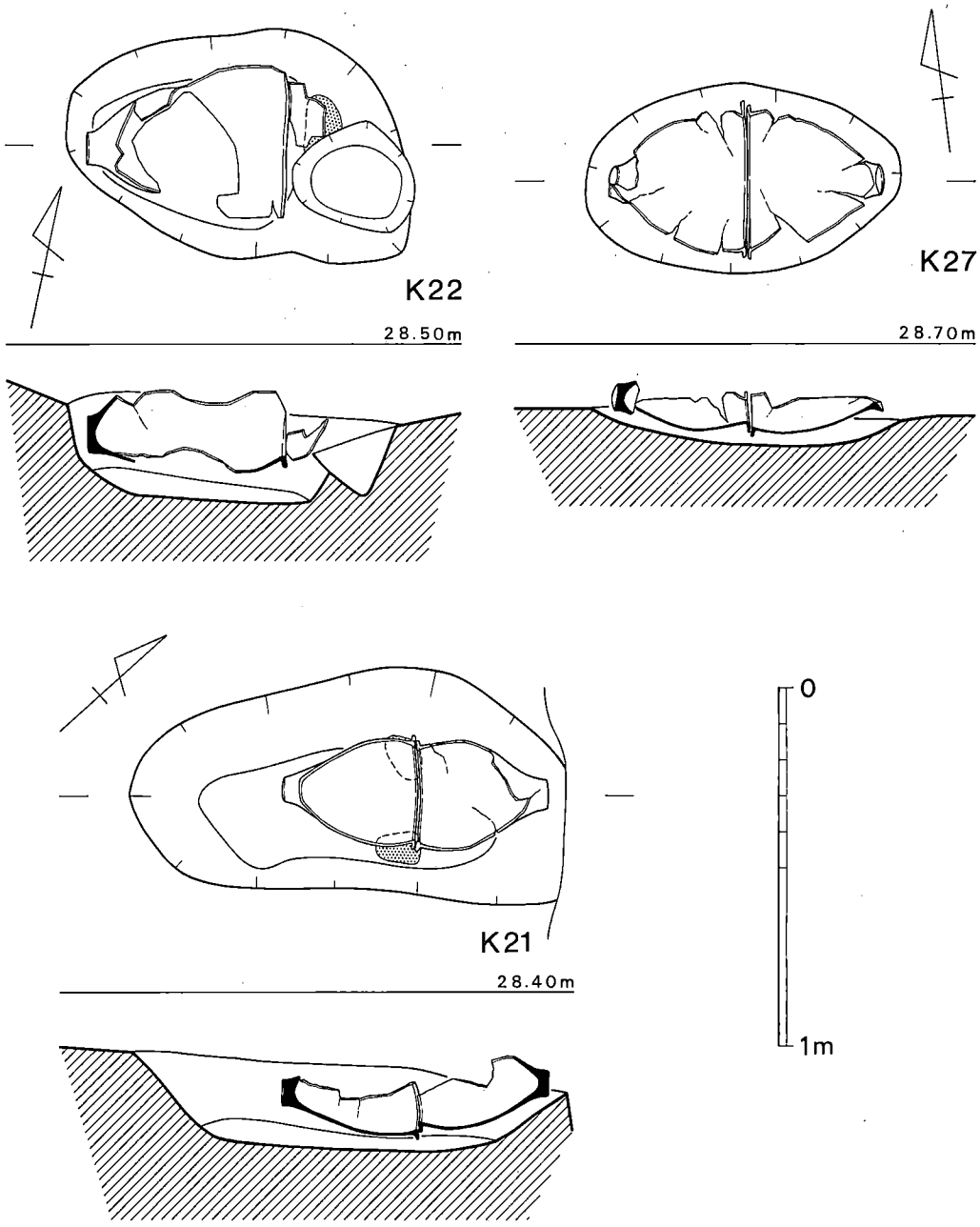
下　甕（図版55-3，第114図）　逆L字形口縁の甕で，器高56.5cm，口径41.2cm，底径8.8cmを測る。口縁部は肥厚し，やや内傾する。口径に対して，器高が高いので長胴の感がある。底部は締まりが悪く，側方にはみ出している。器面調整は口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ハケ目→ナデによる。

23号甕棺墓（図版36-2，第98図）

11号住居跡の1m北側に位置し，4・15・21号甕棺墓と列をなす。甕棺は抜き去られ，墓壙を留めるのみ。墓壙は長円形を呈し，長軸2.26m，短軸1.5m，深さ0.62mを測る。墓壙の規模からして成人棺で，壁面が抉れている方に下甕を埋置したと考えられる。底面から成人用大甕の口縁部片が出土したのみ。口縁部形態は24号甕棺下甕に類似する。

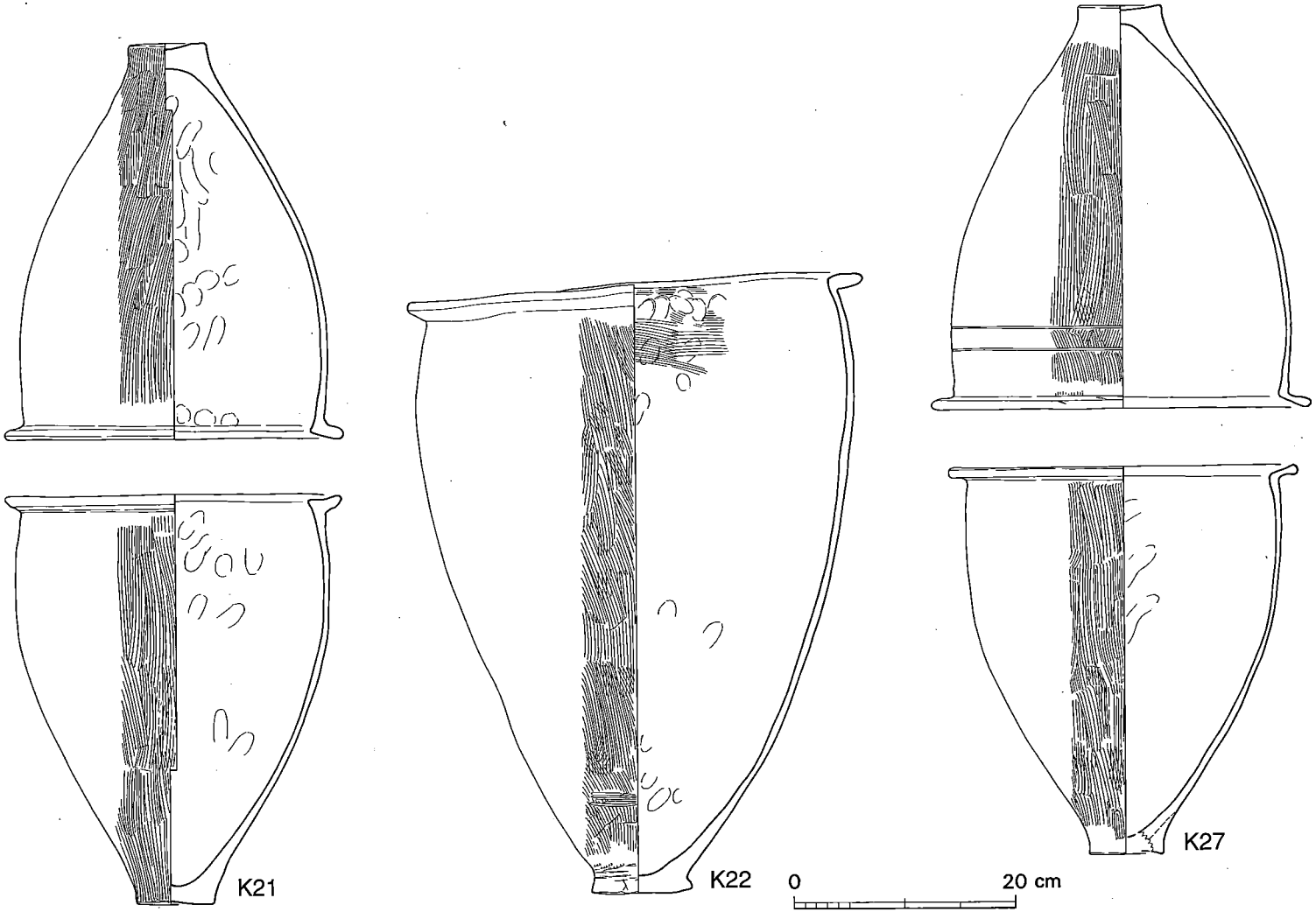
24号甕棺墓（図版36-3，第115図）

11号住居跡と近接し，23号甕棺墓の2.5m南東側に並葬される。接口式の成人甕棺墓で，遺存状態は悪い。墓壙は現状で楕円形を呈し，南東側にテラスを有する。規模は長軸1.90m，短軸1.12mを測る。甕棺はほぼ水平に埋置されている。目張りの粘土はみられず，副葬品・人骨等は出土していない。

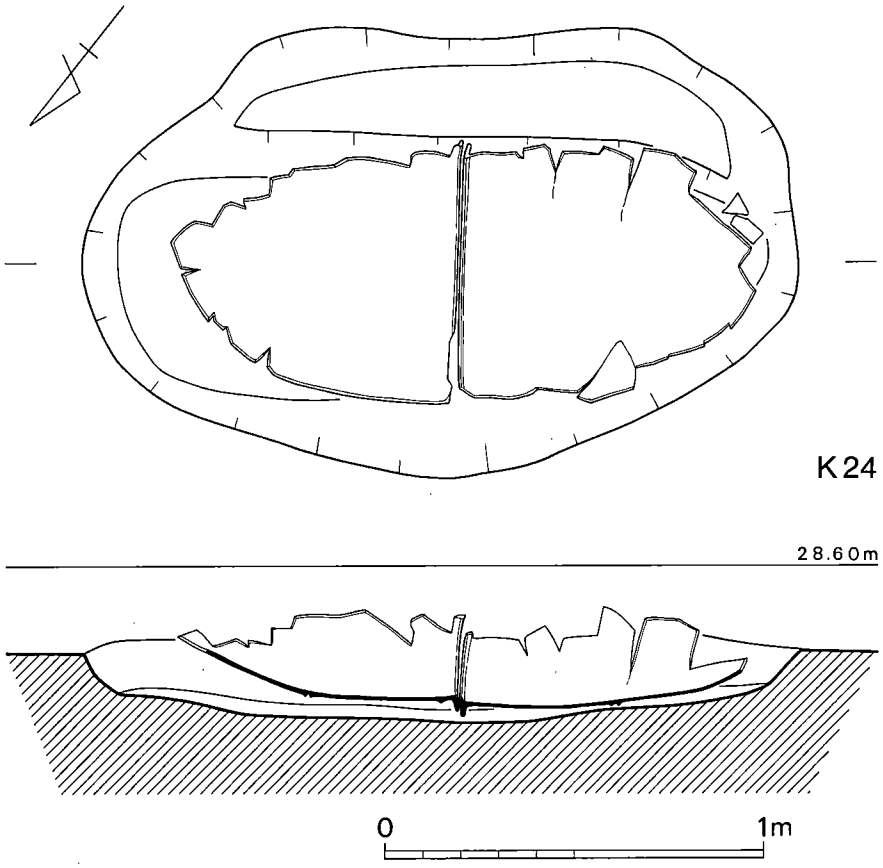


第113図　21・22・27号甕棺墓実測図（1/20）

上　甕（図版57-2，第112図）　1/2程の破片で，底部を欠く。残存高77.0cm，復原口径65.2cmを測る大型の埋葬用甕である。口縁部は逆L字形を呈し，内傾する。頸部直下に1条，胴部中



第114図　21・22・27号甕棺実測図（1/6）



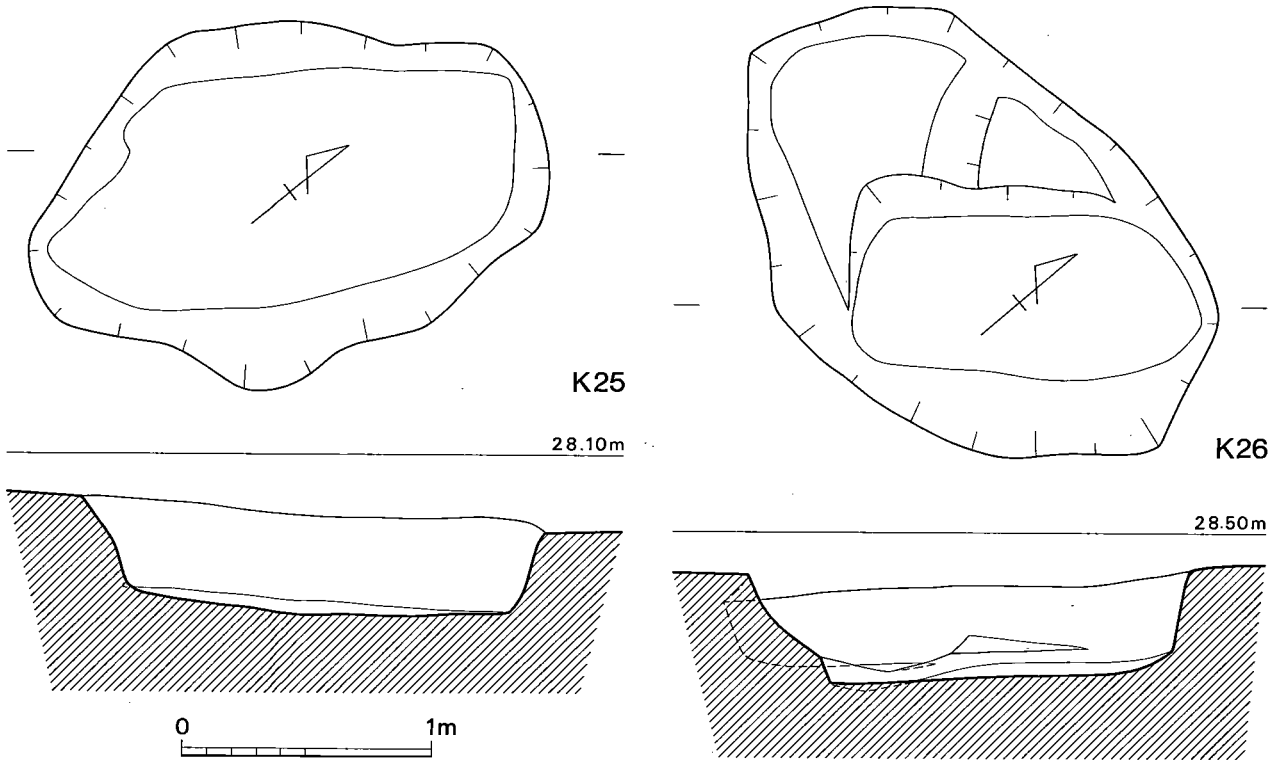
第115図　24号甕棺墓実測図（1/20）

位に2条の三角凸帯を貼付している。胴部に張りはなく，スマートな器形を呈する。器面調整は口縁部ヨコナデ，内外面ナデで，外面には10cm×15cm程の楕円形の黒斑が2箇所観察される。

下　甕（図版57-2，第112図）　2/3程の破片で，底部を欠く。残存高75.3cm，口径64.4cmを測る大型の埋葬用甕である。口縁部はT字形を呈するが，内側への突出は弱い。胴部は張りをみせずに底部に移行する。胴部中位にはシャープな三角凸帯を2条貼付している。器面調整は口縁部ヨコナデ，内外面ナデによる。

25号甕棺墓（図版37-1，第116図）

15号甕棺墓の1.5m北西側に位置する。甕棺は完全に抜き去られ，墓壙を留めるのみである。平面形は不整形を呈し，長軸2.12m，短軸1.34m，深さ0.38mを測る。墓壙の規模からして成人



第116図　25・26号甕棺墓実測図（1/30）

棺で，当該期の甕棺墓は上甕が下がっていることから底面が高い方に下甕を埋置したものと思われる。埋土中から遺物は出土していない。

26号甕棺墓（図版37-2，第116図）

20号甕棺墓の3.5m北西側に位置する。甕棺は既に抜き去られ，墓壙を留めるのみ。墓壙は不整形を呈し，長軸1.77m，短軸1.38m，深さ0.44mを測る。墓壙の規模からして中型棺を埋置したもので，底面がすぼまる北東側に下甕を埋置したと考えられる。埋土中から逆L字形口縁の小型甕片と口縁部が内側に突出するタイプの甕棺用大型甕の口縁片が出土している。

27号甕棺墓（図版38-1，第113図）

44号土壙を切って位置し，甕棺墓群から離れて埋葬される。接口式の小児甕棺墓で，上半部は削平されている。墓壙は現状で卵形を呈し，残存長0.87m，短軸0.52mを測る。甕棺はほぼ水平に埋置されており，主軸方位はN83°Wを示す。

上　甕（図版57-3，第114図）「く」字形口縁の甕で，器高36.7cm，口径34.5cm，底径7.6cmを測る。口縁部は僅かに肥厚し，端部を丸く納める。頸部下位にはヘラ沈線を2条施文している。胴部の張りは弱く，上底の底部に移行する。調整は外面ハケ目，内面ナデによる。

下　甕（図版57-3，第114図）逆L字形口縁の甕で，器高35.2cm，復原口径31.6cm，復原底径6.9cmを測る。口縁端部は若干肥厚し，丸く納める。器面調整は口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ナデによる。

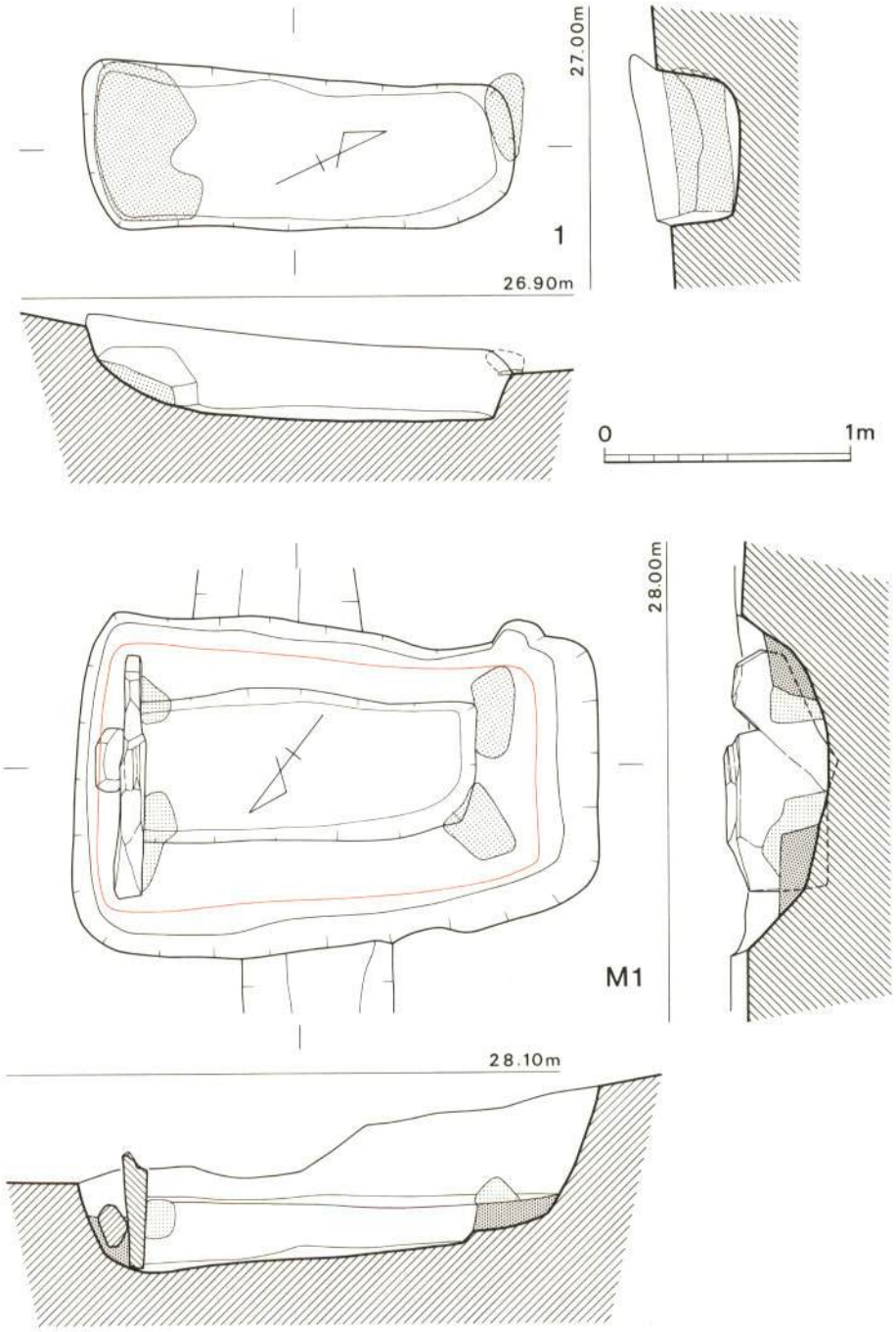
7．木　棺　墓

1号木棺墓（図版38-2，第117図）

5号甕棺墓と16号甕棺墓の間に位置する。墓壙は隅丸長方形を呈し，長さ2.12m，幅1.4m，深さ0.56mを測る。東側に扁平な小口石を立てており（註2），また，側板を押さえるための粘土が4箇所にみられた。屍床面は小口石側に下がっており，床面での長さ1.28m，幅0.5mを測る。主軸方位はN53°Eを示し，小口石側が頭位になろう。土器小片が出土した。

2号木棺墓（第119図）

奈良時代の151号住居跡の下部で検出した。屍床面の両小口側には小口板を立てていたと考えられる小溝があることから木棺墓とした。墓壙は楕円形を呈し，長さ2.22m，幅1.42m，深さ0.6mを測る。遺物の出土はなかった。



第117図　1号木棺墓，1号土壙墓実測図（1/30）

8．土　壙　墓

調査区の全域に散在し，形態的に11基を弥生時代の土壙墓とした。

1号土壙墓（第117図）

甕棺墓群に配列され，6号甕棺墓の1.5m北側に位置する。墓壙は隅丸長方形を呈し，長さ1.75m，幅0.63m，深さ0.33mを測る。南西小口側屍床面には粘土を敷いており，粘土枕としている。頭位はS25°Wを示す。埋土中から土器が出土した。

出土遺物（第118図）

土　器（1・2）　1は逆L字形口縁甕の小片。2は上底の甕底部片で，復原底径7.0cm。

2号土壙墓（第119図）

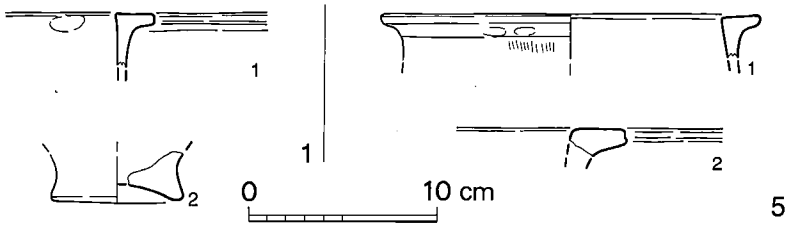
長さ2.38m，幅0.85m，深さ0.27mを測る溝状を呈するが，17号甕棺墓・2号木棺墓とで小群を形成していることから土壙墓とした。屍床面での長さ1.9m，幅0.3mを測る。幅が広い西側が頭位と考えられ，S71°Wを示す。甕の胴部小片が出土している。

3号土壙墓（第120図）

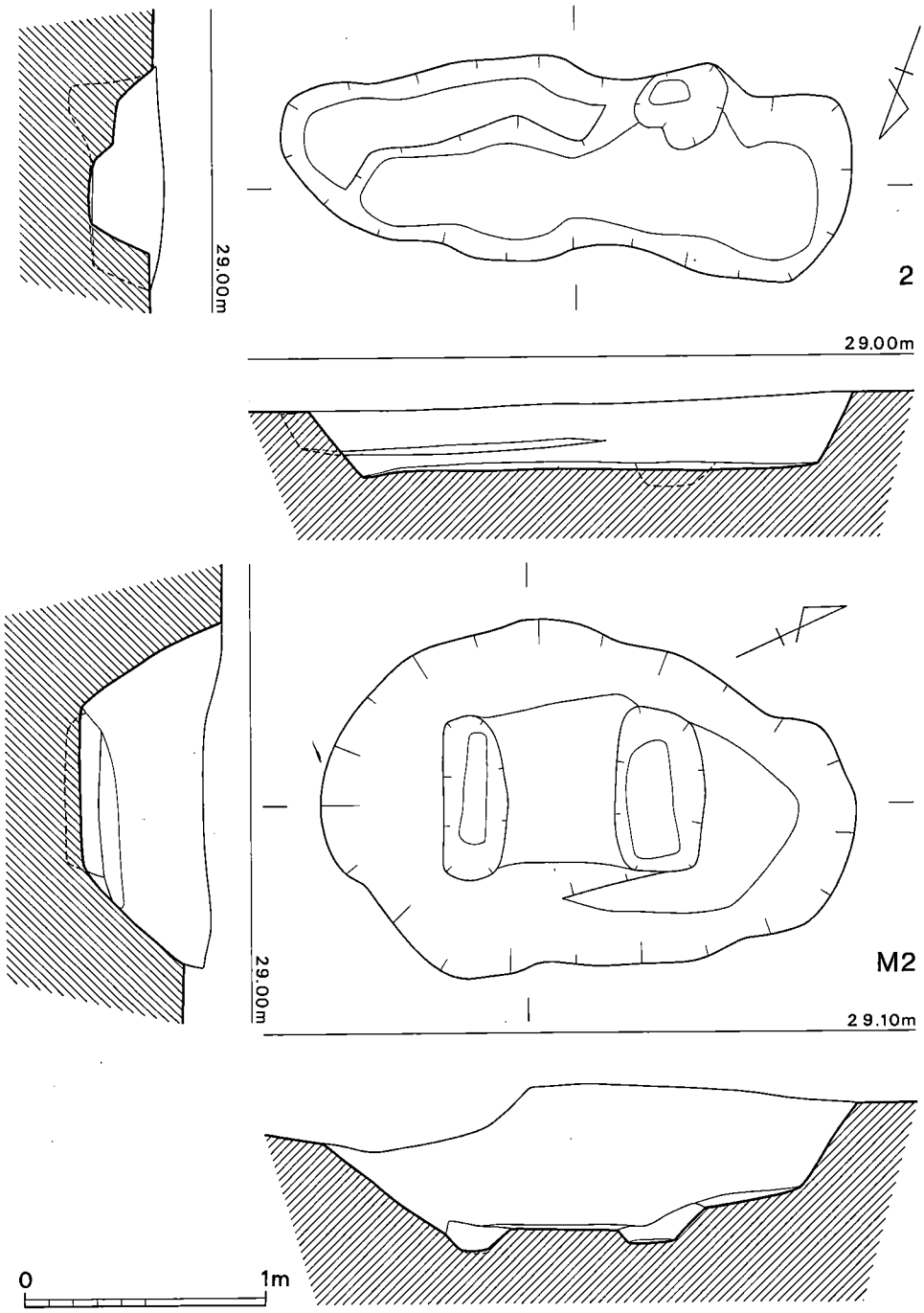
71号住居跡の東側に重複して位置する。墓壙は隅丸長方形を呈し，長さ1.57m，幅1.12m，深さ0.23mを測る。ピットと重複しているが，屍床面での長さ1.36m，幅0.8mで，西側が頭位になるか。頭位はS73°Wを示す。遺物の出土はなかった。

4号土壙墓（第120図）

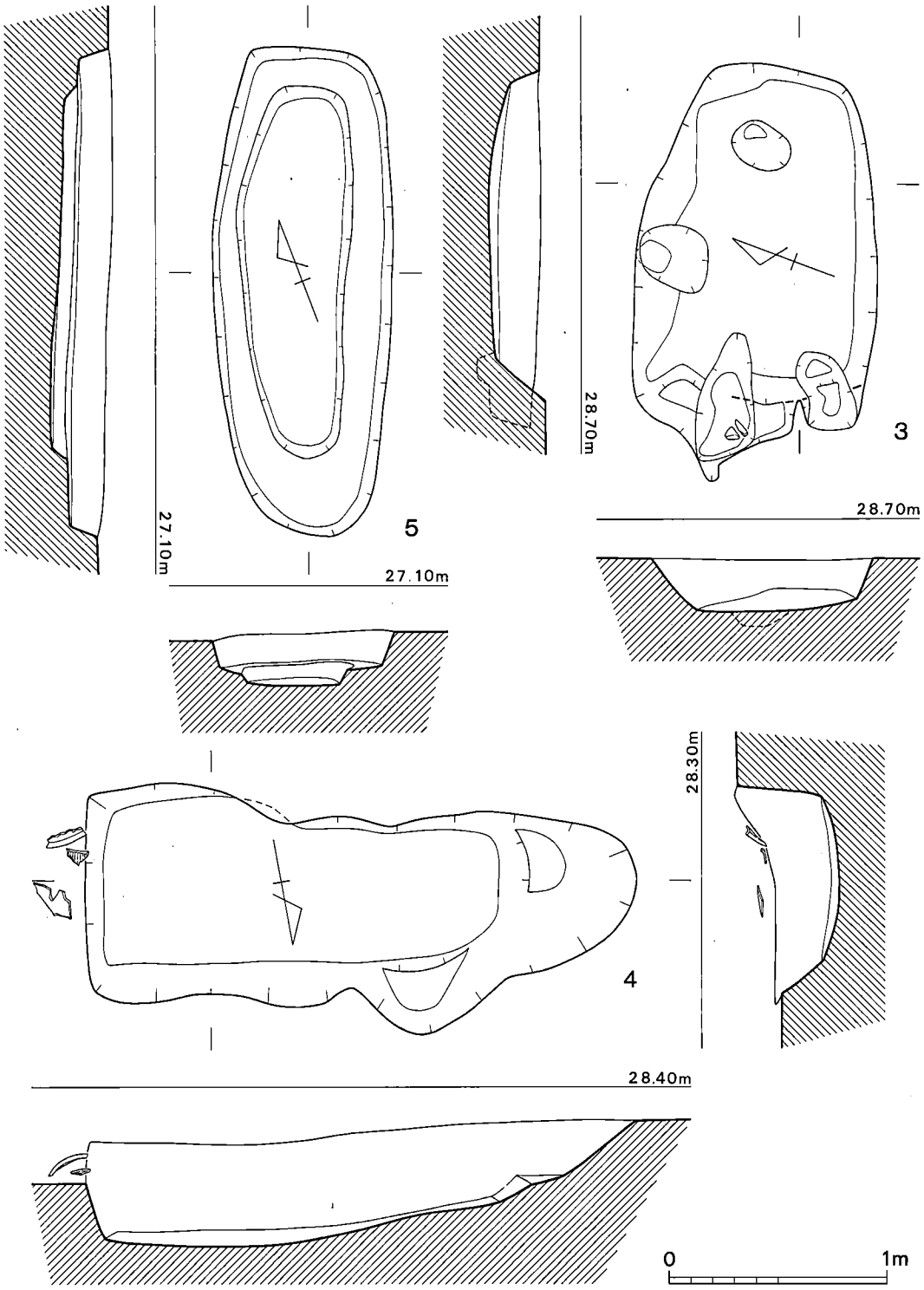
13号竪穴の0.5m北側に位置し，甕棺墓群とは5mの距離を有する。墓壙は不整長方形を呈し，長さ2.52m，幅0.96m，深さ0.46mを測る。小口幅の広い東側が頭位と考えられるが，屍床面は東側に傾斜している。頭位はS80°Eを示す。東壁付近と埋土中から甕の口縁部破片が出土している。



第118図　1・5号土壙墓出土土器実測図（1/4）



第119図　2号木棺墓，2号土壙墓実測図（1/30）



第120図　3～5号土壙墓実測図（1/30）

5号土壙墓（図版39-1，第120図）

5号土壙のすぐ北側に位置する。墓壙は長円形を呈し，二段に掘り込まれる。長さ2.23m，幅0.83m，深さ0.23mで，長軸方位はN21°Eを示す。埋土中から土器が出土した。

出土遺物（第118図）

土　器（1・2）　1は甕の口縁部片で，復原口径20.0cm。2は壺の口縁部小片。

6号土壙墓（第121図）

42号竪穴の1.2m北側に位置する。墓壙は隅丸長方形を呈し，長さ2.0m，幅0.8m，深さ0.2mで，屍床面は若干の起伏がある。長軸方位はN11°Eを示す。出土遺物はない。

7号土壙墓（第121図）

2号建物跡の4m北西側に位置する。墓壙は溝状を呈し，長さ2.4m，幅0.78m，深さ0.3mを測る。屍床面は北側に緩傾斜しており，頭位はS31°Wを示す。出土遺物はない。

8号土壙墓（第121図）

68号土壙と70号土壙との中間に位置する。墓壙は長円形を呈し，長さ1.62m，幅0.76m，深さ0.28mで，屍床面中央が窪む。西側が頭位と考えられ，S77°Wを示す。甕の口縁部小片が出土しているが，図示に耐えない。

9号土壙墓（第122図）

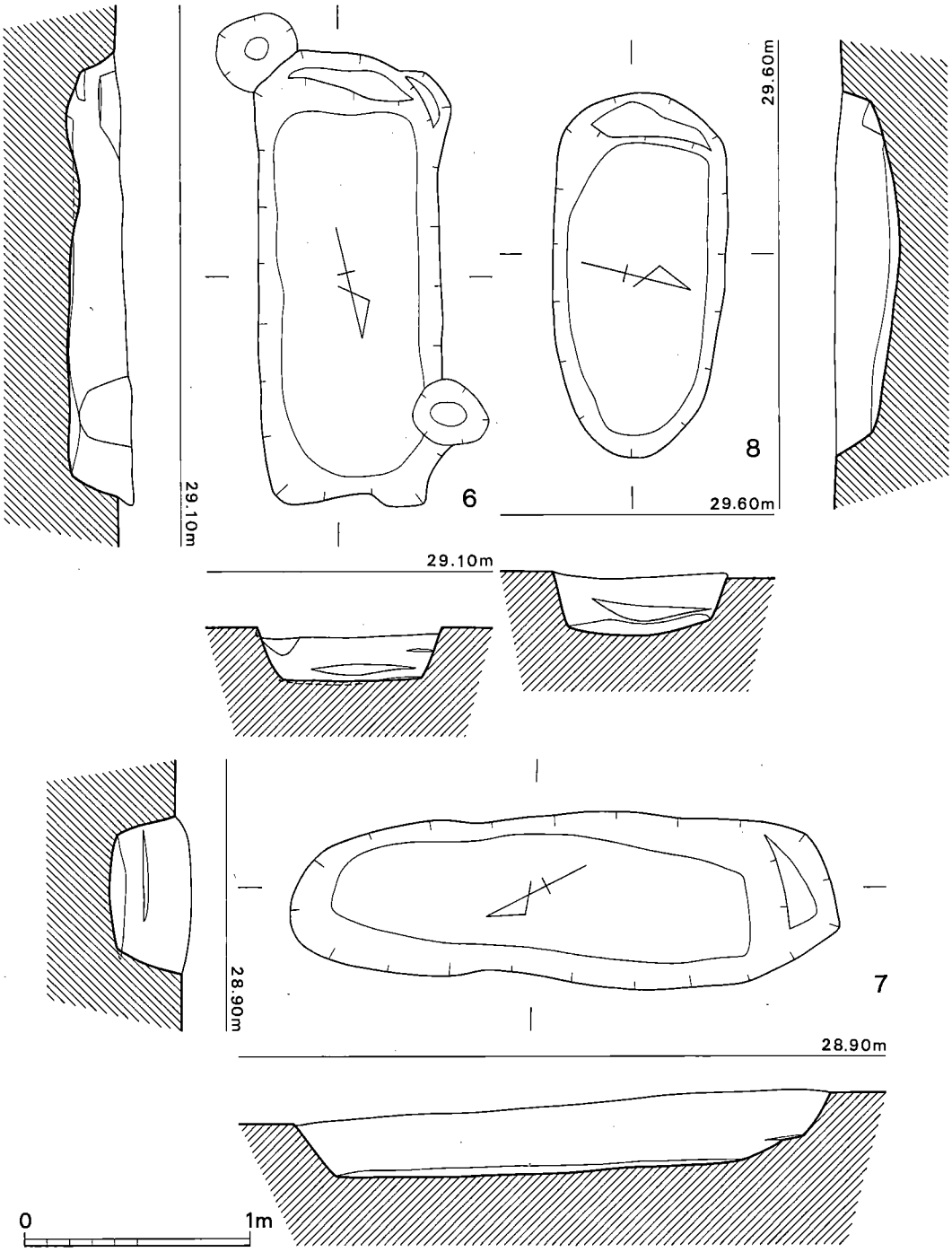
68号土壙の1.2m北側に位置する。墓壙はピットと重複しているが，隅丸長方形を呈し，長さ1.9m，幅0.68m，深さ0.3mで，屍床面はほぼ水平である。長軸方位はN48°Eを示す。出土遺物はない。

10号土壙墓（図版39-2，第122図）

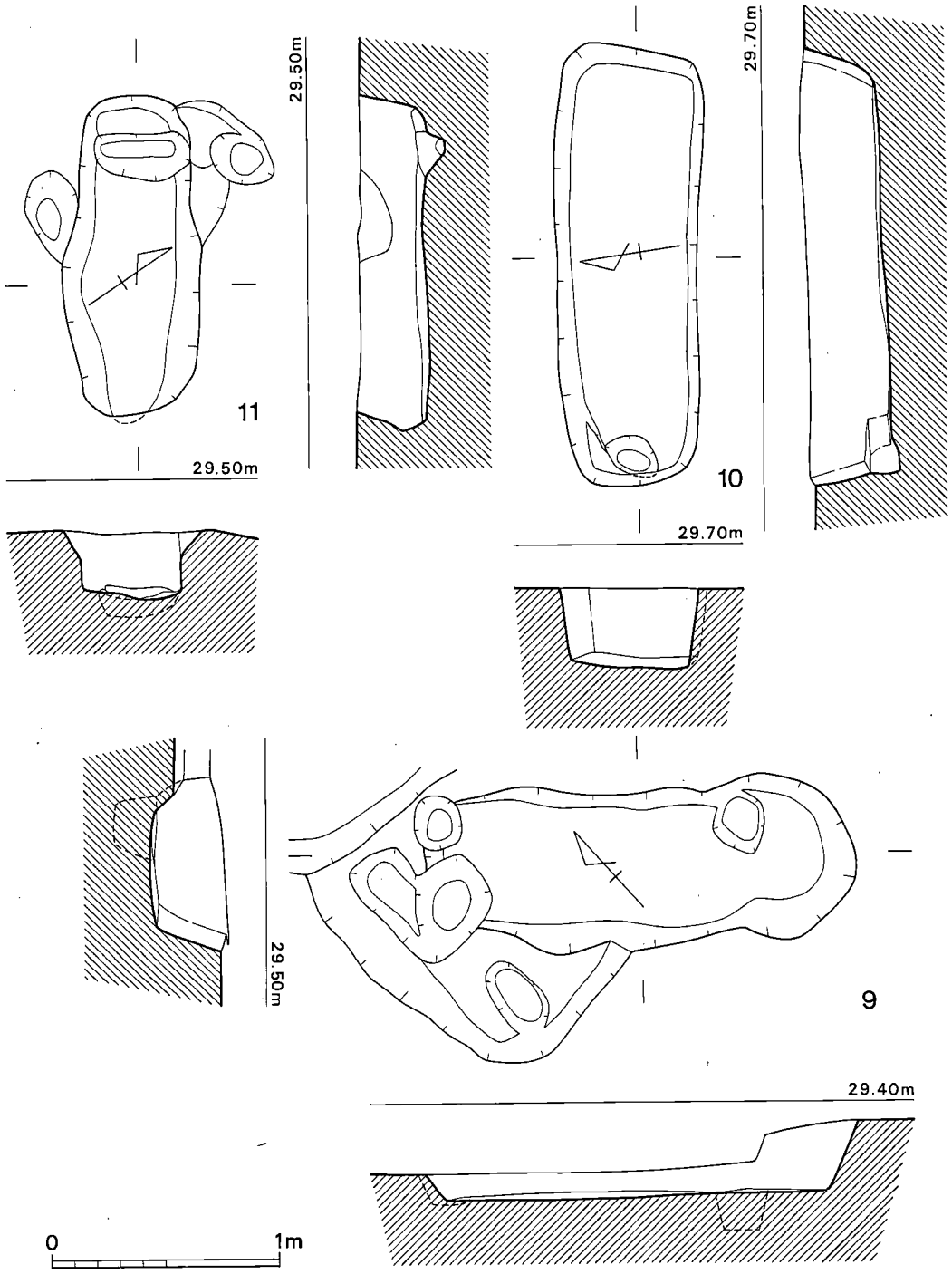
54号竪穴の2.7m西側に位置する。墓壙は隅丸長方形を呈し，長さ1.92m，幅0.62m，深さ0.34mで，屍床面は西側にやや傾斜している。西側小口にはピットがあり，若干窪む。長軸方位はS81°Wを示す。弥生土器片が出土しているので，一応弥生時代とした。

11号土壙墓（第122図）

調査区の北西側に単独で位置する。墓壙は隅丸長方形を呈し，長さ1.4m，幅0.6m，深さ0.3mで，屍床面はほぼ水平である。西小口側に小溝があり，小口板を立てていたものであろう。東壁は若干抉れている。頭位は西側で，N57°Wを示す。遺物は出土していない。



第121図　6～8号土壙墓実測図（1/30）



第122図　9～11号土壙墓実測図（1/30）

9．その他の遺物

遺物が出土したピットは総数925個数えるが，その内約600個のピットから弥生土器が出土している。また，遺構検出時及び黒色土からも弥生土器が出土した。紙面の都合上，残存状態の良好な20点弱を掲載した。

ピット・その他出土遺物（図版58～61，第123～130図）

土　器（図版58，第123・124図）

1は壺の頸部破片で，口縁部を欠く。胴部中位には三角凸帯を貼付している。器面調整は胴部外面ミガキ，内面ナデで，頸部外面には暗文がみられる。P354から出土した。

2・3は口縁部が三角形を呈する亀の甲タイプの甕で，口径は2が26.8cm，3は25.6cmを測る。3は頸部下位にヘラ沈線を施す。器面調整は外面ハケ目，内面ナデによる。両者とも外面には煤が遺存する。2がP213・239の出土で，3はP192から出土した。

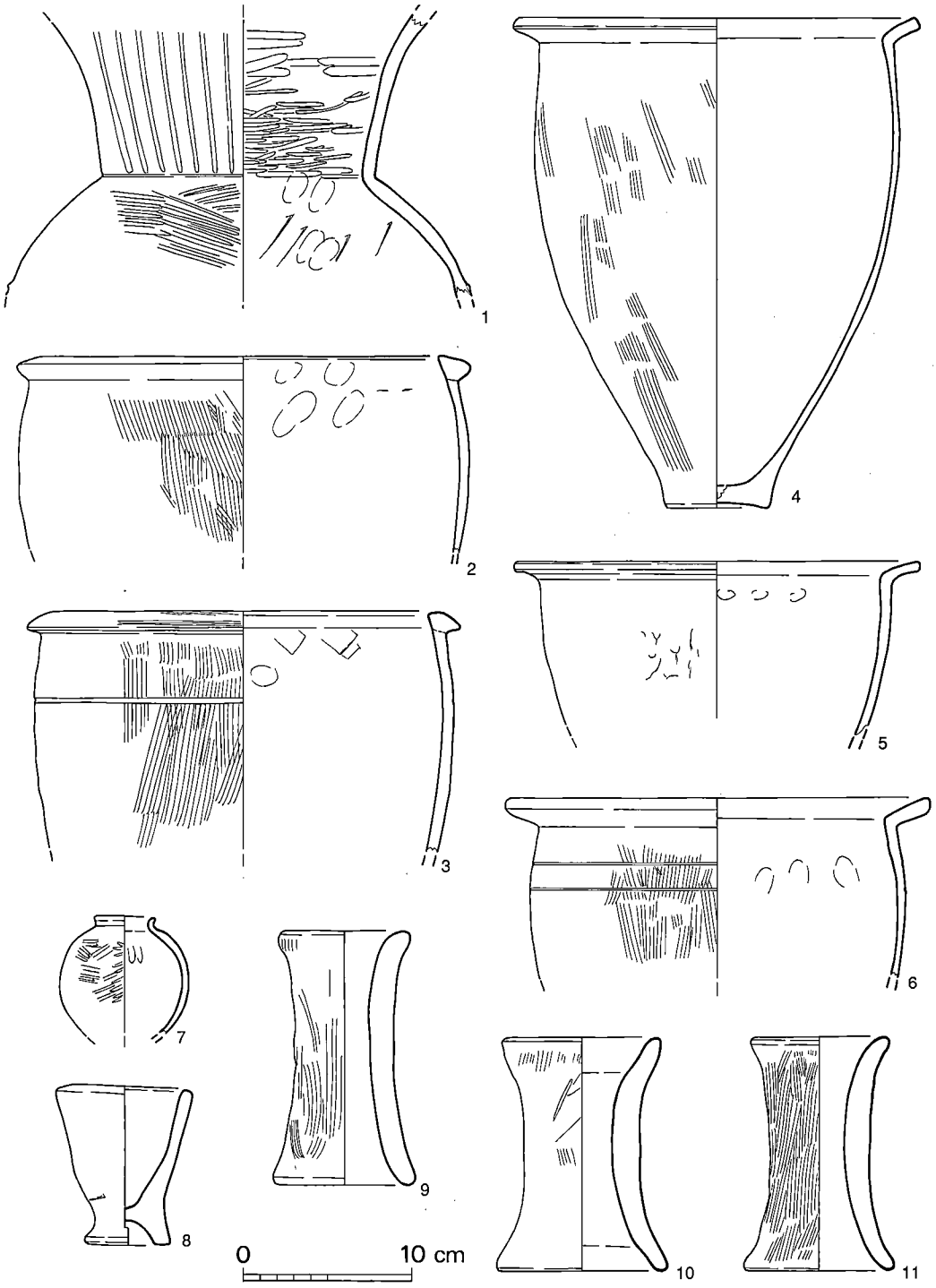
4～6は口縁部が「く」字形を呈する甕である。4は器高28.8cm，口径24.0cm，底径6.2cmを測る。6は頸部下位に2条のヘラ沈線を施す。4・6の外面調整はハケ目であるが，5は内外面ともナデによる。4～6ともにP22の出土。

7はミニチュアの壺形土器である。口縁部は小さく屈曲し，胴部は球状に大きく張る。口縁部ヨコナデ，外面ハケ目，内面ナデによる。P237・238から出土した。8はミニチュアの甕形土器で，器高9.25cm，口径8.1cm，底径9.2cmを測る。口縁部は上底の底部からそのまま開く。内外面ともナデによる。古墳時代の112号住居跡の床面から出土した。

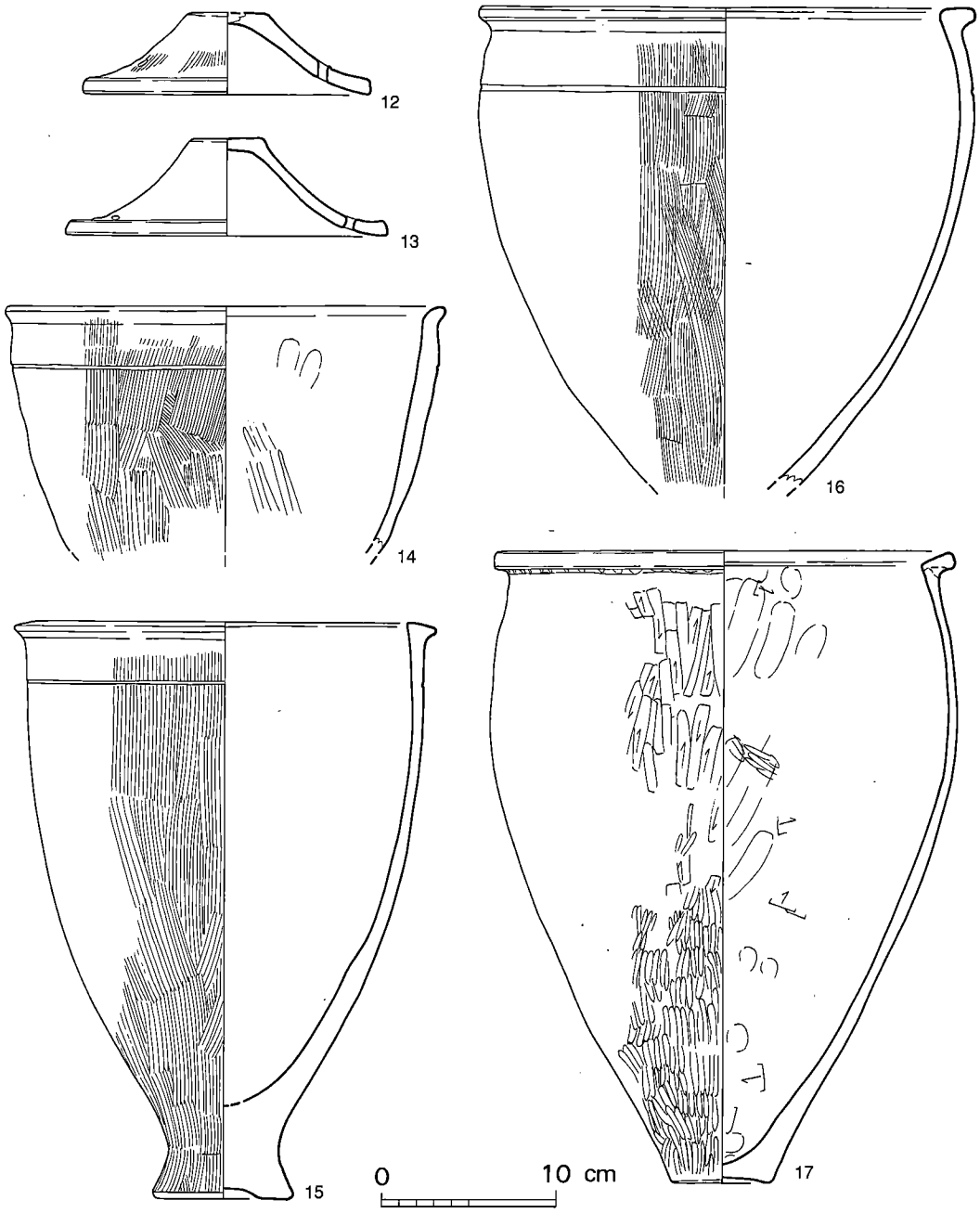
9～11は鼓形の器台である。口縁部と底部の開きは悪く，何れも器壁は1.5cmと肉厚である。器高は9が15.1cm，10は13.8cm，11は13.9cmを測る。外面ハケ目，内面ナデによる。9がP805，10はP4，11はP55から出土した。

12・13は小型の蓋で，天井部が平坦な台形状を呈する。ともに2個一対の円孔を裾部に空けている。器高は12が4.6cm，13は5.6cmで，口径は12が16.5cm，13は18.0cmと13がやや大ぶりである。12は6号竪穴西側付近の出土で，13は2号住居跡東側黒色土の出土である。

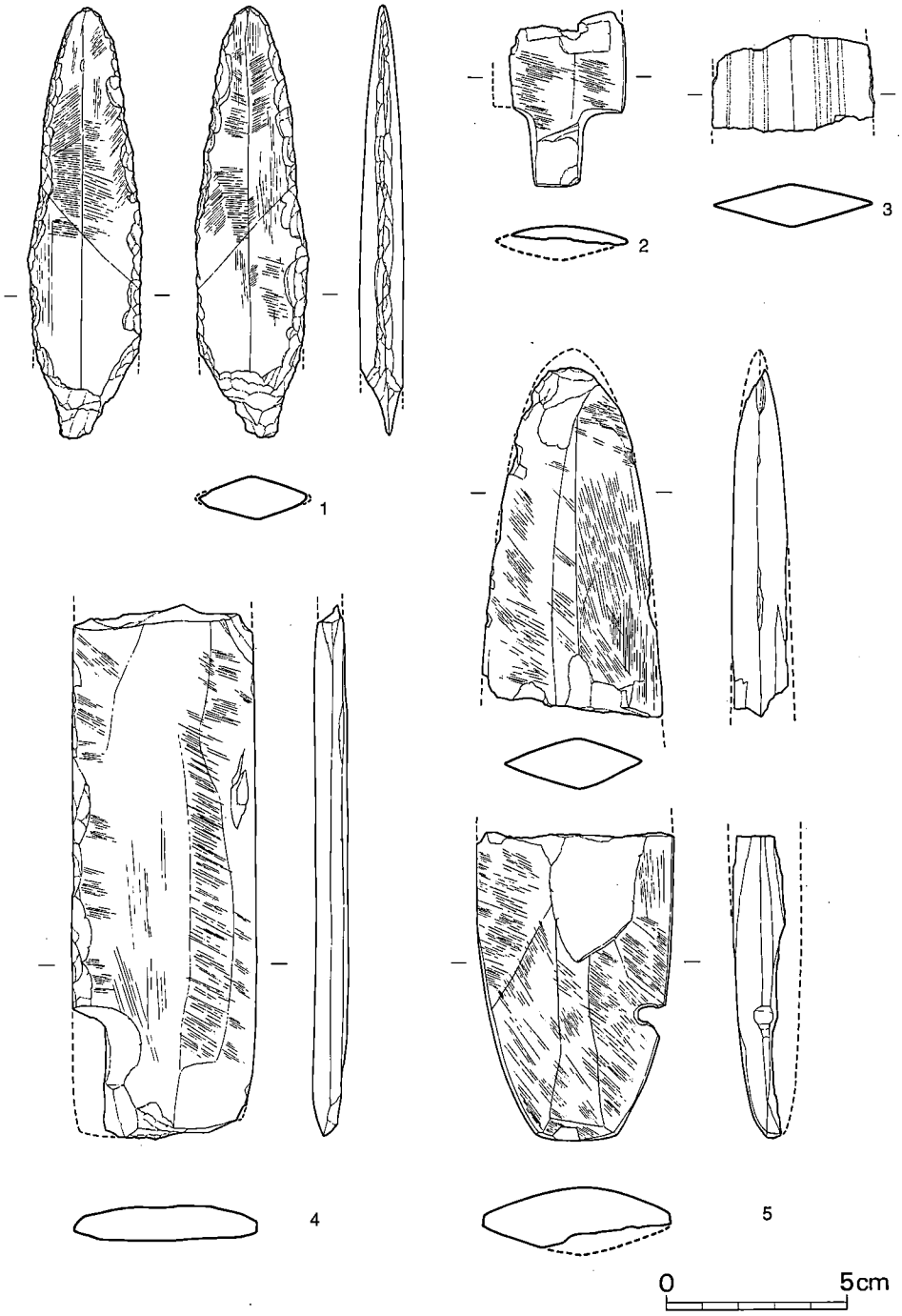
14～17は甕である。14の口縁部は外方に小さく屈曲する如意形を呈する。器壁は厚く，頸部下位にヘラ沈線を施す。15は亀の甲タイプの口縁を呈し，器高23.0cm，口径24.0cm，底径7.4cmを測る。底部は肉厚の上底をなす。外面ハケ目，内面ナデにより，内面には炭化物が付着している。16は肥厚する逆L字形口縁を呈し，頸部下位にヘラ沈線を施す。17は内傾する逆L字形口縁を呈し，端部は肥厚する。胴下半部はミガキ，上半部は工具ナデにより，内面はナデによる。器高35.8cm，口径26.1cm，底径5.8cmを測る。14はP817，15は181号住居跡付近，16は114号住居跡北側，17は51・52号貯蔵穴付近の出土。



第123図　ピット・その他出土土器実測図①（1/4）



第124図　ピット・その他出土土器実測図②（1/4）



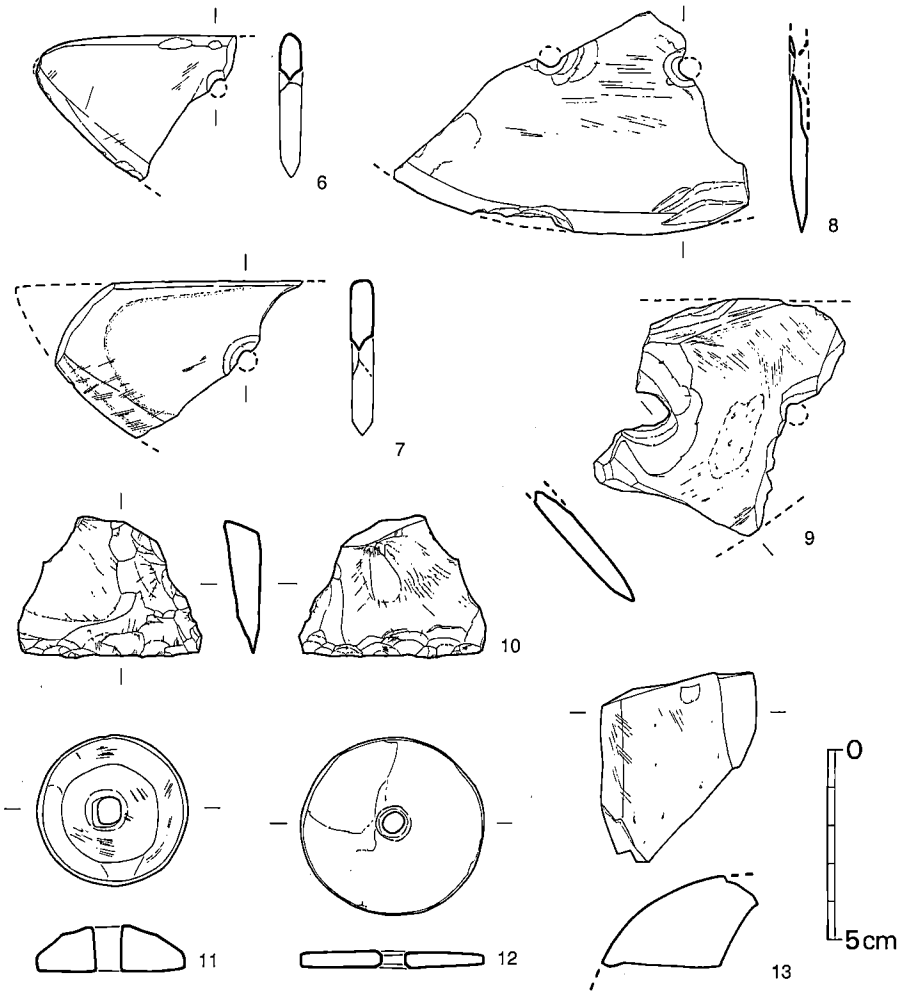
第125図　竪穴・土壙他出土石器実測図①（1/2）

石　器（図版60-2，第125～127図）

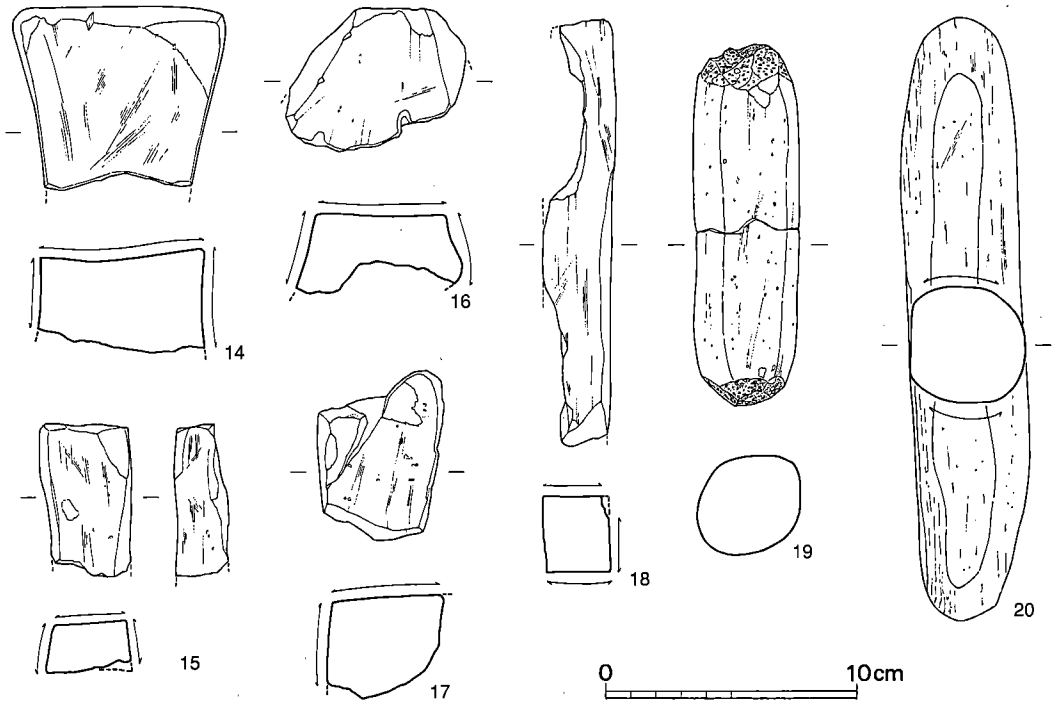
石　剣（5）　5は石剣の先端部と基部の破片である。先端部がＰ883から出土し，基部が50号住居跡東側の出土であるが，同一個体と思われる。先端部の断面形は菱形を呈する。基部の側縁には抉りを設けている。石材は粘板岩。

石包丁（6～9）　6～9は石包丁の小破片であるが，6・7・9は三角形を呈し，8は杏仁形を呈しよう。9は蛇文岩の石片を再利用したもので，石斧の転用品か。6は45号竪穴付近，7は2号木棺墓東側，8は43号住居跡西側，9は151・152号住居跡カマド内の出土。6～8は凝灰岩製。

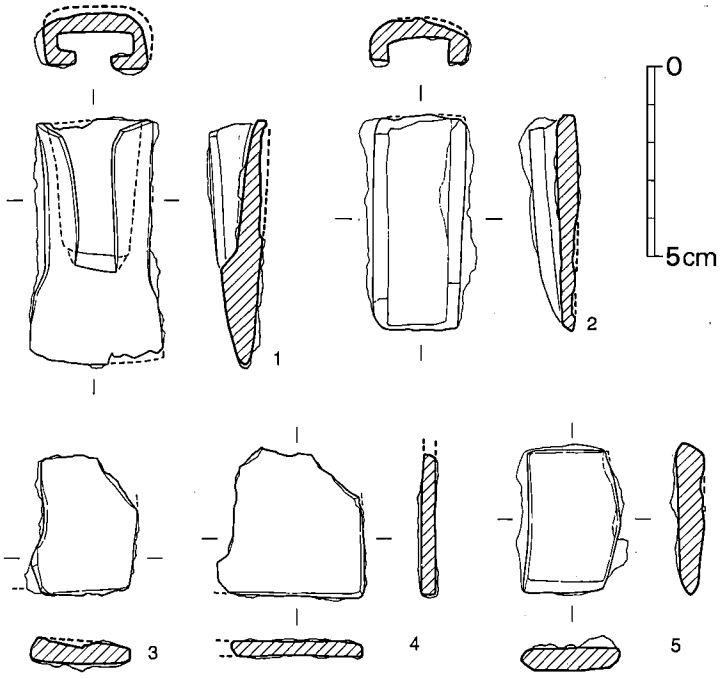
削　器（10）　サヌカイト製の削器で，台形状を呈する。刃部幅4.7cmで，Ｐ805の出土。



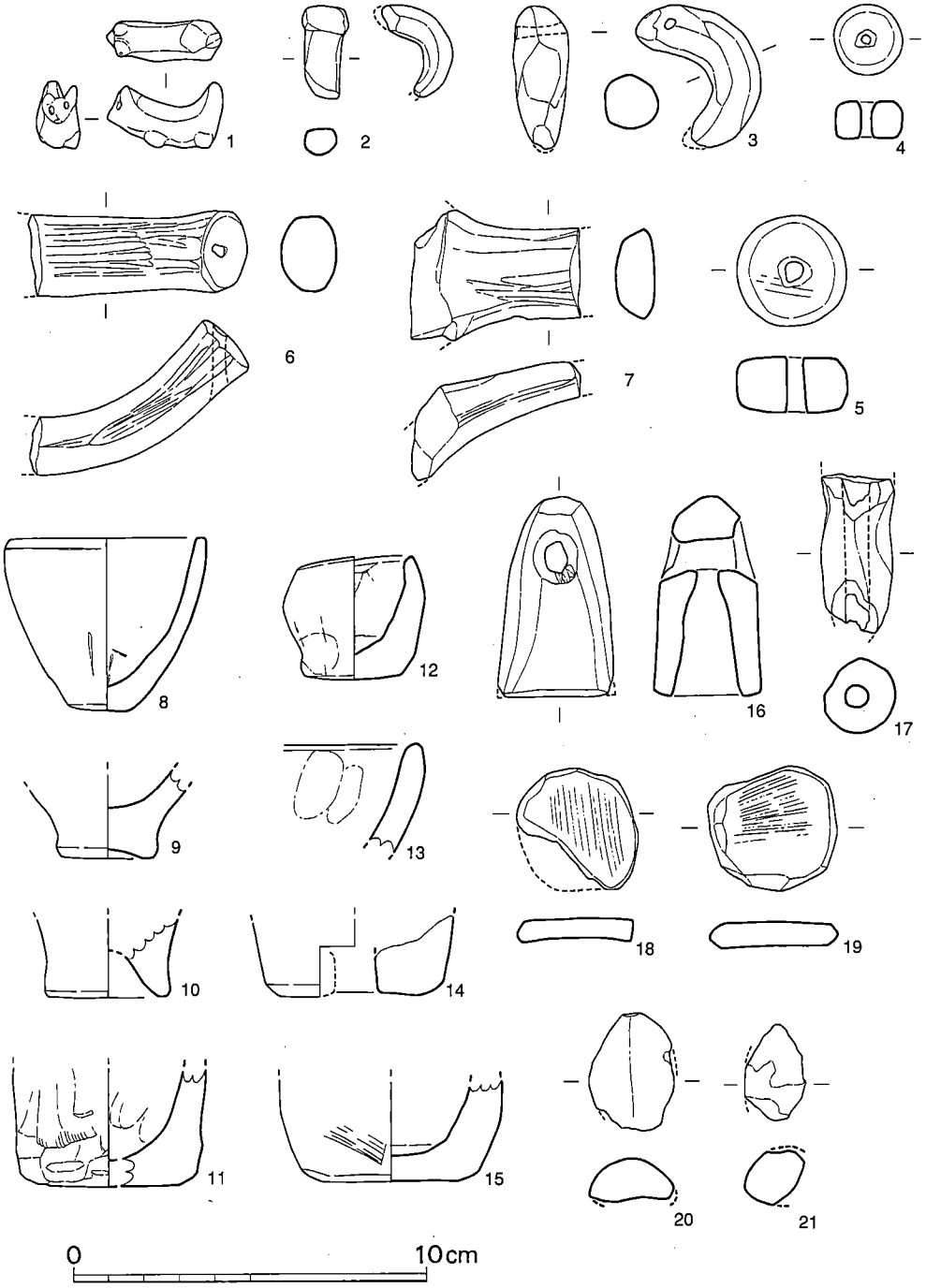
第126図　竪穴・土壙他出土石器実測図②（1/2）



第127図　竪穴・土壙他出土石器実測図③（1/2）



第128図　竪穴・土壙他出土鉄器実測図（1/2）



第129図　竪穴・土壙他出土土製品実測図①（1/2）

紡錘車（11・12）　11は山形を呈し，径3.9cm，厚さ1.2cm，重さ28.75ｇ。滑石製で，Ｐ22の出土。12は扁平な紡錘車で，径4.8cm，厚さ0.45cm，重さ17.3ｇ。片岩製で，出土地不明。

砥　石（17・18）　17は1号土壙付近の出土で，残存長6.8cm。2面を砥面としている。黄褐色の砂岩製。18は方柱形の砥石で，残存長16.0cm，幅2.7cm，厚さ3.0cmを測る。4面を砥面としている。粘板岩製で，Ｐ804から出土した。

鉄　器（図版61-1，第128図）

鉄　斧（2）　2は袋部を持たない鉄斧で，側縁は直気味に立つ。先端を尖らせ，刃部としている。長さ5.7cm，刃部幅2.0cm。鋳造鉄斧の側縁部破片を再利用したものか。奈良時代の178号住居跡床面から出土したが，形態から弥生時代とした。

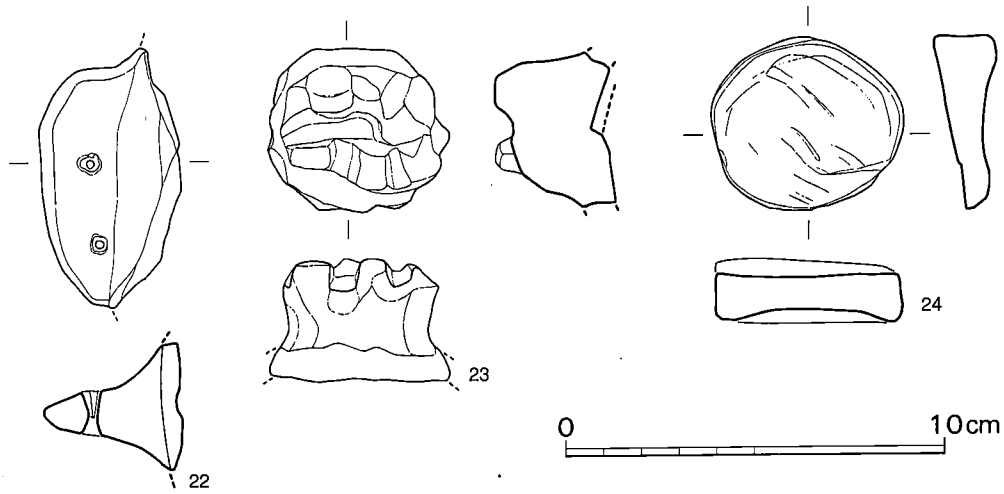
不明鉄器（5）　5は扁平な鉄器の破片で，長さ4cm，幅2.5cm，厚さ0.7cmを測る。板状鉄斧になるか。5号住居跡南側で採集した。

土製品（図版61-2，第129・130図）

土　玉（4）　円形の土玉で，径1.95cm，厚さ1.1cmを測る。中央に径0.25cmの円孔を穿つ。胎土に石英・角閃石を含む。焼成は良好で，暗褐色を呈する。Ｐ67の出土。

紡錘車（5）　5はやや小ぶりの紡錘車で，径3.1cm，厚さ1.5cm，重さ19.1ｇを測る。中央に0.5cmの円孔を空ける。焼成は良好で，橙褐色を呈する。158号住居跡下層の出土で，62号竪穴に伴うものか。

御玉杓子形土製品（6）　6は取手部の破片であるが，御玉杓子形を呈しよう。断面形は長円



第130図　竪穴・土壙他出土土製品実測図②（1/2）

形を呈し，先端には垂下用の円孔を穿つ。器面は丁寧なミガキ調整による。21号土壙付近から出土した。

ミニチュア土器（8・10・12・13・15）　8・12・13は椀形を呈する。8は器高4.9cm，口径5.5cm，底径1.7cmを測る。内外面ともナデ調整による。12は手捏ねで，器高3.5cm，口径3.2cm，底径2.7cm。13は口縁部小片で，内面には指頭圧痕がみられる。15は底部破片で，復原底径5.0cm。10は甕形を呈し，18号住居跡の出土。8は168号住居跡，12はC－11区，13は旧住208号，15はP258から出土した。

土　錘（16・17・19）　16は釣錘形の土錘で，高さ5.6cm，裾部幅3.4cm。上部には焼成後穿孔の円孔を設ける。P28の出土。17は手捏ね風の管状土錘で，残存長4.5cm，径2.0cm。19は土器片錘で，側縁を擦っている。16はP28，17はP923，19は102号住居跡の出土。

投　弾（20・21）　20・21は投弾形土製品で，P477の出土。

不明品（22・24）　22は鍔の部分で，長さ6.4cm。焼成前穿孔の小孔を2箇所に空ける。胎土に石英・長石・黒曜石を含む。C－11区下層の出土。24は円盤形の土製品で，中央部が窪む。径5.1cm，厚さ0.8cm。内外面とも擦過による。P12から出土した。

図　　版

1　上の原遺跡周辺航空写真（国土地理院撮影，KU-76-2X　C11/33）

1 大還端遺跡　2 石成久保遺跡　3 中道遺跡　4 西法寺遺跡　5 大庭久保遺跡　6 上の原遺跡　7 狐塚南遺跡　8 治部ノ上遺跡

1　上の原遺跡周辺航空写真（南西から）

2　上の原遺跡周辺航空写真（南から）

1　東端部貯蔵穴群（東から）

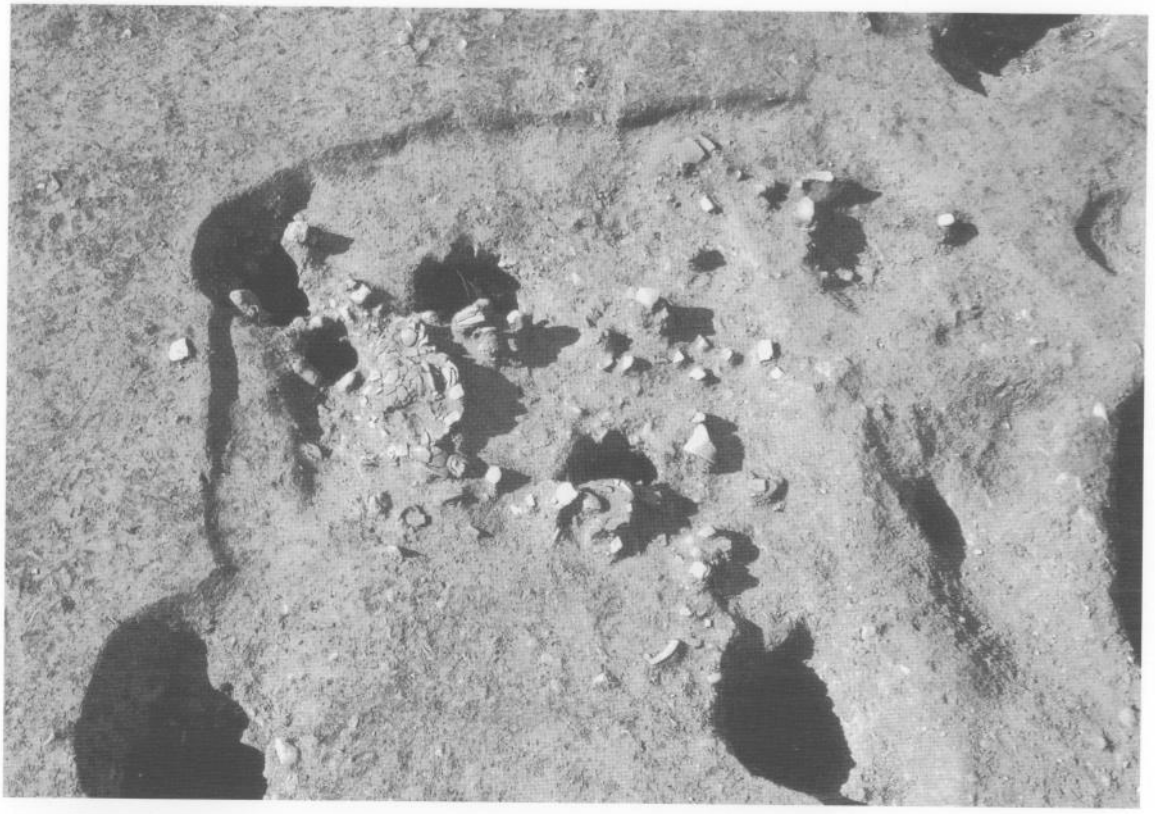
2　上の原遺跡全景（南から）

1　Ⅰ区遺構検出状況（北西から）

2　1・2号竪穴（北西から）

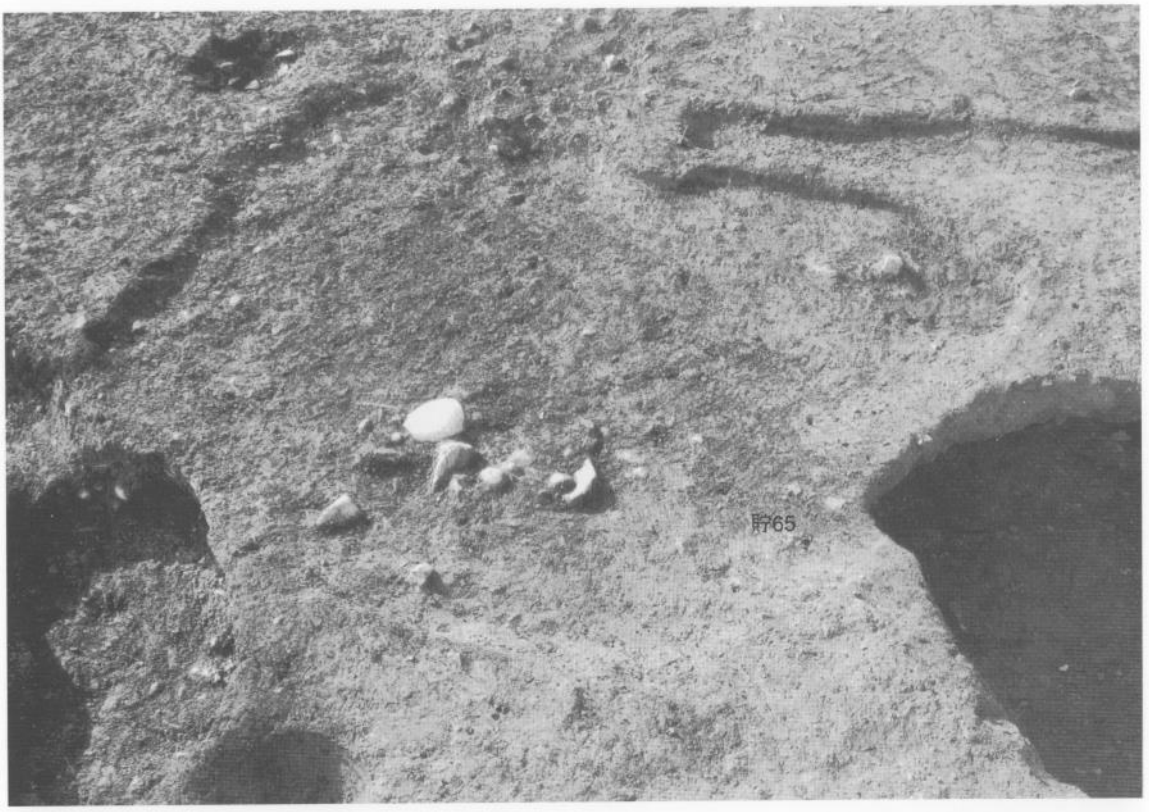
1　1号竪穴（南西から）

2　2号竪穴（南西から）

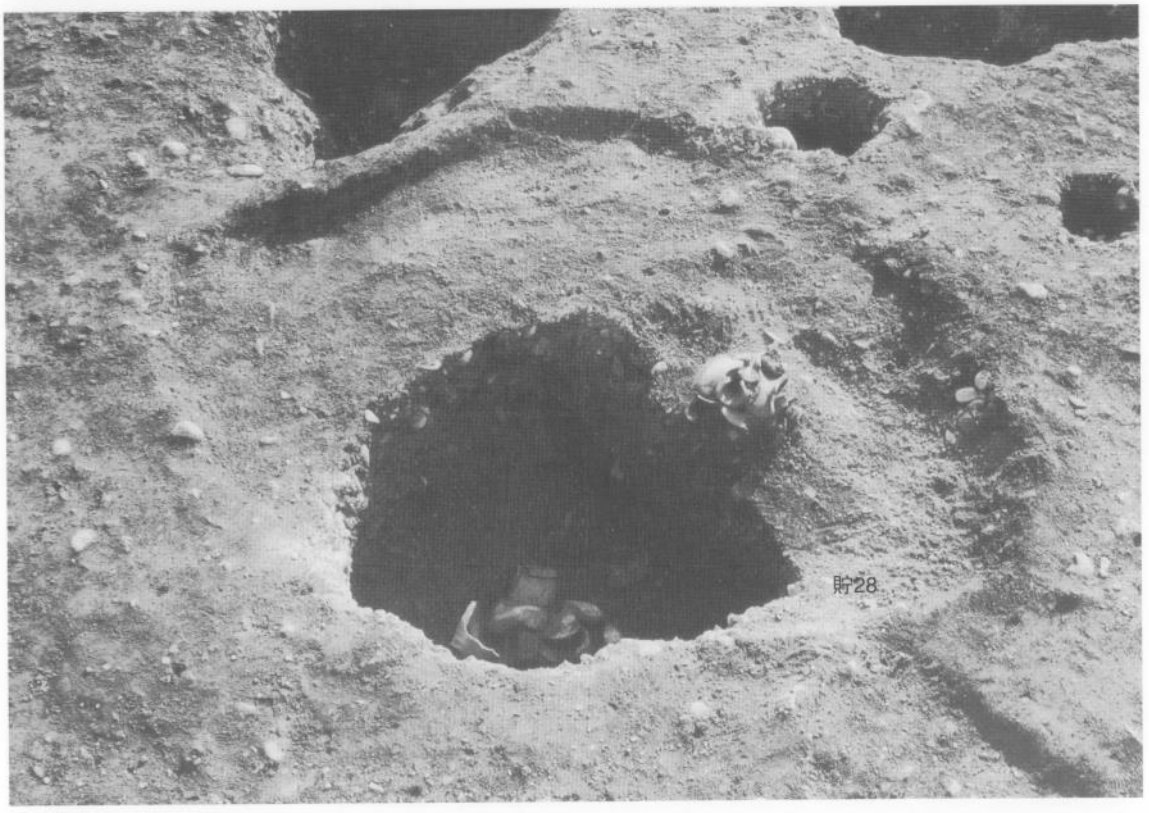


1　4号竪穴（東から）

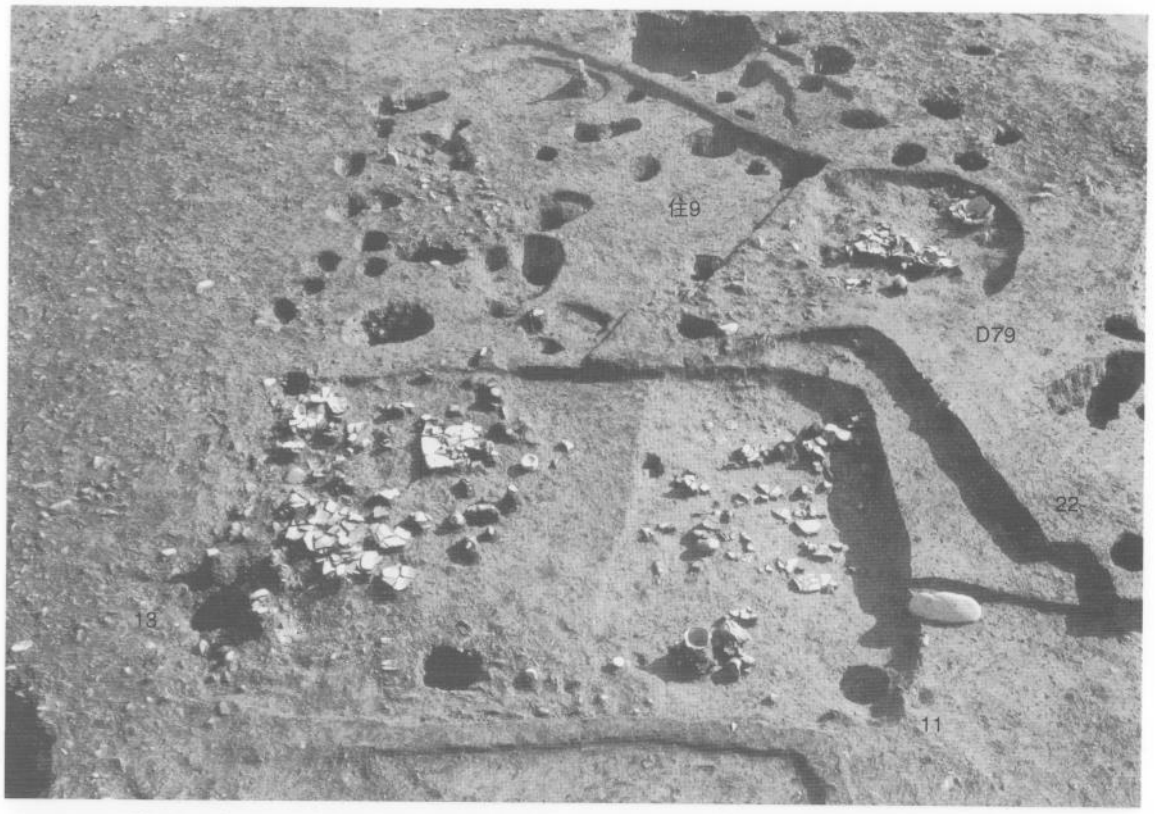
2　6号竪穴（東から）



1　7号竪穴（東から）



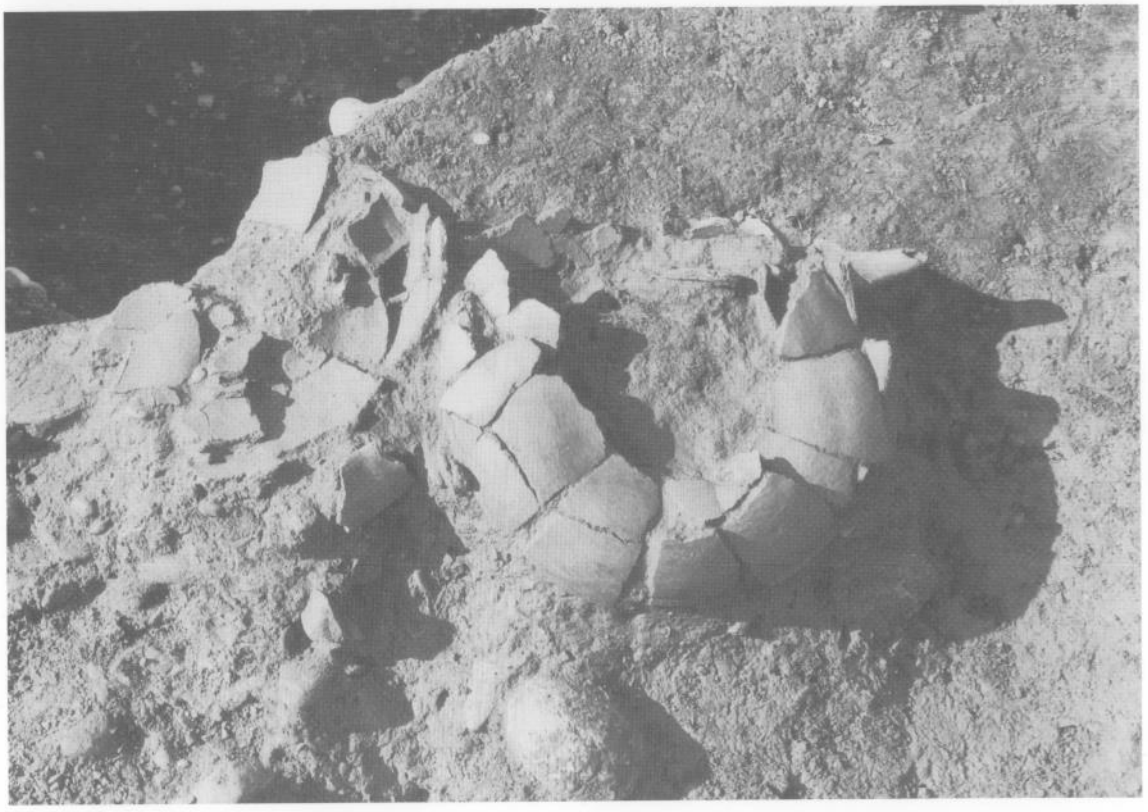
2　8号竪穴（東から）



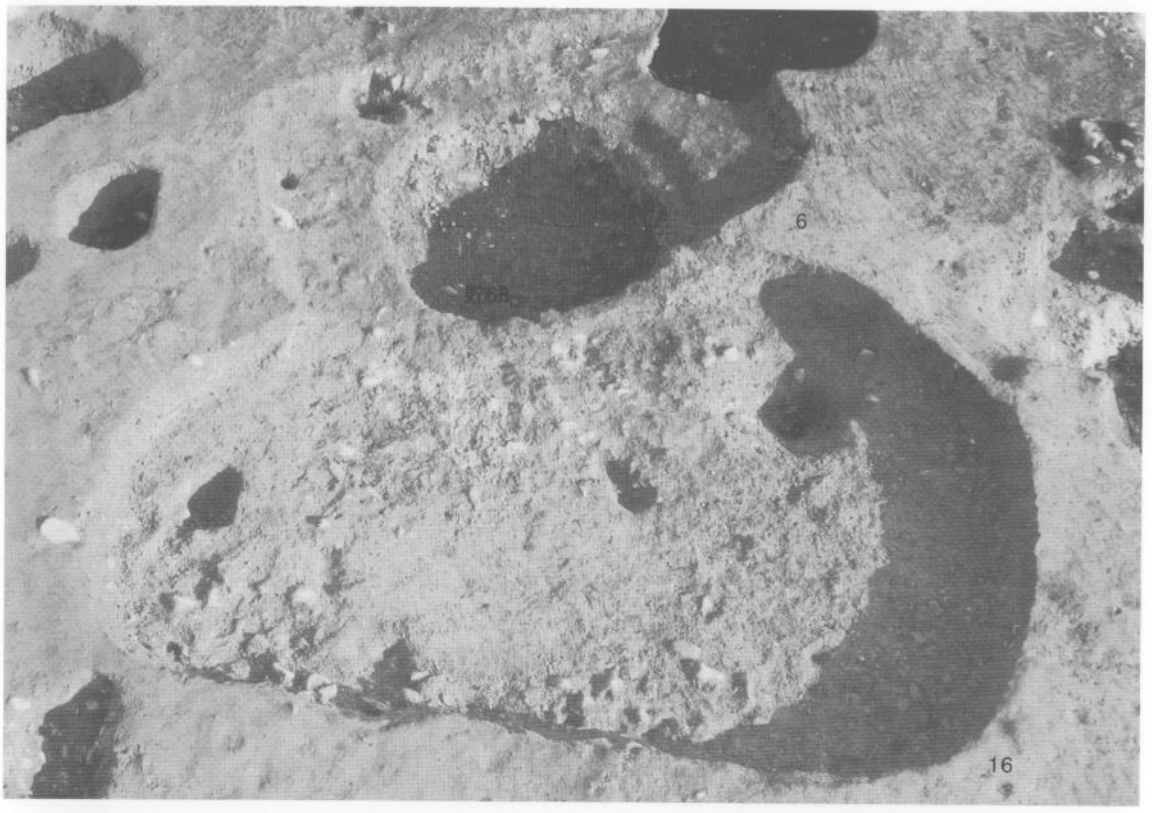
1　11・13号竪穴（北西から）

2　11・13・22号竪穴（南西から）

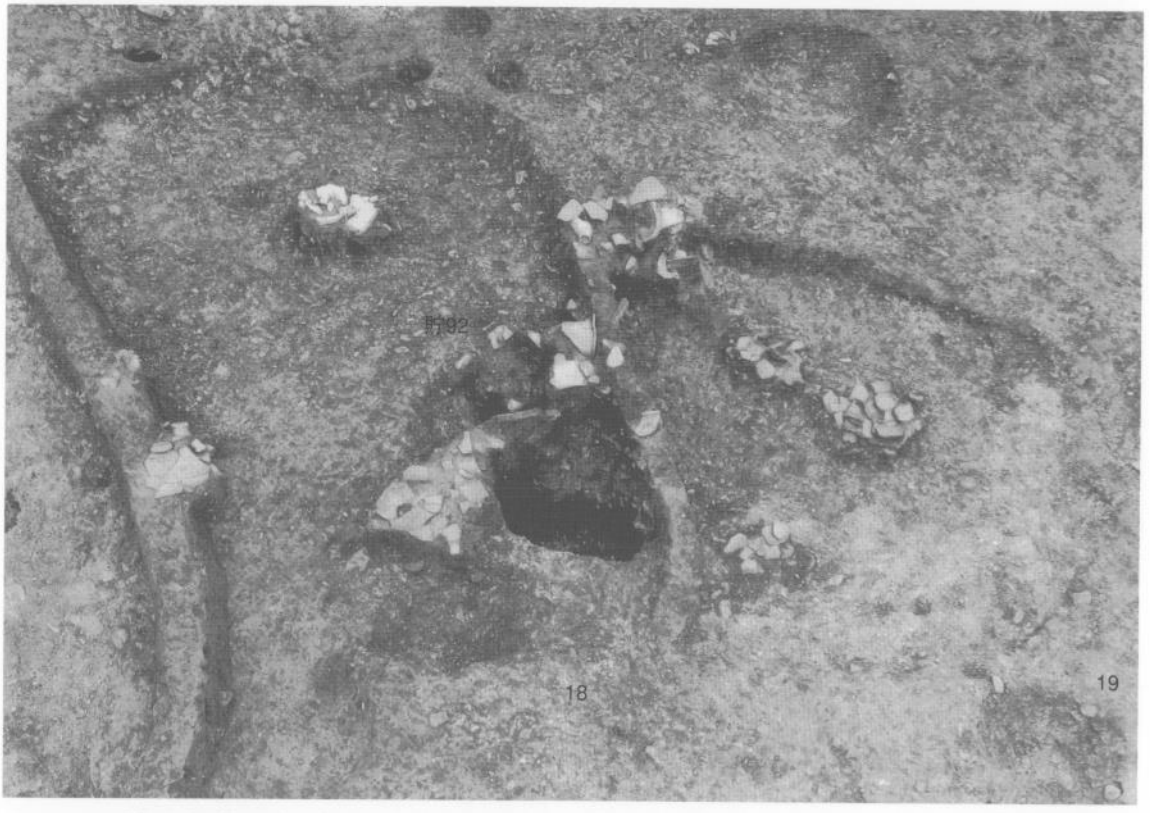
1　12号竪穴（南から）



2　15号竪穴注口土器出土状況（北西から）



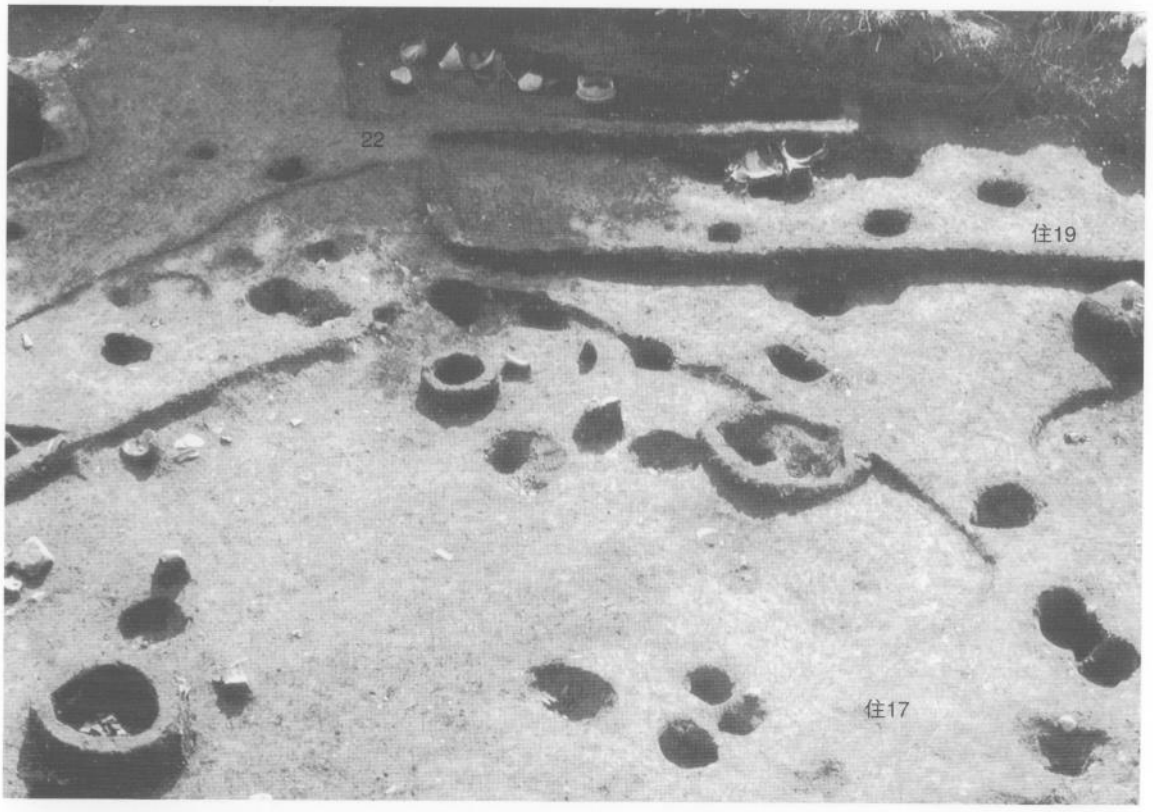
1　16号竪穴（北西から）



2　18・19号竪穴（南西から）

1　23号竪穴（北から）

2　遺物出土状況（北から）



1　25号竪穴（北東から）

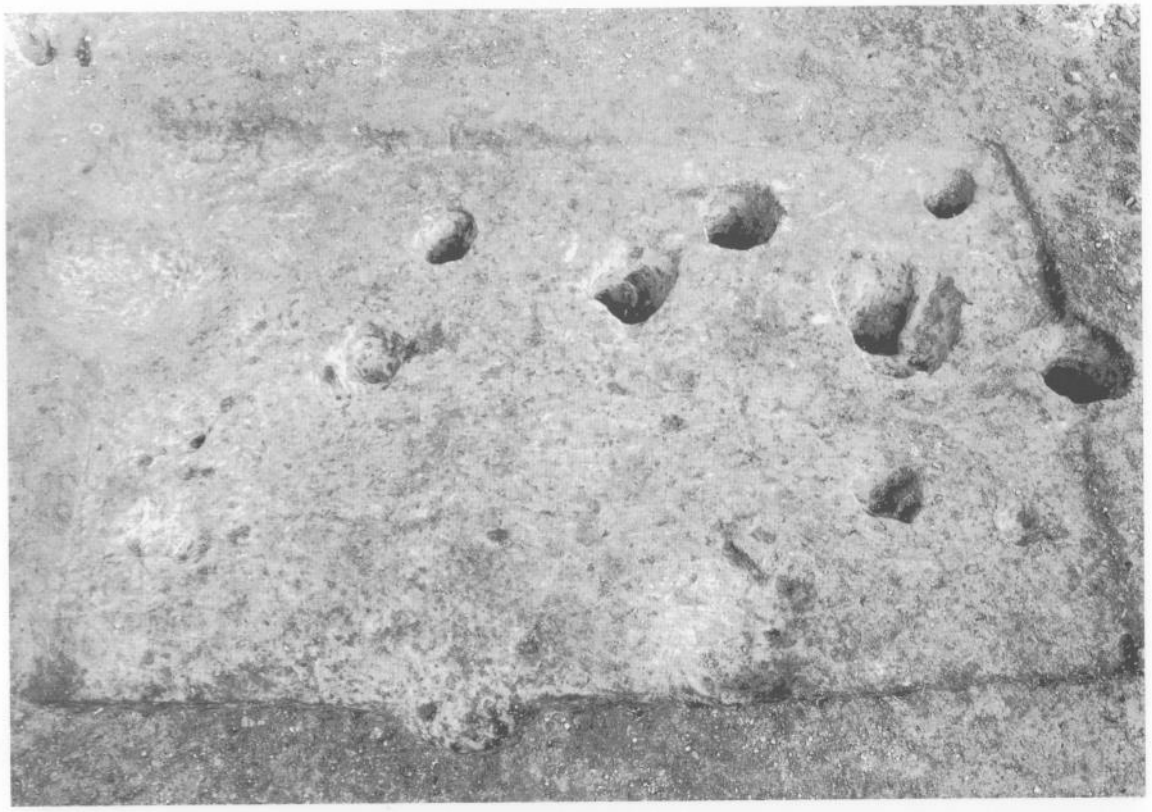
2　遺物出土状況（北東から）

1　33～39号竪穴（北から）

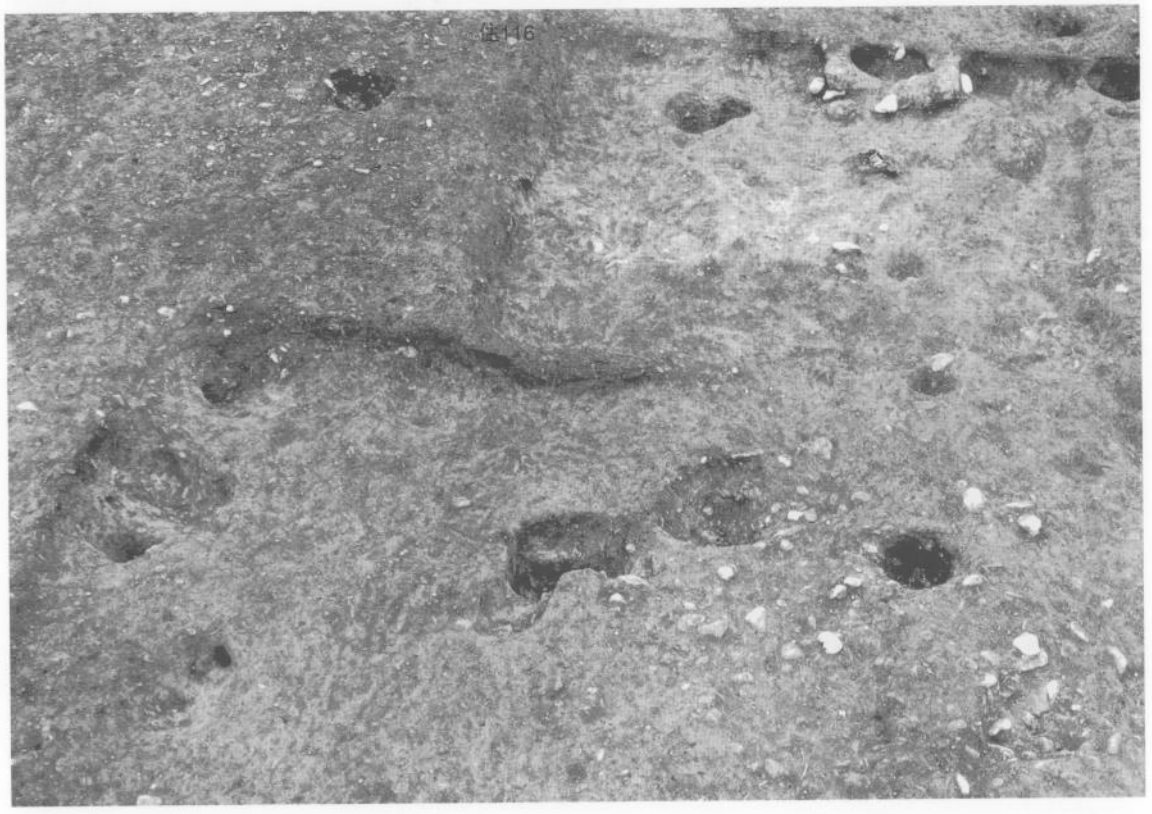
2　105号住居跡，40号竪穴（南から）

1　143住居跡，41号竪穴（南から）

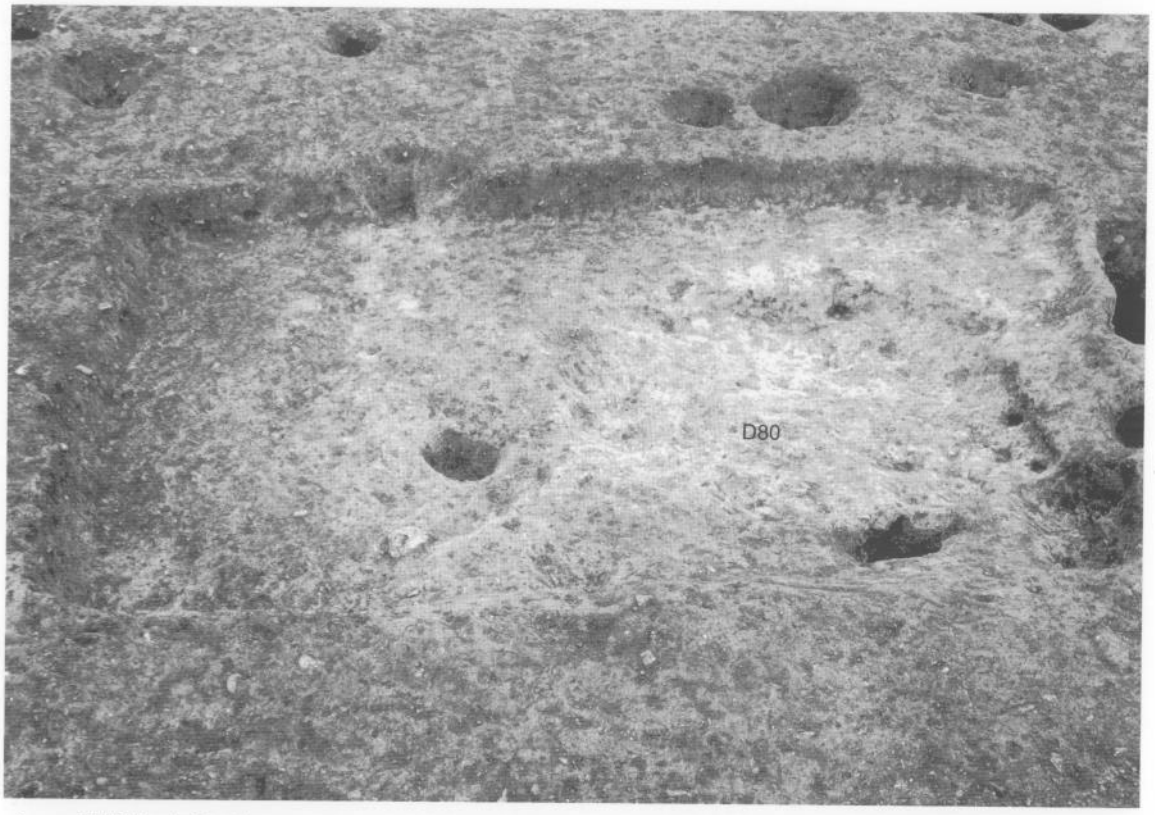
2　39号住居跡，43・44号竪穴（東から）



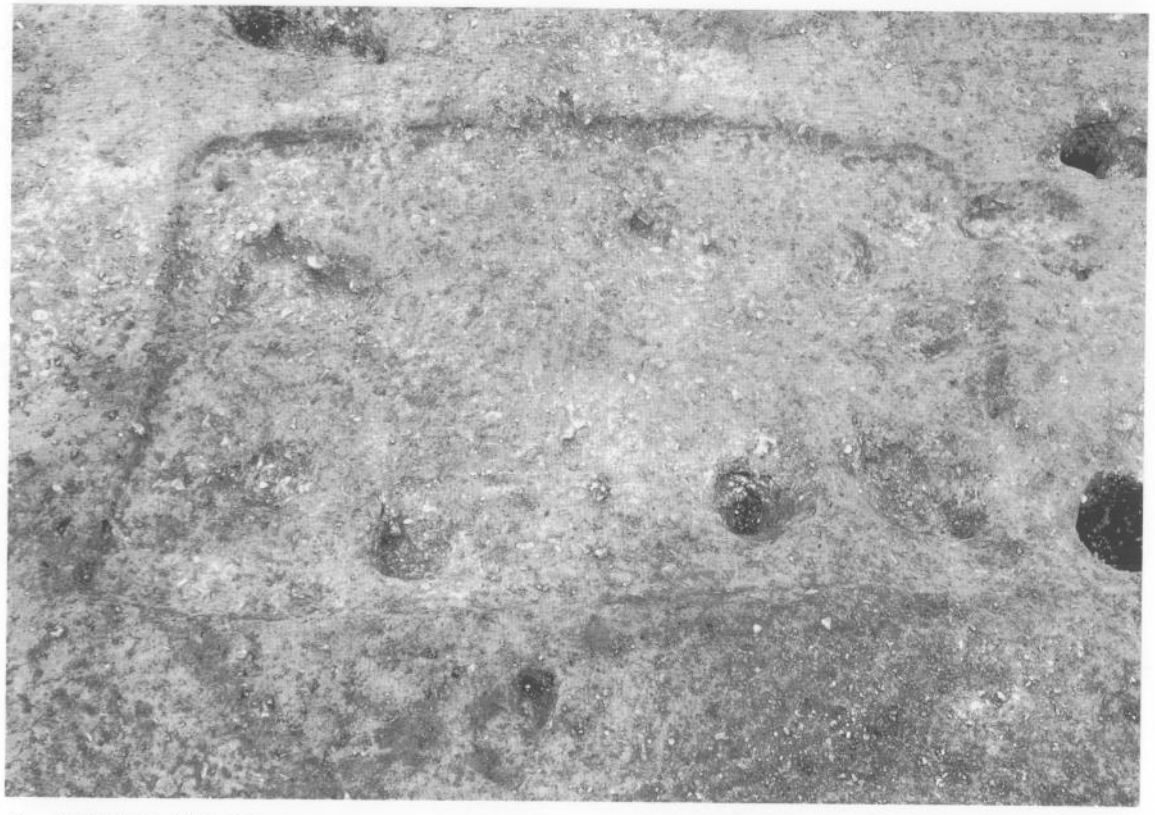
1　49号竪穴（西から）



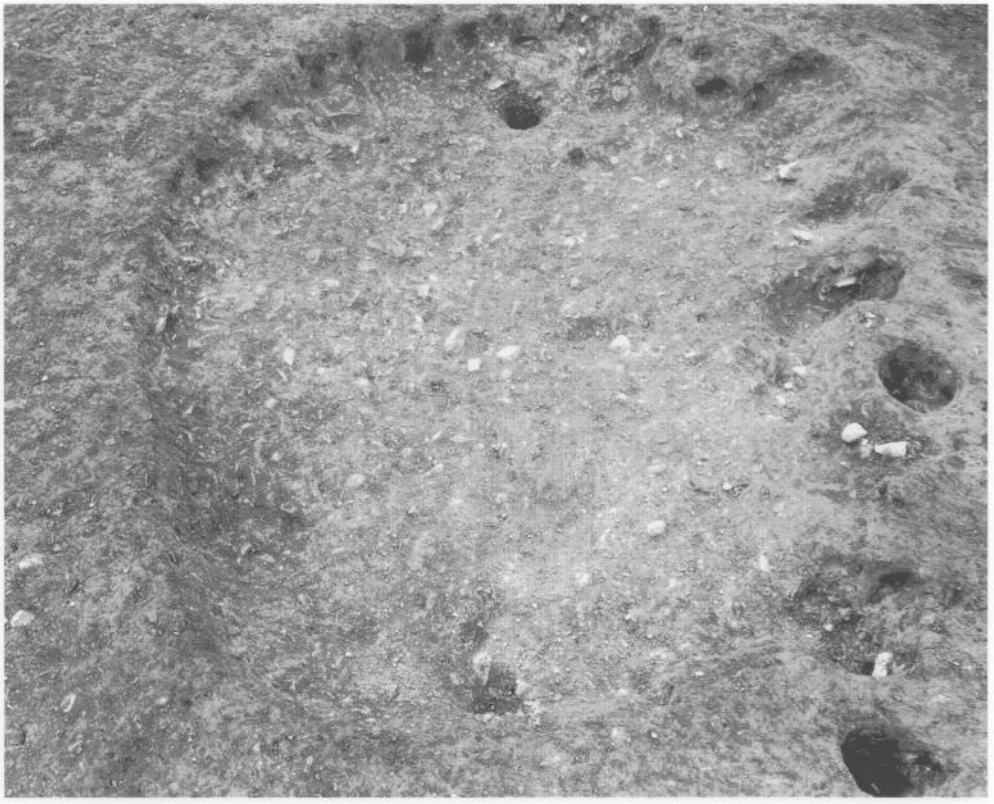
2　116号住居跡，50号竪穴（南から）



1　52号竪穴（西から）



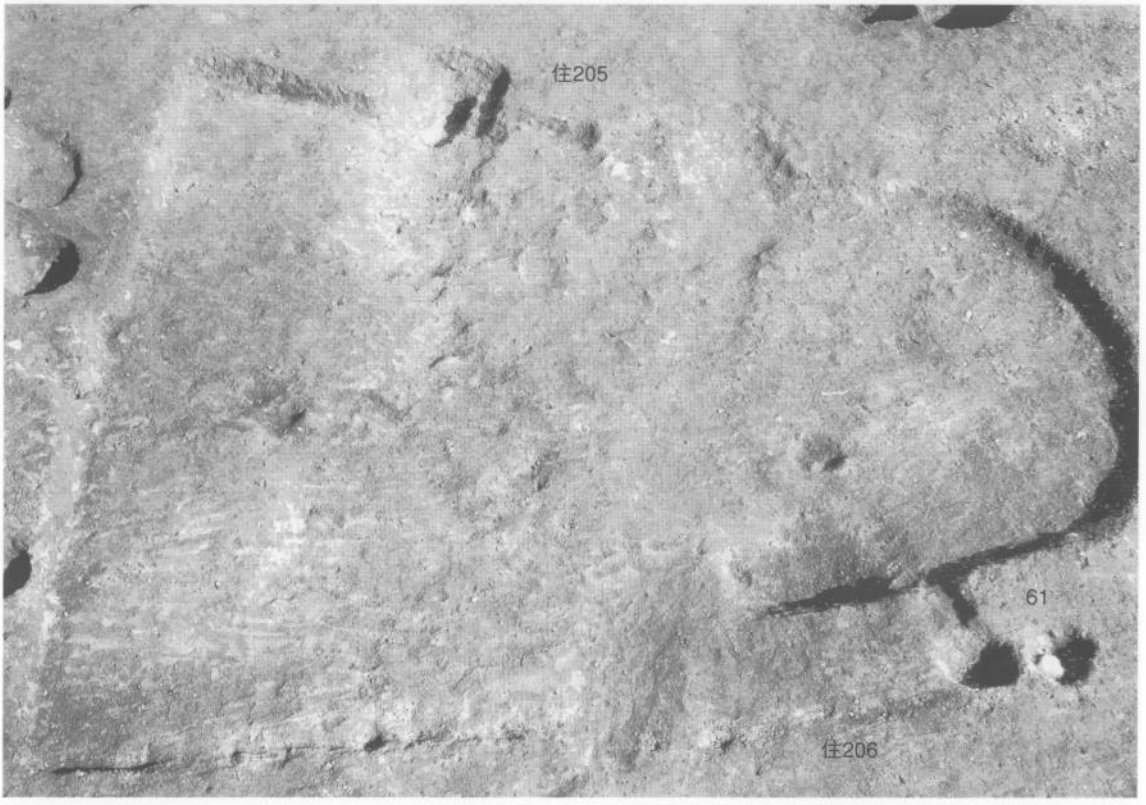
2　55号竪穴（南から）



2　56号竪穴（東から）

2　57号竪穴（南西から）

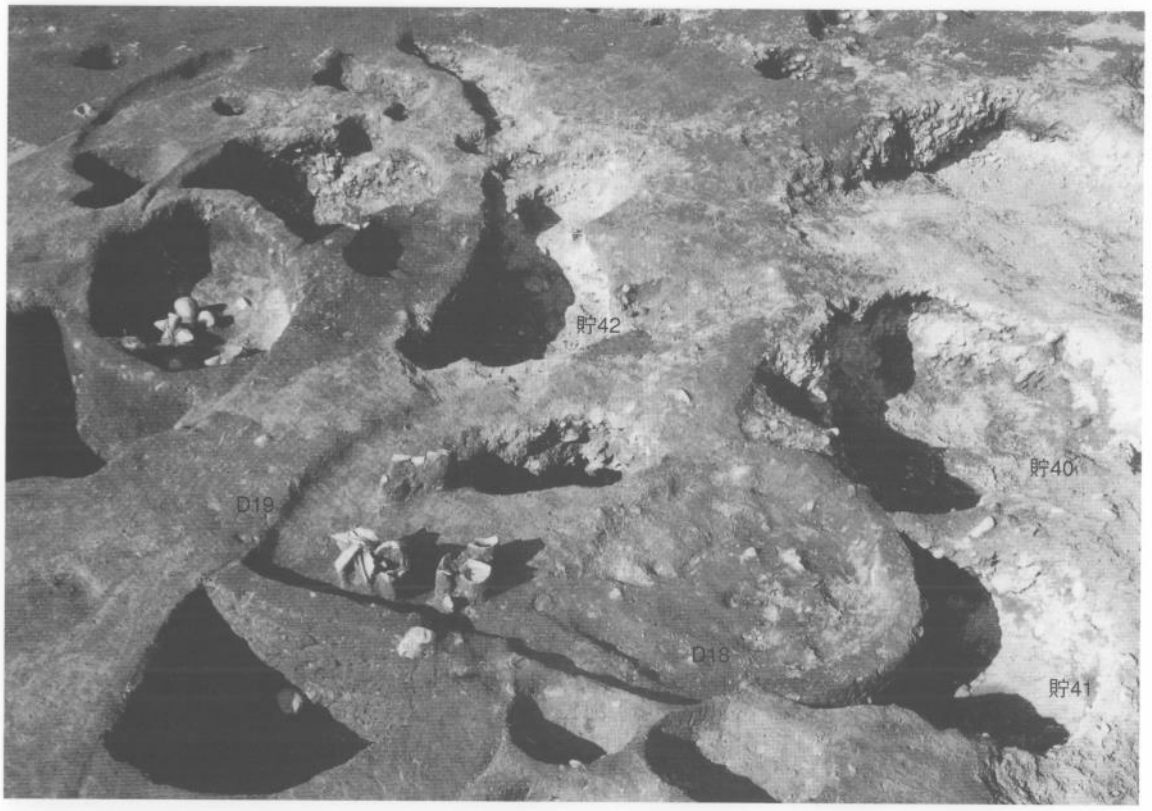
1　59号竪穴（東から）



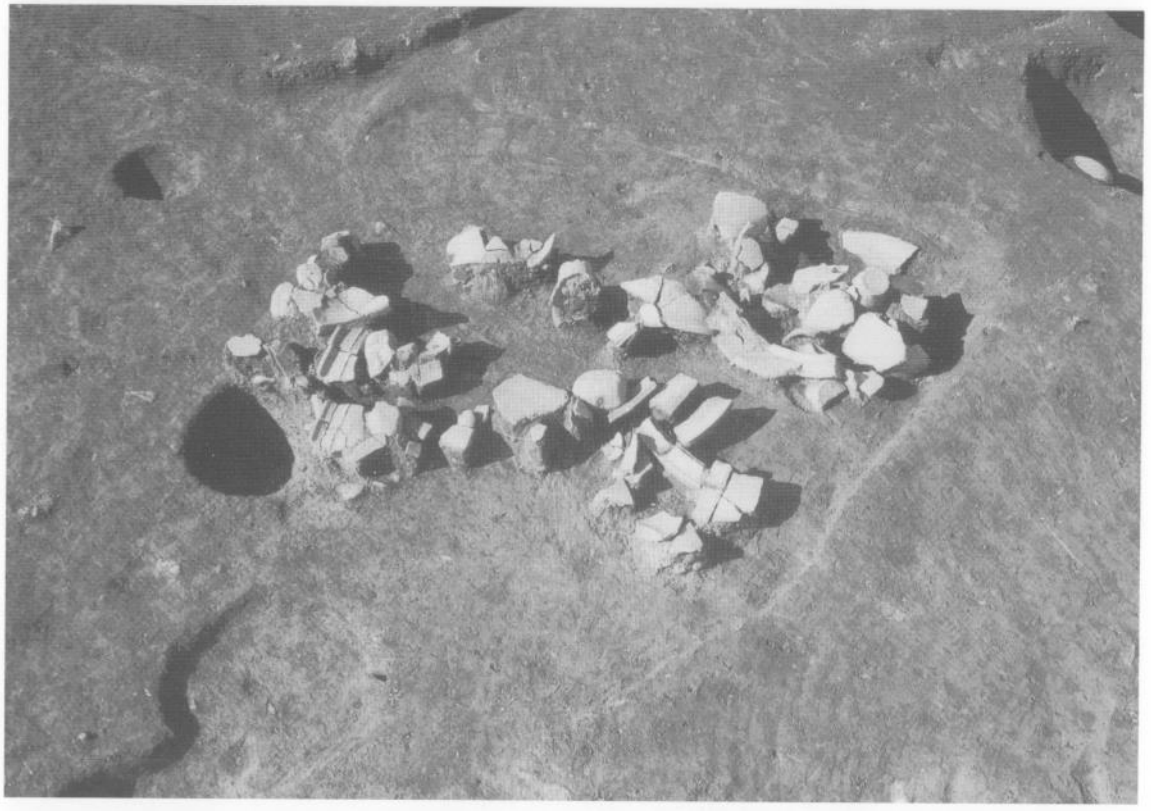
2　205・206号住居跡，61号竪穴（南西から）

1　1号土壙（西から）

2　17号土壙（東から）



1　18・19号土壙（北から）



2　20号土壙（北から）

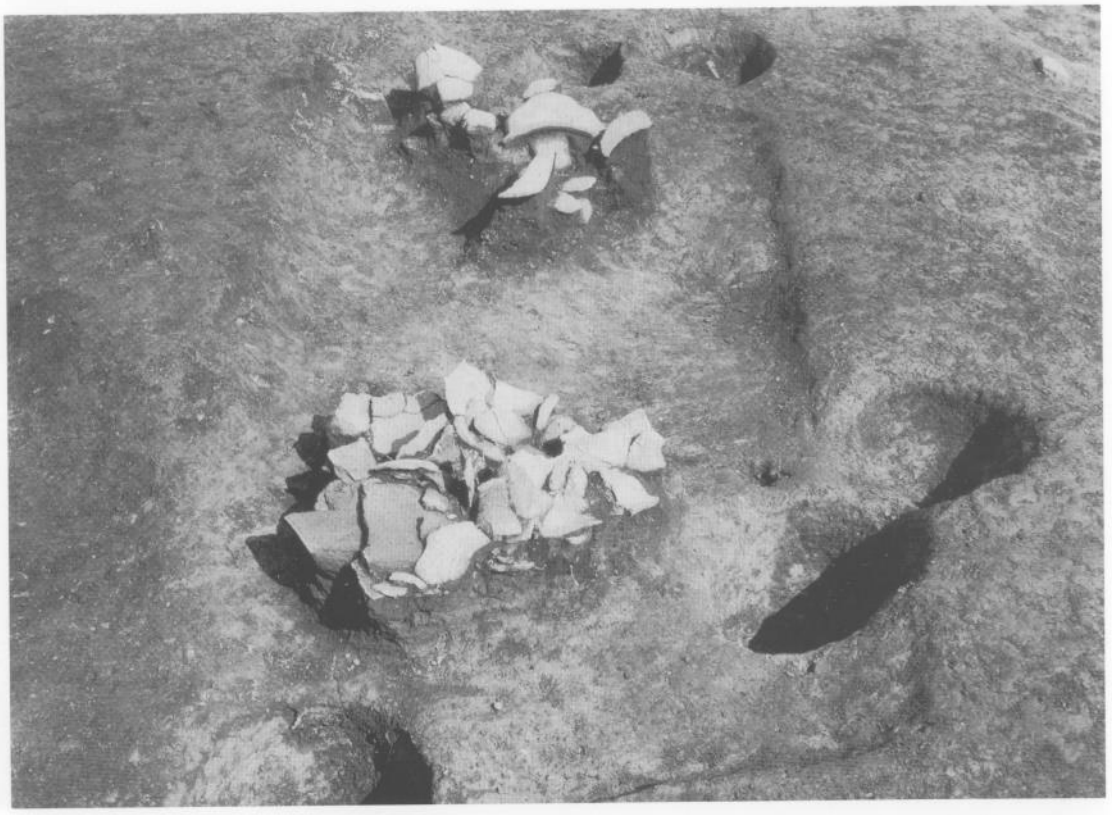
1　34号土壙
（南東から）

2　47号土壙
（南東から）

3　57号土壙
（北から）

1　59号土壙遺物出土状況（南から）

2　60号土壙（東から）

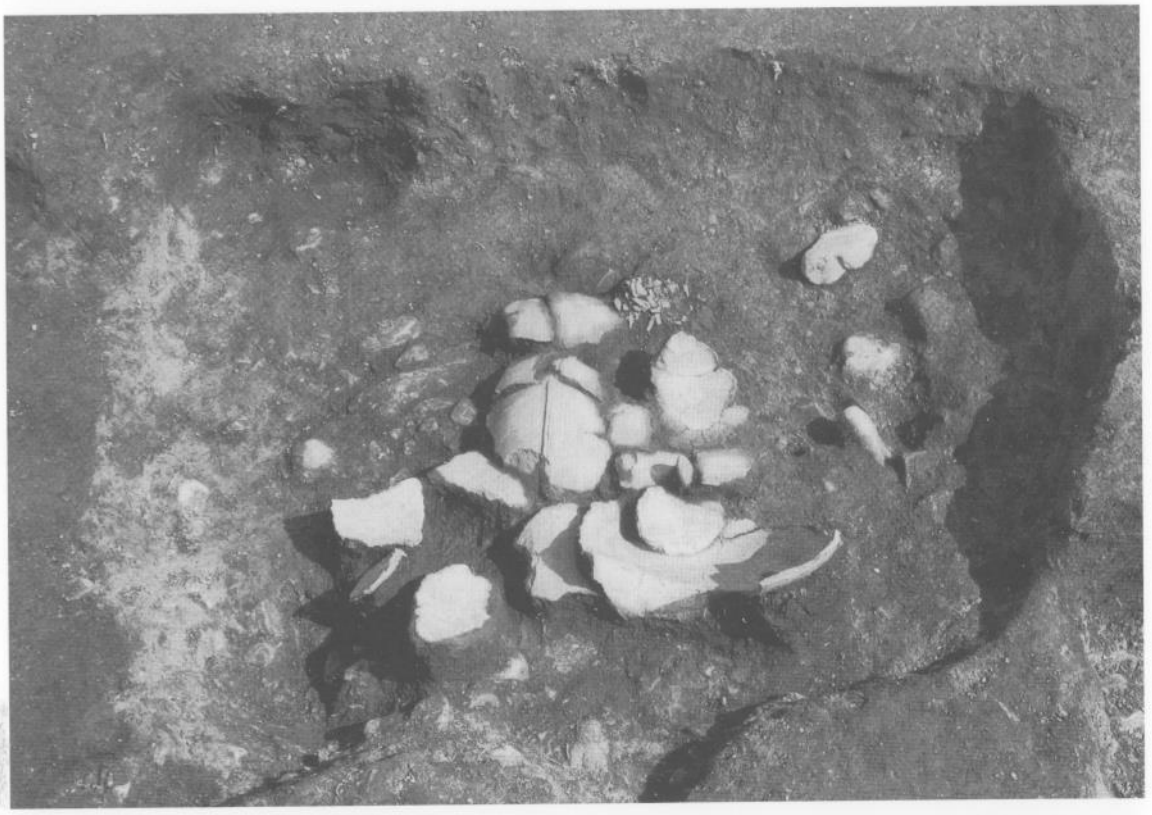


1　63号土壙（西から）

2　65号土壙（北東から）

1　67号土壙（南から）

2　71号土壙（西から）



1　72号土壙（西から）

2　74号土壙（西から）

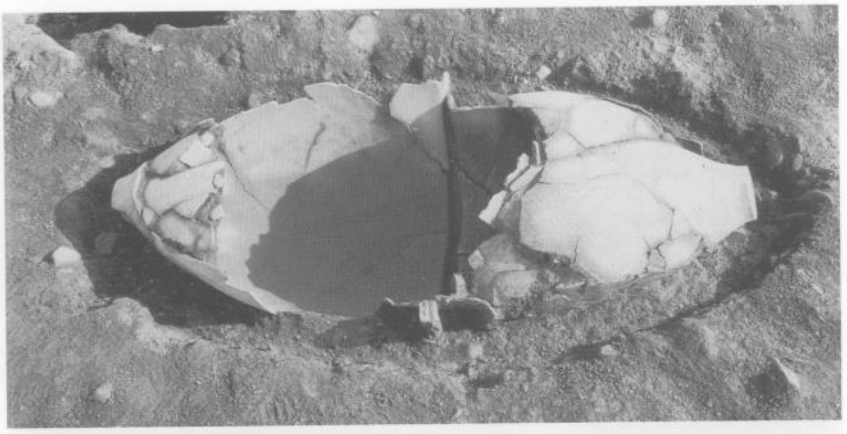
1　75号土壙（東から）

2　76号土壙（北西から）

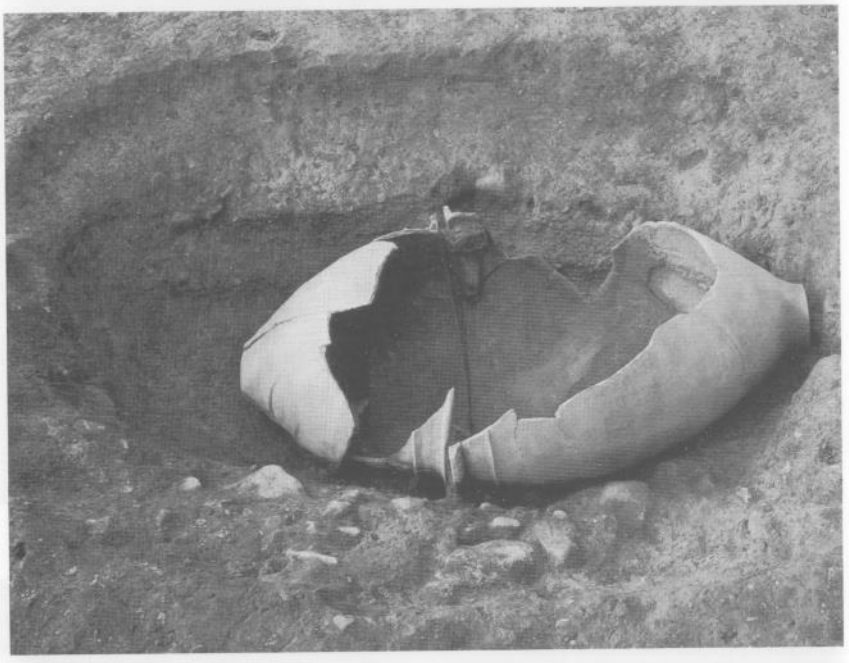
1　77号土壙（南東から）

2　78号土壙（北東から）

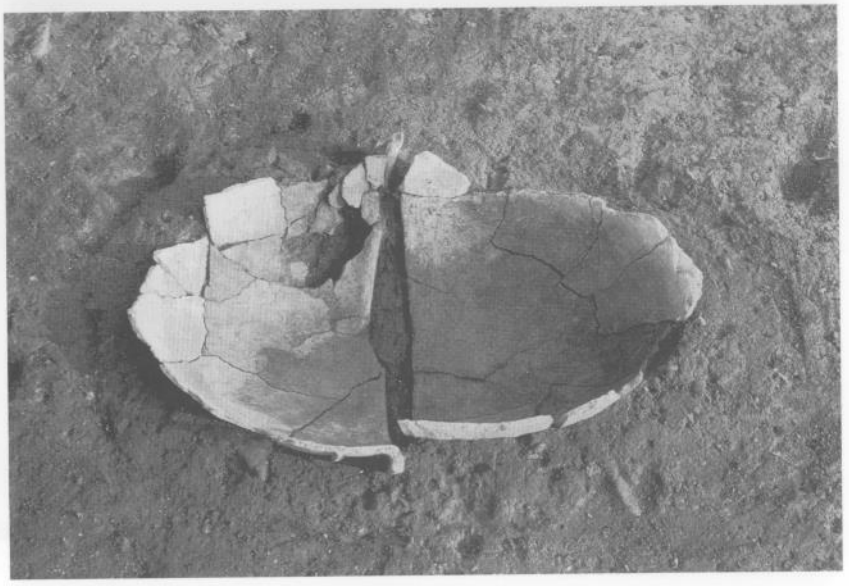
甕棺墓群（北東から）



1　1号甕棺墓
（西から）

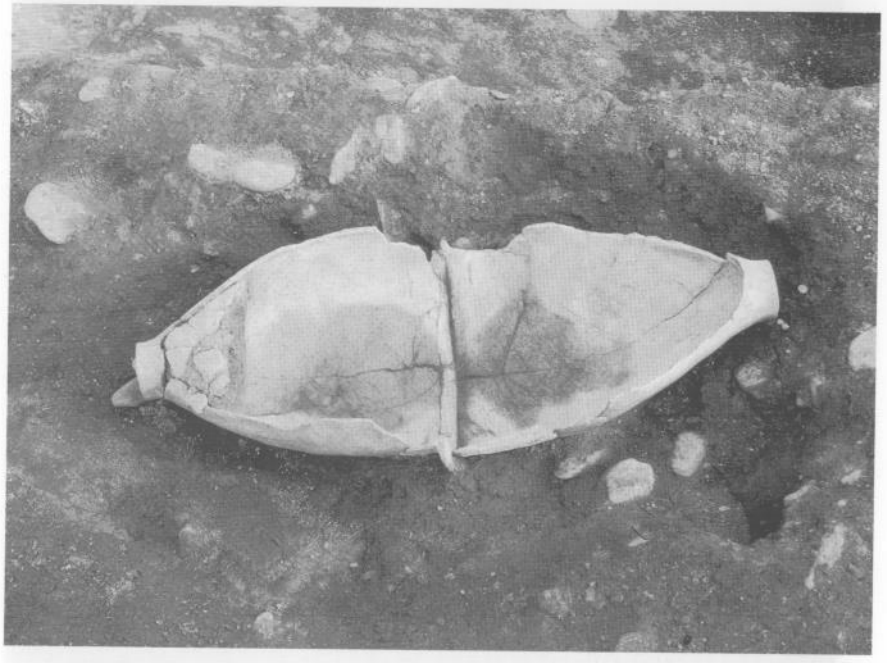


1　2号甕棺墓
（西から）

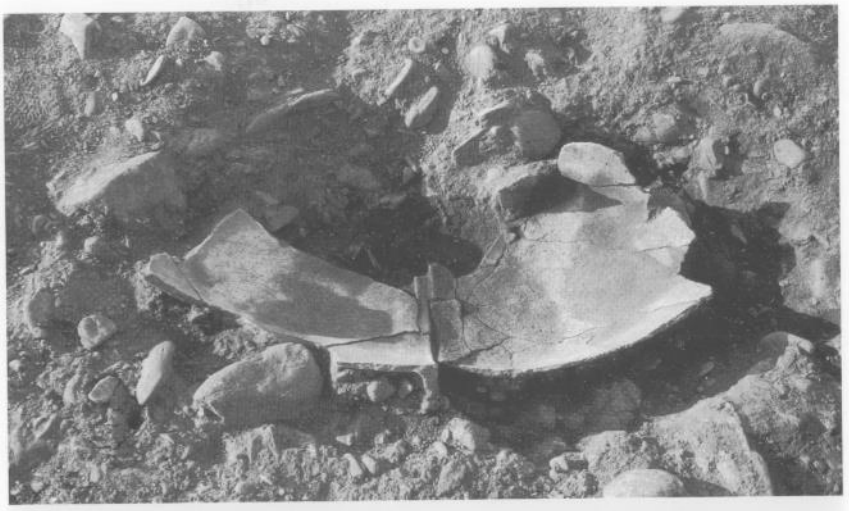


1　3号甕棺墓
（北西から）

1　5・6号甕棺墓（南東から）



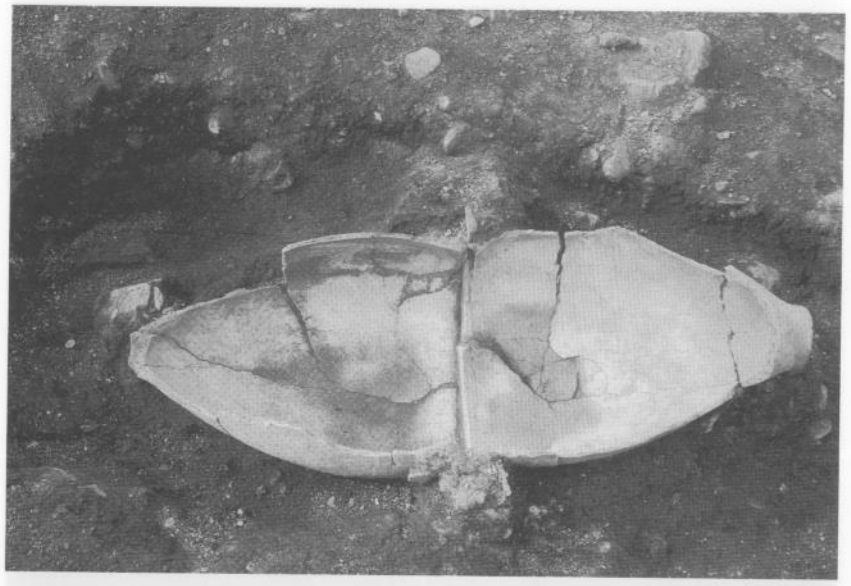
2　7号甕棺墓（北西から）



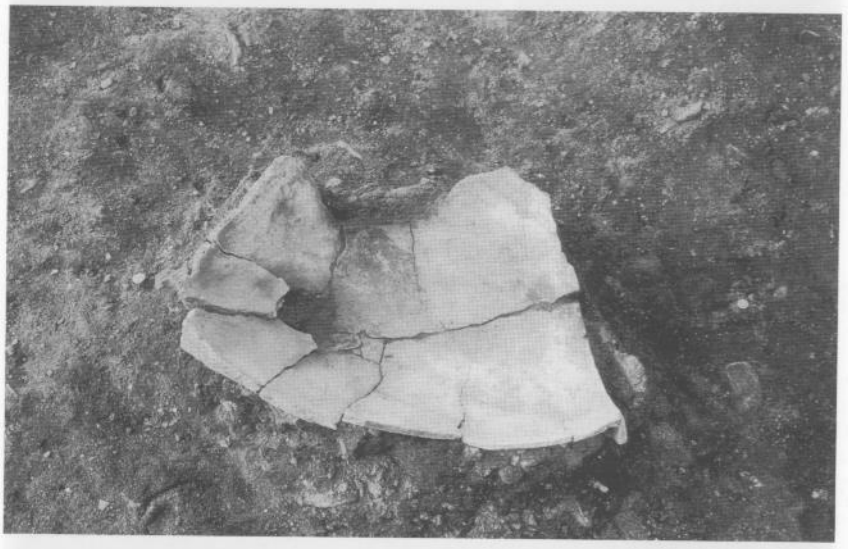
1　8号甕棺墓
（南東から）

2　9号甕棺墓
（南東から）

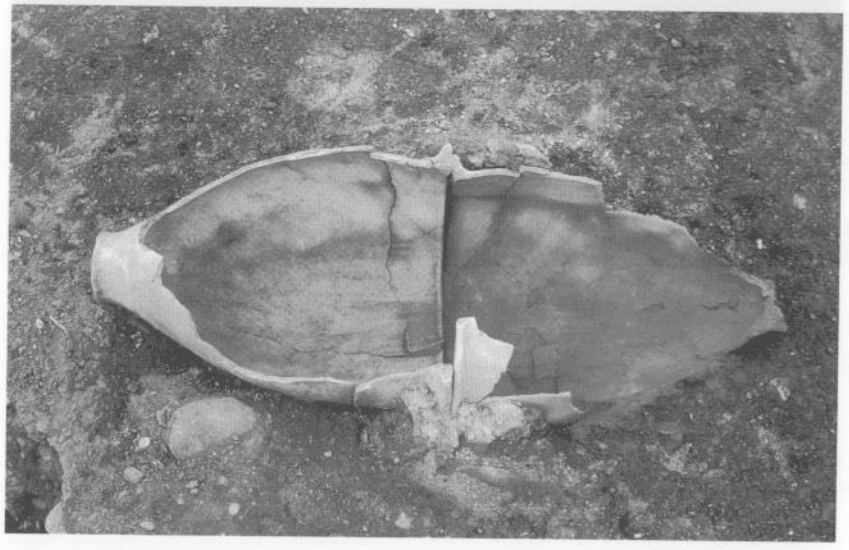
1　10号甕棺墓
（南東から）



1　11号甕棺墓
（南東から）



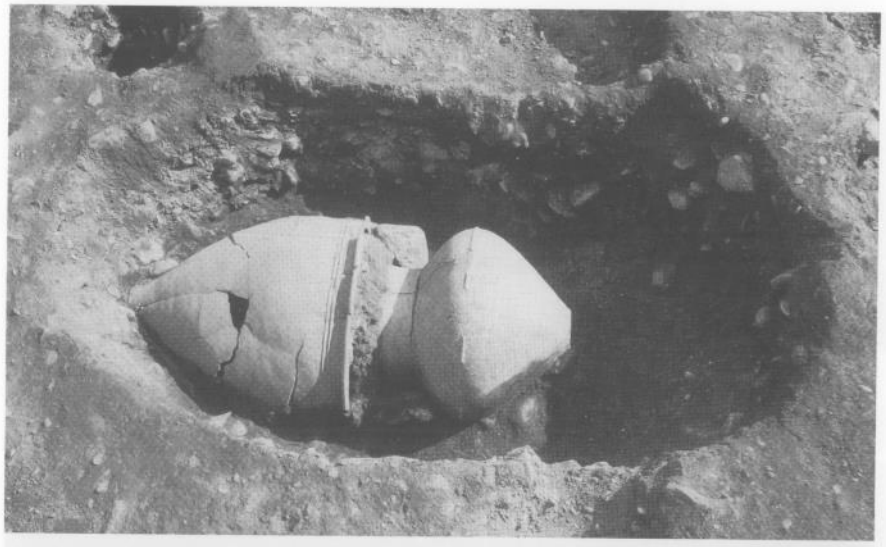
2　12号甕棺墓
（南東から）



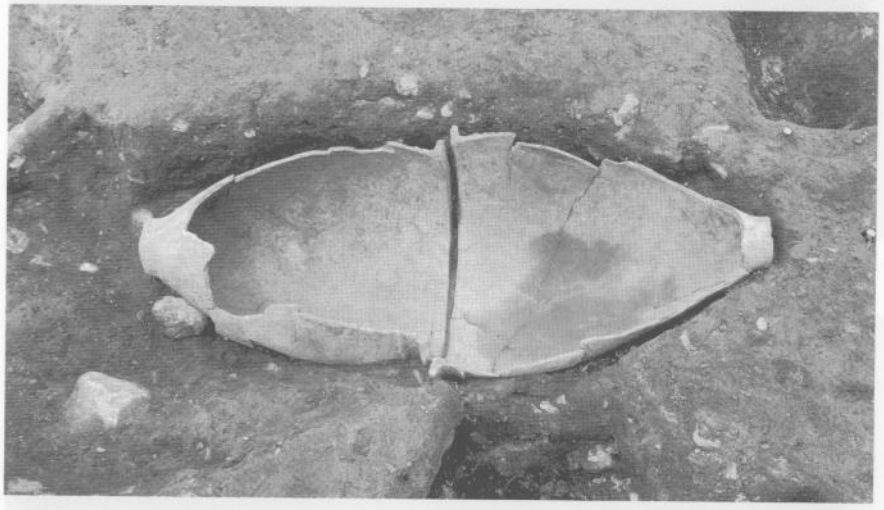
3　13号甕棺墓
（南東から）

1　14号甕棺墓（南東から）

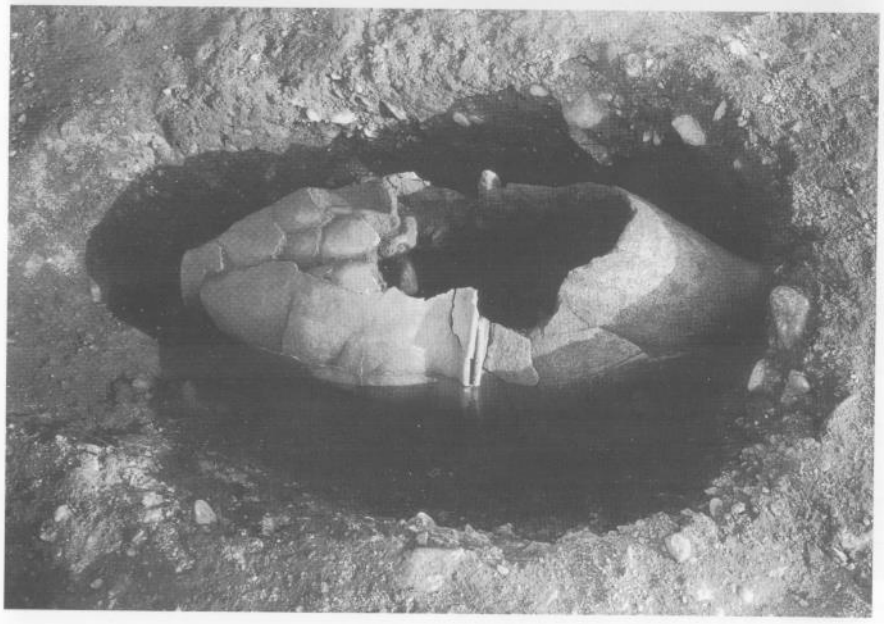
1　15号甕棺墓（北西から）



1　16号甕棺墓
（北西から）



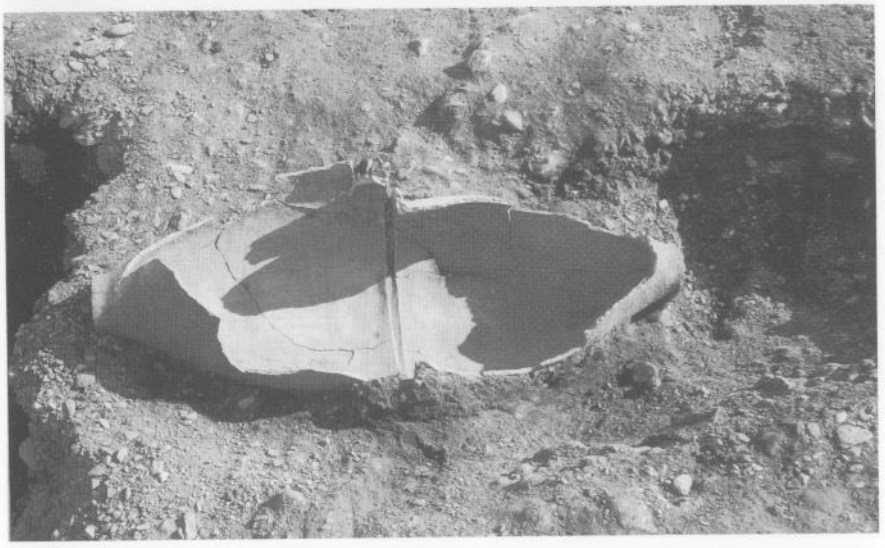
2　17号甕棺墓
（北西から）



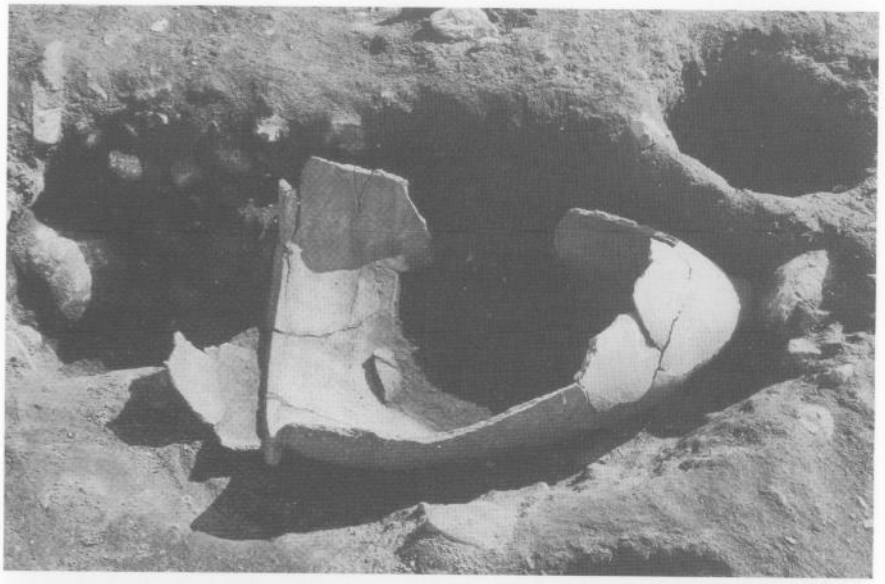
3　18号甕棺墓
（北西から）

1　19号甕棺墓
（南東から）

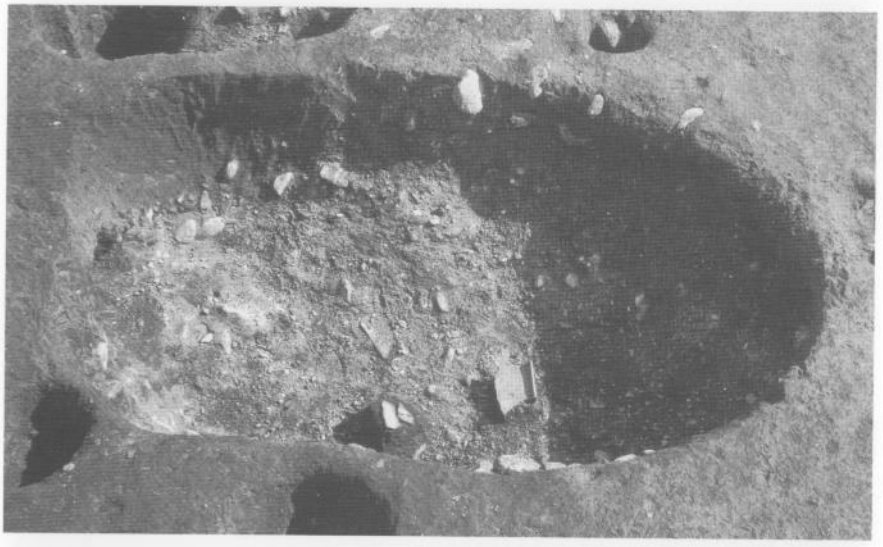
2　20号甕棺墓
（北西から）



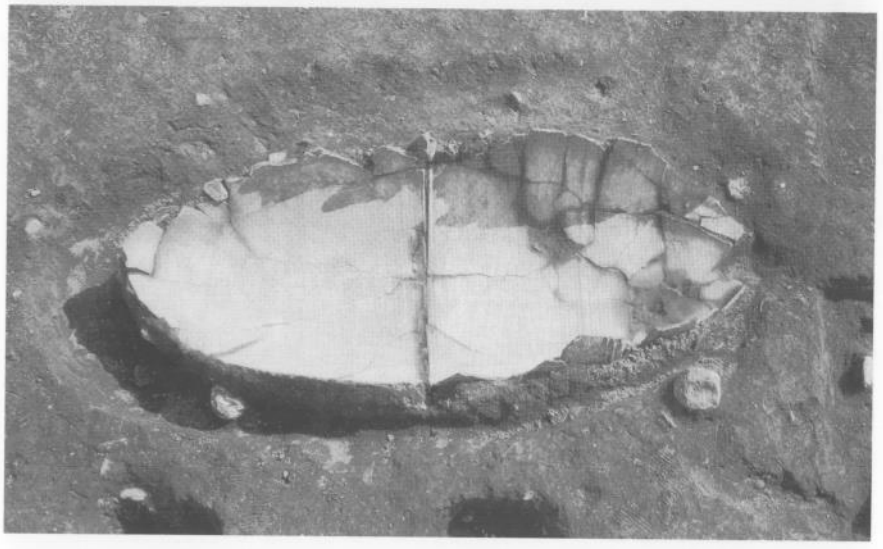
3　21号甕棺墓
（北西から）



1　22号甕棺墓
（北から）



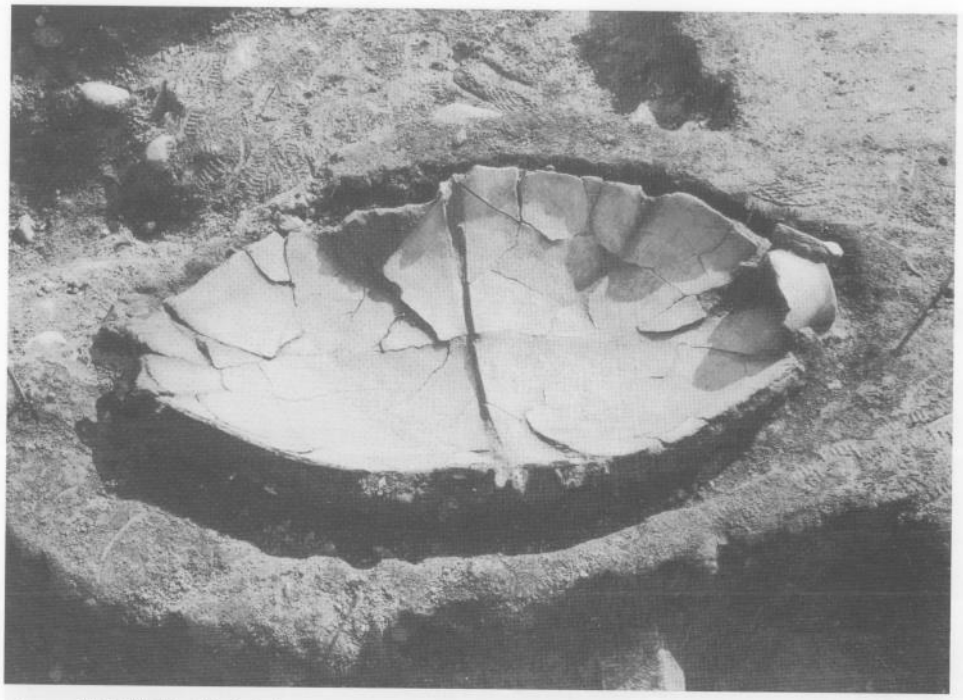
2　23号甕棺墓
（北西から）



3　24号甕棺墓
（北西から）

1　25号甕棺墓（北西から）

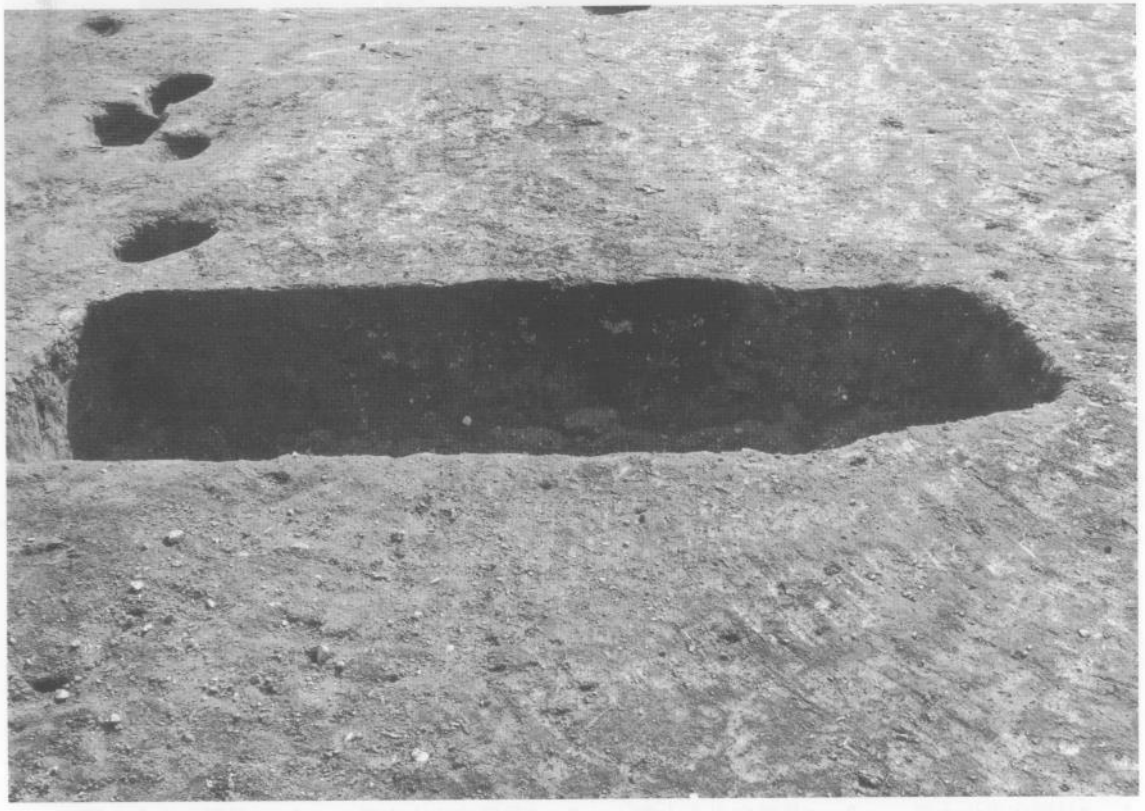
2　26号甕棺墓（北西から）



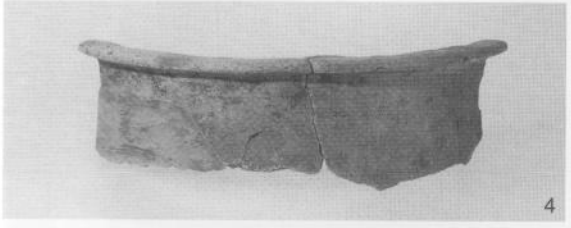
1　27号甕棺墓（北から）

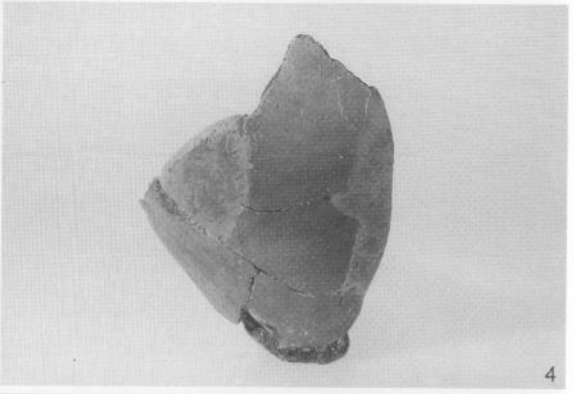
2　1号木棺墓（南東から）

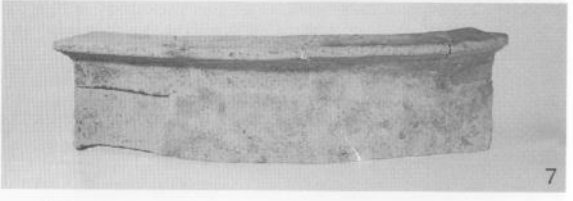
1　5号土壙墓（南西から）



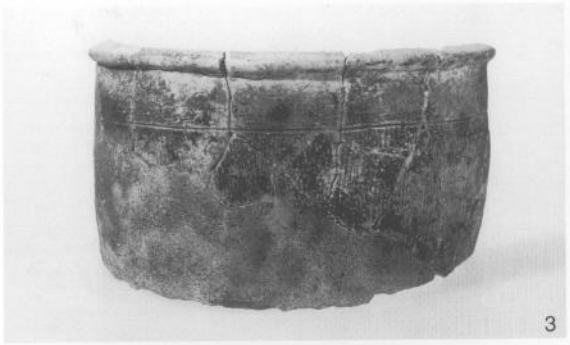
2　10号土壙墓（北から）



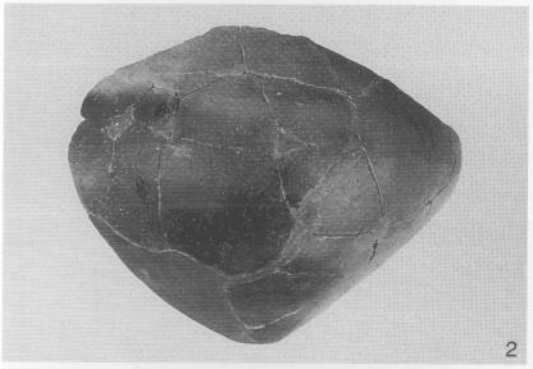


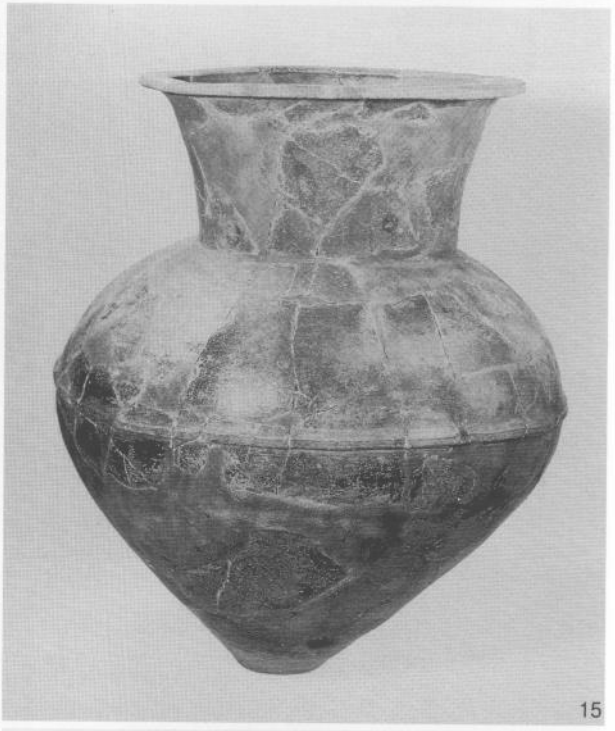


1　2号竪穴出土土器　2　6号竪穴出土土器　3　7号竪穴出土土器　4　8号竪穴出土土器
5　9号竪穴出土土器　6　10号竪穴出土土器

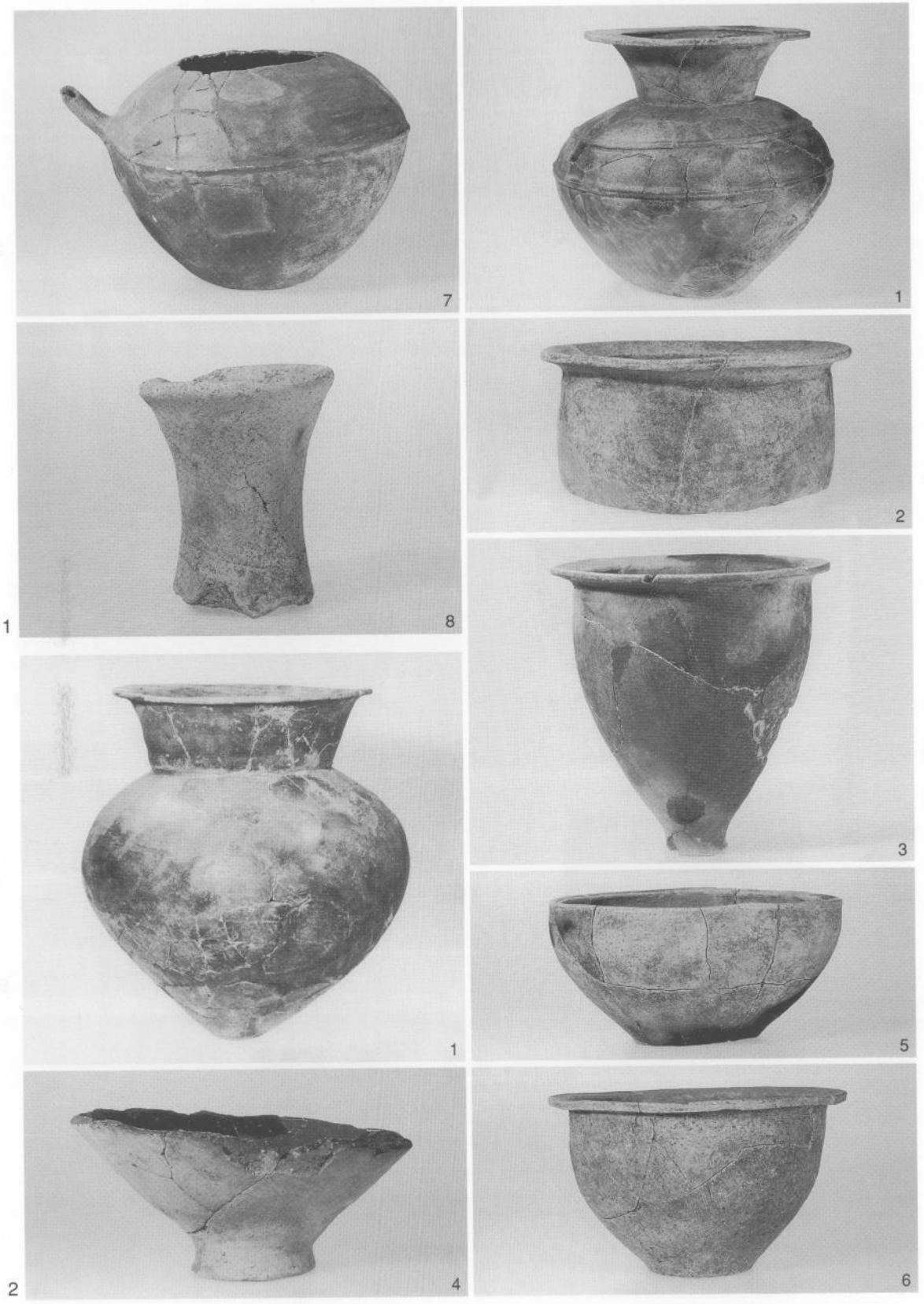


1　11号竪穴出土土器　　2　12号竪穴出土土器①





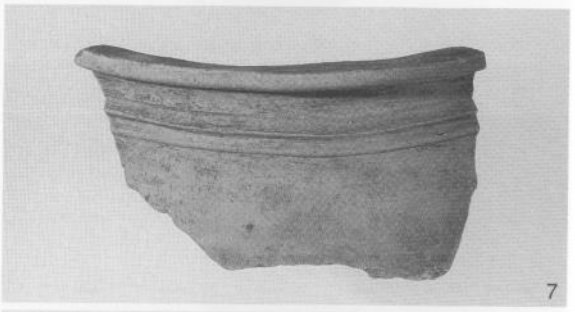
1　12号竪穴出土土器②　　2　13号竪穴出土土器



1　15号竪穴出土土器　　2　23号竪穴出土土器　　3　25号竪穴出土土器

2

1



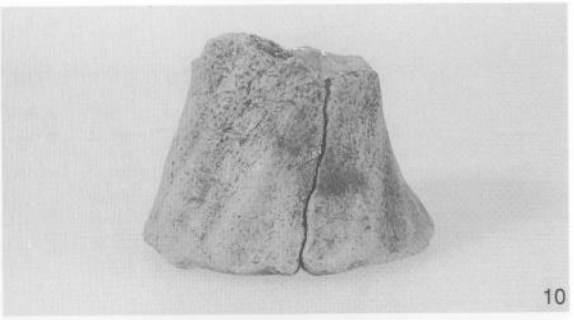
3

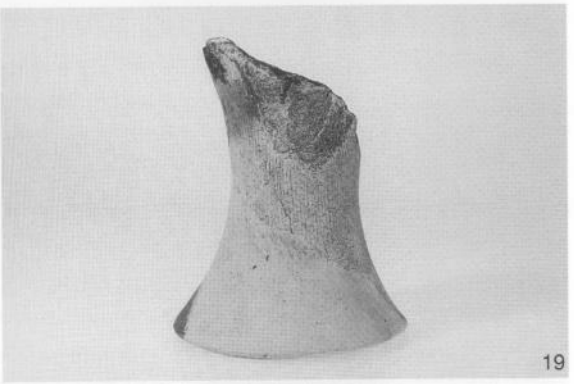
5

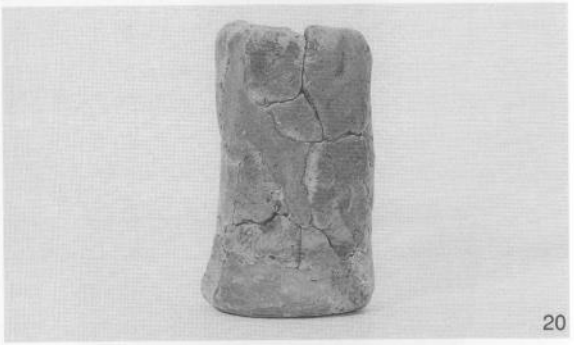
4

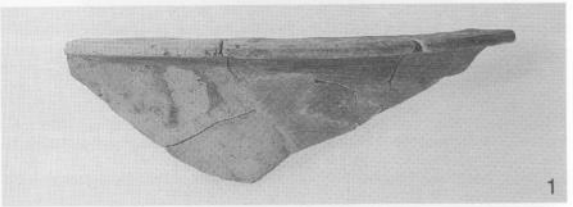
6

1　25号竪穴出土土器②　　2　27号竪穴出土土器　　3　28号竪穴出土土器　　4　29号竪穴出土土器
5　31号竪穴出土土器　　6　32号竪穴出土土器

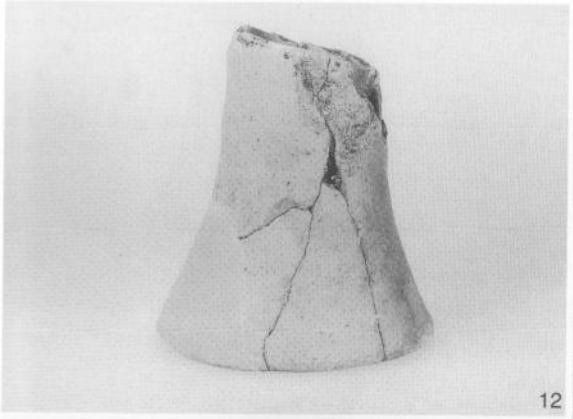


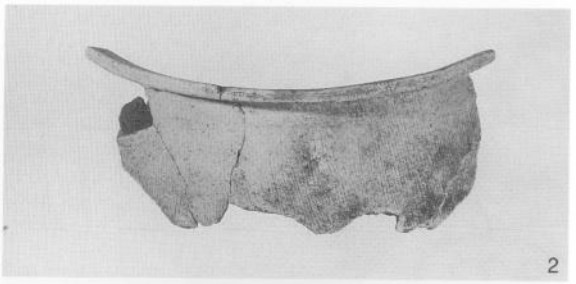






1　34号竪穴出土土器　2　36号竪穴出土土器　3　38号竪穴出土土器　4　40号竪穴出土土器
5　43号竪穴出土土器　6　57号竪穴出土土器　7　59号竪穴出土土器





2

1

3

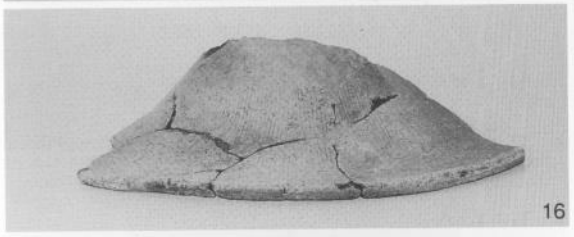
4

6

5

1　1号土壙出土土器　2　8号土壙出土土器　3　17号土壙出土土器　4　20号土壙出土土器
5　28号土壙出土土器　6　33号土壙出土土器

2

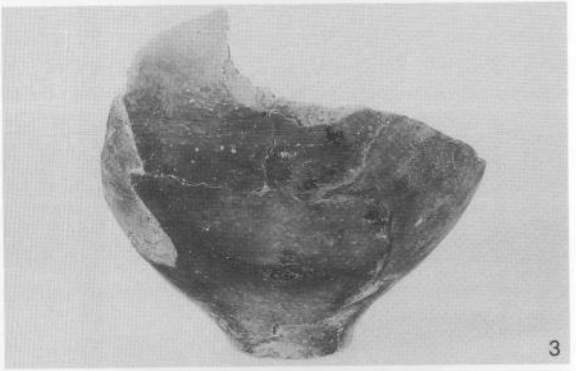


1

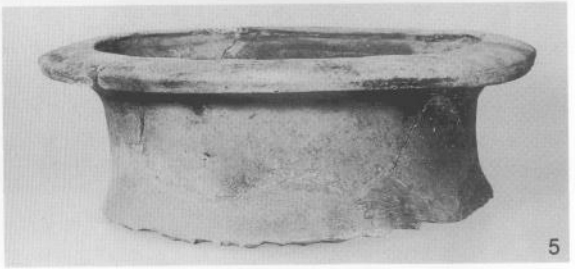
3

5

4

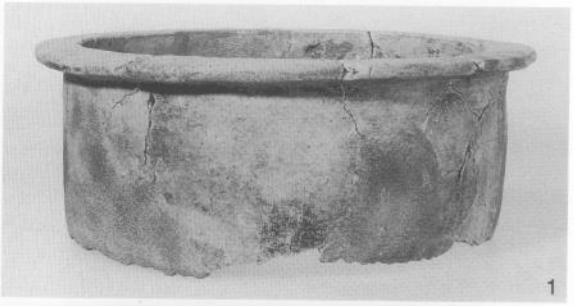


6



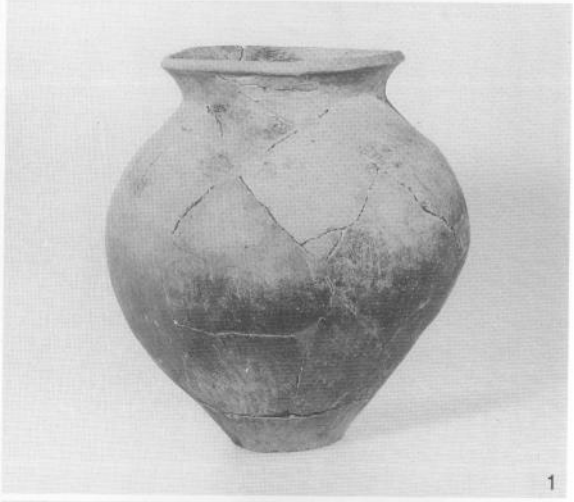
7

1　34号土壙出土土器　　2　36号土壙出土土器　　3　38号土壙出土土器　　4　44号土壙出土土器
5　52号土壙出土土器　　6　56号土壙出土土器　　7　57号土壙出土土器①

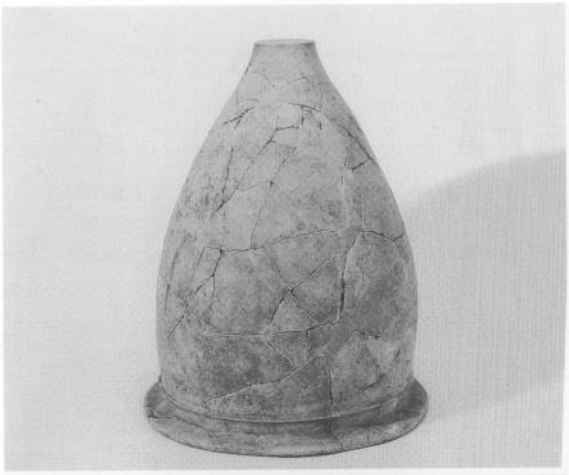


1　57号土壙出土土器②　2　59号土壙出土土器　3　60号土壙出土土器　4　61号土壙出土土器
5　62号土壙出土土器　6　63号土壙出土土器　7　67号土壙出土土器

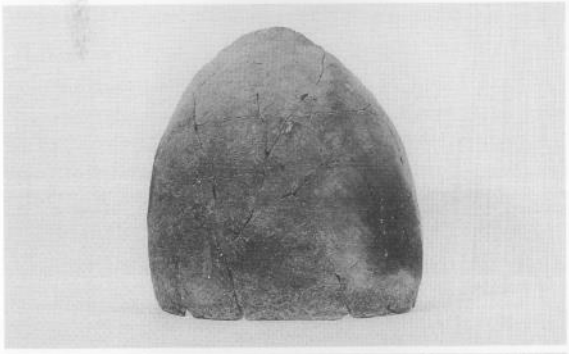
1　71号土壙出土土器　2　73号土壙出土土器　3　74号土壙出土土器　4　75号土壙出土土器
5　76号土壙出土土器



1　77号土壙出土土器　　2　79号土壙出土土器



2

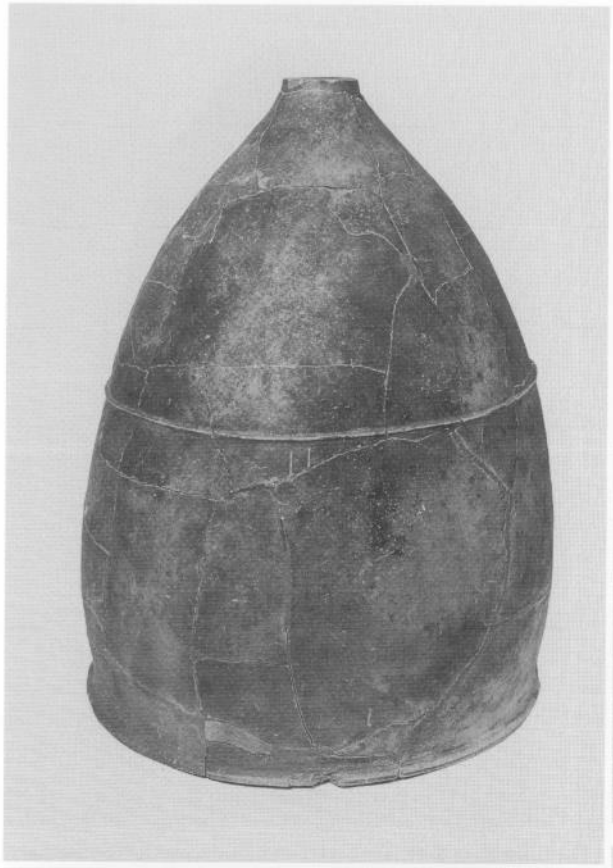


1

3

4

1　1号甕棺　　2　2号甕棺　　3　3号甕棺　　4　5号甕棺



2

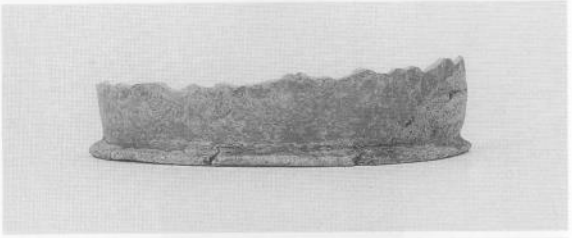
1

3

1　6号甕棺　　2　7号甕棺　　3　8号甕棺

1

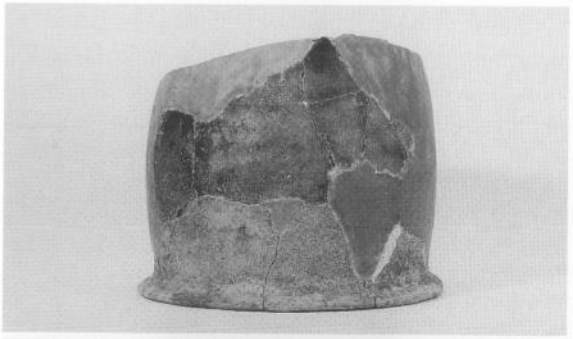
3



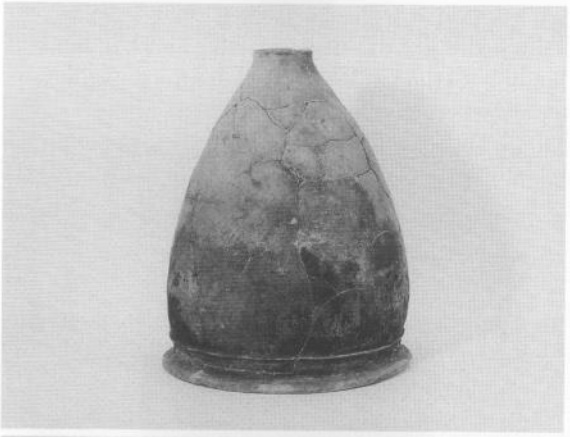
2

4

1　9号甕棺
2　10号甕棺
3　11号甕棺
4　12号甕棺



1



2

3

1　13号甕棺
2　14号甕棺
3　17号甕棺

2

1

3

1　15号甕棺
2　16号甕棺
3　22号甕棺

1　18号甕棺　　2　19号甕棺　　3　20号甕棺

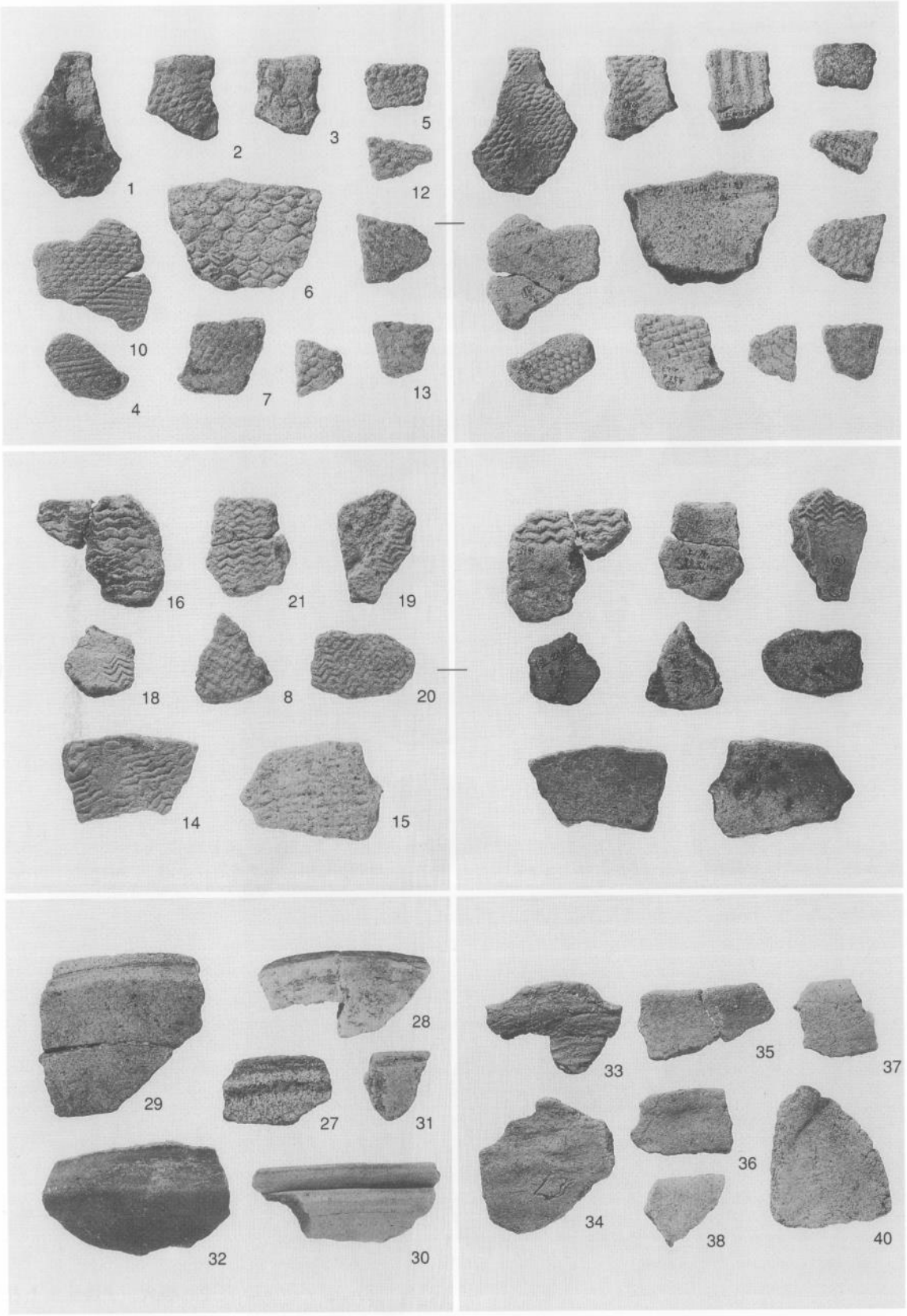
1

2

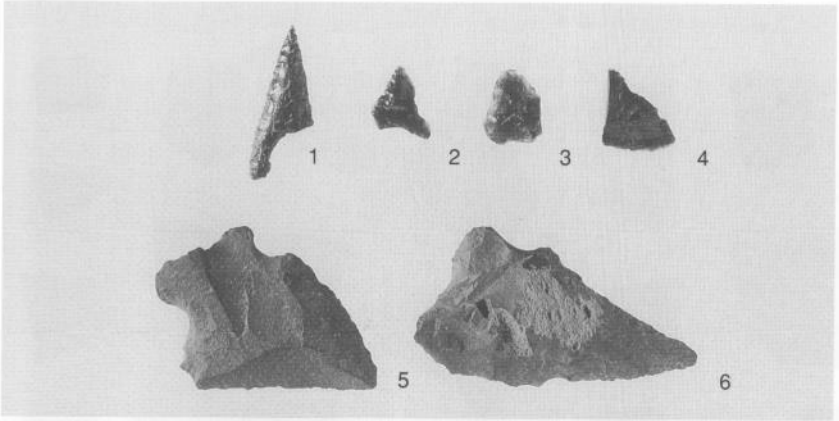
3

1　21号甕棺
2　24号甕棺
3　27号甕棺

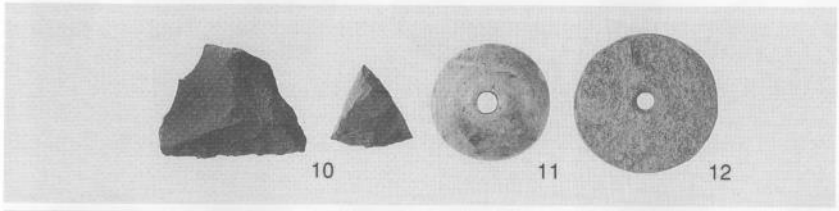
ピット・その他出土土器

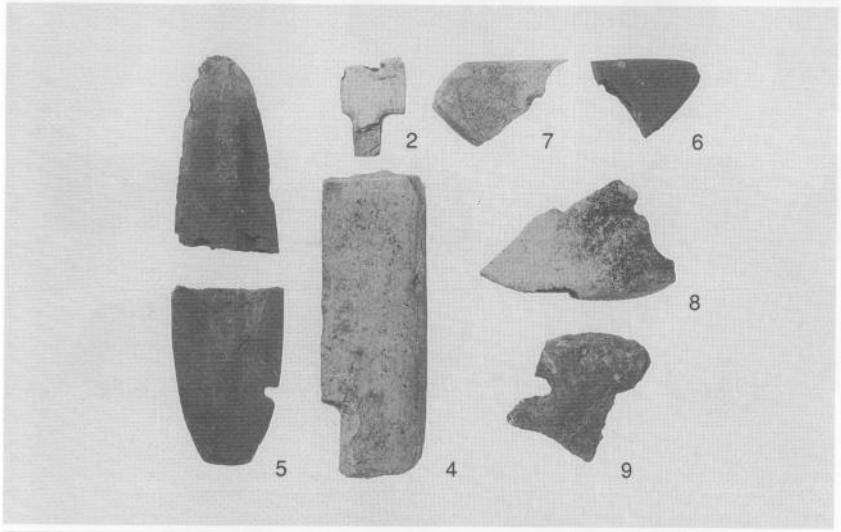


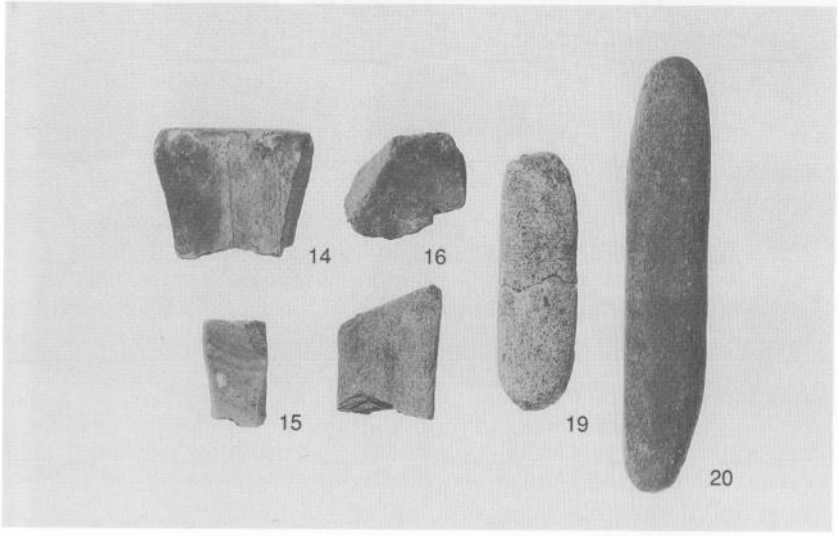
上の原遺跡出土縄文土器



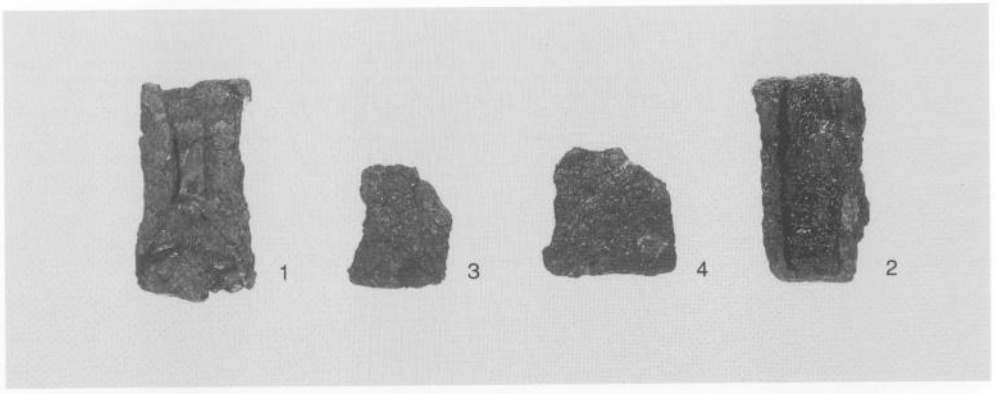
1　縄文時代石器



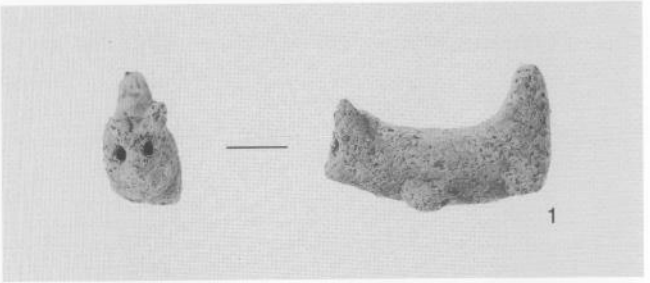


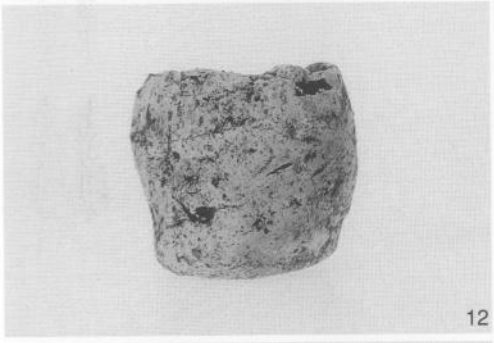


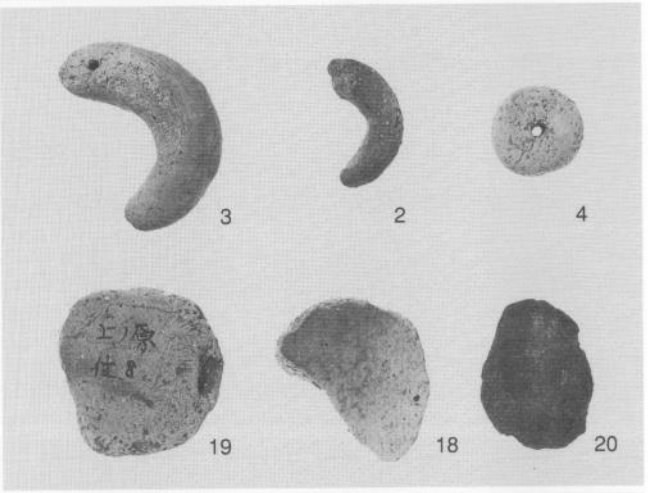
2　竪穴・土壙他出土石器

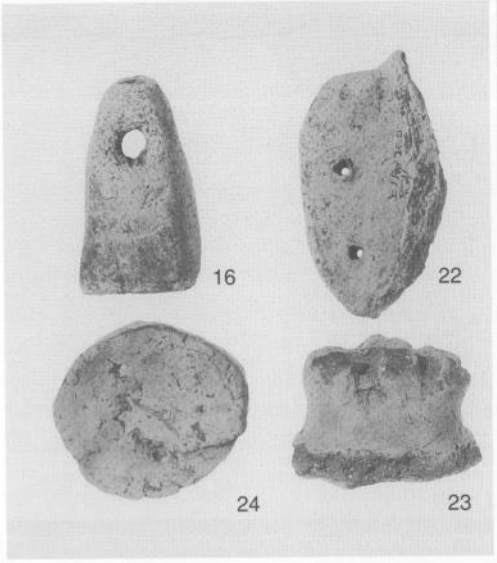


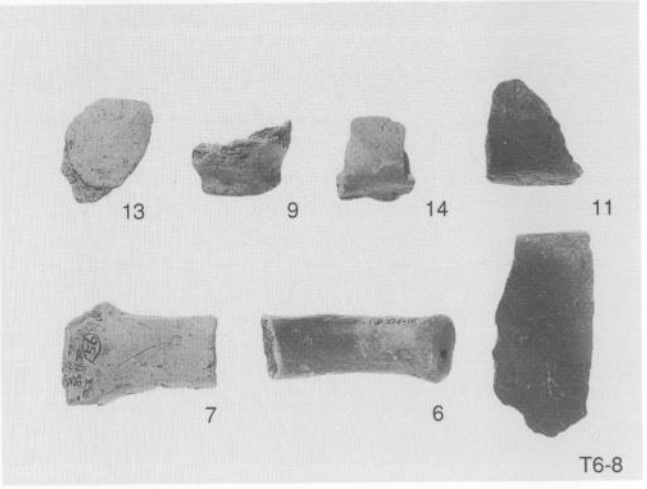
1











2

1　竪穴・土壙他出土鉄器　　2　竪穴・土壙他出土土製品